

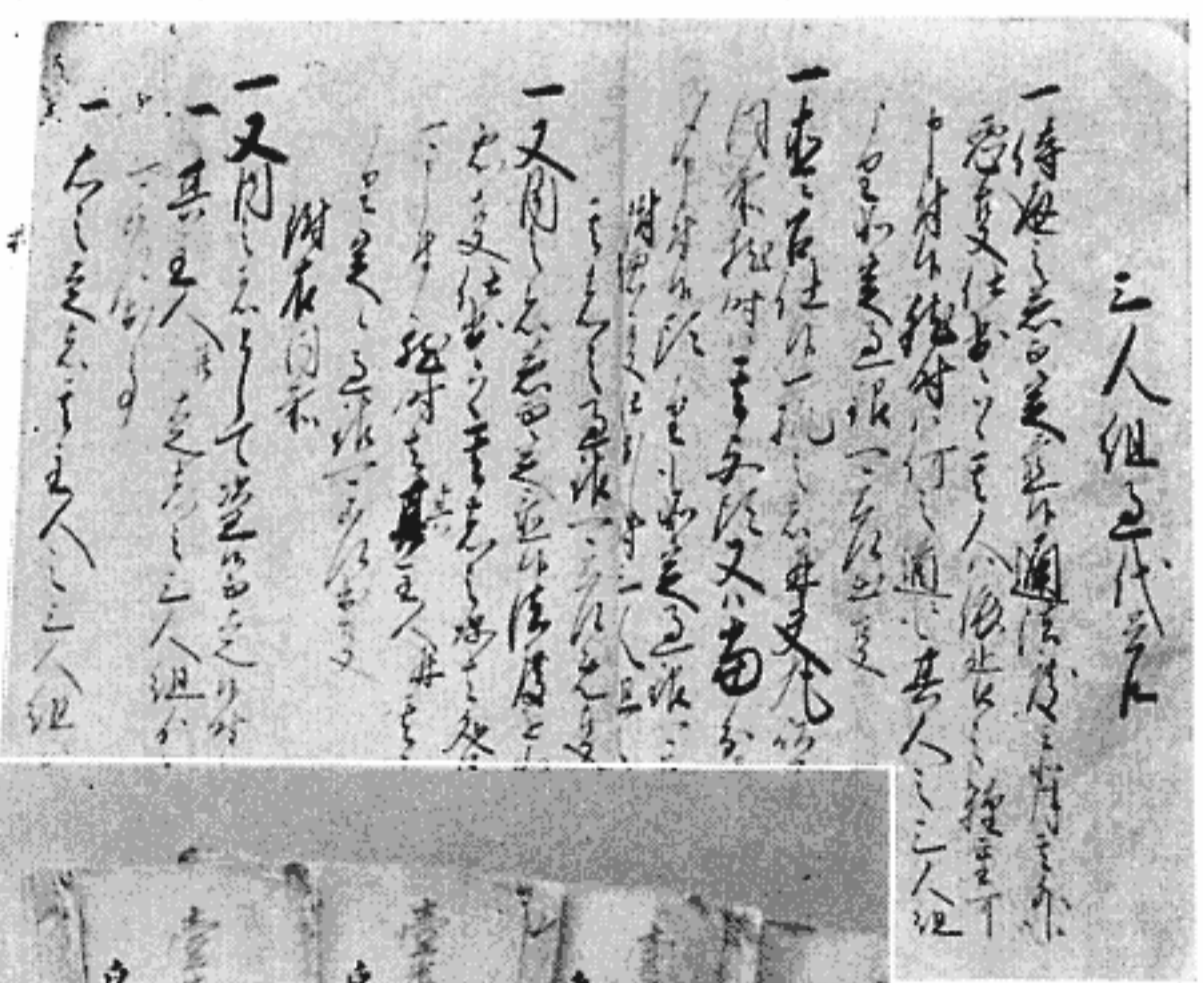
鳥栖市史資料編 第三集

佐賀藩法令

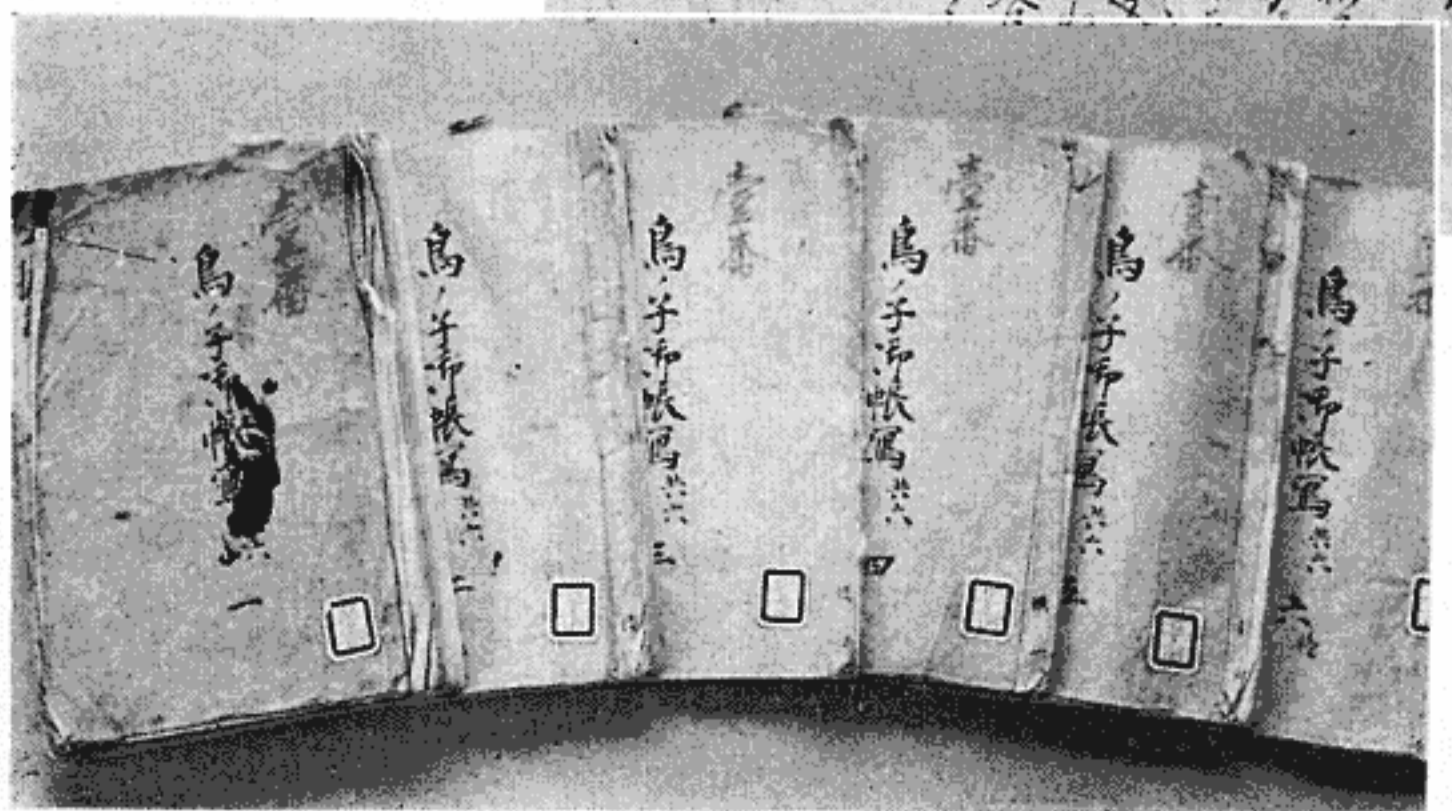
佐賀藩地方文書



①



②



③

- ① 「治茂公御改正御書附」と本文の一部
- ② 「鳥ノ子御帳写」と本文の一部 (いずれも佐賀県立図書館蔵)
- ③ 「鳥ノ子御帳写」と本文の一部 (いずれも佐賀県立図書館蔵)

供立者法度過代条々	（一九）
振舞之事	（一九）
三人組過代	（二〇）
鳥ノ子御帳	二
寺社方	（二七）
横目	（二八）
蔵入方	（三〇）
郡代	（三四）
代官	（三七）
町奉行	（四二）
山方	（四三）
領中制札控	（四五）
従公儀制札控	（四七）
科人制罰之心得	（四九）
毎年領中百姓申分其外相改候手頭	（五〇）

一年ニ一度宛自身可相究品々之覚書控	（五二）
鳥ノ子御帳	三
武具一通	（五九）
船一通	（六一）
算用方一通	（六四）
借銀方一通	（六六）
馬一通	（六八）
領中舸子并廻船一通	（七〇）
蔵入方付て之手頭	（七一）
諸郷夫小荷駄并手男一通	（七六）
公儀御普請之刻之手頭	（七七）
鳥ノ子御帳	四
領中人改様申渡条々	（七九）
鳥ノ子御帳	五
御壁書	（八七）

公儀御法度	(八八)
御法度	(八八)
御定置条々	(八九)
可相改条々	(九二)
軍役	(九二)
御蔵入役	(九五)
軍陣役者之事	(九六)
万御法度	(九八)
鳥ノ子御帳	六.....	(一〇三)
家老役	(一〇三)
使者飛脚之時之仕組	(一〇四)
上使衆領中往来之時之仕組	(一一〇)
各領中往来之時之仕組	(一一六)
長崎御番ニ付て之手頭	(一一九)
長崎え惣人数罷越候跡ニ上使并各往来之時之仕組	(一一九)

曆々之御上使之時之仕組	(一二〇)
治茂公御改正御書附	一.....	(一二七)
御蔵方	(一二七)
夫遣	(一四四)
津方	(一四九)
御山方	(一五四)
究役	(一五七)
治茂公御改正御書附	二.....	(一五九)
年行司	(一五九)
馬究	(一六三)
寺社方	(一六四)
町方	(一六六)
町夫貫物	(一七〇)
諸町人別	(一七二)
勘定所	(一七五)
治茂公御改正御書附	三.....	(一七九)
御小物成所手数定	(一七九)

郷普請書付……………	(一八二)
郷村貫物書付……………	(一八八)
夫遣書付……………	(一九〇)
治茂公御改正御書附 四……………	(一九一)
竈帳……………	(一九一)
人別帳……………	(一九四)
郡方ニ付て之書附……………	(一九六)
代官勤方ニ付て之書附……………	(二〇四)
検者勤方ニ付て之書附……………	(二〇八)
教諭御書附……………	(二一一)
御配分役内日記帳……………	(二二五)
役内日記……………	(二三五)
弘化貳年御知行所養父郡平田村御物成庭帳……………	(二四三)
文久元年御蔵入養父郡立石村御物成取納庭帳……………	(二六一)
養父郡平田村田畠并竈人別差出帳……………	(二七七)
御点役養父郡立石村戌穂貫物割方帳……………	(二七九)

凡

例

一、読点「、」および並列点「・」を加えた。

一、当用漢字にあるものは、新字体を用いた。

一、異体、異字は正字に直した。

一、変体仮名は平仮名に改めた。ただし、助詞などに使用されているもののなかで、「江」は「え」としたが、而(て)・茂(も)・斗(はかり)・ニ(に)にして)・方(より)・杯(など)・メ(しめ)・而已(のみ)は原本どおりとした。

平仮名・片仮名の別は原本どおりとした。

一、校訂者が加えた文字には、() または || を施し、特殊な用語には仮名を付した。なお底本と異写本との相違点は、||三 ||

五 ||多として示した。

- 一、本文の誤字は、（ ）を施して改めたが、一部（ママ）を用いた。脱字の場合も（ ）を用いた。
- 一、朱筆には上下に「」を加え、その旨を傍注した。
- 一、同一の史料が二箇所に出る場合は、一箇所を省略した。
- 一、底本にある注は（||原注）とし、校訂者が加えた注は ||校注とした。

鳥ノ子御帳

鳥ノ子御帳 写 一

目録

一江戸御普請中掟

一江戸御屋敷掟

一六ヶ所御屋敷過代条々

一振舞之事、附過代

一御門出入其外ニ付過代

一三人組過代

一天満御屋敷掟

一同所過代条々

一振舞之事、附過代

一御門出入火番背候者え過代

一三人組過代

1

- 一供立者え之掟
- 一供立者法度過代条々
- 一振舞之事
- 一三人組過代

御普請中掟

一喧嘩口論堅可停止、若仕掛者雖有之、当時ハ令堪忍横目之者迄於申届は、根本非分たり共理ニ可相附候、此旨違背之輩有之ハ、双方可生害候、自然他方之衆とからかい仕出候ハ、縦其場遁候共、是非ニ不相構死罪ニ可申付候、前を以其心得可為肝要事、

付、自他共ニ喧嘩口論有之刻、好知音たり共方人仕儀全可停止、若相背候者有之ハ、本人も可処重科事、一他処え喧嘩火事出来候刻、頭奉行・手廻頭人申付候外、一人も罷出候儀堅可停止事、

一御普請者縦奉行として打擲仕候共、其場は令堪忍理有之

ハ横目之者迄可申届、於然は双方相究可及其沙汰事、
附、奉行之者自然人まかいたし、別与之者打擲候
は、則見違之通可申分、然上ハ被打候者も可堪忍候、
此旨相背者候ハ、一途可申付事、

一他方之者之儀は不及沙汰、領中之者ニ而も或盗人、或走
者其外不依何事咎有もの、於他所見合候共、私ニとらへ
間敷事、

但、領中之者於召捕は、頭奉行・手廻頭人え相尋、其
上ニ而捕可申事、

一他家之衆え私ニ寄合申承儀可停止、但頭奉行・与頭・下
奉行・内輪奉行は不苦事、

一町人へ振舞ニ参候儀可為可無用事、
一湯井風呂ニ参候儀、入あひ之儀は不及申、留湯風呂ニ而
も可停止事、

一他家之者相抱候儀一切可為制止事、
一女遊堅可停止、但仕女小屋内ニ抱候儀は不苦候、於然は

一内々者を費用ニ出候儀可為停止、但本国之者(在)立聞差登(中)

一役目之者、或走、或相煩候共其代を堅差出シ、役儀不可
有懈怠、自然役目於不足ハ為過代、一倍之役儀可申付
事、

一内々者を費用ニ出候儀可為停止、但本国之者(在)立聞差登(中)

^五せ候普請は手前費用ニは差出シ、他家え一切不可出事、
右之条々無相違様堅可被申付候、若相背者於有之は、
或追放、或生害依咎之輕重可被行之、自然歴々之者於
為重科は、国元にて可及其沙汰者也、

到時人指可相定

頭 奉行

手 廻 頭 人

定

一御普請一通之手廻頭人其方え申付候条、頭奉行へ令談(合)
合、奉行御普請者によらず、別而辛勞仕候者へ、隨其淺

深褒美可申付候条、其段我等え可申聞候、若不届者於有
之は、穿鑿之上越度相究候ハ、科之輕重次第一途可申
付事、

一御普請手廻ニ付而急敷儀有之刻は、頭人え可相届不及心

遣、其時々ニ申付可然事、

後日無障者哉と能相究候上、頭奉行・手廻頭人切手を以
可召置事、

一振売之者并高野聖・熊野比丘尼・占師其外徘徊人一切小
屋内ニ不可入事、

一振舞は二汁三菜を上ニして、其内は心次第ニすへし、酒
ハ三篇五篇之間たるへし、諸祝言・むこ入・よめ取之時
ハ、酒之献不定、但不可及乱酒事、

但、外客之時は各別之事、

一御普請者下々大酒仕候者至其与頭過代可申付候、勿論於
当人は可為曲事、

一泊々ニは宿錢其晚堅固ニ可相渡由、奉行として堅可申付
事、

一役目之者、或走、或相煩候共其代を堅差出シ、役儀不可
有懈怠、自然役目於不足ハ為過代、一倍之役儀可申付
事、

一内々者を費用ニ出候儀可為停止、但本国之者(在)立聞差登(中)

一奉行数并人指又ハ普請者多少之儀、其方校量次第たるへ
き事、

一頭人并其方又ハ下奉行小屋之儀、差図を以定置候事、

附、手前奉行各へ進物之儀、御普請相究候刻、校量
を以可申渡事、

一万造作やすまり候様手廻肝要候、不量事ニて入増之儀は
不及了簡事、

如右申渡候上は、御普請一通之儀、首尾能相調候様
ニ心遣可為肝要者也、

手 廻 頭 人

江戸屋敷掟

一公儀御法度之条々、全可守其旨事、

一喧嘩口論堅可停止、若仕懸者雖有之當時は令堪忍、横目
之者迄於申届ハ、根本非分たり共理ニ可相附、此旨違背
之者有之ハ、双方可生害候、自然他方之衆とからかい仕
出候ハ、縦其場遁候共是非ニ不相構、死罪ニ可申付候

条、前を以其心得可為肝要事、

附、自他共喧嘩口論有之刻、好知音たり共方人仕候儀可停止、若相背者於有之ハ、本人より可処重科事、

一博奕并金銀米錢ニ而かけの勝負、堅可制止事、

一各御通之刻、見合可致下馬事、

一兼而如定置候私ニ誓紙之取遣、又ハ連判を以申与候儀堅可為停止事、

一江戸え相詰候者共、差凶之外他家之衆えむさと寄合申承（三五冊本になし） 附、何そ為稽古芸（老） 三・五・多

附、何そ為稽古芸（老） 三・五・多

共・丹後守・傍村田伊平太四人之証人之儀ハ、我等傍

之頭人田中九左衛門・諸岡作左衛門・福地吉左衛門ニ

相尋、差凶次第ニ可仕候、紀伊守・甲斐守・刑部太輔

傍之儀ハ、其主人（一）に相尋可然事、

一他所之喧嘩・火事出来候刻、六ヶ所之屋敷何れニ而も門を指むさと人を不可出入、右六ヶ所之者ハ、何れ之屋敷

参候共、同門番相改、其上を以出入可仕事、

附、用所ニて門外え罷出儀有之折節、火事・喧嘩など出来候ハ、其場を不通別道可罷歸事、

一国之者江戸・上方え致住宅罷在候もの、江戸六ヶ所之屋敷え出入堅可停止候、但、出入候ハて不叶者ハ、我等へ申聞、其上ニて出入可申付事、

附、先様領中之者、江戸・上方・他方え私ニ用所ニて罷越者於有之は、蔵入所ハ代官、配分地ハ其領主へ申

届、手形を以可罷越候、其上ニ而右代官・領主より年行司え可申届候、然は三年を限ニ逗留可仕候、縦遂案

内候共、約束ニ違五年相過候ハ、走者可為同前候条、其身并親類共迄曲事可申付事、

一他方之者之儀ハ不及沙汰、領中之者ニ而も或盗人、或走者其外不依何事科有者、於他所見合候共、私ニ捕間敷事、

但、領中之者たり共、於他所召捕候ハ、田中九左衛門・諸岡作左衛門・福地吉左衛門え相尋、其上ニ而捕

候刻、兼而定置候者ハ札を取可出入事、

可申事、

一走者并他方之者一切相抱間敷候、但江戸へ罷在候共、国之者ニ而慥成請人於有之は可相抱事、

一女遊堅可為停止事、

但、屋敷内仕女相抱候儀は不苦候、於然ハ、其屋敷之おとな共として、女召置候者ハ、後日無障通請人之筈を取

置候哉之儀、能相究候上、銘々請取候屋敷限ニ、おとな共ハ手形を差出抱させ可申候、証人四人之内之者ハ、大

横目として右之通に相究、手形を差出抱させ可申事、附、屋敷之嗜共手形差出抱置候女子ニ而も、或女房に

仕、又は養子其外下女之類ニ而も、国元え召連罷下候之儀可為停止事、若不叶義於有之は、其段我等承候上、何之道可申付事、

一上屋敷門出入之儀、不依昼夜屋敷番之者として入念節々可相改候、我等留主之時ハ、暮六ツより鎖をおろすへ

し、若又難去用所於有之は、慥成者を以鎖あけおろし可

申付事、

附、六ヶ所之屋敷之者共、昼夜ニよらす門外ニ罷出候刻、兼而定置候者ハ札を取可出入事、

一直之者不依又内三人組ニ申付候間、組合之内相互ニ申合万端可相嗜候、若犯科之族於有之は、依科之輕重組合之

者も同罪ニ可申付候条得其意、組合之内不屈者と見及候ハ、加意見及三度無同心においてハ、直之者ハ横目之

者、又内は其主人まで有体ニ可申届候、然時ハ其科を可差免事、

但、組合申合せ候儀、江戸へ詰合候時計たるへし、一為横目我等留主中ハ、大目付之者老人、陸之者二人充替

々召置候条、法度相背候者又は出入有之儀、横目之者共入念承届、我等え可申聞候、自然見聞之上致用捨候儀、

於顯然ハ可為曲事候事、右条々無相違様堅可申付候、若違背之輩有之ハ、早々

国元え可申越候、於然ハ我等承、科之輕重可相究候、

但レ輕科ノ之者ハ江戸ニ而丹後守請下知、過代ニても差下
 二而も埒明可申候、科之輕重我等兼内之所存ト相計候
 ハ、違却有之間敷ト存て、在江戸之刻も先丹後守へ
 申聞、其上ニて我等可承候、留主中自然歴ニ之者於為
 犯科ハ、不依輕重国元ニ而可及ニ其沙汰候条、早速可差
 下者也、

六ヶ所屋敷過代条々

- 一 蒔絵之腕折敷可停止事、
- 一 乗掛之ふとん目ニ立候絹布堅可為停止事、
- 一 知行三百石之内之者、羅志や之雨具可停止、但、着候ハ
 て不叶者ハ、人差を以可差免事、
- 一 知行百石之内之者ハ、高直成唐物之類、衣装ニ仕間敷
 事、
- 附、我等并子共召仕候医師・外科・茶堂・小々姓ハ、
 衣装之沙汰有間敷事、

一 陸小姓衣類ニ、しゅちん・りんす・緞子何色ニ而も目ニ
 立候高直成物衣装之儀ハ不及申、ゑり・袖へり・脚半ニ
 而も一切仕間敷事、

一 中間以下之者ハ、布木綿紙袍之外、ゑり・袖へり・上帯
 ・下帯ニ而も絹布之類可停止事、

振舞之事

- 一 不依男女私之振舞ハ智入・よめ取其外諸祝言之時も二汁
 三菜を上にして、其内心次第ニすへし、酒ハ三篇五篇之
 間たるへし、
- 附り、諸祝言・智入・よめ取之時ハ酒之篇不定、但、
 不可及乱酒候事、
- 一 我等振舞候時ハ、二汁三菜、引物式ツ、酒之献肴数ハ不
 定、
- 一 私之振舞之時ハ不及沙汰、我等振舞候刻も、鶴縦手前ニ
 有合候共出間敷事、

但、我等ハ遣候ハ可出事、

一 我等振舞之時、亭主ハ不呼者為見廻参候儀、可為停止
 事、

一 兼て定置候者之所え、他方之衆被多本なし被参候時之振舞ハ各別之
 事、

一 我等夫婦并子共え諸祝儀之事、百疋十帖甘帖扇子之間
 へし、此上ニ可遣儀候時ハ、我等傍之頭人田中九左衛
 門・諸岡作左衛門迄可相尋事、

右相背候者ハ過代覚之

- 一 風呂并湯ニ参候儀、他方之衆ト入合候儀不及申、留風呂
 二而も参間敷事、
- 一 遊山見物ニ罷出候儀堅可制止事、
- 一 浅尊登宿其外神社え立願雖有之、代参ニ可相究事、
- 附、下々之者も、如定置候大横目ハ手形を取、其身可
 罷出事、
- 一 下々大酒仕候儀可停止事、
- 一 智取・よめ入其外諸祝儀之遺物停止之事、

- 一 知行壹万石之上之者ハ、銀子十枚
- 一 知行壹万石之内五千石迄ハ、銀子五枚
- 一 知行五千石之内千石迄ハ、銀子三枚
- 一 知行千石之内五百石迄ハ、銀子貳枚
- 一 知行五百石之内百石迄ハ、銀子壹枚
- 一 知行百石之内ハ、銀子三拾目
- 一 主従三人ハ式人迄ハ、銀子廿目
- 一 一統之者ハ、銀子五匁
- 一 又内之者も過銀之員数、其身体次第右同前たるへし、但、
 組付之者并又内相背候者、其主人其組頭も、右三分一
 之過銀可差出事、

但、祖父・祖母・伯父・伯母・父父母・兄弟・子・孫・甥
 ・姪・智・あいやけ右之分ハ、百疋十帖甘帖扇子之間
 たるへし、

門出入其外相背候過代覺

一 台所之者・道具持・さうり取・挾箱持・水風呂持・乗物廻・馬取・夫丸門出入之札失候ハ、其者ハ銀子廿目、附、与頭より五匁可差出事、

一 又小者門出入之札失候ハ、其者より銀子廿目、附り、主ハ十匁可差出事、

一 門外え出候刻、札を門番之者え渡置、入候刻取おとし明日迄召置候ハ、其者ハ銀子五匁可差出事、

一 高野聖・熊野比丘尼・占師やか、之類其外徘徊人兼而無出入旅人門内に入候ハ、門番之者より銀子五匁可差出事、

一 一六ヶ所之屋敷、札なしニ罷出候ハ、銀子拾匁、門番之者ハ五匁可指出事、

一 上屋敷内火用心・夜廻如定置候片時も不可有油断候、此儀於緩ハ、其節当前之ものより銀子廿目、但、何事そ有之時は可為各別事、

附、右同前

一 又内之者として、盜候而走候時之事、

一 其主人并走者之三人組ハ、定之過銀可差出事、

一 右之走者其主人之三人組も尋出生害可申付候、左候時ハ右之過銀可差返候事、

一 右盜候而走候者之親・妻子・兄弟并請人より盜候物之代銀又ハ前扶持其主人え可差出候、無左候ハ、親・

妻子・兄弟・請人之間ニ老人、主人好次第とらすべく候、但、右之者之内ハ走候者尋出候ハ、其沙汰有之

間敷事、

一 不依何事悪事を仕出シ、又ハ何之子細も無之候共走候時之事、

一 其主人并走者之三人組ハ、定之通過銀可差出事、

一 右之走者、其主人之三人組も尋出生害可申付候、左候時は右之過銀是又可差返事、

一 走者之前扶持を、親・妻子・兄弟・請人ハ可差出候、

一 上屋敷并浅部屋敷小屋ノ之儀、其方共兩人ニ書物を以申渡候条、無相違様ニ可申付事、

附、書立在別紙

三人組過代覺

一 侍通之者兼而定置候通、法度を背其外ニも悪事仕出候ハ、其人ハ依咎之輕重可申付候、然時ハ何之道ニも其人之三人組より如定過銀可差出事、

一 直ニ召仕候一統之者并夫丸以下右可為同前、然時ハ其与頭又ハ当分ニ而も其人ノ申付候頭も、如定過銀可差出事、

附、悪事仕出候時、三人組之内ハ申頭候ハ、其者之過銀可差免事、

一 又内之者兼而定置候法度を背、其外ニも悪事仕出候ハ、其者之儀は咎之依輕重可申付候、然時は其主人并其者之三人組ハ定候過銀可差出事、

さなく候ハ、親・妻子・兄弟・請人之内、主人好次第老人とらすべく候、但、右之者之内ハ走者尋出候ハ、其沙汰有之間敷候事、

一 江戸詰之者、内之者を相抱又ハ隙を取せ候時之事、

一 国元ニ而人を相抱候時、請人より手形取様之儀其身召仕候内ハ不及申、縦隙をとらせ於江戸所々屋敷中ニ奉

公申候共、国元え不罷下問之儀は、何事ニ而も逃走其外悪事仕出候時、国元請人ニ可相替由、筈ニ書載可為

仕事、

一 江戸ニ而内之者隙をとらせ候ハ、詰之者ハ相抱候時ハ、本主人より国元請人之筈相副可差渡候、当主人ハ其所ニ而之請人をも儘ニ可相定候、左候て其段留主居并大

目付まで可申届候事、

附り、何かし召仕候、何郡何村之もの於江戸何かしへ奉公申候通、大目付ハ国許年行司え、時々儘可申届候事、

一江戸ニ而内之者隙をとり七国許へ差下候時ハ、留主居并大目付之者え申届、路銀・船賃迄堅固ニとらせ、慥成便ニ相付、其主人より何村之何某此中召仕候を差下候通年行司ニ時々ニ可申届候、縦何様之病者又ハ從者たり共、留主居并大目付へ不相届、方所不知追捨之義可停止事、
一本三前之通(原注)
 一女共丹後守・紀伊守・甲斐守・形部太夫・傍伊平太・其外証人共之内之者之儀も、其内之頭人え相届、隙を取セ様ハ右可為同前事、

一江戸・上方ろ又内之者隙を取せ、路銀相渡差下候者之國元えは不罷下、他方へ罷在候時之事、

一右走者同前之儀候条、居所承定其上ニ而召捕生害可申付候、

一右之者居所申顯候者於有之、為褒美銀子三枚とらせ申へき事、

一右之者之親・妻子・兄弟・請人ろ、為過代銀差出候様、其筋之目付之者として申届、銀子請取可置候、

但、右之親・妻子・兄弟・請人ろ尋出候半ハ、右過銀可差返事、

右過代之員數

一馬乘之者ろハ、銀子三拾目、
 一乗掛通之者ろハ、銀子廿目、
 一主從三人ろ二人迄ハ、銀子拾目、
 一直之一統之者ハ、銀子五目、

一又内者銀子拾目、又ハ三目たるへき事、

右之通相定候条、六ヶ所之屋敷中無相違様可申付候、
(三) 多
 若違背之輩於有之は、定置候過科為陸横目請取、田中九左衛門・諸岡作左衛門大横目へ可相渡候、陸目付於緩は、為過代銀子壹枚ツ、可差出者也、

田中九左衛門
 諸岡作左衛門

天満屋敷掟

一公儀御法度之条々全可守其旨事、

一喧嘩口論堅可停止、若仕懸雖有之、当時ハ令堪忍大横目

之者へ於申届ハ、根本非分たり共、理ニ可相付、此旨違

背之輩於有之ハ、双方可生害候、自然他方之衆とからか

ひ仕出候ハ、縦其場遁候とも是非不相構、死罪可申付

候条、前を以其心得可為肝要事、

附り、自他共喧嘩口論有之刻、好知者たり共、方人仕

候儀可停止、若相背も之於有之は、本人よりも可処重

科事、

一走者并他方之者一切相抱間敷事、

但、上方へ罷在候共、國之者ニて慥成請人有之ニおひ

てハ可相抱事、

一兼て如定置候私ニ制詞之取遣、又ハ連判を以申組候儀、

堅可制止事、

一家中之者、他家之衆と寄合申承候義可停止候、但、何か

し儀諸事聞合之為ニ候条不苦事、

一他所へ喧嘩・火事出来之刻、何某申付候外、一人も罷出

間敷事、

附り、用所候て門外へ罷出有之折節、火事・喧嘩など

出来候儀ハ、其場を不通、別道可罷歸事、

一博奕并金銀米錢にて、かけ之勝負堅可制止事、

一他方之者之儀ハ不及沙汰、御領中之者ニ而も、或盗人、

或走者其外不依何事咎有者、於他所見合候共、私ニ捕間

敷事、

但、領中之者たり共、於他所召捕候半は、何かしへ相

尋、其上ニて捕可申事、

一女遊堅可停止、但、屋敷内ニ仕女抱候儀ハ不苦候、於然

ハ何かし大横目として女召置候者ろ、後日無障通り請人

之筈を取置候哉之義、能相究候上、右兩人手形を差出抱

させ可申事、

附り、右兩人手形を差出抱置候女子ニ而も、或女房ニ

事、

一 中間以下之者ハ、布木綿・紙袍其外スリ・袖ヘリ・上帯
・下帯ニも絹布之類可停止事、

振舞之事

一 不依男女私之振舞ハ、賀入・よめ取り其外諸祝言之時も
二 汁三菜を上ニして、其内ハ心次第ニすヘシ、酒ハ三篇
五篇之間たるヘシ、

附リ、諸祝言・むこ入・よめ取り之時ハ、酒之篇不
定、但不可及乱酒事、

一 縦手前ニ有合候共、鶴出間敷事、但我等より遣候は可出
事、

一 頭人所ヘ他方之衆被參候時之振舞ハ格利之事、

一 風呂并湯ニ參候儀、他方之衆ト入相之義ハ不及申、留風

呂ニも參間敷事、

一 遊山見物罷出候儀、堅可制止事、

一 神社ヘ立願雖有之、代參ニ相究事、

附リ、下之者も如定置候大横目ノ手形を取り、其身可
罷出候事、

一 賀取り・よめ入其外諸祝儀ニ遣物停止之事、

但、祖父・祖母・伯父・伯母・父母・兄弟・子・孫・

甥・姪・賀・あいやけ、右之分ハ百足十帖廿帖扇子之

間たるヘシ、

一 我等夫婦并子共ヘ諸祝儀之事、百足十帖廿帖扇子・酒肴

・菓子之間たるヘシ、此上ニ可遣儀候時ハ、鍋島式部・

有田左馬助、中野奎之助・田中九左衛門・諸岡作左衛門

可相尋事、

右相背候者ノ過代覚

一 知行壱万石ノ上之者ハ、銀子拾枚

一 知行壱万石ノ内五千石迄ハ、銀子五枚

一 知行五千石ノ内千石迄ハ、銀子三枚

一 知行千石ノ内五百石迄ハ、銀子貳枚

一 知行五百石之内百石迄ハ、銀子壹枚

一 知行百石之内ハ、銀子三拾目

一 主徒三人ノ二人迄ハ、銀子二拾目

一 一統之者ハ、銀子五匁

一 又内之者も過銀之員數、其身体次第右同前たるヘシ、但
組付之者并又内相背候ハ、其主人其与頭よりも右三分
一 之過銀可差出事、

門出入并火番相背候者過代覚

一 不依男女諸商人旅人以下、就中女出入之時は、則為門番
差留、何かしに有体可申届候、高野聖・熊野比丘尼・占

師・徘徊人やらの類其外、兼而無出入者一切門内ニ不可
入候、若入候ハ、門番之もの銀子五匁可差出事、

一 台所之者、道具持・さうり取・挾箱もち・水風呂持・乗
物廻・馬取・夫丸門出入之札失候ハ、其者より銀子廿

目、

附、与頭ノ五匁可差出事、

一 又小者門番之札失候半は、其者ノ銀子貳拾目、

附リ、其主ノ拾匁差出候事、

一 門外え出候刻、札を門番之者ヘ渡置、入候刻取おとし、

明之日迄召置候半は、其者ノ銀子五匁可差出事、

一 屋敷札無シに門外ヘ罷出候ものは、銀子拾匁、門番之
者ノ五匁可差出事、

一 屋形内火用心・夜廻如定置候不可有油断候、此儀於緩
は、其節之当前之者ノ銀子貳拾目、但、何事そ有之時ハ
可為格別候事、

三人組過代之覚

一 侍通之者、兼て定置候法度を背、其外ニも悪事仕出候ハ
、其人ハ咎之依輕重可申付候、然時は何之道ニも其人
之三人組ノ如定過銀可差出事、

一 直ニ召仕候一統之者并夫丸以下右可為同前、然時は其与

頭又ハ当分ニ而も其人ノメリ申付候頭よりも、如定過銀可差出事、

附、悪事仕出候時、三人組之内ノ申頭候ハ、其者之過銀可差免事、

一又内之者、兼而定置候法度を背、其外ニも悪事仕出候ハ、其者之儀は咎依輕重可申付候、然時は其主人并其者之三人組(如)定之過銀可差出事、

附、右同断

一又内之者として盜候て走候時之事、

一其主人并走候者之三人組、過銀可差出事、

一右之走者ハ、其主人之三人組も尋出し、生害可申付候、さ候時は右之過銀可差返事、

一右盜候て走候者之親・妻子・兄弟并請人より盜候物之代銀、又は前扶持其主人え可差遣候、さなく候半は、親・妻子・兄弟・請人之内、主人好次第とらすへ候、但、右之内ノ走者尋出候ハ、其沙汰有之間敷

事、

一不依何事悪事を仕出、又何之子細も無之共走候時之事、

一其主人并走者之三人組、定之過銀可差出事、

一右之走者其主人之三人組も尋出、生害可申付候、左候時は右之過銀是又可差返事、

一走者之前扶持を、親・妻子・兄弟・請人ノ可差出事、さなく候ハ、親・妻子・兄弟・請人之内、主人好次第二走人可取候、但右之内より走者尋出候ハ、其沙汰有間敷事、

一天滿詰之もの、内之者を相抱隙をとらせ候時之事、

一國許ニ而人を相抱候時、請人より手形取候様之儀、其身召仕候内ハ不及申、縦隙をとらせ天滿(詰之者)ニおいて詰之者へ奉公申候共、国元へ不罷下問之儀ハ、何年にてても逃走、其外悪事仕出候時、國許之請人可相懸由、筈ニ書載可為仕事、

一天滿ニ而内之者へ隙をとらせ候は、詰之者ノ相抱候時

は、本主人ノ国元請人之筈相副可被相渡候、当主人ノ其所ニ而之請人をも儘ニ可相定候、左候て其段頭人并大目附迄可申届候事、

附、何かし召仕候何郡何村之者、於天滿何かしへ奉

公申候通、大目付ノ国許年行司え時ニ儘ニ可申届事、

一天滿ニ而内之者ニ隙をとらせ、国元え差下候時は、頭人并大目付之者え申届、路銀・船賃を堅固ニ取セ、儘成便ニ相付、其主人ノ何村之何かし此中召仕候を差下候通り、年行司へ時(三)に可申届候、縦何様之病者又ハ徒者たり共、頭人并大目付へ不相届、方所不知追捨候儀可停止事、

一江戸・上方ノ又内之者隙を取セ、路銀相渡差下候者は、国元えは不罷下他方え罷在候時之事、

一右走者同然之儀候条、居所承立、其上ニ而召捕生害可申付事、

一右之者居所於申頭候者於有之は、為褒美銀子三枚とらすへき事、
一右之親・妻子・兄弟・請人ノ過代銀差出候様、其筋ノ之目付之者とし而申届、銀子請取可置候、但右之親・妻子・兄弟・請人ノ尋出候ハ、右過銀可差返事、

右過代之員數

一馬乘之者より銀子廿目
一乗掛通之者より銀子廿目
一主従三人ノ二人迄ハ、銀子拾匁
一直之一統之者ハ、銀子五匁、
一又内ハ、銀子拾匁、又ハ三匁たるへき事、
右之通相定条、天滿屋敷中無相違様申付候、若違背之輩於有之は、定置候過料為陸目付請取、大横目え可相渡候、陸目附於緩は、過代として銀子一枚充可差出者也

供者え之掟

天満頭人

一馬雨にもらす間敷事、

付、笠不可着、但遠路之時は不苦候事、

一公儀御法度之条々、全可守其旨事、

一馬乗陸小姓無理跡立間敷事、

付、途中ニ而高笑高難談停止事、

一喧嘩口論堅可停止、若仕掛者雖有之、當時は令堪忍、横

目之者迄於申届ハ、根本非分たり共、理ニ可相附、此旨

違背之輩於有は、双方可生害候、自然他方之衆とからか

い仕出候ハ、縦其場遁候共是非不相構、死罪可申付候

条、前を以其心得可為肝要事、

一使者・飛脚參候時は、兼而使ニも仕付候者として可承
次、手明之者として一切不可取次事、
一供之時、町小路ニ而片寄仕間敷事、
付、脇通不可參事、

附、自然喧嘩口論有之刻、好知音たり共方人仕候儀可

一各御通之刻、見合可致下馬事、

停止、若相背もの於有之は、本人も可為重科事、

一出国ノ帰国迄、他方之者一切相抱間敷事、

一他所之喧嘩・火事出来候刻、其場一切參間敷事、

但、江戸・上方え罷在候共、国之者ニて慥成請人於有

付、同所ニて他所え罷在候共、火事・喧嘩など有之所

之ハ可相抱事、

は、不通別道可罷歸事、

一他方之者儀は不及沙汰、領中之者ニ而も或盗人、或走者

一船渡之儀、如供立之たるへき事、

其外不依何事咎有者於他所見合候共、私捕間敷事、

付、渡口ニ而行儀之次第二つくはい候て、無私奉行申

但、領中之者たり共、於他所召捕候ハ、鍋嶋式部・

次第乗可申事、

有田左馬助・野奎之助相尋捕可申事。

一他家之衆え私ニ寄合申承間敷事、

候ハ、加意見、及三度於無同心は、直之者ハ横目、又

付、何そ為稽古芸者など呼候半て不叶刻、鍋嶋式部・

内は其主人迄有体可申届候、然時は其科可相免事、

有田左馬助・中野奎之助へ相尋、差凶次第可仕事、

但、組合之儀、江戸・上方へ供之時斗たるへき事、

一博奕并金銀米并かけの諸勝負堅可制止事、

一上方、上下ニ付而諸事定置候趣、別帳書載候て相渡候、

一泊々ニ而宿錢ハ其晩堅固可相渡事、

無違却様可申付事、

一女遊堅停止、但仕女屋敷内に抱候儀ハ不苦候、於然ハ鍋

一右之外、法度過代条々以別紙申渡候、無相違可申付事、

嶋式部・有田左馬助・中野奎之助として、女召置候は後

一諸法度違背之者其外出入有之儀は、為横目之者入念承

日無隙通請人之筈を取置候哉之儀、能相究候上、右三人

届、我等へ可申聞候、自然見聞之上致用捨候儀於顯然

手形を差出抱させ可申事、

は、一途可申付事、

附、右三人手形を差出抱置候女子ニ而も或ハ女房ニ

右之条々無相違様堅可申付也

仕、又ハ養子其外下女の類ニても、国許え召連罷下候

鍋嶋式部

儀可為停止候、若不叶儀於有之は、其段我等承候上、

有田左馬之助

何之道可申付事、

中野奎之助

一直之者不依又内、三人組ニ申付候間、組合之内相互之申

供之者法度過代条々

合、万端可相嗜候、若犯科之族有之は、科之依輕重組合

(この項は「六か所御屋敷過代条々」と同文につき略す)

之者も同罪ニ可申付候条、得其意与合之内不届者と見及

振舞之事

（この項は江戸御屋敷掟のなかの「振舞之事」と同文につき略す）
三人組過代之覚

（この項は江戸御屋敷掟のなかの「三人組過代覚」とほぼ同文につき略す）

定

一 小馬廻一職之儀、其方え申付候上ハ、知行并切米之遣取申次第可及其沙汰候、然時は兼而奉公方ニ精を入、自然之刻用ニも相立へき覚悟之者、能見究候而申聞候ハ、其上を以可褒美候、若又不届者有之而於為重科は、我等上方逗留之間たりとも不申聞、能穿鑿之上を以生害申付候ても不苦候、何之通ニ而も感不感之儀遂日可承事、付、小馬廻大与頭与内之儀、尤其与頭に相任候、自然出入有之儀候ハ、其方へ令談合可相済由、大与頭え申渡候事、
一 与頭其外下ニ至迄、不覚悟之者候ハ、無最員偏頗有体我等へ可申聞事、

一 小馬廻之者へ、其方として当介悪敷おいてハ、出陣之刻、下知をも相背、如睦甲冑共ニ不相入、家之為ニ不成儀候条、其心得可為第一、若右之旨於令相違は、与頭其外之ものにて無用捨可申出由申渡候条、可存其旨事、一至与之者為与頭仕様悪敷儀於頭然ハ、縦我等上方逗留之間たり共、与を取上可然候、但与之者四五人も与頭を嫌分ニ候ハ、邪正相究理落着候ハ、別与ニ可申付候、若於非分は其者可追放事、
一 小馬廻之者訴訟之儀於有之は、其大物頭を其方召連罷出、我等へ可申聞候事、
一 余与方用所之儀相頼候共、万与頭として取次仕候儀堅可停止事、
一 小馬廻手明之者并弓鉄砲昇之者、自然之刻、遠路召連候時無不足様兼而可申付候、手寄候ニ而参候事不相成者ハ置変可申候、代ニ出候者、人からを其方見候て可相拘事、
但、前致辛勞今に年寄候ものは、其親子間を居替可申

事、

一 小馬廻之者余与之者と口事篇有之儀候共、其方承届候上、双方之与頭へ令談合可相済候、若滞儀候ハ、山城守其外年寄中可申届候、其上ニ而も様子不相済候ハ、我等可承候事、
一 自然俄之儀有之刻、小馬廻之者共、掛合ニ罷成候様ニ馬物具以下迄兼而無油断申付可召置候、
如右小馬廻之儀相任候上は、弥堅固に申付、如睦甲冑共抽勲功候様可申勤候、小馬廻相候儀専一候条、得其意、万事心遣可為肝要者也、

鍋嶋縫殿助

鍋嶋式部

小馬廻役目

21
一 弓鉄砲之者公儀御普請之時は、三分二之上差上せ間敷事、

一 長柄鎗砲石取ハ、無役ニ召置、自然之時可召仕事、
一 知行百式拾石ニ付て、六人役ニ定置候事、
一 知行式百五拾石ニ付而、役目道具鉄砲砲挺、弓砲張、鎗砲本宛之事、
但、七百五拾石内ハ、弓之代に鉄砲可持事、
一 知行百式拾五石ニ付、鍬砲具宛可持事、
一 知行百式拾五石不断馬を立飼可乗馬事、
一 又内馬乗之儀、知行六百式拾五石ニ砲足宛之役目たるへき事、
一 馬乗主徒知行百式拾五石之内、八人たるへき事、
一 知行百七拾五石之内、百廿五石迄ハ、主徒十人たるへき事、
一 知行式百五拾石之内、百七拾五石迄ハ、主徒十二人たるへき事、
一 知行式百五拾石上ハ、役目次第たるへき事、
一 物頭ハ小身たり共、主徒十三人を小にして可召置事、

付、物頭ハ小身ニ而も鉄砲壱挺、弓壱張、鎗壱本可持事、

一左ニ黒母衣八ツ、金之半日足之指物十ヲ、右ニあかね母衣八ツ、金之半日足之指物拾ヲ、半日足長サ中式尺六寸次第おとりにして、両端式尺ニ可仕候、但、如本付母衣之たし我々好なり、

一惣番さし金之三本、菖蒲たるへき事、

但、本のことくニ可仕事、

一鉄砲さし式本、しない横絹はゞに長サかね之四尺三寸、地白ク、紋ハ黒色ニ而も、赤色ニ而も一組く好也、

一弓之者ハさしものなし、

一弓之者ニは具足・弓籠・手道服・股引斗可着事、

右四ヶ条は、式千五百石上之役目也、

一道行之時、弓・鉄砲・鎗之者ニは一樣に道服可着、色ハ濃淺黄、紋ハ白丸、大サかねのさし渡壱尺三寸たるへき事、

但、五百石上之役目也、

一役目鎗誘之事、柄さや共ニ長サ式間三尺、鞘壱尺ニメ鳥毛うのくひ壱尺五寸黒塗ニ可仕事、

一具之鎗番さし、鉄砲さし物、塗かさ、道服之本相渡候条、一樣無相違様可仕事、

一其身傍ニ持せ之小道具之鎗数之事、知行相当くニ可然候、知行千式百五拾石内之者ハ、^{(三)ニ(三)ニ(三)ニ}十二本之上ニメ一本之間相定候、そのほかハ皆具之鎗たるへき事、

一知行式千五百石上之小道具之弓・鉄砲・鎗は、役目外ニ相定候、式千五百石内は、右之小道具役目之内ニ可仕候事、

付、小道具之弓・鉄砲類之儀は、我々勝手次第たるへき事、

一鉄砲袋之事、持筒は狸々皮たるへし、此外役目鉄砲ニも狸々皮袋之儀、我々心次第可仕事、

一遠路之時は、役目鉄砲壱挺ニ、玉薬三百放宛たるへき事、

付、近国之時は、玉薬手前切たるへし、但、長陣之刻ハ不足次可相渡事、

一遠路之時は、役目弓壱張ニ金根^{(之)ニ(三)}箭^(三)か金銀三手前三拾本宛たるへき事、

付、近国之時は、矢手前切たるへし、但は長陣之刻は不足次可相渡事、

一役目鉄砲すわひ一職三刃玉たるへし、右のことく相定候儀は、急成時玉の大小候ハ、役に不立儀可有之、倍又役目玉薬三百放之外、俄之節不足次蔵入より相渡候時之ため也、すわひ違之筒ハ、玉薬手前切ニ格護可仕事、

一役目弓何レも誘弓ニ仕、長サ七尺三寸ニ可仕事、
但、長さ相定候儀、自然之刻、^{(替)ニ(三)}変弦^(三)之ためかくのことくに候事、

一役目弓ハ、一職筋本のことく揃候様に可仕事、
但、心次第ニ空穂ニても不苦事、

一弓・鉄砲・昇・鎗与頭若其身差合候時ハ、名代慥成者を

兼而相定召置候事、

一此中相改候弓・鉄砲・鎗・昇之者、与頭として私ニ不置変様ニ可被申付事、

付、与付切米取候者人数不足候て、^{(ハ)ニ(三)}私之者名代ニ定置候儀可為停止事、

一与付切米取^{(之)ニ(三)}へ、為与頭人を能相究、切米やりくり仕可相渡事、

一組之者え切米渡候儀、毎年霜月師走十五日を切、^{(三)ニ(三)}弓・鉄砲・鎗・昇之者勝手能様^{(三)ニ(三)}可相渡事、

一出陣之砌、蔵入より可差出道具之事、
一手明鎗使前之者へ、はれたの羽織一通、但二色ニメ一陸之者へ甲・具足・半籠手・道服・股引・脚半・腰当合七色、

一直之鉄砲之者へ甲・具足・半籠手・道服・股引・脚半
・腰当合七色、

一直之弓之者へ、具足・半籠手・道服・股引・脚半・腰

当合六色、

附、道押之時は、塗笠可着事、

一長柄鎧之者え、塗笠・道服・しゅはん・股引・脚半・

腰当合六色、

一直之小道具之者へ、塗笠・道服・しゅばん・股引・腰
当・脚半合六色、

一直之馬取・挾箱持如斯之類のものへは、道服・しゅば
ん・股引・脚半・腰当合五色、

一昇之者へ、具足・塗笠・弓籠手・股引・脚半・腰当・
上帯・下帯合八色、

一昇数三拾式本、内吹流之大昇式本ニ相定候事、

一知行百式拾五石より内、馬乗ニ定置候者は、馬具を手前
へ可調置、馬は至其時蔵入可乗事、

一右条ニ諸道具誘之儀、知行相当に可相誘候、小身者之分
限ニ過たる馬具可停止事、

右之条ニ自然俄之儀候共、無相違掛合ニ相成候様、兼

而可申付者也、

鍋嶋縫殿助

鍋嶋式部

(多久本には定以下なし) 校注

定

一 小馬廻一職之儀、鍋嶋縫殿助・鍋嶋式部へ申付候之間、
得其意万事談合可然事、

一 与内之儀、尤相任候上は、与之者善惡之儀、其方申次第
可及其沙汰候、然時は奉公之浅深兼而之格護能見究、縫

殿助・式部迄相届候ハ、以其上我等承、感不感之儀可
申付事、

一 与内之者訴訟之儀於有之ハ、縫殿助・式部同前ニ罷出可
申聞事、

一 余与より用所之儀相頼候共、取次停止之事、
一 縫殿助・式部として与頭其外小馬廻之者共へ、自然当介
惡敷儀於有之ハ有体ニ可申出候、人之用捨候而於無其科

(令用捨候於無其科ハ) 校注

は、惡事之根元候条、能々其心得可為肝要事、

一小馬廻之者、余与之者と口事篇有之儀ハ、縫殿助・式部

ニ申届候上、其組頭と令談合相済可然事、

一 自然俄之儀有之刻、与内之者共懸合ニ罷出候様ニ、馬具
以下迄兼而無油断申付可召置事、

右之条ニ与之者共え、弥堅固ニ相メ、如睦甲冑共ニ可
抽勲功由申勤、万事無緩様、心遣可為肝要者也、

鍋嶋縫殿助

鍋嶋式部

鍋嶋八左衛門

中野奎之助

一 与内ニ不覚悟之者候ハ、縦其方好たるとも、少も無用
捨有体我等へ可被申聞事、

一 弓・鉄砲之者自然之刻、遠路召連候時、無不足様ニ兼而
可申付候、年寄候て参候事不相成者ハ置替可申候、代ニ
出候者人柄其方見候て可相拘候事、

但、前致辛勞に今年寄候ものハ、其親子間を居變可申

定

一 与内之儀、諸事相任候上ハ、知行并切米之遣取其方被申

次第可及其沙汰候、然時ハ兼而奉公方ニ精を入、自然之
刻、用ニも可相立覺護之者能見究候而申聞候ハ、以其上

候、

一自然俄之儀有之刻、与之者共懸合ニ罷成候様、馬物具以下迄兼而無油断可被申付事、

右之条々於与之者共、弥堅固ニ相々、如睦甲冑共抽勲功候様、兼て被申勤事可為肝要者也、

鍋嶋 山城守殿

(このあとに、三組にあてた「与中役目」ならびに「出陣之刻召連候儀有之時之与中役目」の項があるが、これは「小馬廻役目」の項とほぼ同文につき略す。以下に相違点を示す。「小馬廻役」の項で二一頁下段一行「一長柄鎧……」・二二頁上段三行「六行」「一左ニ異母……」・二三頁下段十一行の「一手明鎧……」・同十二行「一陸之内……」・二四頁上段三行「長柄鎧……」から同十行「一昇之者……」までが「与中役目」「出陣之刻……」にはないと、昇数が違うだけであとは同文)

鳥ノ子御帳 写 二

定

一 寺社方

一 横目

一 蔵入方

一 郡代

一 代官

一 町奉行

一 山方

一 領中制札控

一 従公儀制札控

一 科人制罰之心得

一 毎年領中百姓申分其外相改候手頭

一 一年ニ一度宛自身可相究品々之覚書控

一 従寺社被仰儀共候ハ、念を入可承届候、寺方へ出入有之刻ハ、其宗体之頭として可被相済由定召置候、若其上ニ而も難被済儀候ハ、到其節兩人承届、年寄中迄可申達候、様子ニハ我等直ニも可承事、

付、新儀停止之事、

一 後代之住持ニ弥可被入御念由、兼而可申渡事、

附り、諸寺、諸社并山伏住持を相定、又ハ同宿を被相

抱候時、其人之由来を能相究、無縁之人扱又紛たる者

ハ、不依僧俗不被抱置様ニ、其使(係)ニ堅可申渡事、

一 寺社官位無猥様ニ可有之事、口上、

一 小寺住持死去之儀(後)ニ(係)親子縁者続俗人(係)主ニ成存候儀可為

曲事、

一 住持於御隠居ハ、本寺ル可為加勢事、

一 寺社ニ口事篇於有之は、兩人として存寄候儀申談可然

候、若其分ニ而も於難相済ハ、年寄中ニ申届、其上を

以、我等可承候、前々寺社之口事雖不相構儀候、相論
 二相成、其寺々又ハ其使(本寺) 二三・五・多へ被申入候儀ハ、公儀之御沙汰
 二および至領主被仰付候条、自今以後は「存寄(「の問三冊本」可申
 談と存候」とあり) 〃校注を申談候ハ
 之沙汰ニ有之候様、前を以申渡可召置候、到寺社之口
 事篇構候儀雖迷惑存候、此中之度(之五・多本になし) 〃校注口事有之候而公儀
 御尋候、右之仕合於相重は、国家之為不可然候付、右之
 分ニ候事、

一寺社方修理等之儀、如存色々物入多、手前不相成候付
 而、夫々ニ修理以下申付候儀難成候、然時は、差立た
 る寺社其外此中我等申付候例有之所より申来候共、能
 々吟味之上可申聞候、我等承候而修理など不相違候得
 は、氣味悪敷候条、能々其心得尤ニ候、尤例無之寺社ハ
 取次仕間敷事、口上、
 一前々如定候咎人に付而、寺社御構候儀堅可為停止、
 其故ハ、任仰咎人於差免ハ法度猥ニ相成、殊ニ右之作法
 申聞召置候事、

一自然直ニも申聞可然儀候ハ、可承候、上方逗留之刻、早々
 承心持ニ可相成儀は早速書状相認、文箱ニ入、相浦源左衛
 門へ差渡可申候、此段石田安左衛門を以、源左衛門へも
 申聞召置候事、

一隣国・隣端之儀は不及申、承候て心持ニ可罷成儀候ハ
 一、無油断其趣可承事、
 一我等申出たる儀たり共、存寄之儀候ハ、無用捨可申聞候、
 一年寄中山城守・大和守其外我等側之頭人・蔵入頭人之上
 二而も、如何と存儀候ハ、是又不差置可申事、
 一家中之者兼而之覚悟ニ善悪并奉公之浅深能見届、無鼠貞
 偏頗有体ニ可承事、

一給人・百姓・町人ニよらす、領中之者口事篇又ハ以書物
 申出儀有之刻、年寄中直ニ可被承通定置候条、為横目右
 之究仕候可為停止、但手肩候者又ハ召寄候儀難成者自然
 於有之は、それハ可為格別候、尤書物之取次は可仕候、
 如此相定候儀、下々無筆之者ハ口上書など別人を頼候へ

二成立候ハ、寺社方多分可被及断候、其上重罪之
 者不申分候て不叶儀候、然時は御断を不承候儀、我等も
 氣味悪敷候付而、右之通ニ候事、

一正月八日ニ寺社方祝儀一通之儀、寺社奉行請役ニ候条、
 礼之次第并札進物等無相違様ニ可仕候、尤自身代僧之分
 り帳面ニ書載可申、我等面談不申年ハ、右帳面主水・玄
 蕃へ可相渡候、於然は追而我等可見届事、

右之条々為心得申渡者也

小川 舎人
 成松 貞右衛門
 下村 宇右衛門

定

一家中之儀は不及申、於領中可承儀共無油断聞立、美作・
 能登・豊前・主水・玄蕃并鍋嶋式部・有田勘翁由・中野
 左助・相浦源左衛門此内夫々ニ承候而、相当之儀を無延
 引可申届事、

ハ、書面承候ても、とくと合点ニ不参差合多キ物ニ候、扱
 又聞次は依怙鼠貞無之候而も、聞落申違茂有之事候処、
 直ニ不承口上書斗ニ而ハ、理非相違有之物ニ候故、旁右
 之通候事、

一定寄合日無懈怠候哉并集候人数其日之讃談之条数右何も
 書付候儀、横目之者共月行司ニ而寄合之度毎ニ、我等へ
 見セ可申候、左候而右寄合之日記を一ツニよせ候而、一
 年充明二月限我等へ見セ候儀、大目附兩人請役ニ可仕
 候、在江戸之刻ハ、江戸へ差越可申事、

一年月押移候得は、誓紙之旨を令失念致相違候儀も可有之
 候条、連々誓紙之跡書披見候て、失却無之覚悟可為肝要
 事、

一年寄中へ渡置候鳥子張五品大目付兩人手前写置、相違之
 儀候ハ、国元ニ而は主水・玄蕃・蔵入頭人、於江戸は留
 主居三人、供中之義ハ我等側之頭人迄可申届候、事ニより
 我等直ニも可承候、若右帳面相違之義脇より承付候ハ、

横目中可為緩候条、其心遣尤二候、右鳥子帳五品横目共手
前ニ銘々写置候義は可為無用候、縦上方へ罷登候横目た
り共、写之義可相止候、書面他方へ不散様ニ可入念事、
右之条々先様為心得申渡者也

有田勘翁由

鍋鳴 監物

大木 兵部

小横 目中

申付候、然上ハ諸代官郷内へ相部可罷在候条、代官へ別
役者申付間敷候、尤能仕候代官ニハ心付をも可仕候条、
名書を以可承事、

附り、代官ハ一年替たるへし、但シ、代官支配能見届
候ハ、可為格別事、

一下代は直之者可申付候、能在候共一年替たるへき事、

一兼而耕作之様子能存候者相撰、檢者ニ可定置候、損毛之
在所ハ不及申、切々諸郷へ差越、百姓ニ至て諸代官之支
配可相究候、其外田畠之乾熟作毛善悪有体其方へ申聞候
様ニ可申付候、惣而檢見ハ代官之目付候条、郷内諸事ニ
相構候義可為無用事、

但、檢者として代官へ可令相談候、尤依怙最負無之様
ニ、檢者へ誓詞可申付事、

一蔵入所之地米細付帳我等印判を付、代官銘々へ渡置候
条、無相違令取納候様稠敷可申付候、代官相替り候刻
ハ、右之帳儘ニ可引渡事、

定

一公私万事相調候儀、蔵入所務方第一二候条、卒尔之支配

不可然候、太体之損徳を相考、兼而役者配可入念事、

附り、諸役者緩せ并奸謀等之悪事ハ、頭人之不念ニカ
令出来義候条、能々可得其意事、

一百姓之盛衰所務之損徳代官ニ相極事候条、能々其人を
撰、郷内之義為代官身ニかき氣遣致候様ニ、誓紙を以可

一物成取納之儀、其在所之地米ニ請内候へハ無申事候、損
毛有之在所ハ、其時々之代官カ可申出候条、早速檢者を
差越、代官・檢者令相談、有式之落米差免候様ニ可申付
候、落米之員数并否所等之目安ニは檢者令加判、郷内
カ無延引早々罷帰、右之趣細ニ其方へ申聞候様可申付
事、

附り、有式之地米ニ相濟候在所ニハ、檢者構間敷事、

一落米之儀、村中無滞代官として支配仕候様可申付候、落
米員数小百姓迄不存候得は、後日代官庄屋と出入有之儀
ニ候、村々之落米員数を手紙ニ書付、檢者を以、小百姓

迄合点申候哉可相究候、其上ニ而、右落米之員数を一村
ニ小百姓二三人ツ、渡置可然候、若落米滞も有之おひて

ハ、代官曲事ニ可申付候条、有体則可承候、自然其方手
前ニ隠置、脇カ於顕然ハ、其方可為越度事、

附り、延米・借米・春落米・飢飯米在所も、右可為同
前事、

一損毛之在所ニ物成定依令遅々作毛弥損、百姓之痛ミニ相
成由候条、段々急度相濟十月限りニ仕舞候而、当有米之
目安差出候様ニ堅可申付事、
附り、蔵入所一職其年之物成員数凡之目録仕立候而、
霜月十五日限りニ可差出事、

一物成相調候儀、早田・中田・中手・晚田其外島畠敷之
物成迄、段々取納員数前廉相定日限を以、無相違蔵納可

仕由、稠敷代官へ可申付候、毎年霜月限ニ皆納仕、代官
銘々管可差出由定置候条、師走十五日限ニ、蔵入都合有
米取納之目録可差出候、尤代官カ管差出候日限細書付目

録同前ニ可差出候、此中代官カ皆濟管差出置候而も、滞
儀多々有之候而も、百姓之痛ニも相成候条、師走初二候

者を以、蔵有米其外郷内之様子可相究事、
附り、上納方農具など取候儀可為停止事、

一田仕付肝要之儀候、師走初より代官郷内相部、農業之人数
口上

と地米員數相考、年内早々仕舞候て、百姓共正月よりハ、耕作一篇ニ仕候様ニ可令支配候、自然年明候迄田仕付於延引は、代官可為緩事、

附、自然上地田有之刻ハ可申付様子候条、早速可承候、我等留主之時ハ、山城守・内蔵助・玄蕃へ申届、早々埒明可申事、

一上地田、未進并百姓之出入此三ヶ条ハ、畢竟代官緩せ故候条、前を以其心遣仕候様ニ、代官共へ稠敷可申渡事、一点役之儀、依時分百姓殊外可令迷惑候条、代官として能見斗、農業之障ニ可罷成於時分柄は、早々申出候様ニと定置候条、主水・玄蕃へ相談候而、公儀事之外ハ差延候様可仕事、

一蔵入百姓有付耕作ニ精を入、田畠を不荒念を入候様、諸代官へ可申付事、

一其年之上納不相濟内ニは、前未進有之候共手付仕間敷候、然上は脇々へ借銀借米之返弁并買物代ニ郷内より米糶

銀子之間差出候儀堅可為停止候、若不叶儀於有之は、其方切手を以可差出事、

附、其年之上納不相濟間ハ、一郷宛ニ輕キ下横目相部可召置事、

一毎年五月・六月間ニ諸代官手前ニ引残之有米、檢者を以蔵可相改事、

一代官・下代・大小檢者或庄屋、百姓を振舞を請、或不依何色少分之物ニ而も音信を請候儀堅可為停止候、若猥之儀於顯然は、成敗可申付候条、前を以稠敷可申渡事、

一給人耕作之儀可為禁止候、自然仕候ハて不叶者有之は、百姓同前之事候条、代官・庄屋之下知聊以不可相背、上納少も滞儀有間敷由前廉堅申定、其上ニ而も滞候ハ、直人ハ知行・切米取上ケ、又内ハ主人へ可相懸事、

附り、給人耕作ニ付而、自然滞儀有之刻、時宜ニより代官として其与頭又ハ主人へ不相届候而も不苦候事、

一此中郷内ニ名被官多候而、代官・庄屋之下知不相由(之)二三

付而、先様名被官法度ニ申付候、但断有之候而名被官召置候ハて不叶者ハ、其段主水・玄蕃へ申届、兩人手形を

取置候様と相定候、然上は於郷内も少も滞儀候ハ、其主人可為越度候条、代官・庄屋之下相聊以相背様ニ可申

付由、銘々善差出、内蔵助・玄蕃手前之帳ニ書付置候様ニと申付候事、

一於蔵入所私ニ作出仕候儀、堅法度申付候、若作出仕候ハ而不叶在所於有之は、渡置候帳書付印判を付可申付事、(之)二三・五・多

一蔵入所大庄屋・小庄屋之儀、此中物輕候而郷内之より不相成由承候付、先様大庄屋共廿壹人、小庄屋百五人、(共)二三・五・多其方組同前ニ申付候、切米并使前之員數太体定置候条、其人之かせきニ随而年々繰合支配可仕事、

付り、大庄屋壹人ニ切米貳拾石、使前料ニ六石宛、小庄屋壹人ニ切米拾石・散使料六石充、反米よりとらせ可申事、

一右之通ニ申付候上は、大庄屋之儀小庄屋都合之心遣仕、

郷内諸法度之より并点役普請方人改等、郡代・代官下知を以、相調候様と可申付事、

一小庄屋引負之儀、代官緩セ故候条、自然滞儀於有之は、先様代官より并績可仕候、然時ハ小庄屋之儀代官好次第

ニ申付、村中之耕作を勸、所務方無滞様代官として立入下知可仕事、

一蔵入・配分所之升并斗一様さ々せ、少も大小無之様ニ能相改、其方見候て焼印押せ可相渡候、俵之入是又無多少様ニ可申付事、

附、升并斗之義板工手間之料斗差出シ、銘々請取候様可申付事、

一百姓重科之外ハ多分過代可然事、

一寺社并給人・百姓・町人ニよらず、免許所ハ直善差出召置候、此外前より免許所と候而、私ニ許置候義可為停止事、

一点役差免候所并津役相除候所、帳ニ書付渡置候、此外私
ニ点役差免之義可為禁止事、

付、年々之除所ハ毎年相替候故、主水・玄蕃判形ニ而
村々へ渡置候、此段小百姓迄能存候様可仕事、

一郡代并代官へ申渡候書面之写為心得相渡候事、(置) 二三・五・多

右之条々無相違様可入念候、藏入方万事相調根本候条
令吟味、無迦様可相斗事可為肝要者也、(申付) 二三

相浦源左衛門

定

一於郡郷掟之儀、相背者於有之は、其趣郡代として早々可
申出事、

一大庄屋切米之儀、物成壹万石ニ付、反米拾五石宛とら
すへき事、

附、地米壹万石ニ付、式百石宛之点役差免候事、

一小庄屋ニは、地米千石付而、反米拾石五斗リツ、とら

すへき事、

一藏入小庄屋ニハ、地米壹万石付而千百石之点役差免候、(ツ、) 四五・三
配分地小庄屋ニハ、地米壹万石ニ付而、八百石之点役相
除候事、(ツ、) 四五・三

一我等墨付之外、私ニ諸点役差免之儀堅可為停止事、

附、年々之除所ハ毎年相替候条、主水・玄蕃答を以差
免候様ニと申付候、右之外壺人ニても差出間敷事、(儀) 二三・五・多

一点役之くり合無紛様ニ小百姓迄儘可申聞候、自然滞義有
之ハ、郡代可為越度事、

一諸役有人ニ可相懸事、

一公儀宿次之外、佐嘉拾申付候宿次ハ、須古八兵衛・深江
吉右衛門手形ニ而人馬可差出由相定候、方々参候宿次
も、八兵衛・吉右衛門当り候手形ニ而、宿次仕候様ニ申
付候、右之外人馬不差出様ニ堅可申付事、

附、宿次跡付之儀、何某何某へ何之申所ニ付而遣候

や、(細ニ書付) 二三・五・多一年充帳ニ仕立、毎年二月限ニ差上可申事、(ツ、) 二三

一潮土井・水土井水流令修理候儀、前を以手間配仕置、無
油断主水・玄蕃へ可申談候、自然大風大潮土井破損之時
ハ、頭郡代罷越、早速修理可申付候、此中ハ郡代不付居、
百姓共徒ニ手間を費候由承候、於以来緩之儀於有之は、
郡代越度ニ可申付候条可得其意事、

附、到其節頭郡代当為差合有之時ハ、早々主水・玄蕃
へ申届、代人可差越事、

一百姓ニ至而無理を仕懸代人・給人於有之ハ、聞付次第可
申出事、(本のママ) 二三・五・多

一他領之者と縁辺を組、養子仕候儀堅法度申付候、尤他領
者を下人ニ抱置候儀も可為停止事、

附、此中他領之者と縁辺養子有之而、今ニ相切候儀於
不罷成は不通可仕候、尤此方へ召置候者ハ、如掟早々

可差帰事、

一境目之者、他領へ田畠(之) 二三・五・多を作候儀可為禁止事、

附、他領之者、此方之田畠作り候儀法度申付候事、

一不依男女他方へ人を売候儀、稠敷法度可申付候事、

附、他領ニ男子・女子ニ而も、質ニ置候儀可為禁止
事、

一百姓或走者不遂案内何方ニ奉公ニ罷出、又ハ買取ニ参候
儀、堅停止ニ申付候、自然相背者於有之は、妻子籠舎申

付、五人組格護可仕候、若無妻子ハ父母、無父母ハ兄
弟可令籠舎候、他方へ罷出候者之儀、到其節五人組へ可

相尋由、日限を以申聞、居所於尋出は、則其趣先々ニ相
届、取返籠舎之者可差免候、若又於不尋出は、籠舎之者

曲事ニ可申付由相定候条、得其意郡中稠敷可申付候、自
然相背候者有之時ハ、早速年行司へ可申届事、

一走者之儀は不及沙汰、方所不知者ニ一切宿を借へからさ
る事、

但、海道筋之町ニ一夜之宿を借候儀は、別当咄之手形

を取置候様申付候、自然不審成者と見とかめ候儀於有

之は差留、早速主水・玄蕃へ可申届事、

一於村々傀儡師・三味線引き・尺八吹之類一切宿借間敷事、

一在々宿々之者乱舞方小舞など仕候者ニ宿を借(シ)、稽古仕候儀堅停止之事、

一於郷内刀脇差之定相背者於有之は、見合次第則刀脇差取上可申候、自然緩之儀も候ハ、郡代可為越度事、

一百姓として一切刀脇差指之候儀、堅可停止事、

一庄屋ハ、小脇差斗り差免候事、

一大庄屋ハ、両腰差免候事、

一町人ハ、小脇差斗たるへし、長脇差可為停止事、

一新桐子千四百人脇差斗差免候、小頭五十人ニは両腰(置五冊本になし) 校注免置候事、

(置五冊本になし) 校注

一百姓不相応之衣食を好、就中秋冬之間色々分過之所存依有之、不相統竈を倒候根本ニ候条、郡代々節々申聞可然事、

一蔵入・配分所之升并斗一樣ニさ々せ、焼印をつき、蔵入

郡代中

頭人々可相渡候、儀之入、是又無多少様可申付事、
附、升并斗之儀、板工手間之料斗り差出請取候様ニ可申付事、

一上納方其外貫物等小百姓迄庄屋へ相渡候刻ハ、庄屋々(シ)二箒を取可申候、又百姓之加勢米・飢飯米取(等) 三五・五・多セ候時も、無紛様ニ銘々之割書付、庄屋々差渡候様ニ、堅可申付事、

附、小庄屋々代官・下代并大庄屋へ相渡候物有之刻も、(シ)二箒を取候様可仕事、

一庄屋、百姓ニ申触之儀、百姓中判形取置候迄ニ而ハ、百姓共不合点之儀共此中有之事候条、後日出入無之様、(シ)二銘々可申聞事、

(シ)二銘々可申聞事、

右之条々無相違様ニ可入念候、毎年郡中可相改候条、自然猥之儀於有之は、郡代可為越度候、前を以其心遣尤ニ候、以上

定

一百姓之盛衰所務之損徳代官ニ相極候条、諸事能々令吟味、身ニかけ可致氣遣候、郷内之儀代官ニ相任候上は、

蔵入頭人へ熟談を以、可然様ニ支配可仕事、

一諸百姓耕作ニ念を入候様時々申勤、荒所無之、村々有来(付)候調儀可為肝要事、

附、自然荒所於有之ハ、早々蔵入頭人迄可申出事、

一代官所之地米、細付帳ニ我等印判を付、銘々渡置候条、無相違様取納可仕事、

一其在所之地米ニ百姓共請内ニ候へは、無申事候、損毛之在所ハ、早速蔵入頭人ニ申届、検者召寄相談之上、有式

之落米可差免候、物成定依令遅々作毛弥損、百姓之痛ニも相成由候条、段々ニ早々仕廻候而、落米之員数時々ニ蔵入頭人へ可申聞事、

附、其年之物成員数都合、十月中ニ目安可差出事、

一物成取納之儀、早田・中手・晩田、其外嶋島屋敷之物成

迄、段々ニ可相済候、時分延引候得は、上納も滞、百姓之痛ニも相成事ニ候条、日限之儀蔵入頭人へ令相談、早速皆納可仕事、

一段々取納員数之儀、前廉蔵入頭人々可相定候条、日限無相違致皆済、毎年霜月中皆納箒可差出候、其節検者を以、蔵有米可相究候条可得其意事、

附、上納方ニ農具など取候儀可為停止事、(口上) 二三

一落米之儀、村中無滞様支配可仕候、自然依怙最員有之而私之儀仕候ハ、即生害可申付候、落米員数小百姓迄不存候得は、後日出入有之事候条、蔵入頭人々検者を以、村々小百姓共可相究候、其心得可申事、

附、延米・借米・春落・飢飯米等有之在所も、右同断(右三冊本なし) 校注たるへき事、

一其年之上納無皆済内ニは、前未進有之共手付仕間敷候、然上は脇之借銀借米之返并并買物代ニ、郷内々米粃銀子之間差出候儀可為停止候、若不叶儀於有之は、蔵入頭

人切手を以可差出事、

附、其年之上納不相濟間は、一郷宛ニ下横目相部召置候条、其心得可申事、

一田仕付肝要之儀候、師走始メ郷内へ相部、農業之人數と地米員數相考、年内早メ仕廻候而、正月メハ耕作一篇ニ仕候様ニ支配可仕候、自然年明候迄於延引は、越度ニ可申付事、

附、自然上地田有之刻ハ、可申付様子候条、早速蔵入頭人迄可申出^三事、

一上地田未進并百姓之出入此三ヶ条は、畢竟代官緩故候条、前を以能ク其心遣可仕事、

一毎年五月・六月間ニ引残は、之有米、蔵入頭人メ検者を以、蔵可相改候条可得其意事、

一代官・下代・大小検者或庄屋、百姓メ振廻^舞を請、或不依何色山分之物ニても音信請候儀堅停止、若猥之儀於顕然は、成敗可申付候条、前を以其心得可仕事、

一庄屋多分奸謀仕、百姓と出入有之事候、然時ハ村中之痛ニも相成儀候条、其村之頭百姓を吟味候て、庄屋ニ可相定事、

一百姓へ本物成并夫料之外、自然新儀物^三を出させ候儀於有之は、主水・玄蕃切手ニ而可申付事、

一庄屋として小百姓ニ貫物可仕刻ハ、代官切手を以差出させ可申事、

一点役之儀、時分ニメ殊外百姓共可令迷惑候条、代官として能見斗、農業之障ニ可相成於時分柄ハ、早メ蔵入頭人迄可申届候、於然は主水・玄蕃相談ニて、公儀事之外ハ差延候様ニと定置候事、

一土井修理・水洗井樋其外之儀無油断見斗、蔵入頭人へ申届急度可相仕廻候、就中大風・大潮之刻、土井於破損は、代官身ニかけ郡代へ令相談、早速修理可申付候、若於緩は代官越度たるへき事、

一物成不納ニ而百姓走候ハ、五人組^三二月限を以尋させ、

若於不尋出は、走候百姓之年貢等五人組并本人之從類^三中蔵納可申付事、

一下代ハ直之者可申付候、能仕候共一年可為替事、

附、下代若引負候ハ、代官緩故候条、物成之儀、代官として可相調事、

一作子切米三石ニ相立候、若米三石之上取候者於有之は、見聞次第代官として過代可申付候、代官承届候上於緩は、代官過代可差出事、

附、作子扶持方三石之内ハ、挨拶次第たるへき事、

一下代之者斗不断代官所^三へ不罷居様可申付事、

一上方へ差上セ候米を、上乘之者并船頭へ相渡候時ハ、横目相副候様と蔵入頭人へ申付候事、

一蔵入所之升并斗一樣ニさゝせ、焼印を突、蔵入頭人メ可相渡候、俵之入是又無多少様ニ可申付事、

付、升并斗之儀、板工手間之料斗差出請取候様可申付事、

一於村メ自然掟を相背候者於有之は、百姓・町人ハ不及沙汰、給人并寺社家・山伏等ニ到迄不差置、為代官可申出事、

一郷内定

一於村メ自然掟を相背候者於有之は、百姓・町人ハ不及沙汰、給人并寺社家・山伏等ニ到迄不差置、為代官可申出事、

一郷内定

一於村メ自然掟を相背候者於有之は、百姓・町人ハ不及沙汰、給人并寺社家・山伏等ニ到迄不差置、為代官可申出事、

一郷内定

一蔵入頭人点合無之処、代官手前メ何色ニ而も遣方と有儀可停止事、

一為代官百姓召仕候儀、一年ニ物成四拾石メ一人ツ、たるへき事、

一物成千石ニ付口米五石ツ、代官へ為加勢とらせ候事、

一代官手前之申付様有体蔵入頭人として可申出候条、郷内相究支配能候儀実正ニ候ハ、則可令褒美候、然上ハ諸事抽而可入念事、

一万事依怙最眞無之、百姓共ニ不被嫌様覚悟可仕候、自然非分之儀於有之は、則生害可申付事、

郷内定

一於村メ自然掟を相背候者於有之は、百姓・町人ハ不及沙汰、給人并寺社家・山伏等ニ到迄不差置、為代官可申出事、

一下代并検者・大庄屋・小庄屋として、百姓ニ到而無理を

仕懸儀於有之は、早々代官迄百姓の申届候様、可申付事、

附、百姓として代官へ申届候上、代官於不取次は、直藏入頭人へ可申達候、代官非分之儀共、是又藏入頭人迄申出候様、銘々慥可申渡候事、

一 寺社并給人・百姓・町人ニよらす免許所ハ、直管指出召置候、此外前々免許所と候て、私免置候儀、可為停止事、

一点役差免候所并津役相除候所、帳ニ書付渡置候、此外私二点役差免候儀可為禁止事、

附、年々之除所ハ毎年相替候故、主水・玄蕃判形候而、村々渡置候、此段小百姓共能存候様ニ可仕事、

一 不依男女他方へ人を売候儀、稠敷法度可申付事、付、他領ニ男子・女子ニ而も質置候儀可為停止事、

一 他領之者と縁辺を組、養子仕候儀、堅法度ニ申付候、尤他領之者を下人ニ抱置候儀も可為停止事、

附、此中他領之者と縁辺養子有之而、今ニ相切候儀於不罷成は不通可仕候、尤此方ニ召置候者ハ、如掟早々可差返事、

一 境目之者、他領之田畠を作り候儀可為禁止事、付、他領之者、此方之田畠を作候儀も、法度申付候事、

一 百姓走、或不遂案内他方え奉公ニ罷出又賃取ニ参候儀、堅停止ニ申付候、自然相背者於有之は、妻子籠舎申付、

五人組の格護可仕候、若無妻子は父母、無父母ハ兄弟可令籠舎候、他方へ罷出候者之儀、到其節五人与る可相尋

由、月限を以申聞、居所於尋出は、則其趣先々ニ相届、取帰籠舎之者可差免候、若又於不尋出は、籠舎之者曲事

ニ可申付由相定候条、得其意郷中稠敷可申付候、自然相背者有之時ハ、早速年行司へ可申届事、

一 走者之儀は不及沙汰、方所不知者ニ一切宿を不可借事、但、海道筋之町ニ一夜之宿を借候儀は、別当・咄手形

を取置候様と申付候、自然不審成者と見とかめ候儀於

有之は差留、早速主水・玄蕃え可申届事、

一村々において傀儡師・三味線ひき・尺八吹之類一切宿を借間敷事、

一 在る宿々之者、乱舞方小舞など仕候者ニ宿を借、稽古仕候儀、停止之事、

一 於郷内刀脇差之定相背者於有之は、見合次第則刀脇差取上可申候、自然緩之儀ハ、代官可為越度事、

一 百姓として一切脇差指候義、堅停止すへき事、

一 庄屋ハ、小脇斗差免候事、

一 大庄屋は、両腰差免候事、

一 町人は、小脇差差斗たるへし、長脇差可為停止事、

候事、

一 百姓不相応之衣食を好、就中秋冬之間色々過分之所存依有之、不相統竈を倒候根本ニ候条、代官として切々申

聞、百姓連続之調儀可仕事、

一 給人耕作之儀可為禁止候、自然作候ハ而不叶者於有之は、百姓同前之事候条、代官・庄屋之下知聊以不相背、

上納少も滞儀有間敷由前廉堅申定、其上ニ而も滞納候ハ、直人ハ知行、切米取上ケ、又内は主人え可相懸事、

一 此中郷内ニ名被官多候て、代官・庄屋之下知不相ノ由候ニ付而、先様名被官法度申付候、但断有之而名被官召

置候ハ而不叶者ハ、主水・玄蕃手形を取置候様ニと申付候条、自然名被官於有之は、主水・玄蕃切手有之哉相

究、手形無之者ハ所を可相払事、

付、名被官召置候て不叶者ハ、代官・庄屋之下知聊以

可相背、上納方少も滞間敷由、其主人ハ管取置候条可

得其意事、

一 藏入所作出可停止事、

付、作出仕候ハて不叶在所は、藏入頭人手前帳書付、

我等印形令付召置候事、

一諸役有人ニ可相懸事、

一上納方其外貫物等小百姓ノ庄屋ニ相渡候刻ハ、庄屋ノ儘

ニ箒を取可申候、又百姓ヘ加勢米・飢飯米等とらせ候時

も無紛様ニ、銘々之割書付庄屋ノ相渡候様、堅可申付事、

付、小庄屋ノ代官下代并大庄屋ニ相渡候物有之刻も儘

ニ箒を取候様可仕事、

一庄屋、百姓ヘ申触候儀、書付を以百姓中判形取置候迄ニ

ては、小百姓共不合点之儀も此中有之事候条、後日出入

無之様ニ、代官として直々小百姓迄銘々儘ニ可申聞候事

右之条々相違有之哉否之儀、毎年横目を以郷内可相究

候条、代官共能々得其意可入念者也

諸代官中

覚

一町奉行其方ヘ申付候条、無理非分之儀無之、町之者緩々

と令在宅候様、万心遣可為肝要事、

一町人共口事沙汰有之候刻、縦相頼者候共、無最眞偏頗有

体ニ無延引、早々埒明可申候、但、町之者ヘ理を持候而

も、申達儀可難成候条、町人之外之者と口事篇於有之

は、町之者之方ヘ心を副可然事、

一兼々定置候掟之条々、毎年申触猥ニ無之様ニ稠敷可申付

候、切々不申聞儀ハ下々可致失念候、就中火用心之儀、

日夜無懈怠様ニ、町中連々可申付事、

一公儀宿次之外、佐嘉より申付候宿次ハ、須古八兵衛・深

江吉右衛門手形ニ而人馬可差出由相定候、方々參候宿

次ハ、八兵衛・吉右衛門ヘ当り候手形ニ而、宿次仕候様

と申付候、右之外人馬不差出様ニ堅可申付事、

付、宿次跡付之儀、何某ノ何某ヘ何之用所ニ付而遣候

やも細ニ書付、年究帳ニ仕立、毎年二月限ニ差上可申

事、

一走者其外無縁之者之類ニ、宿を借、六ヶ敷儀出来候条、

事、

先様其町之別当として能相改、不苦者ニ候ハ、箒を差

出、其上ニ而宿を借候様と相定候、以來無相違様ニ堅可

申付事、

一町公役等ろくニ有之様ニ念を入可申付候、尤私ニ人を不

仕様ニ可相嗜事、

一此中町々ニ名被官多候て、下知不相ノ由承候付而、先様

名被官法度ニ申付候、但、断有之て、名被官ニ召置候ハ

て不叶者ハ、内藏助・玄蕃ヘ申届、手形を取置候様と定

置候、其上ニ別当・咄之下知聊以不相背やうニ可申付

由、其主人ノ箒を取可然候、主水・玄蕃切手無之者ハ、

則所を可相私事、

一町人両腰差候儀は不及沙汰、小脇差之外、長脇差ニても

可停止候、自然相背者於有之は、見合次第刀わきさし取

上ケ可申候事、

一於城下町中寺社并給人・町人間ニ免許所は、我等墨付差

出置候、右墨付之外、私ニ地料町役差免候儀、可為禁止

事、

一町屋敷続ニ有之候堀を埋、田畠を屋敷ニ成候儀、堅可為

停止事、

右之条々不可有相違者也

石井兵庫助

朱書
「御本帳此所如是
承応元年十二月廿六日
前兵庫左渡置候書物此所ニ書付置候得共条敷
加候ニ付而書直候故年号被前後候」二三冊本

覚

一領中山方一職其方ニ申付候条、山々遠近共ニ切々見廻り

候て、竹木不荒様ニ可入念候、年寄と候て近所之山ノ竹

木差出候ハ、俄之刻はたと行当り、事欠可申候条、其

考ニて竹木可差出候、尤、可切荒と見及候在所ハ、立山

ニ可申付候条、我等ヘ可申聞事、

付、山方一色ニ付て滞儀於有之ハ、縦山城其外、年寄

中より申付候共、其方可為越度候条、其心得候て難斗

儀ハ、前廉我等可承事、

一 覺左衛門為手伝兩人申付候条、是又主人身ニ懸可入念候、尤、山方西東わけ候て可致氣遣事、

一 竹木其外何色ニ而も山方ノ差出候物ハ、相浦源左衛門点合ニ而可差出事、

付、竹木其外出方員數毎年師走限本のマ、(原註)ニ如好帳面を以算用切前見可申候、右帳面ニ我等台所・丹後守台所并相浦源

左衛門手前ノ買料ニ仕候物ハ、一所ニ寄候て書載可仕事、

一 山方田畠札成其外諸物成、其外年々見出等無遅ニ可相納事、

一 竹木并薪其外之売料むさと仕間敷候、尤、山不荒様ニ可入念事、

一 用所之竹木其外差出候刻、無藤次不代散様ニ念を入、横目を相付可然候、打捨等ハ早速売料可申付事、

一 野山・木山并畔林など請候儀(二世) || 三・五・多可為停止事、

一 山城守・和泉守・大和守へ遣候山帳巻品

右之条々無相違様可入念者也

承応四年

卯月十六日

福地 覺左衛門

友田 彦兵衛

石井 六左衛門

領中制札之控

禁制

一 異国江武具売渡事、

一 異国ニ乗渡事、

一 人売之事、

一 似セ銀之事、

一 新錢鑄事、

一 博奕之事

一 不依何事徒覚をむすぶ事

右之条々、前々公儀御法度候条、堅可守其旨者也、

様候て可召置事、

付、小社ニは、五間、七間四方にて相付可然事、

一 山付之寺ニ山林など相付候ハ、改候て、境目定置候条、以来無紛様ニ可仕事、

一 西目焼物仕候山之儀、所柄見合可相渡候、むさと不切荒様念を入可申付事、

一 西目熊山之儀、甲斐守へ遣置候得共、若竹木入用之刻、何時ニ而も可差出由定候、又、甲斐守用所之節も、我等へ

申聞候上、筈ニ而切候様と相定候、熊山ニ付て、甲斐守墨付其外へ渡置候条、自然山奉行相代候刻、不取失代々

可差渡事、
一 渡置候帳數

一 牛津川ノ西東立山并山成帳式品

付、留山之儀、右帳内ニ印判付召置候事、

一加賀守へ遣候山帳巻品

一 甲斐守へ遣候山帳巻品

仍如件

承応元年十二月廿六日 直判

右廿一所ニ建置

掟

一走者一切抱置間敷事、

一無縁之者ニ宿を借間敷事、

附、(宿次) || 三通宿ニ一夜之宿を借候儀ハ不苦、但一宿之者たりとも不審者能相改、様子於有之差留、早速奉行まで可

申届事、

一 於領中無縁之者ニむさと宿を借候故六借儀出来候条、先

様給人ハ其組頭又ハ主人、寺社等は其頭、町人ハ別当、

百姓ハ庄屋之筈を取、宿借候様ニと相定候、此段ハ内藏

助・玄蕃へ口上ニ而申渡候、

一 往還之輩ニ到而船・人馬等無滞時ニ可差出事、

附、駄賃宿札等如定、其外無調法之儀仕間敷事、

一 喧嘩口論之刻、好知者たり共方人仕間敷事、

- 一領分之者下々迄他所ト縁辺組并養子仕間敷事、
- 一領中之者他領へ質ニ置候儀可為禁止事、
- 一從他方之道之者領中へ留置間敷事、

右於被違背は曲事ニ可申付者也、仍定置所如件

承応元年十二月廿二日 直判

右廿一所ニ建置(シ) 三・五・多

- 一右ニ通之制札裏中程ニ其在所ノノ之名を書付、召置候事、
- 一船無之在所ニ立候制札ニハ、往還之輩ニ至而人馬等ト斗有之、

一深堀脇津ニハ馬無之付て、往還之輩ニ至而船舸子等ト令書載候付而、書ニ駄賃ト有之を相除候事、

建所之覚

- 一白山 一神崎 一轟木 一成瀬 一塩田
- 一矢上 一湯町 一有田 一別府 一三瀬

右十ヶ所ハ船無之在所ニ付而、人馬等ト令書載、

- 一本庄町 一寺井 一千栗 一牛津 一浜町 一多良

- 一諫早 一神代 一伊万里

右九ヶ所ハ船人馬ト令書載、

- 一深堀 一脇津

右二ヶ所ハ馬無之在所付而、船舸子等ト令書載、

覚

一於佐嘉城廻(リ) 三作出之儀、弥法度(中付候) 三・五・多有之条、給人小路并町屋在郷統堀を埋、新ニ屋敷を立出(シ) 三、又ハ田畠を屋敷ニ成候儀、堅可為停止、給人・百姓・町人によらず、以来田畠を買取候共、新敷屋敷ニ成候ハ、曲事ニ可申付候条、其心得可申事、

附、以来猥之儀於有之ハ、藏入頭人・屋敷奉行・町奉行代官之間不念之者を越度ニ可申付候間、切々立廻相改無緩様可仕事、

一家屋敷売買之儀、相浦源左衛門を以取遣可仕事、

一(上リ屋敷之儀源左衛門校最次第料ニ可申付事) 三明屋敷於有之ハ、主水・玄蕃・相浦源左衛門へ相談候

て、小与之者ニても漸々ニ移、何とそ明屋敷無之様ニ可仕候、就中水ヶ江ノ西中小路其外ニも明屋敷有之候て見苦候条、向様左様無之様ニ可申付事、

- 一給人屋敷移候儀、大身成者物陰ニ罷在不可然候条、先様物成拾五石上之者、屋敷替又ハ買候而移候儀、時々ニ我等承候上可申付候、拾五石ノ内之者移候儀は、相浦源左衛門へ相談候て、能令吟味移可申事、

一大身之者、物かけニ罷在候儀不可然候条、今かけニ居候者も、後日身上相当之在所ニ移可申候間、不入家なと作副不申様可申付候事、

- 一惣而屋敷割広候付而、塀垣之修理をも不仕切、又ハ屋敷内ニせんさひ等有之而見苦候間、此中式屋敷ニて有之を、一ツニ成候儀堅可停止事、

一南西北大堀ニ向候屋敷并東西大小路之表一通ニ、竹を植候儀、禁止之事、

一比書物并城廻之絵図、役者相替候刻ハ、代々念を入可相渡事、

承応元年 極月廿二日

- 鍋 嶋 隼 人
- 友 田 惣 兵 衛
- 浅 井 進 兵 衛

從公儀之制札之控

条々

一きりしたん宗門雖為御制禁今以彼国密々伴天連を差渡付而、今度加連らた船着岸之儀、御停止之事、

一領内浦々ニ常ニ慥成者を付置、不審有之船(三) 三おいてハ、入念可相改候、自然異国船着岸之時ハ、先年々如御定、早ク船中之人数を改、陸路へあけずして、早速長崎へ可送遣事、

一自然不審成者を船ニ乗来、又ハ密ニ其船之者を陸(之) 三へ上候

輩あらは可申出候、随訴人高下急度御褒美可被下也、若以属詫類ニおいてハ、其約束之一倍可被下之事、

右条々所々被仰出也、仍て執達如件

承応式年三月五日

豊前守

和泉守

伊豆守

右従公儀仰出之趣と堅可奉守旨者也

承応二年三月廿七日

信濃守

掟

一伴天連之訴人

銀子貳百枚

一いるまん訴人

銀子百枚

一きりしたんの訴人

銀子五十枚

又ハ卅枚但訴人ニよるへし

右訴人致候輩ハ、縦同宗門たりといふ共、宗旨をころひ申出るニおいてハ、其科を免シ為御褒美如書付可被下旨被仰出候、以上

承応式年三月五日

右従公儀仰出シ趣堅可奉守、其旨者也

承応式年三月廿七日

信濃守

右制札ニツ建候所十六ヶ所

一轟木 一白山 一成瀬 一浜町 一多良 一諫早

一深堀 一脇津 一千栗 一寺井 一三瀬 一別府

一伊万里 一有田 一湯町 一神代

合十六所

一右制札ニツ、此以前建置候は、条々有之ハ寛永十六年

七月五日、控と有之ハ寛永十五年九月十三日之日付にて

候、程久敷相成候故、文字見へ兼候付而、書直度故、於

江戸井上筑州、神尾備州迄内談申候得は、御老中へ御両

所被得御意候処、建替可然由被仰候旨、御老中御名年号

日付も今時分ニ仕候様と申来候故、如右新敷建替候、此

様子委敷状并書立長崎懸硯之内ニ有り、

科人制罰之心得

一自然公儀之御法度相背者於有之ハ、早速及其沙汰候、輕不可行事、

一私之掟を相背族類其外科人有之時ハ、其科之輕重次第死罪・追放・闕所・過代夫々ニ可有之事、

一給人之奸謀ハ別而曲事之儀也、然時ハ追放又ハ切腹たるへし、過代之沙汰有之間敷事、但、此一箇之者ニ口上

一町人・百姓ハ其科ニ所払候か又ハ闕所・過代之間たるへし、但、死罪ハ不行して不叶科ハ可及其沙汰事、

一密懷・奸謀・徒者此三ツ之品ハ、前々其曲不失者多シ、或役ニ可立者、或ハ(本のママ) 五・多つゝき有ニよつて差免候得は、

重而又悪事を仕出結向人余多損たる儀其例有之事也、是を以能々前後之考可為肝要事、

一或喧嘩、或ハ人を切殺候者ハ、死罪ニ令行事相定たる儀也、乍然其節之様子ニよるへき事、

一毒害・密懷・寝さし・しめ殺シ之類ハ、尤其科之輕重(卷二三五)

可行事、

一或国家ニ至而之科、或主人又ハ親ニ対して之悪キ仕方有之者重科たるへし、(題) 二三古説ニも重国之怨、輕私之怨と言

り、右之心得を以、其沙汰不可相違事、

一此以前日峯仰ニ口事沙汰有之時ハ、人之不死様ニ可裁判と先令覚悟、其上ニ而子細を得と承、小成共理有儀於有

之は、夫ニ手を付無死罪様ニ可相斗、又死刑たるへき可追放かと存候者ハ、何時も輕方ニ着すへし、右之心得無

之時ハ、死罪不及者も相果儀可有之、此段親類中へ被申渡候儀、誠ニ慈悲と云、尤たるによつて令書載之、此旨可

被得其意可為肝要事、
右之条々、被得其意裁判於有之は、(備二) 三・五上方留主之時たり共、我等所存ニ啖啄たるへし、此旨丹後守へ雖申聞、

弥各為心得令書載之、渡置也、尤不可有相違者也、
承応三年 五月廿六 信濃守 山城殿

鍋嶋若 狹殿
 多久美 作殿
 鍋嶋左 京殿
 諫早豊 前殿
 鍋嶋玄 蕃殿

毎年領中百姓申分其外相改候手頭

一 蔵入・配分(所)二三によらず、百姓ニ到而、代官・領主又ハ下代
 ・検者・庄屋・散使・別当として無理非道仕置候儀(懸)二三・五・多、其
 外何事ニ而も、百姓申出儀可承事、

付、申出儀於有之ハ、実否相究候上、申分尤ニ存候ハ
 、其者勝手能様(三)二三可申付候、不実之儀於申出ハ、却て
 其者可為曲事候条、能々念を入有体書出候様と申聞、
 其上ニ而差出候書物を請取可申聞候、早速承可然儀
 ハ、惣仕舞不申候共、主水・玄蕃迄早々可申届候、我
 等在国之年ハ内蔵助・玄蕃へ申届候上、則我等へ可申

聞候、百姓共書物差出候儀、日限候て、其後何様之儀
 申出候共、取次可為停止事、

一 百姓共申出候儀、毎年相究候処、前年は不申出(於)二三、明年跡
 方之儀を申候共、取次仕間敷事、
 一 此中百姓・町人・津之者ハ申出候趣、我等承届相済申渡
 たる儀ニと、滞事無之哉之事、

郡代并代官存

一 他方へ人を売并質置候者、無之哉之事、
(領)五・多
 右同
 一 不遂案内、他方へ奉公へ罷出并賃取ニ参候者、無之哉之
 事、

一 他領之田畠を作并他領ハ此方之田畠を作候者有、之哉之
 事、
 右同
 一 他領之者と縁辺養子并下人ニ抱置候者、有之哉之事、
 右同
 一 一走者之儀は不及申、方所不知者ニ宿を借候者、無之哉之

事、

但、海道筋之町ニ、一夜之宿を借候儀ハ不苦者候由(者五冊本にな
レ)一校注
 別当・咄之筈於有之ハ、宿可借事、

右同
 一 無縁之道之者ニ宿を借、又ハ芸者を留置、稽古仕候者、
 有之哉之事、

右同
 一 郷内刀脇差之定、相違無之哉之事、
 一 百姓ハ、刀脇差一切不可差事、
 一 庄屋ハ、小脇指(斗)四五たるへき事、
 一 大庄屋ハ、両腰差免候事、
(此之条御本帳ニ而付紙ニ御書載有之)二三
 一新廻子千四百人脇差を差免候、小頭五十人ハ、両腰
 差免候事、

一 町人ハ、小脇差斗たるへき事、
 右同
 一点役之割付ろくニ仕、小百姓迄除所能存候様ニと、郡代
 并代官へ申付召置候、相違之儀無之哉之事、
 付、村々除所之書付、主水・玄蕃判形ニ而銘々渡置

候、此外ニ除所無之哉之事、

右同
 一 諸役儀、有人ニ可相懸由定置候、相違無哉之事、

右同
 一 升并斗一樣ニ有之哉之事、

代官存
 一 蔵入所給人耕作法度ニ申付候、但、作仕候ハて不叶者
 ハ、滞有之間敷由候、筈を代官手前ニ取置、耕作仕候様
 ニと定置候、相違無之哉之事、

右同
 一 蔵入所ニ名被官法度ニ申付候、但、断有之而召置候ハて
 不叶者ハ、主水・玄蕃手形を取置候様(三)二三と定置候、相違之
 儀無之哉之事、

右同

一 於蔵入所、新作出仕候儀法度申付候、相違無之哉之事、
 但、作出仕候ハて不叶在所ハ、相浦源左衛門手前之帳
 ニ書付、我等印判つき召置候事、

右同
 一 免許所へ直筈出置候、此外私之免許有之哉之事、
(三)二三

一 田畠荒候在所無之哉之事、
 一 損毛之年、落米ろくニ有之哉之事、
 一 春落・飢飯米・延米・借米・借銀等之割ろくニ仕、小百姓迄能存候様ニ、庄屋ノ書付可相渡由申付召置候、相違無之哉之事、

一 諸津般役・舸子役ろくニ有之哉事、
(註) 二三・五

一 倒竈ニ役相懸間敷由定置候、相違無之哉之事、

一 前船持候而今田作候者ニ、船役不可相懸并めこ荷一篇之者ニ、船役相懸間敷由定置候、相違無之哉之事、

一 海辺筋宿次(三) 二三之儀無之哉之事、

一 何色ニよらす百姓ノ庄屋へ相渡候刻ハ、何時も箒を以、

やり取仕候様と定置候、相違無之哉之事、

一 右之外年行司ノ申触候儀共相ノ候哉之事、

一 此条種之外ニも承可然儀於有之ハ可申聞事、

右之条ノ領中百姓・町人・津之者へ具ニ申聞、一カ条宛ニ点合之書付を可差出候、給人并寺社家・山伏其外

不残夫ノニ相当義(之) 二三・五・多を、銘ノ可相改候、尤、百姓共申出候儀ハ、書物ニて可請取候、今度相究候上、滞無之様ニ可入念者也、

一年ニ一度充自身可相究品々之覺書控

但、此改付而之書物帳目安ためぬり之懸硯(之) 二三ツニ入置也

其年ノニ見ル

○一きりしたん改

一 給人・百姓・町人迄不残、銘ノ歸依寺之手形を取、寺社家・山伏等ハ、其頭ノ之箒を取置可申事、

附、此箒ハ天守之役者へ相渡可入置事、

一 きりしたん改都合之大箒斗、我等ハ見候て可相濟事、

付り、其年之箒斗ためぬり之懸硯ニ入置、古キ箒ハ

段ノ石井右衛門・関千左衛門・石井吉右衛門へ可相

渡候、大物頭・大組頭・蔵入頭人・町奉行等之箒

ハ、天守役者へ可相渡事、

○ 一 右究相濟候刻、点合之墨付可差出事、
 一 其年之箒差出候刻、前年之箒と毎年校合させ見可申事、
 一 改様之書立一ツ、承応式年閏六月十五日之日付にて、
 主水・玄蕃へ渡置候控、

其年ノニ見ル

一家中馬并駄賃馬改

○ 一 馬改式品之帳并目安式ツ新敷仕立差上候を見候て可相濟事、

附り、其年之帳目安斗ためぬり之懸硯ニ入置、古帳

目安ハ段ノ石井右衛門・関千左衛門・石井吉右衛門

へ可相渡事、

○ 一 右究相濟候刻、点合之墨付可差出事、

一 其年之目安帳差出刻、前年之帳目安を当年校合させ可

申事、

● 一 馬改跡付ニ帳式品、

但、毎年目安之都合此帳ニ可書付置、

● 一 馬改様之帳式品、大和守・豊前守へ渡置候控、

一 帳目安仕立様之儀、承応元年之帳目安能作付而、大和守(本になし) 二三・豊前守手前ニ写置候事、
 其年ノニ見ル
 一 船并舸子改

○ 一 般改目安并舸子改目安、新敷仕立差出候を見候て可相濟事、

付、其年之目安斗ためぬり之懸硯ニ入置、古目安ハ

段ノ石井右衛門・関千左衛門・石井吉右衛門へ可相

渡事、

○ 一 右究相濟候刻、点合之墨付可差出事、

○ 一 其年之目安差出候刻、前年之目安と毎年校合させ見可

申事、

● 一 船改跡付帳式品、舸子改跡付帳式品

但、毎年目安之都合斗此帳ニ可書付置、

一 船舸子改様之書物(之) 二三ツ并目安仕立様之儀相改、承応式

年ニ書物(之) 二三ツ石井兵庫へ渡置候控、

其年々二見ル

一 小物成帳面之計算用

○ 一万小物成帳書品并種子未進帳書品ニ納候分、未進之分

一ヶ条宛ニ付紙ニテ差出候を見届、銘々点合ニ印判を

付、中目安ニ算用相済候通書載候て、印判を突、新帳

式品ニも印を付け相済算用相済候也、外ニ一新目錄差

出候を見届、鳥ノ子小帳書直させ取置候事、

付、新帳式品之控算用之懸硯ニアリ、

○ 一福地覚左衛門ノ差出候目安見届可相済候事、

付、其年之目安をためぬり候懸硯ニ入置、古キ目安

ハ段々石井右衛門・関千左衛門へ可相渡事、

○ 一右見届相済候刻、点合之墨付可差出事、

● 一竹木出方跡付帳書品

但、毎年目安之都合斗此帳ニ可書付置、

一目安仕立様之儀、承応元年之目安之ことく、先様可仕

由申渡候事、

前年之返弁都合ヲ次年ニ見ル

一 借銀返弁之仕様

一借銀大分ニ成立及迷惑候得共、前ニ可仕無了簡付而、

小宛成共漸々返弁申外無之候、然ハ、蔵入過分ニ損

毛無之年ハ、如是中借銀返弁料として地ニ而引分ケ可

召置事、

一年ニハ家中ニも銀米之間申付、借銀返弁之用ニ可差出

事、

○ 一右二通之米員数目安ニテ、毎年正月中ニ先一切我等へ

見セ可被申候、左候て、右米売立之儀直段能時分念を

入、銀子ニ成シ候様可被申付候、右米銀子ニ成候てハ

直段彼是其方能相究メ、六月限ニメリ之目安を以、銀

子之員数可被申聞事、

付、集候銀ハ、一職我等手前之控帳ニ付置事候条、

江戸・国許ニよらず、銀子集次第其員数、時々ニ我

等申聞候儀、相良市右衛門・中野奎助へ申付候事、

(明暦元年之借銀出入存) 多

一借銀為返弁、江戸へ差上候銀一職、山領助右衛門・増

田吉兵衛請取蔵ニ入置、兩人相對ニテ召置候様ニ可被

申付候、左候て其方管次等ニ銀差出候様ニと相定候、

江戸借銀返弁申候節ハ、何時も其方ハ人を差上セ、其

元として相払候様ニ可然候、田中九左衛門・武藤作左

衛門・福地吉左衛門此三人之者、銀主へ之使斗可仕

候、借銀返弁之儀何方ハ申參候共、借銀方出入之儀、

我々共ハ心得不申候、年寄共ハ一人差上セ申候条、此

者ニ可申聞由、相違候様可被申付事、

一借銀為返弁差上セ候銀ハ、縦如何様之儀候共、江戸・

大坂之為役者別遣方ニ仕間敷由、堅可被申付事、

一先様本銀ニ而可請取と申候者斗取合、何とそ年々ニ相

払可申候、数年借入銀を本分斗ニ而返弁候事以外不

作法之儀ニ候得共、大分ニ成立返弁之了簡無之、其上利

足を返弁候得は、果しもなき儀と親類・家中之者存候

而致出来難儀之体ニ罷成、情を入候ても無其詮、小成

共借銀減候用ニハ不罷成、海川に入る事と同前ニ心

得、殊外気草臥、奉公方ニ情を入へき覚悟も無之儀尤

至極之事候故、右之通ニ定置候外無之候、然上は如何

様之儀候共、利足返弁申候儀不罷成事、

一江戸各銀之内、右之調儀成兼候方ニハ、其年々ニ吟味

之上、返弁可申事、口上有り、

○ 一江戸・上方・国元ニ而も借銀返弁申候節ハ、銀主誰々

員数何程充と書付、其方手前ハ可差出候、夫ニ我等点合

可仕候、点合於無之ハ、銀子不差出様ニと相定候事、

○ 一右返弁相済候節、借銀帳ニ書付有之を見届、点をか

け、借状をも消候事、

一借銀方存候役者都合其方存候而、国元ニ而ハ石井次郎

右衛門・馬渡甚兵衛、江戸ニ而ハ銀請取手山領助右衛

門・増田吉兵衛、江戸・国許よらず相良市右衛門・中

野嘉右衛門・中野奎助儀ハ借銀都合之様子存候様ニと

申付候、右役者何も立入能存罷在候様ニ可被申付候、

是又滞儀有之而、先々不相知時ハ可仕やう無之、以之
外之儀候故申事候、能々其心得可被申事、

一諸郷(五・多本の条なし) 校注の百姓借入候上方銀子之儀、領分之事候条、兎角

返弁申候ハ而不叶儀候、然は、蔵入借銀と一口ニ毎年

相究、其方存候て返弁可被申付候、尤、本分ニ而可請(受)

取(三)と申候者斗ニ相払可然候、此借銀出入存候役者兩人

申付候、最前(二人役)の様子能存罷在候様可被申付候、一人役

ニ而借主(二冊本になし) 校注など不相知様ニ、先様仕成候ハ、可為迷惑

候条申事候、

一江戸・上方・長崎・内輪惣借銀本分之帳一品并細付帳

沓品、慶安三年春迄借銀成立之大目安沓ツ、諸郷百姓

借銀之書立沓ツ其方手前ニ渡置候事、

付り、右帳并書立之控手前ニも有之事、

右之通鳥子帳ニ書付、山城守へ渡置候事、

前年之反米ヲ明ル年遣方仕、其次年ニ見ル

一郷夫算用

○一細帳ハ、算用究候者へ差渡候を、山城守相究、其役者

の差出候米目安并人遣目安我等見届可相济候、右目安

式ツ点合候而可差渡事、

○一其年之目安差出候刻(四) 校注、前年之目安と毎年校合させ可申

事、

●一反米ニ付而之書物沓ツ鍋嶋六左衛門へ渡置候控、并手

男ニ付而之書物沓ツ相浦源左衛門へ渡置候控、

一米目安并人遣目安仕置様之儀(立) 校注、慶安四年之目安之こと

く先様可仕事、

一手男定部之帳ニ我等印判を突、相浦源左衛門へ渡置候

事、

一蔵入算用 四年目之算用毎年ニ見ル

○一定之帳五品算用相究候上、山城守の差出候を、銘々見

届、点合にて算用可相济事、

付、右帳五品銘々ニ無滞通、山城守奥点合仕候て可差

出事、

○一算用相济候刻、墨付可差出事、

○一其年之帳五品差出候刻、前算用之大目安帳も同前二帳

数六品宛、毎年差出候様ニと相定候事、

一承応三年(二) 校注の先様入越之儀、切手ニ而差出候ハ其通り、

又十二月割付候外ニ余慶米渡候内ニ而相調候は、其断

先様ハ書付差出候様ニと相定候事、

每年算用見可申候承応三年二月九日ニ書付ル

一夫料余銀之算用

○一毎年入方・出方之義、控之小帳ニ書付置候条(候条三冊本になし)、相浦源

左衛門(校注)・石井次郎右衛門差上候目安ニ引合、算用可相

济事、

○一右算用相济候刻、一年宛ニ控候小帳仕直可申事、

○一夫料余銀有之刻ハ、時々控之小帳ニ書付可申、出方之

義、何時も直之切手ニ而可差出由、源左衛門・次郎右

衛門へ申渡候事、

其年ニ見ルト御本帳ニ有リ

一領中百姓・町人并諸津之者申分之儀、其外色々改之事、

一毎年時分を見合相改申出候儀可承事、
(其年ニ見ると御本帳ニ有リ) 校注

○一申出候儀相济候様子書拔候而、主水・玄蕃へ可相渡

事、但、控可取置事、

一改様之書立諸控之鳥子帳ニ有、此書付を以、毎年領中

下々申分可相改事、

前年之宿次ヲ次年ニ見ル

一宿次

○一宿々人馬宿次跡付帳之義、毎年二月限ニ須古八兵衛・

深江吉右衛門の差上候様ニと申付候事、

○一右宿次跡付帳見届、銘々ニ点合候て可相渡事、

前年之夫遣を明ル年ニ見ル

一諸郷夫遣之事

○一毎年蔵入・配分所によらず、諸郷夫遣之儀、主水・玄

蕃入念相究、老那宛之目安八ツ并大目安一ツ、明ル年之

二月限ニ、右兩人の可差出候、夫を見届可相渡事、
(済) 校注

○一右大目安見候而可相止儀於有之ハ、其所ニ断書付候て、印判をつき可相渡事、

一前年之大目安ニ相止候儀も、点合候て、渡置様^{(候)二三・五}心持之ためニ候条、其年ニ目安同前ニ可差出事、

○一其年之夫遣目安見届相济候通大目安之奥ニ点合候て、

主水・玄蕃へ可差渡事、

一諸郷夫小荷駄遣方ニ付而、色ニ申付様之儀、書物を以、山城守・大和守ニ申渡候事、

但、書物之控大分請役之鳥子帳ニ有り、

右之品ニ段々見届、かつく条数ニ点をかけ相济也、^{(候)二三}此仕方毎年如此、

一墨之丸有之ハ、帳目安ためぬり之懸硯ニ入置候、

一朱之丸有之条数ハ、相究候時、自身支配申付儀也、

^{(仍テ如件三冊本になし) 校注}

^{(六冊本には黒丸・朱丸の印なきため三冊本より補なつておく。黒丸〓、朱丸〓) 校注}

※前年之改出方を次年ニ見ル

一人改

一人改帳目安十六品并大目安帳巻品、毎年可差上事方付右帳目安十六品ハ石井右衛門・関千左衛門・石井吉右衛門可渡置事

●一右帳目安十七品之内、大目安帳巻品、我等見候ハ可相澄^(済)

事付其年之大目安ためぬりの懸硯ニ召置、古キ帳ハ段々石井右衛門、関千左衛門、石井吉右衛門へ可相渡事

○一右改相澄候刻、点合之墨付可差出事。

○一其年之帳差出候刻、前年之帳と校合せ見可申事。

●一人改跡付帳二品事、但毎年大目安帳之都合斗此帳ニ可書付置

●一人改様之帳廿品、一郡宛之目安仕立様之帳出雲守・豊前守渡置候控付、大目安之儀は承応式年之人改大目安書様能候条先様無相違様ニ仕立可差上由兩人へ申渡候事、

鳥ノ子御帳 写 三

大分之請役条々

- 一 武具 一通
- 一 船 一通
- 一 算用方 一通
- 一 借銀方 一通
- 一 馬 一通
- 一 領中舸子并廻船 一通
- 一 蔵入方付而之手頭 一通
- 一 諸郷夫小荷駄并手男 一通
- 一 公儀御普請之刻之手頭 一通

一昇・弓・鉄砲・鎗・陸之者え渡候武具并諸道具、定之帳面ニ無相違様兼而可仕置事、

附、右諸道具内、かつかう悪敷物も可有之候条、見合

仕替可申候、口上有、諸道具古ク成り見苦物は、時々

仕替可然事、

一狸々皮之袋其外革物之類、切々風ほしして不損様可申付

事、

一空穂并籬ニ差候矢、鷲・鷹之羽ニて矯セ見苦無之様可仕

事、

一馬廻并七与之鉄砲六寸くす之外は、一職三寸くすたるべ

し、是は急度時玉大小無之様ニと之儀ニ候事、

一同弓一職七尺三寸相定候、此内之弓七尺五寸ニ候条、そ

こね候弓ハ漸々仕替、揃候様可仕候、一与之内尺不同ニ

而は能有之間敷候条、一与は一度仕直可申候、如此長サ

定置候義、俄之時、替弦之ためニ候、但陸弓六十張は七

尺たるき事、

武具一通

馬廻并七組之大与え相渡武具条々

付、一職誘弓たるへき事、

一鉄砲之かな物切々直シ可然候、弓ハ持手のかんニ合セ、

又は虫不付様ニ可入念事、

一馬廻并七与之武具一所ニ召置、俄之時受取候ニ無紛色干拭之時々ため旁ニ候条、先様弥不可有相違事、

一玉葉箱矢櫃かな根木ほう替絃鑄形鑄鍋右之類之旅道具、如定不事欠様ニ可持越事、

右馬廻并七与之武具第一之儀候条、俄之刻無不足懸合

ニ相成、諸手之つき合ニ見苦無之様、兼而念を入可申

候、右之外ニも仕置可然物は、令校量相調尤候、於然

は其段時々可承候、俄之時不事欠様兼々心遣肝要候、

右一通之儀其方え相任候上ハ、隙を明有之儀候条可被

得其意候者也、

置武具并留守居三組相渡候武具覚

一合葉えんせういわう玉地かね矢定置候員数無相違様漸々

調置可申事、

付、えんせう俄ニ難調候条、少宛成共かつく相調可申事、

一手透之刻、葉を無油断合させ可申事、

付、今有之葉一箱充相改、上中下銘々可印置候事、

一武具ニ相懸候役者共銘々念を入、就中色干仕候物虫付候

道具など、そこねさる様ニ可懸心よし折々可被申聞事、

一此中如相定候不依何色、武具借シ候儀、堅可為停止事、

一留主居組え相渡候武具之儀、一様ニ揃候わても不苦候、

不足さえ無之候得は、相澄事候条、其心得尤候事、

相渡武具帳 二品

旅武具馬廻并七組え相渡候分

深堀置武具

船ニ乗候武具

一江戸置武具 帳一品ニメ

天満置武具

留主居武具

一置武具 帳一品
右帳二品其方手前ニ渡置候武具之誘、就中員数等之儀、役者之外、家中之者も不存様ニ可然候、若他国など者相知候ては、旁不可然事ニ候条、隱密尤候、此段役者共えも堅可被申付者也、

早船一通

早船并船誘之覚

但自分船八艘加テ百石通船は除ク

一早船廿丁立を大ニメ、百艘たるへき事、

一右百艘之外ニ、かきりててんとう式艘并十八丁立る下之

小船可有之事、

一寺井え召置候早船六艘は、右百艘外也、

一右船百艘之船頭え銘々船を渡置船共不断之置所并かこい

等念を入、雨風之時もそこねさる様ニ、船々之船頭とし

て気遣可仕事、

一右船之内修理前有之ハ、段々修理可仕候、修理も不相成船ニは、作直候か無左候半は新敷作副、俄之時百艘数無相違様ニ、兼而心遣可為肝要候事、但シ口上、

一早船修理之儀毎年六七拾艘宛、俄之刻何時も懸合ニ相成候様ニ修理仕、諸道具誘可召置候、但長崎当番・非番之年ニより、船数替儀も可有之候条、其前年之霜月・師走間、

科銀之積仕、我等え可被申聞候、於然は修理仕候舟数之儀書付可相渡候、其年修理無之三四十艘船も捨リニ不相成様ニ入念困置、明ル年之修理前ニくり替へ可仕候事、

一上使御通ニ付而、船数入用之儀は、前廉々相知儀候条、可差出船之たたみうすへり其外障子等諸道具迄、修理念を入可被申付事、

一判之舸子切々相改、人柄悪敷候ハ、置替申候様田沢助左衛門・西五太夫え可申付候、就中、年寄・童無之様可入念候、尤、如定判舸子ハたてつき可仕事、

但、判舸子は国吉丸・吉野丸・千年丸・福寿丸ニ乗可

申事、

早船百艘之誘

一 早船大小五拾艘ハあかねまく一通并常之もめんまく一通、誘可差置事、

一 国吉丸・白吉丸ハ絹之紫まくたるへし、白吉丸ニ今ハあかねまく有之、損候刻紫まくニ可仕替事、

一 吉野丸・千年丸・梅檀丸・三吉丸・桜丸・川野丸此六艘絹之あかねまくたるへし、

一 此外四拾式艘はもめん・あかね・紺まくたるへし、

一 国吉丸・吉野丸・千年丸ニはあかね幕・木綿幕之外ニ、きぬ紺之幕も可有之事、

一 国吉丸・白吉丸・吉野丸・千年丸・梅檀丸・三吉丸・福寿丸此七艘ニは内まく可有之事、

一 早船百艘共ニ帆幕之紋、一樣ニ揃候様入念可被申付事、

一 国吉丸・白吉丸・吉野丸・千年丸・梅檀丸・三吉丸・福寿丸・福田丸・桜丸・川野丸此拾艘はてんま迄白丸之内

けうようたるへし、

付、かさりてんたう式艘帆之絞白丸の内けうようたるへし、

一 此外九拾艘は白けうようたるへし、

一 早船百艘共ニちやうちん可有之事、

但、此内国吉丸・吉野丸・千年丸・梅檀丸・三吉丸此六艘ハちやうちんニツ、其外は一ツ宛たるへし、

一 早船拾艘ニ仕切幕可有之事、

一 国吉丸・白吉丸・吉野丸、千年丸、三吉丸・桜丸・川野丸此七艘ハ、唐物之仕切まく一通并もめん紺之仕切まく一通可有之事、

一 梅檀丸・福田丸・福寿丸此三艘は、もめん紺之仕切まく一通可有之事、

一 右拾艘ニ唐油も備可有之事、

一 早船三拾艘ニ日覆并日覆立可有之事、

一 国吉丸・白吉丸・三吉丸・千年丸・吉野丸・桜丸・川野

丸此七艘は、唐物之日覆たるへし、

一 此外廿三艘ハ、もめん紺無地之日覆たるへし、

一 右三拾艘分之舸子筋ひとへ物誘置、俄入用之刻着セ可申事、

一 役者一人申付、其者手前取置入用之時斗可相渡候、筋ひとへ物古ク成候ハ、其時ニ仕替可申事、

一 我等乗船之内、上方上下之船数之分は、筋ひとへ物之儀、西五太夫・田沢助左衛門相渡可召置事、

一 国吉丸・千年丸・吉野丸・福寿丸ニは、筋惟子之外ニしゆはんも可誘置事、

一 判之舸子之儀は、筋惟子しゆはん此中より如定置候、切米之内ハ見苦無之様ニ相誘、五太夫・助左衛門間ニ受取置、入用次第着セ可申候、仕着セニ仕候得は、舸子共諫早仕候故如此、

一 右三拾艘之芋物一職染物たるへし、就中はいを懸、古キハ見立悪敷候条、新敷染はいを誘置、俄ニ入用之刻、付

替候様可仕事、

付、上使船三艘・乗船七艘之外二十艘は、はいをかつけしきり、繩たかい繩斗り染物たるへし、

一 早船百艘之好其外細付帳渡置候条、置物已下諸道具帳面之通無不足候様誘召置、損候ハ、段々仕替可申事、

一 上方上下之刻之船ニ乗せ置候武具之數、帳面を以、西五太夫・田沢助左衛門へ渡置事、

如右船数并船誘等相定候儀、自然俄之刻、諸手之つき合ニ見苦無之懸合ニ相成候様ニと存、兼而申付事候、船一通之儀は其方へ相任候上は、心安存有之儀候条、其心得ニ而無不足様ニ、兼而心遣入念可被申者也、

一 長崎御番ニ付而万仕送彼是之儀、内蔵助・玄蕃請役ニ候条、長崎・深堀其外鳴々へ遣候武具・船之儀申来候半ハ、兩人え相談候て、何時も内蔵助・玄蕃ハ差越候様可然事、

一 上使之為用寺井え召置候早船六艘は、内蔵助・玄蕃へ渡置候条、修理其外置物已下諸道具、無不足様調召置候儀、而

人として可申付候条、得其意相談尤候事、

一 武具一通・舟一通ニ付而相定候員数并好等之儀、書印相渡候条、早々出来候半而不叶物より段々可被相調候、代銀之儀は、漸々ニ少宛成共可相渡候、過分造作入儀候条、鍋嶋式部・有田勘翁由・中野奎之助令相談、先入具積り我等見候而、とれ々ハ今年中、とれハ来年ニ可相延と可申渡候、其上ニ而其年之入具之分、代銀等を以可差出者也、

諸算用一通

一 諸算用相究候儀、万相調根本候条第一ニ存候、乍然銘々見届候儀難成候付而、其方へ相渡候条算用方細帳迄入念相改可被申事、

一 役者手前々算用帳差出候儀、如定置候其年之蔵入物成、次年之所整前迄之遺方ニ相成儀候条、諸役者手前々算用帳ニ其師走切ニ相濟、其方迄差出、左候而右之帳算用

究之者へ相渡シ、明ル年之十月限ニ算用究候者として細ニ可相改事、

一 其年之蔵入物成一職ニ而、江戸・天満・下関・国元・長崎万遺方并臨時其外入越迄、一年中之入具都合銀米何程ニ而仕廻候と有儀并若蔵入物成不足候ハ、其差次銀出所遺方之儀迄書加大目安帳一品、

但、年ニより多少有之哉心持ニ相成儀候条、其心得尤候事、

一 石井右衛門佐・関千左衛門・石井吉右衛門手前之銀子我等切手ニ而差出年も有之儀も、右銀并出目録其年も蔵入物成銀遺方之本ニ相加候而、算用相究帳面書載可申事、

一 其年之蔵入物成凡目録、其師走中ニ江戸・国元ニても我等見え候様ニと相定候、是ハ大目録ニて十二ヶ月之積仕、余米早々為可差分如是候、明ル正・二月間ニ蔵入物成都合相々候而目録仕候ハ、凡目録ニ取替候様ニと相浦源左衛門ニ申付候、右同前ニ候目録其方えも請取置、

其目録を以、算用之大目安帳相究可被申事、

一 右蔵入物成都合之目録ニ、十二ヶ月惣仕廻之刻引合、在江戸・在国其年々之定ニ余米有之分、石井右衛門佐・関千左衛門・石井吉右衛門ニ可差渡由相定候、右余米之員数毎年承届候上、米ニ而何程残置、其外は秋口一番直段ニ早々銀子ニ而受取別立可召置候、尤差立たる臨時楮又定之遺方不足於有之は、其時分ニ直之切手を以此内より可差遣候、相浦源左衛門手前ニ其儘召置候得は、入次第二差次等相渡候条如此定置候、其年之蔵入物成ニ而、江戸・大坂・国元遺方相調、余分有之哉否之儀相知、其外諸役者遣方可入念候条、旁右之通ニ候事、

一 諸役者算用ニ無滞相澄候者名付帳一品、又出入有之者之名付帳一品、

一 諸算用相究候刻、役者手前ニ不依、何色引残物又は到来物其外集候物并相浦源左衛門手前金銀米錢之引残帳一品、

一 弥入弥上ケ之類之書拔帳一品、

右帳五品二月限ニ差出候刻、前算用之大目安も同前ニ可差出候、四年跡之儀ニ候得共為心得如此候、都合帳数六品毎年差出可申候、右五品之帳銘々点合ニて、其上算用相澄候通墨付可差出候、年々如右算用方相澄可申候条、其心得尤ニ候事、

一 諸算用究之刻、弥入渡越算用違并人ニ物を借候儀、又は当分ニ而も金銀米錢取替如此之類、其外定之算用帳面ニ相違候儀於有之は、親子兄弟好知者たり共、無量員偏頗、有体山城守迄算用之者として可申候、此旨相違仕間敷通算用究頭人并手伝之者ニ新敷誓紙を仕セ、其方手前ニ取置可被申事、

付、過分ニ算用前相違之者は我等可承候、少分之儀は不及承、算用帳如定置候ニ而相澄候事、

一 算用一通之儀算用究之者申旨致実正、大分之儀を相澄事候条、少も邪之儀無之様可入念由可被申聞候、若用捨仕

有体を隠紛たる儀於有之ては、則生害可申付候条、兼而能く其心得可入事、

一此中諸算用究様并定之儀、大形書附帳一品ニメ、算用大究之者手前ニ渡置候条、仕替候而可然儀は、校量次第可被申付事、

一上使其外作事又何ぞ指立造作之儀は、其一通ツ、算用相極、別帳仕立、銀米入候分何程と目安ニ而見可申事、
一參勤造作之儀、長崎御番仕候ニ付而上国延引故、両所務ニて一度之參勤相調事候、然時は入具此中ニは減申等ニ候条、算用相究候刻、其心得尤ニ候事、

右算用究様如此有之而可然存書載候て相渡候、此外ニも勝手可相成仕様又相止候て可然儀共候ハ、存寄次第可被申付候、先様諸算用方立入相究可被申儀可為肝要候、尤算用滞儀候ハ、心得相成事候条有体早く可承者也、

候、左様而其方善次第ニ銀差出候様ニと相定候、江戸借銀返弁之節も、何時も其方人差上セ、其者として、相払候様ニ可然候、田中九左衛門・武藤作左衛門・福地吉左衛門此三人ハ銀主へ之使斗可仕候、借銀返弁候様何方申參候共、銀方出入之儀、我共ハ心得不申候、年寄(マ)人差上セ申候条、此者ニ可申聞候由相達候様可被申付事、

一田中九左衛門頭人ニ相成、山領助左衛門・土肥千兵衛請取置都合之儀は、相良市左衛門・中野加右衛門存候様申付候、左候而銀子は浅部之藏ニ五人相封ニ而入可置候、
一尤市左衛門・加右衛門不有合時は三人相對可然事、
一借銀為返弁差上セ候銀は、縦如何様之儀候共、江戸・大阪之為役者別遣方ニ仕間敷由、堅可被申付事、
一先様居替銀可為停止候、此段慶長式年相定候事、
一先様本銀ニ而可請取と申者斗取合、何卒年々ニ相払可申候、数年借入候銀を本銀斗ニ而返弁候事以外不作法之

借銀方一通

一借銀大分成立及迷惑候得共、別ニ可仕無了簡付而、小宛成共、漸く返弁申外無之候、然は蔵入過分損毛無之年は、如此中借銀返弁料として地ニ而引分可召置候事、
一年により家中ニも銀米之間申付、借銀返弁之用可差出事、

一右二通之米員数目安ニ而、毎年正月中ニ先一切我等え見セ可申候、左候而、右米売立之儀、直段能時分念を入、銀子ニ成候様可被申候、右米、銀子ニ成候て、直段彼是其方能相究、六月限ニメ之目安を以、銀子之員数可被申聞事、

付、集候銀子一職我等手前之控帳ニ付置事候条、江戸・国元ニよらす銀子集次第は、員数時分ニ我等ニ申聞候儀、相良市右衛門・中野奎之助ニ申付候事、

一借銀為返弁江戸へ差上候銀一職は、山領助右衛門・増田吉兵衛請取、蔵に入置、兩人相封ニて召置候様可被申付

儀ニ候得共、大分ニ成立返弁之了簡無之、其上利足を返弁候得は、はて(マ)もなき儀と親類・家中之者存候而致出来難成之体罷成、精を入候ても無其詮、少成共借銀減候用ニは不罷成、海川ニ入たると同然ニ心得、事之外気草臥、奉公方ニ精を可入覚悟も無之儀尤至極之事候故、右之通定置外無之候、然上は如何候之儀候共、利足返弁申候儀不罷成事、

一江戸各銀之内、右之調儀成かね候間ニは、其年々ニ吟味之上返弁可申事、
一江戸・上方・国許ニ而も借銀返弁申候節は、銀主誰員數何程充と書付、其方手前可差遣候、それに我等点合可仕候、点合於無之ハ、銀子不差出様ニと相定候事、
右返弁相澄候節、借銀帳ニ書付有之候見届、点をかけ、借状をも消シ可申事、
借銀方存候役者都合其方存候而、国元ニ而は石井次郎右衛門・馬渡甚兵衛、江戸ニ而は銀請取手田中九左衛門・

山領助右衛門・土肥千兵衛、江戸不依国元相良市右衛門
 ・中野嘉右衛門・中野奎助儀は、借銀都合之銀子存候様
 ニと申付候、右役者何も立入能存罷在候様ニ可被申付
 候、是又滞儀有之而、先々不相知時は、可仕様無之、以
 之外儀候故申事候条、能々其心得可被申付事、

- 一諸郷の百姓借入候上方銀子之儀、余分之事候条、兎角返
 弁申候ハて不叶儀ニ候、然は蔵入借銀も一口ニ毎年相
 究、其方存候て返弁可被申候、尤本分にて可請取と申者
 斗ニ相払可然候、此借銀出入存候役者兩人申付、最前
 の様子、能存罷在候様ニ可申付候、一人役ニ而借主杯不
 相知候様ニ、先様仕成候ハ、為可迷惑候条申候事、
- 一江戸・上方・長崎内輪惣借銀本分之帳一品并細付帳慶安
 三年迄借銀之相渡候帳并書物数覚、
- 一惣借銀細付帳式品
- 一借銀成立之大目安巻ツ
- 一借銀返弁之銀出所之書立巻ツ

一借銀本之書立巻ツ

一諸郷より借り入候銀子之書立巻ツ

一当分覚之書立巻ツ

此帳加テ物数八ツ渡置

外ニ早船并誘之帳巻品

右帳内何茂肝要之儀候条、念を入可被申者也

山城守殿

馬一通

- 一公儀役目之馬数無不足様調儀可為肝要候、自然俄之刻於
 不相揃は、諸手之つき合ニ可及迷惑候条、能々兼而其心
 得油断有間敷事、
- 一家中・又内迄馬究之儀、如定置候、定之帳面ニ無相違、
 毎年念を入相改可申候、馬屋究又は馬場究之儀、年々ニ
 可相改事、
- 一番馬乗セ候者は、如定馬具相調召置候由候条、身体相当

く之馬具調置候哉、能相究可申事、

候事、

- 一此中より之ことく馬究之刻、縦下之馬ニ而も持様能立飼
 候ハ、中之馬ニ付させ、中之馬は上ニ付、上之馬は上
 々ニ付可申事、

但、右五足之馬は不斗可差出候条、得其意、馬取之衣
 類杯見苦無之様、於時夏ハ帷子、冬ハ道服、単物・股
 引時々ニ応して、相誘着セ候て可差出事、

- 一先様知行取之子共、何とそ馬すきニ成候様ニ可被仕候、
 其方杯馬ニすき候ハ、家中之者も馬すきニ可相成候、
 然時は能馬多出来可申事、

一如形之知行取候者ハ、梨子地蒔絵之鞍籠并諸道具相揃調
 置候様可被申付候、是ハ上使之時、自然入用之儀候ハ、
 可差出ためニ候条、其心得可申事、

- 一二ノ丸ニ立飼候番馬三拾疋之内ニ、上使之時差出候儀、
 難成くせ馬其外役ニ不立馬於有之は、別馬ニ仕替候様、
 念を入可申付事、

一曆々之上使御通之時、家中の鞍置馬三拾ニ而も五拾ニ而
 も、差出候半而不叶儀有之刻、馬并道具已下迄見苦無之
 懸合ニ相成候様、兼而念を入申付可召置事、

- 一上使之時馬差出候用ニ梨子地蒔絵之鞍・籠十背、墨塗蒔
 絵廿背右三拾背諸道具それく相当蔵入より可調置候、
 是は伊香加吉兵衛・鵜池勘左衛門え渡置可然事、

一領中札馬并宿々小荷駄数之儀念を入相究、帳ニ書印可然
 候、先様馬数多成、小荷駄も漸々能成候様才覚可仕候、
 ちいさき馬は上使御通之時役ニ立兼候条、其心得可申事、

- 一番馬三拾疋之内、上使之時召馬差出候用として、能馬五
 疋程就中念を入、立飼召置候様ニ可被申候、馬具之儀は、
 右三拾疋之内、五疋分は鞍覆等迄、結構誘置候様ニ申付

右之条々公儀役目之馬数、無不足様と存申渡儀候、俄之
 時役目之馬数^(不揃)於相揃は諸手之つき合可及迷惑候条、馬
 一通之儀は、我等立入それくニ可申付候へ共、隙無之

難成故、其方兩人え申付候、令相談、自然之刻、役目不相欠、見苦馬共無之様、兼而念を入、心遣可及肝要者也、

鍋嶋大和守

諫早豊前守

一家中馬究帳巻品

此所一本ニナシ(原注) (多久本に一家中より六ツ也までなし) 〓校注

一同目安巻ツ

一駄賃馬究帳巻品

一同目安巻ツ

右ハ毎年新帳可差出候

一家中馬并駄賃馬改様之帳巻品

一此馬巻通之帳巻ツ

右は兩人手前ニ渡置候大物数六ツ也

領中舸子并廻船一通

一長崎御番之年は不及申、非番之年ニ而も俄ニ船入儀可有之候、然時は何程船数用意候而も、舸子無之候得は無其

詮事候、差当ル御奉公船ニ相極リ候条、自然之刻、舸子無不足懸合ニ相成候様、兼而其心得第一ニ候事、

一舸子之儀、不依老若、櫓役可相勤者兼而領中相改、人数

細ニ書付可召置事、

一水路役舸子・半役舸子・三日役舸子・無役舸子、

右銘々無紛様究置可申事、

一先様何とそ舸子多ク成候様、心遣肝要候事、

一扶持方舸子之儀は、三工警兵衛トアリ(原注) 西五太夫・田沢助左衛門え申付候

条、其心得可申事、

一新舸子四百人ニ脇差斗差免候、小頭五人ニは両腰免置候

事、

一諸津草臥、舸子役候者漸々すくなく相成由承候、付而長

崎御番年之詰舸子之用ニ、切米式石取之者四百人抱副、

此中ハ之扶持方相加、津役舸子なしに相詰候様申付候、

次ニ我等并丹後守上下之刻、取舸子仕候得共、津之者不

勝手之由ニ付而、切米式石取斗取千人相抱候条、扶持方舸

子相加、上下之時、取舸子なしに相澄可然候、尤右千四百人之舸子自然之刻之役目相調候様と申付候、然上は諸津之舸子多成候様、心遣肝要候事、

付、右千四百人之舸子抱置候儀、船手奉行兩人。石井

四郎左衛門え申付候事、

一廻船之儀、巻丁櫓迄不残津々浦々之船数、細ニ念を入相

極、書付可差置候事、

一長崎当番之年は、毎年如定、六月朔日ハ八月迄、廻船卅

八艘船番申付可召置候、年々諸津くり合、同船を不留置

様ニろくに可仕候、自然於緩は俄ニ可及迷惑候条、能々

念を入可申付候、尤卅八艘之儀は、大船を留置可然事、

付、霽楼船十艘、たんへい式艘加テ、長崎仕組之船数

五拾艘也、

一諸津地料差免候所并津役相除候所直筈出置、此外私ニ除

候儀可及停止事、

一諸津役儀、有人ニ可相掛事、

一倒竈ニ役相掛間敷事、

一前船持候て今田作り候者ニ、船役相懸間敷事、

一めこニない一篇之者ニ船役相懸間敷事、

一舸子并廻船津役高下無之様ニ、ろくに念を入可申付事、

付、無役船之儀ニ、先様直之以切手可差免事、

一舸子并廻船召遣候儀、相浦源左衛門筈次第可差出事、

但、自然長崎惣人数相越候刻は、源左衛門筈ニ不及事、

右舸子并廻船一通之儀、其方諸役ニ申付候条、俄之刻、

懸合ニ相成候様兼而可入念候、若舸子於不足は、於時迷

惑不過之候条、前を以其心得油断有間敷者也、

諸津代官え差引之存

石井兵庫

下役 巻人

蔵入方ニ付て之覚

一蔵入都合支配之儀、其方へ申付候、此中蔵入方段々仕方悪

敷、不吟味之儀共多々有之て、諸事緩ニ相成候条、中野
左助と熟談、何とそ毎物仕直能罷成候様、立入可致氣遣
候、蔵入方ニ而万事相調儀ニ候条、郷内之儀共能存候者
を、切々取寄談合ニて、能様ニ可相斗事、

一其方本丸え詰居用所相調候所誘置、我等在国之刻は毎日
相詰可被居候、諸事其方手前ニ而遅々候得は、先々過分
之手間可罷成候条、難斗儀は時々相尋、毎物早々埒明可
然候、殊更本丸へ詰居候て、諸役者思入も可為各別事、
一役者并代官又は百姓え申付様、其方ニ相任候間、吟味候
而能様可申付候、事ニより、前を以我等承り可仕儀は可
被申聞事、

一兼而郷内之諸法度并申渡候儀共滞又は相背者有之哉、毎
年横目を以、郡々可相改候、其節何事ニ而も可顯然候
条、前を以念を入可申付事、

附、荒所無之哉又開所々可罷成所有之哉、切々相改、
右之横目不申出前廉其方手前々速可申達候、

左衛門・石井吉右衛門可申付候、左候て差立たる臨時并
定之遣方不足於有之は、直之切手を以、帳内々可差出
候、蔵入頭人手前ニ其儘召置候得は、入次第ニ差次等相
渡候条、如此定置候、其年之蔵入物成ニ而江戸・大坂・
国元万遣方相調、余分有之哉否之儀相知、其外諸役者遣
方可入念候条、旁右之通ニ相定候事、
一銀蔵・米蔵役者手前之請取込并遣方別而可入念候、右両
役之儀は、就中其方下役之者共候条、少も自分之儀不仕様
可申付候、代官之引合銀米請取候時も、毎度其方点合可差
出候、万一右役者手前ニ不届儀於有之は、其方可為越度
候条、能々稠敷可申付候事、

一米売時分肝要ニ候、少之違ニ而過分之損得有之事候条、
能々時分相考、直段能々売可申事、

付、役者手前ニて売候米之儀可入念候、米之員数并日
限を書付、其方印判つき召置、追而算用之刻、引合可
申事、

一役者共辛勞仕候儀其外毎物念を入相調候者、又は不心懸
之者可有之候条、有体可承候、随其時々賞罰可申付事、
一蔵入十二ヶ月惣仕廻之定帳渡置候、右之外臨時并入越候
遣方ハ、我等切手を以可差出候、自然留守之刻、俄ニ銀米
入儀も可有之候、其時は内蔵助・玄蕃手形を以、銀米之
間、石井右衛門佐・関千左衛門・石井吉右衛門手前々可
差出事、

一其年之蔵入物成都合之目録差出候刻、十二ヶ月惣仕廻之
定帳も同然ニ可差上候、右目録十二カ月定之帳面引合余
米有之分は、石井右衛門佐・関千左衛門・石井吉右衛門
相渡候様ニ定置候事、

付、十二月定之帳ニ相替候所於有之は、毎年付紙仕可
差出候、於然は書直シ可相渡事、

一蔵入物成之儀、在江戸・在国之年定引合、余米有之員数
我等毎年承届候上、米ニ而何程残置其外秋口一番直段ニ
早々銀子ニ而請取、別立召置候様と石井右衛門佐・関千

一其年之物成無油断仕払、引残米過分ニ無之様可仕候、古
米ニ相成候得は、直段も安、買手無之候条、能々其心得
可為肝要事、

一大坂米直段此地同然たり共、上米申付、早ク売払可申儀
可為第一、其故は、上米仕候は爰元之直段も上り、引残米
も有之間敷候、此段切々申聞候得共、蔵入頭人を始、役
者共六借かり、色々申候て多ク不差上、不勝手ニ相成候
条、兎角上米多ク可差上事、

付、大坂へ米差上セ候仕様之儀、能吟味可仕事、
一先様他国々之売米、領中え不入様ニ内蔵助・玄蕃令相談、
堅可為停止事、

一借銀大分ニ成立候付而、先様銀子借シ手無之、俄之刻可
及迷惑と氣遣千万ニ存候、乍然已来少宛成共返弁仕候半
而不叶儀候条、先様之仕組山城守え、細々帳面を以申渡
召置候事、

付、居替銀、自今以後弥堅可為停止事、

一諸役者手前之算用、毎年一年限ニ申付候、弥無相違様早々相澄候様、稠敷可申渡候、算用方ニ定置候条々帳面を以、此中蔵入頭人へ申聞召置候得共、役者共不承届者も有之而仕違候条、先様役者申付度、毎々それ々之儀を書付、時々ニ可相渡候事、

一諸役者申付候様金銀米錢之遣方仕候役者ハ、弥一年替ニ可申付候、此中役者申付様不吟味ニ候故、悪事令出来候事、

一兩人役之者をそき、次ニ差替候儀不可然事、

一役者之儀、親類縁者ニ差替申間敷事、

一其年之算用不相澄内ニ、別役者申付間敷事、

但、算用不相済内ニ、役者申付候ハ而不叶者ハ、能く

入念吟味可仕候事、

一諸役者之儀、其人相応を吟味候て可申候、不仕切役儀被

申付候得は、悪事令出来事、

一給人・百姓・町人就中好知者たり共、不可有最眞偏頗事、

付、給人・百姓・町人ニ到て、非常之儀仕懸不嫌心遣可為第一事、

一御上使往来其外俄ニ可事欠物、前を以令校量かつ々調置可然事、

一御上使御通其外諸事ニ付、物入候而相調候儀仕能事候、

造作減候而首尾好相調候様ニ成程、心遣可為肝要事、

一自歎無之候ハ、諸人見及候様ニ覚悟可然事、

一存寄之儀無用捨切々直ニ可承候、於然ハ每物早ク埒明、

又は諸役者其外百姓等迄、其方申付候儀重ク罷成、下知

可相々事、

一我等為ニ成候儀、取違申間敷事、口上、

一此跡蔵入頭人え申渡候儀共、多分失念候て相違候儀候得

る間、先様其方え申聞儀、時々ニ控ニ書付置、不可有失

念事、

一在江戸之刻、於国元祈禱立願私ニ仕候儀、堅可停止事、

一蔵入物成代銀之外ニ、色々少宛集候金銀米錢之間於有

之は、石田安左衛門・福山喜左衛門え可相渡事、

一此中蔵入所少宛ちり々ニ有之て不可然候条、何とそ漸

々一所々ニ寄候調儀可仕候、私ニ不相成在所ハ、我等

へ可申聞事、

一先様加増并新地申付候者有之刻は、上り地之内る在所付

仕候而とらせ可申候、然時は、其身知行之近所、又は勝

手能所抔ニて、在所を望候儀可為停止候、我等承候迄分

別不申候得共、気味悪敷候故申事候、

一与賀・川副其外城近所并佐賀山・神崎山、先様配分仕間

敷事、

一六角江・牛津江之儀、築切・堀切など仕候儀法度申付

候、但過分之徳ニ相成候儀於有之は、前廉承、其上ニ而

可申付事、

一城廻巷里四方之立木相改、帳ニ書付召置候条、切セ候時

は、直之切手可差出事、

一其方え渡置候帳

一十二ヶ月惣仕廻之定帳巻品

但、毎年儀替可有之候条、付紙を以可申聞候、

一蔵入控并郡代・代官え申渡候帳巻品

一右之外帳数多ニ付而、銘々書載候目録帳巻品

一諸祭礼并盆祭、灯笼数之儀は不及沙汰、手明鑑・小姓・

小道具并船頭・舸子・鷹師、其外かこ之者、挾箱持已下、

偕又付之者不残其頭人として銘々名書之上、其年之切米

之員数書付、切米請取之点合は、名書之下ニ印判をつか

せ、先様其方迄差出候様ニと頭共ニ申付候条、毎年無

相違様可仕候、此中出入有之而、六借候故如此定候事、

付、与中之者切米員数如定相渡候は無申事候、切米之

増減於有之は、其断我等え申聞候上、支配仕候様と与

頭共へ申付候、自然与中ニ人数不足候ハ、其年之有

人ニ合せ、切米可相渡事、

右之条々無相違様可入念候、蔵入方一通之儀、委細帳面

ニ書載候て渡置候、能見届ケ不可有失念候、蔵入ニ而公

私万事相調儀候条、其心得にて山城守・伯耆・内蔵助・玄蕃え令熟談、可然様可相斗者也

相浦源左衛門

諸郷夫小荷駄并手男一通

一此中夫小荷駄遣方多候て、諸郷草臥候由不可然儀候、就中高下有之而、所ニ百姓共一入迷惑申候由候条、先様支配之儀、其方兩人え申付候条、下役之者共え念を入被申付、遣方減シ候様可為肝要事、

一御上使其外各往來之刻、所ニ夫小荷駄数日前より詰居致迷惑候由候条、先様之儀は、内蔵助・玄蕃可被罷通時分、承合候様ニ申付候条、其到來次第、夫小荷駄可申付候事、

一手男部方一月ニ一度宛相改、不入所ニ不部様ニ念を入可申付事、

一我等丹後守領中何方えも罷越候刻、入用之夫小荷駄は、

其頭人ノ手形差出、又は使者、飛脚往來之夫小荷駄、入用之時は、内蔵助・玄蕃として手形可差出候、其上ニ而下役者ノ員数令相談可相渡事、

一人馬過分ニ入候刻、郷中斗ニ而手問之儀候半は、其段早速内蔵助・玄蕃え令相談可被申付事、

一於領中我等丹後守方ニ往來之刻、道作并掃除等仕候儀可為無用候、損橋きれとなとて通り候妨ニ相成候所迄を修理可仕事、

但、御上使其外各來之刻ハ、為可各別事、

一向方え我等丹後守相越候砌、前廉ノ夫丸寄セ置候得は、費相成候儀候条、至時費不相成様ニ可申付候、尤少ニ不懸合候ても不苦事、

一我等在国之時は不及申、在江戸之砌、於国元普請申付候共、時分悪敷百姓迷惑申儀於有之は、其役一往我等え申聞、其上ニ而之儀可仕事、

一夫丸召遣候儀、依時分柄迷惑申由ニ候条、時分を能斗可

申付儀可為肝要事、

一点役、郷普請之外我等へ不申聞、私ニ夫丸一人、小荷駄壹疋ニ而も差出候儀、堅可停止候、姉達子共其外寺社方ノ不叶用之儀於有之は、在江戸之時たりとも、其主ノ我等へ申聞候ハ、管可遣候条、其点合を以可差出事、

右夫小荷駄点役方并手男入方之儀、其方兩人え申付儀候条、費無之偕又諸郷公役前ろクニ相当り候様、念を入可被申付候、此条数之外ニも、夫小荷駄仕方減シ、

又は仕候半而不相澄儀も可有之候条、能ク吟味候て仕(一本ニ鍋嶋主水、鍋嶋玄蕃ニ当ル)ニ原注配可仕者也、

山城 守殿

大和 守殿

右請役申付候条、其方為心得書付相渡候、已上

慶安五年

八月廿二日 信濃 守

公儀御普請之刻之手頭

一御普請自然於有之は、手廻シ一通之儀、其方へ申付候条、内ニ其心得可申事、

(鍋嶋主水トアリ)ニ原注
鍋嶋内蔵助

鍋嶋玄蕃允

鳥ノ子御帳 写 四

領中人改様申渡条々

一 壹郡充之帳目安付大目安合拾七品承応式年之帳目安書様
(三年ニ壹郡充郡御申付候事) 二三
 能候条、先様無相違様ニ仕立、毎年六月限差出可被申事、

一 領中有人一職之究、就中五人組改都合之儀、其方兩人
 年宛請役に候て、先様念を入相究可被申事、

一 給人ニ奉公申罷居候下之者、新参古参ニよらず郡中人
(御本帳如紙付紙有リ可除ク) 二三
 改之刻、其主人へ郡代引合可申候、如斯申付候儀ハ、

一 家中之者召仕候下、江戸・上方ニ而走り候刻、改安可
二三
 有之と存、右之分ニ候事、

一 給人之内、直人・又家中ニよらず、田を作り候者は、其
(與ニ委有可除ク) 二三
(御本帳ニ如紙付紙有リ直人・又家中ニよらず、在之ニ罷居候者其所之五人組ニ可相加事) 二三
 所之百姓之内ニ相加、五人組ニ入可申事、

一 借屋之者も、其家主ノ之五人組ニ相加可申事、

一 蔵入所は一宦官宛、配分所ハ知行千石取りより上は其領
 主一人宛之手前、千石より下は壹郡切ニ、百姓之増減
 竈数まで相改、帳ニ書立差出候心持ニ相成付而申事候
(可) 二三
 条、百姓之増減竈数、相違之儀無之様念を入可然事、
 人改ニ付而之掟

一 他領之者と縁辺を組、養子仕候義堅ク法度申付候、尤他
(候) 二三・五・多
 領之者を下人ニ抱置儀も可為同前事、

一 付り、此内他領之者と縁辺養子有之而、今に相切候儀
(應) 二三
 於不相成は、不通可仕候、尤此方ニ召置候者は、早々
 可差返事、

一 領中之者、不依男女他領へ質ニ置間敷事、

一 領中之者、不依男女人を売候儀堅法度ニ申付事、
(領) 五・多
 一 他方之者、其外無縁之者ニ宿を借ス間敷事、

一 海道筋ニ一夜之宿を借候儀は不苦候、但一夜たり共、町
 人ハ其町之別当、百姓は庄屋、寺社家は其頭人、給人は
 与頭又ハ其主人手形を取、宿を借可申事、

付り、不審成者と見咎メ候儀於有之は、差留早速年行(主水)司迄可申届事、

一於諸郷・諸津・諸町ニ右法度を背、無縁之者ニむさと宿を借候者於有之ハ、承付次第五人組并別当・庄屋として、早速可申出候、自然隱置、脇(三)於願然は、曲事可申付事、

一山伏・社家右法度を於相背は、其頭(伯耆・主水・玄蕃)メり可有之候条、年行司迄可申届候、於然は其メ可申付候事、

一寺方之儀、納所有之寺ハ、納所小広ハ尤住持可為越度事、

右寺方たり共、むさと宿を借候儀、国家之為不罷成儀

ニ候条、寺社奉行として稠敷可申渡事、

一無縁之者ニ宿を借候者並無縁之者籠舎仕候ハ、宿借候者之五人組(又は)格護可仕事、但五人組格護難成様子ニよ

り、或は一町或は一村之者(又は)格護可仕事、

一往還之者之内、自然当病其外子細有之而、逗留仕候ハテ

不叶者之儀は、年行司迄可申届事、

一給人・百姓・町人・寺社家によらず、無拠他方之知人参候時分、宿を借候儀、年行司迄可相届候、但遠所ニ而早速申届候儀難成在所ハ、其所之別当・庄屋・五人組へ相届、無拠者ニ候ハ、吟味之上、一夜之宿を借候儀不苦事、

一領中之者相煩候刻、他方(伯耆・主水・玄蕃)醫師召寄候ハ、伯耆・主水・玄蕃迄申届候上ニ而召寄、幾日逗留仕候段をも可申届候事、

但、右三人へ申届候儀、遠所ニ而難成在所は、其所之別当・庄屋・五人組へ相届、吟味之上可召寄候、左候て、其段追付伯耆・主水・玄蕃へ可申届事、

一於領中勸進を廻候義可為停止候、他領より申来候共、法度之段可申分候、自然差免候(若)ハテ不叶儀候ハ、我等承候上、年寄共并年行司手形を郡代へ差出可申候、右之点合無之は、勸進并札守持廻り候共、礼物之儀は不及申、

一夜之宿ニ而も借申間敷事、

付り、前(指)之領分へ出入之宿坊(指)、兼而之旦那へ札守

配候儀、寺社奉行任乞筈、年行司点合差出候上ニ而且

那廻可然事、

一領中之山伏・社人・みこ(き)ほ(き)ふ(き)之類、旦那廻り仕候義は、前(指)之ことく仕不苦事、

一万芸を立候道之者并念仏坊時触博士等、此外他方之徘徊人ニ一切宿を借間敷事、

付り、海道筋ニ一夜之宿を借候義は不苦候、但、一夜たり共、町人ハ其町之別当、百姓は庄屋、寺社家は其頭、給人は与頭、又其主人手形を取、宿を借可申候、

若又此中より数年参副候者之儀は、伯耆・主水・玄蕃へ申届、差(指)次(指)第二可仕事、

一他方(指)領中へ為売買罷越候者於有之は、其所之別当・庄屋として、何国之者、何色之商売ニ、何かし所へ参候通り、早(指)郡代并諸津・諸町奉行へ申届、右之者罷帰候

ハ、其段も可申出候、其上ニて郡代、諸津・諸町奉行より、年行司迄可申届候事、

一領中之はちひらき之類は、従年行司板札差出、徘徊仕候様ニ可申付事、

一走者之儀、或縁者、或請人有之共、給人並寺社家・町人・百姓ニよらず、不遂案内私ニ相抱候儀可停止事、

一百姓、或走、或不遂案内他方へ奉公ニ罷出候儀、堅可為停止、若相背者於有之ハ、妻子籠舎申付、五人組(指)格護可仕候、若無妻子ハ父母、無父母ハ兄弟、籠舎可申付候、走者之儀ハ、五人組へ可相尋由、月限を以申聞セ、居所於尋出ハ、其趣相届可取還、然時は籠舎之者可差免候、若又於不尋出は、籠舎之者曲事ニ可申付事、

但、鳴原へ走者之儀は、在所相知共、籠舎差免候儀相控、我等へ時(指)ニ可申聞候、我等在江戸之時は、江戸へ可申越候事、

一江戸・上方ニ而走候者は、親・兄弟・妻子之間籠舎申付、

走者罷歸候ハ、不申及、居所於相知は、籠舎之者可差免事、

一給人・百姓・町人ニよらす、召仕候者走候時ハ、請人并妻子・親・兄弟無之候ハ、其主人ハ探促可申付事、

一盗仕走候者生害申付候時は、盗物引負物請人ニ可相懸候、若又請人も同前ニ生害申付候時は、盗物引負物之儀、其時分之様子次第吟味之上を以可申付事、

但、常之盗人盗物滞儀候は、親兄弟より可差出候、様子ニより、主人ハ差出儀も可有之事、

一給人・百姓・町人召仕候者走候時、親類志人有之而別ニ請人無之、右親類籠舎申付候刻、籠舎之者格護主人ハ可仕事、

一江戸・上方・国元何方ニ而も、走者有之刻、有体早速不申出、若隱置、後日於願然は、給人は組頭・主人、百姓・町人ハ庄屋・別当・散使・咄・五人組可為曲事事、付り、国元ニ而走者有之刻、日数押移候而年行司へ

申届候故、究其外隙入由候条、以来早速年行司へ申

届、下知次第(探促)歎息(探促可仕事)ニ多

一百姓・町人は不及沙汰、在ニ有之給人五人組之儀、此中之ことく其所之庄屋・別当として、組合候様ニ定置候条、組外之者無之様ニ念を入可申付候、年行司手前ハ毎年所を不定、一村二村宛例ニ稠敷可相改由申付候条、組合無紛様ニ可仕事、

一給人・百姓・町人・寺社家によらす、人を相抱候時、或本主人、或領主・代官へ相届可召抱事、

一江戸・上方詰、并供之者御普請方罷登、国元ハ立婦之使者、或上方扶持人休息として罷登、或出家・山伏其外万為稽古罷越候者、召仕候者を江戸・上方ニ而隙を取せ又は相拘候時之覚

一江戸・上方ニ而内之者隙を取せ候刻、他方へ不抱置様ニ可入念候、右隙を取せ候者領中之者相拘候ハ、国元ニ而之請人之善相副可差渡候、其上当主人ハ

其所ニ而請人をも可相定候、左候て、本主人ハ其段

細二年行司可申届事、

一何某召仕候者、何かしへ奉公仕候通、江戸ハ屋敷大目附、上方ハ大坂大目附迄、本主人ハ可申届候、其上ニて而所大目附より年行司へ時々可申届候事、

一江戸・上方ニ而国之者相拘候時、請人ハ善取様、其身召仕候内之儀は不及申、縦隙を取せ領中之者へ奉公仕せ候共、国元へ不罷下間之儀は、何年ニ而も他出杯仕、其外悪事仕出候時、国元請人へ可相懸由、善ニ書載可仕候事、

付り、国元ニ而人を相抱、江戸・上方へ連越候時も、善取様可為同前事、

一江戸・上方ニ而隙を取らせ、国元之様ニ差下候時は、路銀・船賃を堅固ニ相渡、慥成便ニ相付可差下候、又他出杯仕候ハ、其通右両条之儀、江戸は留主居大目付、上方は大坂頭人大目附へ申達、其上ニて年行司へ可申届候、

於然は、其村之庄屋へ引合、五人組ニ可相加事、

付、上方扶持人自然隙を取せ差登セ候刻、国之者召連罷登候儀可為停止、自然召連候ハて不叶時は、年行司へ申届、其者之左所迄召連、追付可差下事、

一江戸上方ニ而召置候女子、或女房、或養子・下女之類ニても、召連罷下候儀、堅可為停止、若連下候ハて不相叶者之儀は、我等可承事、

一領中之者不遂案内他方へ参候儀、堅法度申付候、但他方へ罷越候ハて不叶儀有之而、申届候時分定、一給人は、自身乞善之上、大物頭奥点合之事、

付り、小組之者は、其組頭乞善之上、大物頭奥点合之事、

一又家中之儀ハ、其主人乞善之上、大物頭奥点合之事、付、大物頭無之者は、主人ハ之可為乞善事、一寺社家銘々頭人乞善之上ニ、寺社奉行奥点合之事、一扶持方・船子之儀は、船頭乞善之上、船奉行奥点合

之事、

付、船頭之儀、銘々乞筭ニ是又船奉行奥点合之事、

一鷹師之儀、銘々乞筭之上ニ、鷹奉行奥点合之事、

一本蔵入小物成所百姓之儀は、五人組庄屋迄申届、

庄屋乞筭之上、代官奥点合之事、

一配分之地は、領主乞筭之上、大物頭奥点合之事、

付、大物頭無之者は、其領主可為乞筭事、

一諸津・諸町之儀は、五人組并家主庄別当迄申届、別当乞筭之上、代官奥点合之事、

一如右之点合ニ而切手差出候共、何ヶ月之逗留と相定

切手差出候、何様之用所たり共、十二ヶ月之上切手

差出間敷事、

但、江戸・上方詰并出家・山伏・医師其外万稽古

として、他方罷越候者、右月限上逗留仕候ハて

不叶者は、年寄中吟味之上、各別ニ切手可差出

事、

一行先之国又は在所を定、年行司切手を取、領中罷出候而
行先相違之者并切手日限延引之者、科之随軽重、曲事
可申付事、

付、年行司切手疎略ニ仕候ハ、是又可為同前事、

一上方・隣国へ参候廻船之儀、年行司切手之日限ニ合せ無

相違可罷戻候、大坂へ参候船之儀は、天満頭人へ何物を

乗せ来候通申届、罷下候刻、年行司切手ニ天満詰之大目

附裏点合仕可差下候、裏点合無之候ハ、曲事可申付事、

一他方へ罷出候者、悪事仕候ハ、乞筭差出候者可為越度

候条、能々念を入、相究候上乞筭差出候事、

一領中遠所へ罷居候者ハ、時々ニ切手取候儀、下問所も

可有之候条、如跡方他領近国往来之板札相渡可然候、但

庄屋・別当ニ兼而渡置候儀不可然候、其所之領主・代官

・町奉行へ渡置、時々相究、三十日限ニ往来仕候様ニ可

申付候、城廻り之者も売買之品ニ、右同前ニ可申付

事、

但、遠所之儀は、領主・代官其所ニ不断不罷居事候条、

下代るか、組之者か、又は被官ニても、慥成者ニ板札

渡置、時々ニ相究候て渡候様ニ可申付事、

一年行司切手無之立歸候而も、他方へ罷出候者於願然は、

給人は其組頭主人、寺社家は頭人、百姓・町人は其所之

別当・庄屋・五人組越度ニ可申付事、

一出雲守・豊前守、筭を以他所へ差出候者共之名付并月限

を、書付ニて、両人手前ニ控置、定之日日限ニ合候而罷

歸候哉之儀、扱又右他国出一通り定置候趣相違之儀無之

哉、年行司手前々毎年可相改候条、可得其意事、

一借屋之者、此中度々悪事仕候条、先様之儀借屋之者法度を

背、其外不届之儀於有之は、其節其家主之屋敷を取上ケ、

其上科之依軽重、曲事ニ可申付事、

一諸郷・諸津・諸町小路ニよらず、俗人屋敷ニ出家居住仕

候儀、并寺家ニ住持無之と候て俗人罷在候儀、可為停止

候、若相背者於有之は、小路ハ屋敷奉行、町・津は其奉
行、諸郷は代官・領主、曲事可申付事、

右之条々無相違様ニ可被入念候、兩人年行司ニて、下

々違背不仕様ニ毎年糶敷可被申触者也、

明暦元年

七月五日 信濃守

多久出雲守殿

諫早豊前守殿

右御掟之条々、我々兩人として可申触候通、今度被仰出
候、毎年御掟之趣、申触候得共、下々之者、大形ニ落着
罷在と相聞候条、自今以後、其筋々之為役者、折々懇
ニ申聞せ相守其旨候様ニ可被仰付候、以上

七月十六日

諫早豊前
多久出雲

鳥ノ子御帳 写 五

目録

一御壁書

一公儀御法度

一御法度

一御定置条々

一可相改条々

一軍役

一御藏入役

一軍陣役者之事

一万御法度

壁書

一公儀御法度之条々、堅可守其旨事、
一兼而相定虎口方置目之所無失念可覚悟事、

一諸沙汰聞手之者、或最眞を構、非を理ニ申掠、或宿意有之而理を非に申成、一旦雖相隱後日於顯然は、聞手則令生害、其沙汰可改易事、

一喧嘩口論堅可停止、若仕懸者雖有之、當時は令堪忍、横目之者迄於申届ハ、縦根本非分たり共理可相付、此旨違背之輩有之は、(於) 五則双方可生害、不依好知音方人族可処重科事、

附、他方之衆と口論弥以可制止、自然於及喧嘩は、時宣可為各別事、

一博奕并金銀米錢ニ而かけ之勝負可停止事、

一走者之儀、或縁者、或請人有之共、給人并寺社家・山伏其外百姓・町人ニよらす、不遂案内私ニ相抱候儀堅可、為禁止事、

一走者之儀ハ不及沙汰、方所不知者ニ一切宿不可借事、

附、海道筋之町相改、一夜之宿を借候儀不苦事、

一組頭ニ其組之儀相任候上ハ、如睦甲冑共不可背下知、又

は用事等於有之ハ、与頭迄可申達事、
一私ニ誓紙之取替并以連判申組之儀、堅可為停止事、
右之条々堅可存其旨者也

公儀御法度

- 一幾利支丹宗之事、
- 一伴天連并いるまん隠置候事、
- 一異国へ武具を売渡事、
- 一異国へ日本人を売渡事、
- 一異国船ニ乗渡事、
- 一博奕之事、
- 一人売之事、
- 一似せ銀之事、
- 一新錢鑄事、
- 一不依何事徒党を結事、
- 一異国船来朝之刻、私ニ引船を出事、

右之条々前々より公儀御法度候条、給人其外領中之者
到下々迄不相背様、毎年申触、稠敷可相改事、

一佐嘉城廻りニ新敷堀を掘、土手を築、堀・矢蔵・抵門等相
誘候儀可停止、天守・矢蔵・門・堀等そこね候ハ、目ニ不
立様ニ漸々修理可仕候、天守過分ニ損シ又は石垣破損之
時は、早速可被申聞候、承届之上、御老中へ可請御意之事、

法度

- 一不遂案内、私令隠居事、
- 一直子無之者、知行持ハ給之不依多少、切米取は拾石石
上、私養子仕候事、
- 一知行百石石上之者、縁辺之儀、私ニ申合候事、
- 一公事沙汰其外出入事ニ付而、身ニ不当儀を差出構候事、
一兼而存たる又内之者、縦重科之義有之共、不遂案内生害
仕候事、

但、差延候儀難成様子有之時ハ、致生害候後、則子細可

承事、

一手前不相成者之役目之儀、縦雖好知音たりと不遂案内仕
替之事、

鍋嶋伯耆守殿

鍋嶋主水殿

鍋嶋玄蕃殿

附、知行質券之事、

一給人家屋敷をむさと売買仕候事、

定置条々

但、仕替候ハて不叶子細於有之は、屋敷奉行迄申届候
上、相浦源左衛門承届、切手を以仕替させ可申事、

一毎月談合日之儀、大寄合四日・五日・廿一日、小寄合七
日一木、六日トアリ・廿二日之事、

- 一喧嘩并出入有之刻、私ニ内之者切手出事、
- 一不依男女他方へ人を売候事、
- 一他領之者縁辺(ト)を組并養子仕候事、
- 附、他領之者を下人ニ抱置候事、
- 一領中之百姓・町人不依男女、他領へ質ニ置候事、

右寄合之儀、我等在国之刻ハ、何も本丸へ朝々相集り吟
味可被仕候、在江戸之儀も懈怠有間敷候、寄合人数之内、
罷在候者、又不罷出者之儀、横目之者式人充月行司(候而)ニ凡
讃談之条数以下書付、其日ニて我等へ可申聞候、留主之
刻ハ、日記を仕置、一度ニ我等へ見セ候様ニ可被申付候
事、

鍋嶋山城守殿

多久美作守殿

鍋嶋左京殿

諫早豊前守殿

一口事日之儀、毎月十三日・廿五日たるへき事、此廉七
本帳写」

一口事篇之儀、如定置候直ニ其者え申合、双方可被承候

事、

一口事辺之儀、前廉内ニ而申分承り候儀、停止之事、

〔宋書〕^(宋書)一我等在国之刻、口事沙汰其外出入之儀於有之ハ、下ニ

而能々令吟味ケ様ニ申付可然候ハ、^(んと)何も存候通承届、

何之通^(道)ニも可申付候、人体又ハ口事之様子ニより、最前

ハ我等承候儀可有之事、此廉七本帳写」

〔宋書〕^(宋書)一於口事場邪正之分有之間敷候事、此廉七本帳写」

一口事沙汰之義、先其根源を明ニ相究、^(後)落着之儀余事之沙

汰可有之事、

一上方へ我等逗留之間、口事沙汰於有之ハ、科之輕重次第

ニ何之道ニも被申付、証様之儀懇ニ被付置、生害又ハ闕

所出入之様子、帰国之節可承事、

一給人・百姓・町人ニよらず、口事之義出入有之刻より、

三年目之三月切ニ可有其沙汰候、^(前)其度々之儀ハ不可及裁

許事、

一我等留主之刻、山城・大和・美佐・左京・豊前・伯耆・

主水・玄蕃間ニ在郷ニ於用所は、忝人充可被相越事、

〔宋書〕^(宋書)此廉七本帳写^(原注)一高知行之家中之者、不断^(充)二三^(五)人ツ、在佐嘉仕候様、相

定候事、

但、在佐嘉仕候者共、五節句ハ本丸罷出可然事、

〔取〕^(取)一陣所備道押如定置候、不可有相違事、

一陣取仕様一色之義、馬廻り之^(ク)如仕組たるへし、

但、絵図ニ細書付置候備相当ニ、右之畢竟を以陣取可

然候、我等本陣ニ大手堀無之候而も不苦事、

一備之仕様小馬廻之以畢竟、其備相当ニ勝手次第可然事、

一道押之次第ハ如絵図、一備之内之仕分は、我々勝手次第

たるへき事、

右三通之絵図縫殿助・式部へ渡置、

一於上方雜税有之由相聞候刻、縦定置候者たり共、人数多

少可申越間之儀、山城・美作・左京・豊前・伯耆・主水

・玄蕃下知之外不罷上様ニ稠敷可被申付候、自然相背者

候半ハ、^(可被)曲事ニ申付候事、

但、雜税之刻、隣国被聞合、人数罷上候由候ハ、一

左右無之候とも、山城・美作・左京・豊前・伯耆・主

水・玄蕃談合を以、人数多少令推量、可被差出事、

一乗陣之刻、加賀守・甲斐守・和泉守・伊平太此四人之家

中之者并馬廻其外在国之残人数都合之義、親類中ハ忝人

頭人ニ相成、法度万事之ノ之儀可被申付事、

一從他方之走者自然領中へ隠罷居候由、其届於有之ハ、下

々之儀は不及沙汰、曆々之共たり共、公儀任法度、則可

被相渡候、若家中之給人他所へ走候ハ、右之旨を以、

早速可被取返事、

一乗物ニ乗候儀、我等切手之外不可乗事、

但、当病之者ハ、不及切手可乗事、

一家中之士無藤次在郷仕候儀可停止、但罷移候ハて不叶者

ハ、年寄中切手を以可差免事、

一於領中勸進を廻候儀可為停止、縦他領より申來候共、手

前法度之段可被申分候事、

一我等江戸・上方へ罷居留主中之儀、本丸・二丸・門不依

男女、札ニ而出入可申付事、

一本丸番・二ノ丸番・北ノ大門番改、東ノ大門番改、西ノ

大門番改、裏門番改諸役者、帳ニ如書載候無相違可被申

付事、

但、門番之者儀ハ、諸与ル相浦源左衛門として可申付

事、

一火事出来并大風之時、本丸へ懸付候者、此外町小路火事

之刻、^(候而)請取^(候而)二凡火を消候者并警固之儀、如定置候念

を入候様可被申付事、

一於江戸・大坂・下之関・国元・長崎、金銀米錢遣方仕候

者替之刻、其者之親類縁者ニ差替候得は悪事出来候条、

別人可申付候、

右之通、先様無猥様可被申付候儀可為尤事、

付、兩人役之者、此中ハ忝人充差替候故、滯有之義も

候条、先様兩人共ニ一年替ニ可申付事、

可相改条々

一此掟之帳面之内、相違之儀有之哉究候事、

但、横目之者へ可被相尋候、

一蔵入・配分所ニよらず、在々百姓諸津・諸町伝役之不同、

其外出入之儀有之哉、一年ニ一度充相改、ろくニ有之様

ニ可申付候、究様之事立相渡候、尤深堀・諫早・神代も

可被相改候事、

但、改様之書立一ツ、定之書立一ツ渡置候事、

一領中船数并舸子究之事、

但、改様之書立二ツ渡置候事、

一領中人改之事、

但、改様之書立渡置、

一家中馬改之事、付、馬具之義、口上、

但、改様之書立、大和守・豊前へ渡置、

〔宋書此廉七本原写（原注）
一直早船改候事、但、書立、山城へ渡置、

右は、毎年可相改候条、伯耆・主水・玄蕃へ可被申付者

也、

鍋嶋山城殿

多久美作殿

鍋嶋左京殿

諫早豊前殿

鍋嶋伯耆殿

鍋嶋主水殿

鍋嶋玄蕃殿

軍役

一出陣之刻、手前人数都合之儀は、公儀如御役儀、百式拾

五石ニ四人役ニ可召連事、

一今度定置候一備充之役目人数之外、兵糧相渡間敷事、

一加賀守・甲斐守・和泉守江戸相詰候ニ付而、無役ニ相定

候、但出陣之時は可為半役、其身罷在候時は、本役ニ人

数可召連事、

為、

一昇数、小馬廻迄ハ三十式本、大馬廻四頭ニ廿本、加賀守

・甲斐守ハ廿本、其外ハ大備ハ十五本、小備ハ十本充た

るへき事、

但、昇長サかね一本十四尺六寸（原注）、横絹ニハ半折加懸ニ

ノ、すちかひ白ミを上ニ、黒ミの色からん、其内ニ一

備充之目印好一本之目印有之候条可得其意事（原注）ミたるへし、

一役目鉄砲すはい、一職三刃玉たるへく候、如右相定候儀

ハ、急成時玉之大小候ハ、役ニ不立儀可有之候、扱又

役目玉葉三百放之外、俄之節ハ不足次蔵入より相渡候時

之為也、すはひ相違之筒ハ、玉葉手前切ニ格護可仕事、

一役目鉄砲肩ニ懸候ても働候様ニ如馬廻之拵可仕事、

一役目弓何も誘弓ニ仕、長サ七尺三寸ニ仕事、

但、長サ相定候儀ハ、自然之刻、替張之ため如是候

事、

一役目弓ハ、一職箠本のことイ替（原注）揃候様ニ可仕事、

一物頭ハ小身たり共、主従十三人を下ニメ可召連事、

附、物頭は小身ニ而も、鉄砲壱挺、弓壱張、鎗一本可

一知行式百五十石上は、本役たるへき事、

一知行式百五十石之内、百七十五石迄ハ、主従十二人たる

へき事、

一又内馬乗之儀、六百廿五石ニ壱疋充之可為役目事、

一馬乗之主従、知行百廿五石之内ハ、八人たるへき事、

一知行百廿五石之内、百廿五石迄は主従十人たるへき

事、

但、心次第ニ空穂は不苦候事、

一鉄砲さし式本、しなひ長サかねの四尺三寸、横絹一幅地

白、絞ハ黒色ニ而も赤色ニ而も一組く好ミ、

一弓之者は指物なし、

一鉄砲之者ニは、甲・具足・道服・半籠手・股引・脚絆可着事、

一弓之者ニは、具足・道服・弓・籠手一本、股引脚絆腰当可着事(原注)・股引斗可着事、
右四ヶ条ハ、式千五百石上之役目也

一道行之時、弓・鉄砲・鎗之者へ一樣ニ道服可着、色ハ濃浅黄、絞ハ白丸、大サかねのさし渡シ一尺三寸たるへき事、

但、知行五百石上之役目也、

一役目鎗誘之儀、柄さや共長サ式間三尺、さや壹尺ニメ、

鳥毛鵝のくひ壹尺五寸黒塗可仕事、

一小道具之鎗数之事一本、持鎗之儀(原注)知行相当ニ可然候、千式百五十石内一本、物成三百石より(原注)之者、三本を上ニメ、一二本之間ニ相定候、其外ハ皆具

之鎗たるへし、

一知行式千五百石上ハ、小道具之弓・鉄砲ハ役目之外相定、式千五百石内之者ハ、右之小道具役目内ニ可仕事、

附、小道具之弓・鉄砲数之儀ハ、我々勝手次第たるへし、

一惣番さし物ハ、金の三本菖蒲たるへき事、

但、本のことく、

一左ニ黒母衣八ツ、金之半日足之持物十ツ、右ニあかね母衣八ツ、金之半日足十ツ半日足之長サ中式尺六寸、次第おとりニして両端式尺、但、本のことく、

附、母衣のだしハ、我々存シ、

一鉄砲袋之事、持筒ハ狸々皮たるへし、此外役目鉄砲ニも狸々皮袋之儀、我々心次第可仕事、

一遠路之時は、役目鉄砲一挺ニ、玉葉三百放宛たるへき事、

附、近国之時は、玉葉手前切たるへし、但長陣之刻ハ、不足次可相渡事、

一遠路之時ハ、役目弓一張ニ、金根之矢三十本充たるへき事、

附、近国之時は矢手前切たるへし、但長陣立之刻ハ、不足次可相渡事、

一知行百廿五石上之者、不断馬を可立飼事、

一知行百廿五石内、馬乗定置候者ハ、馬具手前より可相調置候、其時は馬は蔵入より可乗事、

一右条々諸道具誘候儀、知行相当々々可相誘事、

蔵入役

一諸組昇横絹式幅半、長サ金ノ拾式尺五寸折かけニ仕、すちかい白ミを上ニ、黒ミの内一補充目印可仕事、

但、馬廻之昇之者(は)目印無ニ可仕事、

一小馬廻ニ大吹ぬきニツ可仕事、

但、横絹ハは、長拾尺三寸、

一鉄砲さし物式本一本ニ本しなひ(原注)しなひ、

但、横絹一は、長サかねの四尺三寸、地白ク絞ハ黒色ニ而も、赤色ニ而も一組く好ミ、
一本、一組々々之具足之被同前たるへき

事(原注)

一小馬廻手明之使前三十人ニ、はれいたの羽織事、

一物見五十人ニ使と云字有之木綿羽織可着事、

一陸之者甲・具足・半籠手・道服・股引・脚半・腰当可着事、

一昇之者へ塗笠・具足一本、半(原注)・弓・籠手・股引・脚半・腰当・上帯・下帯之事、

一組付之鉄砲之者へ、甲・具足・半籠手・道服・股引・脚絆・腰当之事、

一組付之弓之者へ具足・半籠手・道服・股引・脚半・腰当之事、

附、道押之時は、塗笠可着事、

一長柄鎧百本、長サさや共ニ式間三尺、白柄うのくひ六尺、金の笛誘さや鳥毛長サ七尺二寸可仕事、

一長柄鎧之者へ塗笠・道服一本具足(原世)・しゅばん・股引・脚半・腰当之事、

一小道具五十本、長サさや共ニ式間、惣青具本ながさや鳥毛たつへき事、

一傍対之小道具十本、長サさや共ニ式間七尺、うの首青具さや鳥毛長サ七寸たるへき事、

一小道具之者百人へ、塗笠・道服・しゅばん・股引・脚半・腰当之事、

一諸組長柄長サ(鎧)五さや共式間三尺、長柄うのくひ七尺五寸、黒塗さや鳥毛長サ七尺可仕事、

一諸組長柄鎧之者、塗笠・道服・しゅばん・股引・脚半・腰当之事、

一直之馬取・挾箱持如是類之者は、道服・しゅばん・股引・脚半・腰当之事、

一鉄砲六匁す小馬廻ニ式百拾挺、諸組ニ式百挺、此外ハすハひ一職三匁玉たるへき事、

一弓之誘小糸巻ニメ、七所藤長サ七尺三寸可仕事、但、長サ相定候義、自然之刻、替張のため如此事、

一玉薬之事、

一かな根之矢并木鋒之事、

一普請道具之事、

一大工おが鍛冶如定置候可召連事、

但、人数不足之分ハ、領中大工おが鍛冶兼て改置、到時、料を取せ可召連事、

軍陣役者之事

一軍奉行式人
一惣見計
一物見奉行四人
一道押奉行馬廻并大備ニは式人宛、小備ニは式人宛たるへ

き事、

一右奉行之儀、大組頭は其組内より、大物頭ハ其家中ル可申付之事、

一奉行何も其晩く旗本へ参、行儀之様子可承事、

一張番奉行式人
一仕寄奉行式人
一仕寄之儀、普請は先手之者仕入へき道具ハ諸備より可相続事、

一陣取奉行、跡先式人充ニメ式組、

一見合を以、一備宛段と陣取むさと無之様ニ可申付候事、

一普請奉行 馬廻ニ一組式人
惣備ニ一組式人
一家中ルも普請者出入可有之候条、前を以、可得其意候事、但シ諸組渡之外也、

一普請者として夫丸百人
一玉薬持夫三百人着陣之後ハ、此夫普請可仕候、但遠国

之時(は)五如此たるへし、近国ニ而ハ、式百人召連、玉薬ハ漸く可取寄、

一普請具色(持)五可為揃事、

一道城戸柵堀土井一備く仕廻次第段と可申付候事、

一諸職人之頭式人
一武具奉行都合存式人
一小奉行三人、内玉薬奉行兩人、矢奉行式人

但、在国之者より、

一役人之頭式人
一着到前ニ合、遠近ニ随ヒ、段と兵糧可相渡事、

一金銀米銭遣様手頭を以申渡事、

一諸色可入物調置、不手問様ニ前を以可覚悟事、
一働之日記役 先式人
但、横目之内より
右之条と堅可申付候、就中武具役目其外之儀も、親類・

家中聞落無之様ニ為後日以書付可申渡者也

(別写本に本文が「軍役・蔵入役・軍陣役者之事」の項と同じで、日付があるのでそのところのみを左に転載しておく)

「慶安五年

八月廿二日

- 鍋嶋山城守殿
- 鍋嶋若狭守殿
- 多久美作守殿
- 諫早豊前守殿
- 鍋嶋左京亮殿
- 鍋嶋内蔵助殿
- 鍋嶋玄蕃充殿

右七人へ相渡候帳之控也

慶安五年

八月廿二日 信濃 御印

(以下は五冊本で方法度とある) 一 奉公人之儀は不及沙汰、百姓・町人ニ到迄、上下之礼儀

致疎略間敷事、

附、他方衆へ到而之礼儀、家中可為同前事、

一 兼而寺社方へ申渡候掟之趣無相違様ニ、切々寺社奉行へ可申渡事、

一 於領中新地ニ寺社建立仕候儀可為停止事、但、相建候ハ、て不叶儀於有之は、我等承候上可申付事、

一 海陸共ニ法度於在所、鷹仕并鉄砲ニ而鳥を打、締を指候儀法度ニ申付事、

一 於在々川筋ニ井手を築并田ニ引候水分、山田之草切場前々定之外、私ニ新儀仕候庄屋・百姓於有之ハ、可為曲事候、自然仕替候ハて不叶儀候半は、郡代・代官迄可申届候事、

一 於領中百姓・町人刀脇差差候儀、段々定置候上、若相背者於有之ハ、見合次第則刀脇指取上可申候、自然緩セ之儀も候半は、代官・領主可為越度事、

一 百姓として、一切刀脇差を堅ク可停止事、

一 大庄屋(一本大庄屋・小庄屋ハ腰下アリ)兩腰差候義不苦候事、

一 小庄屋は、脇差斗り差免候事、

付り、壹尺三寸上可禁止事、

一 町人ハ、脇差斗り差免候事、

付り、寸之定右同前、

一新廻子七百八人へは、脇差斗差免候、

小頭ニは兩脇差免候事、

一 辻立辻相撲停止之事、

一 跳并浮立(宋書)「其外能舞操之類」此廉七本帳写「原注」停止

之事、

但シ、仕候ハて不叶時は、郡代へ申届、其上ニ(一本伯耆ナ)て伯耆・

主水・玄蕃へ相尋、下知次第可仕事、

一本、但シ、祭礼ニ付而仕来之所ハ格別候条、主水・玄蕃墨

付を以許置候、其外若仕候ハて(原注)

一 水かけ停止之事、

一 若衆狂其外徒成儀、禁止之事、

一 右之掟相背候本人男百姓町人ニおひてハ、さらし物ニ仕、輕重次第生害可申付事、直之者・又内ニよらす扶持人之儀は、輕重次第改易か生害かニ可申付候事、

一 如右相定候上は、使仕候儀堅法度ニ申付候、若無抛仕候ハ、其段給人ハ組頭、又内は主人、百姓・町人は庄屋・別当まで早速申届、別当・庄屋ヲ領主・代官・町奉行可申達候、然時は使仕候者之科可差免候、自然隱置悪事令出来於顯然は、本人同罪可申付候、さそひ候者も可為同前事、

一 於寺方前髪有之者ニ付而、給人・百姓・町人ヲ申懸儀於有之は、早速寺奉行迄可被申届候、若隱置悪事出来候半は、納所有之寺ハ、納所可為越度事、

付、於小広悪事出来候ハ、其住持之儀、本寺ヲ可有之候条、此方承届候上可及差凶事、

一 山伏・社家、是其頭ヲ可有之候条、此方承届可相

証事、

一小給之者并百姓・町人ニよらす、若女房(二)五暇を取せ候儀於有之ハ、何時も男ハ箆を取可申候、自然箆無之候ハ、離別之沙汰有間敷事、

付、不依男女召仕候者、隙を取せ候刻も、其主人ハ箆可差出事、

一上方御普請者雇扶持方粗九石を上ニメ、其下ハ挨拶次第たるへき事、

一中間・あらしこ・扶持方粗六石を上ニメ、其下ハ挨拶次第たるへし、自由之時は、師走十三日限たるへき事、

一庄屋・百姓衣類之儀、布木綿之外着仕間敷事、

但、布木綿之外着候ハて不叶者は、大目附切手可差出事、

一庄屋・百姓・町人女房乗物之儀、停止之事、

但、乗候ハて不叶者は、大目附切手可差出事、

一城下町并津町通宿之外、酒を作り売買仕間敷事、

一於在ニ何色ニよらす振売堅停止之事、

一諸津・諸町ニ罷居候被官之儀、町並之諸公役可相掛事、

一鉄砲稽古之儀、手島之北土手、諏訪之宮并武藤八王子之宮此三ヶ所ニ而は、一所ニ射場式ツ三ツ間(二)五も不断鉄砲打可申事、

一年之夜ハ三ヶ日之間、吉初鉄砲打候儀、堅可停止事、

但、三ヶ日後ハ定置候射場ニ而、吉初鉄砲可打事、

覚

一衣裳之事、

一知行千石ハ上、絹布之類着シ而も不苦事、

但、目ニ立候衣類可為停止事、

一知行千石より下之者、上着ニは日野紬・木綿之類可着、

下着ニは、古絹布并下直成絹布之類差免候事、

一本ニ知行千石ハ下之者ニハ、古キ絹布并下直成絹布類差免

候事(二)原注

付り、小ニ姓之儀は外客之時は、直之小ニ姓、又内ニよらす、上着ニも絹布差免候事、

一他所へ罷越候刻は、衣裳之儀其沙汰有間敷事、

但、池戸詰并供之者於上方は、知行相当ニ如定置候可着事、

一陸小姓衣裳之事、下着共ニひの紬・木綿・かみこの類たるへし、

但、上帯・下帯ハ絹布差免候事、

一医師・茶道・芸者ニは衣裳之定なし、

一中間以下之者ハ布木綿・かみこの外、襟・袖・へり・上帯・下帯ニも絹布之類可停止事、

一又内之者ニ而も衣裳之定、直之者可為同前事、

一乗掛蒲団目ニ立候絹布堅停止之事、

一女中方衣裳之事、

一知行千石ハ上ハ、絹布之類着候もか(二)原注て共不苦候、着物帷子ニよらす唐物・日本柄ニても、高直成物之目ニ立候衣裳、

縦正月・五節句たり共、妄ニ於有之は、其男可為無念事、

一知行千石ハ下之者、上着ニは日野紬・木綿之類着すへ

し、下着ニは古キ絹布并下直成絹布之類差免候事、

一帯之事不依上下、唐物・日本柄ニ而も、高直成物之目ニ立候帯、堅可為禁止事、

一養寿院・徳寿院・長寿院御衣裳ハ、各別之事、

一千石ハ内之者、子共よめ入之時、夜之物ふとん之事高直

成唐物并唐織少ニ而も、鉋入たる物可停止、諸道具梨子地蒔絵禁止之事、

一年頭・歳暮礼物之事、

一本丸ハ、十帖廿帖酒肴菓子之類、相当ニ可然之事、

一諸祝儀ニ遺物停止之事、

但、祖父・祖母・父母・兄弟・孫・甥姪・賀・あいやけ右之分、百疋十帖廿帖扇子之間たるへし、

一如睦ニ而家中万事之すきわひ、見苦候ても不苦候条、我々勝手ニ相成候様可仕候事、

一 振舞之事、

一 我等丹後守振廻之時は、二汁三菜、引物三、酒之献肴数ハ不定、

一 不依男女常之振廻は、二汁三菜ニ肴式ツたるへき事、是ル内之儀ハ心次第ニすへし、酒之献ハ三返之事、

一 智入・娶取其外諸祝儀之時ハ、二汁三菜、引物三、酒之献肴数ハ不定、但、不可及乱酒事、

一 木具台三方一切可停止、但シ我等丹後守へ初て振舞之時は出シ可申候、切々振廻之所ニ而は、子共其外ニ而も曾て出申間敷候事、

付、智入・よめ取諸祝言之刻ハ可依時宜、

一 不依夜白不時之酒之事、

常之織部盃ニ而五篇之外、堅停止之事、

一 私之振廻之時は不及沙汰、我等丹後守振舞之刻も、鶴縦

手前ニ取合候共、出ス間敷候事、

但、我等ル遣候鶴は各別之事、

一 我等・丹後守振舞之時、亭主ル不呼者為見舞参候儀、可為停止事、

一 他方ル之使者・飛脚振廻は各別之事、

右之条々無相違様ニ可被申付者也

明暦元年

七月十二日

信濃守

鍋嶋山城守殿

多久美作殿

鍋嶋左京殿

諫早豊前殿

鍋嶋伯耆殿

鍋嶋主水殿

鍋嶋玄蕃殿

(是ル前、鳥ノ子帳写) (原注)

一 都合メリ心遣

美作守

左京

豊前守

鳥ノ子御帳 写 六

万用所之儀は、其方三人え申付候就其我等存候分、此帳

面書付相渡候、此条数之内除之分、又加候儀も其方三人

校量次第ニ可申付候、急敷時不手間様と存如此候

外題条々

一家老役

一 使者・飛脚之時仕組

一 上使衆領中往来之時之仕組

一 各領中往来之仕組

一 長崎御番ニ付而之手頭

一 長崎え惣人数罷越候跡ニ上使并各往来之時之仕組

一 曆々之御上使之時之仕組

一 他方え之連判伯耆・主水・玄蕃可相加ル事、

一 上使并各往来之刻出合

一 使者振廻并見廻通事渡

一口事沙汰并下之訴訟事

一 寄合

一 他方え之連判

一 上使并各往来之刻出合

一 使者振舞并見廻返事渡

但、玄蕃口上

在国之時は、式部・勘翁由・李之助も相加

一口事沙汰并下々訴訟之儀、就中伯耆・主水・玄蕃可入念

家老役

付、書物ニ而於申出は、当番ニ相渡候様ニと定置候事、

事、

一寄合

一御上使扱并使者飛脚

上十日

鍋嶋伯耆

付、寺井置船存

中十日

鍋嶋主水

下十日

鍋嶋玄蕃

一諸役者并諸蕃

右手伝

一本二須古八兵衛
深江橋左衛門(原注)
本吉七郎兵衛

一本二名当ナシ(原注)
川浪弥左衛門

在国之時、式部・勘翁由・李之助も相加ル(原注)

一用所之儀、請役くニ申渡事、

右之外、家老役一職可為請役候条、十日替ニ可然候、縦五

人之家老は五人共ニ相詰、用所令相達候儀、諸家大小共其

沙汰ニ候就、其每物無延引相調、家老之仕付ニも成事候、

無左候得は、每事遅ニ申候如、家内之メリも無之、見懸悪

敷、每物輕相成儀ニ候、乍然毎日詰居候儀は、氣根も相統

間敷と存、三人ニ而十日替ニ定置候条、我等在国之刻は、
代々毎日日本丸ニ相詰用所相達可然候、非番之時も切々令登
城談合尤候、若当病差合之節ハ、次番の差次可申候、

使者・飛脚之時之仕組

一他方之使者・飛脚參候ハ、東ハ牛嶋え、西ハ八戸口

番之者として、何方のニ而候哉相尋、直ニ使者屋え案内

者可付事、

付、右之外、所道口并津口番之者へも使者・飛脚參

候ハ、相尋、此方へも使者・飛脚之儀申候ハ、直ニ

使者屋え案内者仕候様、兼而可被申付事、

一右之段、使者屋敷之者へ早速内蔵助・玄蕃・山本神右衛

門・竹田権右衛門・丹羽喜左衛門へも可申届事、

一使者・飛脚え出合付居候者

(五冊本になし)校注
内巻人は目附見合可申付候

此内式人宛
此人数一本相違アリ(原注)

一本組合

川浪 格兵衛

馬渡 新右衛門

石井 清左衛門

石井 三郎兵衛

石尾 又兵衛

山崎 右馬助

目大木 勝右衛門

中野 嘉右衛門

福地 覚左衛門

永山 十郎兵衛

高木 卯右衛門

深江 吉右衛門

附石 井十助

中野 卯右衛門

三上 喜兵衛

二番二月 四月 六月

八月 十月 師走

岩村 忠兵衛

式 森川 又左衛門

草野 十右衛門

蒲原 善左衛門

八月 十月 師走

中野 宇右衛門

草野 五郎兵衛

人下村 安右衛門

土肥 清右衛門

中野 嘉右衛門

一使者屋え付居候而馳走役者

草野 五郎兵衛

草野 五郎兵衛

(原注)

一番正月 三月 五月

七月 九月 霜月

石井 小右衛門

福地 覚右衛門

草場 藤右衛門

有田 左馬助

有田 左馬助

中野 平右衛門

嬉野 十左衛門

此内式人宛

中野 奎助

中野 奎助

木下 五兵衛

成富 兵右衛門

相浦 源左衛門

福地 吉左衛門

福地 吉左衛門

水町 弾右衛門

久布 白権左衛門

川浪 権兵衛

鍋嶋 采女

鍋嶋 采女

福地 市郎兵衛

半田 七郎左衛門

小川 五郎兵衛

百武 伊織

百武 伊織

牧 六郎兵衛

多良 久兵衛

田中 善兵衛

一我等を使者え使遣事、

一我等を使者え使遣事、

於保源 五右衛門

石井 清左衛門

西留 清兵衛

一我等相伴ニ而使者を振廻候時、脇相伴人之事、

一我等相伴ニ而使者を振廻候時、脇相伴人之事、

勝屋 藏人

副嶋 八右衛門

西留 清兵衛

一我等相伴ニ而使者を振廻候時、脇相伴人之事、

一我等相伴ニ而使者を振廻候時、脇相伴人之事、

一 御一門方并、国持曆之衆之使者を我等相伴にて、無

之振廻之時、子共又は親類中相伴之儀并脇相伴人、其節

ニ到而可申付候、付り、通は直之小々姓可申付事、

一 使者屋ニ而振舞候使者之相伴之儀、於節可申付候、付

り、通は親類中も可然候、然時は脇相伴之儀、於時可

申付事、

一 使者振廻候人、奥ニ書付置候条、於時人差可申付事、

一 使者・飛脚返事渡手時ニ到而可申付事、

一 使者・飛脚え遣物之事、

右役者我等在江戸之時は、其方として見合可被申付事、

一 御一門方并国持衆之使者之時、使者屋見廻、

此内之咄人

鍋嶋若狭守

此与合も同断 多久美作守

一番 正月 三月 五月

七月 九月 霜月

此内之咄人

鍋嶋縫殿助

鍋嶋玄蕃充

別紙組合此内之咄人

多久美作 鍋嶋能登

多久長門 諫早豊前

鍋嶋主水 鍋嶋玄蕃

此内咄人見合可申付事、

鍋嶋中務 鍋嶋縫殿助

鍋嶋監物 鍋嶋隼人

鍋嶋主税 鍋嶋正右衛門(原注)

二番 二月 四月 六月

八月 十月 師走

此内之咄人

鍋嶋左京亮

鍋嶋内蔵助

鍋嶋八右衛門

有田主税(原注)

二番 二月 四月 六月

八月 十月 師走

鍋嶋主水佑

鍋嶋舍人佑

使者不依高下見廻可申

山本神右衛門

一 鷹持参之使者之時請取手

大木庄右衛門

大野吉兵衛

一 我等在江戸之時は、国元え罷在候小々姓も使者通ニ之罷

出可然事、

一 両所之使者屋置物

一 屏風両所 一所は、金屏風

一所は、白地屏風墨絵

一 台子風炉釜両所

付り、諸道具別紙ニ有り

一 置こたつ両所木鳥

付り、をき取火はし

一 こたつふとん両所

表ハ、京こくの類
裏ハ、ひはふたへ

右使者振舞之儀、到時人差可申候、縦家居等見苦候共不
苦儀候、曆之使者之時何そニ差合候而、本丸にて振

二 一手拭掛木鳥両所

付り、手巾二ツ宛

一手水鉢両所ヤキ物

付り、ひしやく副て

一もめん衣着両所飛脚之用

一手しよく二ツ宛

一燈台二ツ宛

一料理道具両所

付り、細付別紙ニ有

一振舞道具両所

付り、細付別紙ニ有

一風呂屋両所

一ゆかた二ツ宛

一衣桁一ツ宛

一右之外諸道具別紙ニ有

右両所共ニ無不足様ニ兼而調置、損候物は、段々仕直し候

様ニ、同所へ原注山本甚右衛門え可申付事、

一使者・飛脚逗留間、竹田権右衛門・丹羽喜左衛門付居候

て無迦様、諸事相調馳走可申候、苦手聞之儀共候ハ、

内蔵助・玄蕃・同所へ原注山本甚右衛門え可申届事、

付り、竹田権右衛門・丹羽喜左衛門此兩人之内、上方

え罷出又は当病差合之時は、到其節使者出合候者之内

の差次候様可被申付事、

一御一門其外ニ而も使者・飛脚罷帰候刻、様子ニ寄、領中

人馬船已下見合馳走可申事、

他方々の使者・飛脚取持見合

此内老人充

福地 覚 左衛門

蒲原 善左衛門

三上 喜兵衛

中野 嘉右衛門

馬渡 新右衛門

此内一人

川浪 権兵衛

小川 五郎兵衛

一番 正月 三月 五月
七月 九月 霜月
二番 二月 四月 六月
八月 十月 師走

相蒲源 左衛

田中善兵衛

西留清兵衛

右使者・飛脚取持之儀、銘々役者相定置候条、諸事迦之儀

又は不懸合杯有之哉否之儀為可承、横目之者とも使者出

合之内ニ相加召置候、

一使者飛脚ニ出合候者并見廻又は使者振廻候人、其外役者

定置候条、無懈怠罷出候者、扱又当病差合候者於有之は、

其断銘々細ニ書付、我等在国之年は師走、上国之年ハ八

月限ニ見せ可申候、右書付之役者主水・玄蕃下役之者え

申付事、当分は古賀正兵衛・勝屋新右衛門え申付候事、

付、右書付様、別紙ニ書付相渡候事、

如右使者・飛脚之仕組書付相渡候条、無迦様ニ念を入可

被申付事、

一長崎御上使之内衆之義は不及申、其外隣国・上方の使
者ニ而も、寺井・本庄町間を諫早ニ渡海仕度と所々別当

・散使迄相頼候半は、寺井は上使屋敷之者、番本庄町は付

置候番之者へ別当・散使間より早速可申届候、於然は番

之者右被罷通之衆え出合致面談、長崎御上使之衆ニ而候

哉、又誰之衆ニて候哉委敷承、両所渡置候小早ニ舸子無

不足乗セ、但無延引渡海可申付候、隣国・上方の罷下候

商人杯紛候て不乗様、能ク相改候様可申付事、

付、右渡海之衆於有之は、両所番之者其段主水・内

蔵助・玄蕃・相蒲源左衛門・山本甚右衛門迄、早々様

子可申届候、

一諫早・神代・竹崎浜其外津々、長崎御上使之内衆并隣

の国・上方之使者、渡海船之義相頼候於有之は、人能承届

其所之領主・代官を渡海之船・舸子乗セ無遅々差出、無

滞相調候様ニ、兼而其覚悟仕可罷在由、銘々申渡可召置

事、

右定ニ相違之義有之て、後日緩之義於顯然は、曲事ニ

可申付候条、稠敷銘々可申付候、

上使衆領中往来之時之仕組

一九州え上使御下向之由候ハ、大坂出船日限之儀申遣候
(様ニ) 二三 こと天満え可申越候、但此方かまいなき上使衆ニ候半
 は、右之不及聞合事、

付、黒川与兵衛殿・甲斐庄喜右衛門殿上下之儀は、每
 年之事候条、能く不及申遣候便も候ハ、出船之儀可
 申越候事、

一御上使ニ在国之刻は、我等(三冊本の字なし) 註鍋嶋式部少輔船中迄以飛
 札、音信可申義も可有之事、

鍋嶋式部少輔

一上使衆寺井御通ニ候ハ、我等出 有田左馬助

合ニ而振合可申候、若出合不申候 中野奎助

半は、以使者音信可申儀も可有之 百武伊織

事、 鍋嶋采女

一領中御通之上使ニ候ハ、御着船之所迄前廉より慥成使

者を付置、家老共より候て内衆へ可申入候、領中於所
 へ無御存者罷出候半は、御用被仰付ニ而も可有之候条、

前廉各え御知人ニ罷成、御先へ罷越御用も承候様ニと
(差) 二三・五 存、某罷越申候由申遣、(通) 二三・五 領分御通日限并泊く其外夫小荷
 物駄之員数はたこ等之様子能相尋、其段先達而申越候様

ニと申付、飛脚余多相付遣可然事、長崎へ御上り候半
 は、矢上え遣置、知人ニ成承合、右可為同前事、

付、目附方へも右之者ニ申付、何事そ手問之義又は首
 尾能義など、心持ニ相成事候条、其一切く善悪共ニ
 有体可承事、

一所へ郡代付居候而、万事不手問様ニ可仕候、但付居候儀
 不相知様忍可罷在候、内衆へ取合のため前廉一人知人ニ
 なし、領中付廻り候様ニと申付候間、夫小荷駄其外之用
 所等、其者として聞次可申候条、郡代罷出候儀、必可無用
 候、自然あなたより被相尋候共、別村ニ罷在由、下へ迄申
 候様ニ可然事、

一人夫之儀、付居候者へ員数申来次第、其員数少余慶ニて
 可出置候、長持染荷繩相副、轟木・矢上ニ五十本充可召
 置候、但口上、黒川与兵衛殿・甲斐庄喜右衛門殿往来之
 儀は、毎年之事候条不及差出事、

付、此中は人夫ニ奉行無之候而、不行儀ニ候条、先様
(無は三、五冊本になし) 註 慥成者申付、無藤次無之様可仕事、

一小荷駄之義、是又申来候員数少余慶ニて可出置候、此中
 は是も不行儀候条、先様之儀、兼而小荷駄役者ニ定置候も
(三) 二三 の、そこく之馬数も存たる事候条、其者領中付廻り郡
 代令相談、無手問様ニ可仕候、ちいさき馬・くせ馬など
 ハ被嫌候条、其心得尤候事、

一道橋之修理掃除之事、

一宿々ニは時々おケ水を打可申事、

一夜ニ而候ハ、町中あんとん可差出事、

一何方ニ而もほき又ハきれとなと有之所には、夜ニ候ハ

、たい松を出し可申候事、

一道筋ニ掃除仕候者、箒持候て十町斗間ニ可被有事、
 一本陣之用意一通、置物一通りは、はたこ一通、売物一通
 り氣遣仕候儀、慥成者申召置、到時無手問様、兼而其心
 遣可仕事、

一はたこ之儀、供え上下人数付居候者へ申来次第、少シ余
(計) 慶候て念を入、奇麗ニ可申付事、

一食事第一ニ候条、黒くこわくへたつき候ハぬやうニ、新
 たにて仕間敷事、

一飯米ハ高下なしニ、何も上白たるへし、其故ハ、米ニ上
 下候へは、たへ候者悪敷申之由候事、

一かうの物其外精進物切候庖丁、なまくさく無之様可仕事、

一汗何ニ而も寄麗ニ可入念事、

一椀・折敷之儀、段々相当く見苦敷無之様可仕事、

一はたこ誘物数、到時定無之候ハ、高下見合可申付事、

此ケ条一本ニなし(原注)

右はたこ屋急度出来候様ニと、慶安四年七月十九日ニ、
(此条、三冊本になし) 註

有田左馬助・中野全助を以申渡候事、

一矢上・諫早・寺井・神崎・轟木右五ヶ所上使屋之脇ニ、
はたこ屋を十間斗ツ、誘置候事、

但、表をはたこ屋誘ニ仕候義不相成所候ハ、うらニ
めしたべ所、其時ニ当座ニ小屋懸可仕事、

一宿々売物之儀、米・薪・大豆・塩・噌・馬之粥・くつわ
らち等其外無手問様ニ可出置事、但直段之儀安く申候得
は、つかえ所有之義候条、諸色其所ノノ双場次第ニ売
可申候、売候儀双場之内かどハ不苦候、双場ノ高直ニ売
候儀、曲事たるへし、

一於寺井ハ其日出船ニ候共、振舞申、供之家老并小々姓ニも
膳を出し、其外ははたこに可申付候、左候而若狭守被罷
出可然候、(原註)差合候ハ、美作・左京・内蔵助間ニ罷出尤
候、若日和悪敷候て泊ニ候ハ、風呂をたかせ可申候、
一兩日之逗留ニ候共、重而不及振舞、(候)何そ見合、朝晩料
理ニ可相成物を、台所宛迄可遣事、

付、長崎ノ上之刻も、寺井ニ而ハ、右之ことく振廻申
可然事、

一寺井ノ諫早渡海船之儀、乗衆緩りと有之様ニ余慶候而、
早船・小早荷船数見合セ可差出候、人数相当ニ相渡候儀
ハ、能も有之間敷事、

但、上使召船加テ大早船五艘、廿丁立式艘、拾式丁立
三艘、合拾艘其時々見合セ次第、荷船ハ此外ニ入用次
第可然候、右召船ニハ、見苦無之筋之帷子一揃着セ可
申候、供船之内、大早(船)老艘・小早(船)老艘右筋帷子一様ニ
セ着可申事、

一寺井・諫早ノミせ船可差出事、
一日和悪敷候て、御上使之船頭中かゝり候半は、其所ノ小
船差出、夜ニて候ハ、たい松をともし、船かゝり能様
ニ可仕由、兼而浦々え申付可召置候事、
一田沢助左衛門・西五太夫間ニ、案内者として乗船可仕候、
あなたノ頓ニ無用之由候ハ、相控可申事、

一右乗船ニハ、米・薪・酒・塩・味噌・し(酢)やう油・魚・鳥
・野菜之類并鍋釜・まないた・水桶之類、見合乗セ置可
申事、

付、供船ニハ見合せ次第、椀・折敷・米・薪斗乗セ置、
其外之物も、用所ニ候ハ、差出可申事、

一自然陸被通儀も候ハ、多良海道一通之掃除并両所之水
小屋刑部太夫・豊前守ノ兼而誘置、弓・鉄砲之者之間、
老人付置可申事、

一在江戸之刻、何方ニ而も佐嘉近所泊之時は、其所え若狭
守出合可被申事、

一紀伊守・甲斐守・刑部太夫・若狭守・美作守・豊前守知
行中を御通之刻、其領主ノノ無手問様ニ可申付事、
付、諫早・矢上両所之儀は、如此中豊前守より無手問
様ニ申付可然候、諫早・豊前守居合候ハ、出合置候、
左候て泊ニ候ハ、何そ肴之類見合音信可申事、

所々茶屋之用意

一佐嘉称念寺・願正寺

両所、鍋嶋内蔵助存、

但、諸色蔵入ノ可申付候、

一右両所共ニ、上使衆其外各被通候刻、我等出合ニても、
勝手事様ニすまひ等、寄麗ニ可申付事、

一たゞ下地を能仕置、表古ク成候ハ、到時備後表之中
之下ニ而、表替可仕事、

但、へりハたかみや

一二重たゞミ 但、へりハたかみや

一手拭懸 但、木立、附り、手巾ニツ

一手水鉢やき物 附り、ひしやく

一置こたつ 但、木立、附り、火はしおきとり

一こたつふとん 表ハ唐物之類、裏ハ備はふたへ

一せついでん就中寄麗掃除之事、

一柴垣ぬれゆか其外、見苦無之様ニ、到時仕置可申事、

一右両所間ニ一所書院可有之事、

一書院有之寺ニ、風炉屋あるへき事、

一ゆかた三ツ 一ふろしき式ツ

一衣桁壺ツ 但、木立

右之外、諸道具別紙有

一風呂屋無之寺ニ、湯殿狭ク無之様ニ、寄麗可申付事、

付、行水道具細付、別紙有

一振舞道具、茶之湯道具其外屏風等到時、本丸可遣候、

但、茶之湯仕懸候所は、前を以可仕置事、

一米・薪・炭・酒・塩・味噌・酢・醤油・魚・鳥・野菜之

類、置物不事關様可仕事、

一寺井

鍋嶋玄蕃存

但、諸色蔵入可申付事、

一たゞミ下地を能仕置、表古り成候ハ、時々到而備後表

之中之下ニ而、表替仕へき事、

但、へりハ、たかミヤ

一二重たゞミ 但、へりハたかミヤ、

一置こたつ 但、木立、付、火はしおきとり、

一こたつふとん 表ハ唐もの之類、裏ハ備はふたへ、

一手水鉢ヤきもの 付、ひしやく

一手巾掛 但、木立、付手巾二ツ

一風炉釜諸道具揃て 但、台子有

付、細付別紙有

一屏風式双 金屏すなこ地

一料理道具・椀・折敷其外諸道具 細付別紙有、

但、椀・折敷当分上中下式百人前可調置候、自然曆々

之御上使御通之時ハ、其節ニ到、入用次第可調次事、

一風呂可有之事、

一ゆかた三ツ 一ふろしき二ツ

一衣桁壺ツ 但、木立

右之外、諸道具別紙有

一せついでん就中寄麗掃除之事

一柴垣ぬれ床其外見苦無之様、到時仕直シ可申事、

一米・薪・炭・酒・塩・味噌・酢・しやく・魚・鳥・野菜

之類、置物不事關様可仕事、

一神崎

鍋嶋中務存

俄之節、不事關様可誘置候也、

領主へ申付候条々

一夫小荷駄之儀、員数申来次第、少余慶ニて出可置事、

一道橋修理掃除之事、

付、道筋掃除仕候者、十町斗間ニ、はたき持候て可罷

在事、

一宿々ニは、到時水を打せ可申事、

一夜ニて候ハ、町中あんどん差出并何方ニてもほききれ

となと有之所ニは、明松を出可申事、

一はたこ之儀、供之上下人数申来次第、少余慶候て入念、

寄麗可申付事、

一食第一候条、黒くこわくへたつき候ハぬやうニ、新らし

き釜ニ而仕間敷事、

一書院有之寺ニ、風炉屋あるへき事、

一ゆかた三ツ 一ふろしき式ツ

一衣桁壺ツ 但、木立

右之外、諸道具別紙有

一風呂屋無之寺ニ、湯殿狭ク無之様ニ、寄麗可申付事、

付、行水道具細付、別紙有

一振舞道具、茶之湯道具其外屏風等到時、本丸可遣候、

但、茶之湯仕懸候所は、前を以可仕置事、

一米・薪・炭・酒・塩・味噌・酢・醤油・魚・鳥・野菜之

類、置物不事關様可仕事、

一寺井

鍋嶋玄蕃存

但、諸色蔵入可申付事、

一たゞミ下地を能仕置、表古り成候ハ、時々到而備後表

之中之下ニ而、表替仕へき事、

但、へりハ、たかミヤ

一二重たゞミ 但、へりハたかミヤ、

一米・薪・炭・酒・塩・味噌・酢・しやく・魚・鳥・野菜

之類、置物不事關様可仕事、

一神崎

鍋嶋中務存

俄之節、不事關様可誘置候也、

領主へ申付候条々

一夫小荷駄之儀、員数申来次第、少余慶ニて出可置事、

一道橋修理掃除之事、

付、道筋掃除仕候者、十町斗間ニ、はたき持候て可罷

在事、

一宿々ニは、到時水を打せ可申事、

一夜ニて候ハ、町中あんどん差出并何方ニてもほききれ

となと有之所ニは、明松を出可申事、

一はたこ之儀、供之上下人数申来次第、少余慶候て入念、

寄麗可申付事、

一食第一候条、黒くこわくへたつき候ハぬやうニ、新らし

き釜ニ而仕間敷事、

一武崎

諫早豊前守

一武雄

鍋嶋若狭守

一嬉野

鍋嶋右馬充存

一矢上

諫早豊前守

一諫早

諫早豊前守

一田良

諫早豊前守

一浜

嬉野与左衛門

一高町

鍋嶋勝右衛門存

一小田

多久美作守存

「一牛津

鍋嶋市正存

(以下、「寺井」の項とほゞ同文なので略し、場所と人名のみを記す)

一本 鍋嶋監物(原注)

一本 館登(原注)

鍋嶋若狭守

一 飯米ハ、高下なしニ何も上白たるへく候、其故ハ、米ニ

上中候得は、中白をたたへ候者悪く申候由候事、

一 椀・折敷之儀、段々相当く見苦無之様可付事、

一 一する何ニ而も寄麗ニ可入念事、

一 はたこ誘物数、到時定無之様候半ハ、高下見合可申付事、

一 宿々売物之儀、米・薪・大豆・塩・噌・馬之粥・杓わら

ち等其外手間なき様出可置事、

但、直段之儀、其所ニ双場次第うらせ可申候、双場

内廉は不苦候、双場高直ニ売候儀可為曲事、

一 上使長崎登之折ハ、打立候日限、長崎藏床ニ付置候者

承合、早速佐嘉え申越候様ニと、兼而定置、一左右次

第渡海之早船・小早荷船数校量を以、前廉差廻可申事、

附、案内者并置物之儀、右可為同然事、

一 上使并各往来其外使者之時、茶入用候ハ、何時も可差

出候、在江戸之刻は、茶壺、石井右衛門・関千左衛門・

石井吉右衛門手前ニ渡置候事、

各領中往来之時之仕組

一 領分境内迄(目二三・五)遣成使者を遣、泊候其外夫小荷駄員数并寺井

・諫早間渡海候ハ、船之員数等能相尋、其段先達而

其方又ハ先々え可申遣事、

付、御人体ニより着船之所又は他領迄、使者を可遣哉、

到其節吟味次第可仕事、

一 所々ニ郡代付居候而万事不手間様可仕候、但付居候義不

相知様、忍可罷在候内衆へ取合之為ニ兼而使など仕付候

軽キ侍所々ニ老人宛付置、夫小荷駄其外之用所等其者と

して聞次可申間、郡代罷出候儀は、必為無用候、自然あな

たより被相尋候共、別村ニ罷在候由下々迄申様可然事、

但、人体ニより頭郡代付居不及、下郡代・侍老入ツ、

相副候て、所々召置、用所可相違事、

一人夫之儀、員数申来次第、其員数ニ少余慶候て、奉行申

付可置候、

但、人体ニより長棒備荷繩も可出置事、

一 小荷駄之儀、是又申来候員数ニ少余慶候て可出置候、小荷

駄役者領中付廻候て郡代令相談、無手間行儀能様可仕

候、但人体ニより役者付廻候ニは不及候、郡代手前可

申付事、

一 道橋之修理掃除之事、

一 宿々には、時ニ到而水を打せ可申事、

一 一夜ニて候ハ、町中あんどん可差出事、

一 何方ニ而もほき又はきれてとなと有之所ニは、夜ニ而

候ハ、たい松を出可申事、

一 所々本陣之掃除一通并宿々売物一通之義、儘成申付召置

無迦様可入念事、

付、売物之儀、其所く之双場次第売せ可申、但双場

内かと不苦、双場高直ニ売候儀曲事たるへし、

一 旅籠之儀、あなたより被申次第可申付事、

付、はたこ於申付は、飯米ハ高下なしニ何も上白たる

へし、其故ハ、米ニ上中下候へは、中白をたたへ候者悪

敷申候由候事、

一 我等在国之刻ハ、両度程使者を以可申入事、

付、音信ハ到時可相究事

一 寺々渡海ニ候ハ、杉重可遣事

鍋 嶋 式 部

有 田 左 馬 助

中 野 奎 之 助

福 地 吉 左 衛 門

百 武 伊 織

一 寺井・諫早之間渡海ニ候ハ、船之儀乗衆緩りも有之

様ニ余慶候て、早船、小早荷船見合可差出候、人数ニ相

当ニ相渡候儀は、能も有間敷事、

一 寺井・諫早々々せ船可差出事、

一日和悪敷候而船かゝり候ハ、其所より小船差出、夜ニ

而候ハ、たい松をともし船かゝり能様ニ可仕由(兼二三・五)

一船と置物ニは不及事、

一何方ニ而も佐嘉近所泊ニ候ハ、我等在江戸之刻は、米・薪・地酒・手樽・肴・野菜之類凡物数十色程、我等申付候由にて、目錄を以音信可然事、

付、寺井ニハ泊ニ而無之共、如右音信可然候、若日和悪敷候て逗留候ハ、所々肴之由にて一色ニ而も二色ニ而も重而音信可被申事、

一多良海道通ニ候ハ、掃除并両所之水小屋ハ刑部太夫和泉守(原注)・

豊前守より兼て誘置、鉄砲之者之間一人召置可申事、

一紀伊守・甲斐守・刑部太輔・若狭守・美作守・豊前守知行中を被通候刻は、其領主く手問なき様可申付事、

領主く申付条々

一夫小荷駄之儀、員数申来次第、其員数ニ少余慶候て可差出置事、

一道橋之修理掃除之事、

一宿ニは到時水を打せ可申事、

一夜にて候ハ、町中あんとん差出并何方ニ而もほききれとなと有之所ニは、明松を出し可申事、

一本陣掃除之事、

一売物一通無手問様ニ可差出置事、

付、くつわらち但、直段之儀、其所々直段ニ可申付事、
一はたこニハ、あなたを被申次第可申付事、

付、はたこ於申付は、飯米高下なしニ、何も上白たるへし、其故ハ上中候得は、中白をたへ候者悪敷申候由候事、

一此ヶ冬、左之附り書迄御本帳白紙ニ而除居候東を被通候刻は、轟木、長崎の上り之刻は矢上迄、又別

筋被相越儀候ハ、領分境内迄横目之者一人間不相知様付廻り、様子致見分、何事も手問之儀又は首尾好儀など、

心持ニ相成事候条、其一切くニ善悪共ニ有体可承事、
但、松平右衛門佐殿長崎往来之刻、横目人付廻之儀相

止、時々所ニ為目附、いかにも軽者一人宛付置、人馬其外

滞儀無之哉有体申聞候様ニ可申付候、尤付居候段罷出

申達候義は不及沙汰、何とそ不相知様ニ仕可罷在事、

(右付ヶ書御本帳ニ付紙ニ而書載アリ)二三

長崎御番付而之手頭

一長崎御番仕組之儀、渡置候帳面之通、縦非番之年たり共油断有間敷候、長崎御番第一二候条、兼而其心得可為肝要事、

一当番之年、深堀・西泊戸町其外所々番之者替りニ申付候条、人数并船数・鉄砲数・武具、(レ)二三何も帳面ニ少も無相違様可被入念候、自然不足之儀も可有之かと存申渡事、

一武具并船之儀、都合山城守え申付候条、長崎・深堀・西泊戸町其外鳴々(レ)二三召置候武具船之儀、山城守相談候而、何時も其方手前々差越可被申事、

一当番之年ハ不及申、非番之年ニ而も俄之儀有之刻、無手問懸合ニ相成候様、兼而其心遣第一二候、諸事被申渡候義一編ニ而は、下々失念緩せも有之候条、毎年十月迄ハ

切々同事ニ而も可被申触事尤候、

一西泊戸町小屋之幕鍵其外所々之船幕、見苦無之様可被申付事、

一石火矢打候処誘之儀、今有之もの大形(ハ)二三・五ニ候、其上打所も少く候条、鍋嶋七左衛門好(存)二三・五にて誘置候様ニ可被申付事、

一長崎え召置候者、改所聞合肝要之儀候、其外用所等も申付事候条、先様其心得を以可被申付事、

右は長崎御番ニ付而為心得手頭を以申渡候、当番之年も并非番之年之惣仕組之帳四品相渡召置候、以上

長崎え惣人数罷越候跡ニ御上使并各往来時之仕組

一領分御通之儀、前廉相知候ハ、境内(目)二三・五まで礎成使者を遣、家老共々と候て、泊々其外夫小荷駄之員数并寺井・

諫早間を渡海ニ候ハ、船之員数等能相尋、其段先達て、其方先々えも可申越事、

一夫小荷駄之儀、兼而之役者ハ多分長崎可被罷越候条、所

二造成者申付、無手問様可被仕事、

一道橋之修理掃除等、人馬之通さへ自由ニ候得は能候条、
如例念を入ニは不及候事、但口上、

付、夜中ニ候ハ、町中あんどん可出候、何方ニても

ほき又ハきれとなと有之所ニは、たい松を可差出事、

一所々本陣用意一通り、置物一通、はたこ一通 宿ニ売物

一通役者申付、無手問様ニ可被仕事、

但、各往来之時は、置物并はたこ申付ニは不及候、あ

なたはたこ之儀被申候ハ、可申付事、

一寺井・諫早間ハ渡海ニ候ハ、早船・小早荷船数見合、

人数相当ニ可相渡事、

一諸役者之儀、留主居与之内ハ見合を以可申付事、

一内蔵助・玄蕃儀長崎ハ用所何時も可申遣も不相知、殊惣

人数為罷出跡之儀候条、御上使并各泊之所えも被罷出候

儀、可為無用事、

但、御上使御人体ニよるへし、

右之条々差立たる儀迄を令書載候、此外常之時之以畢
竟可相成儀候無之様ニ可被相調事尤ニ候、以上

曆々御上使之時之仕組

一九州え上使御下向之儀、江戸より申来候ハ、早々作右

衛門・九左衛門迄可申遣候条々、

一江戸御打立日限之事

一人数之事

一道筋之事

一天満え可申遣条々

一大坂御着日限之事

一人数之事

一道筋之事

一出船日限之事

右四ヶ条之儀承合、早々申越候様ニ可被申付候、大坂御
着ニ候ハ、其段先申越、出船之儀は、重て可申越事、

一上使御下向と申候ハ、前廉諸白樽たゞミ之表目やり、

振舞道具等、以校量下し置可被申事、

一上使衆へ、船中迄以飛札申入候事、

一何方ニても上使御着船之所迄、使者被遣候事、

一音信ハ、時々至而可相斗事、

一何方ハ使者音信などの儀可承合事、

一右使者遣候刻、別ニ造成者一人申付、家老衆へ可申入、

領中御通之刻、御見知なき者を所々ニ差出候ハ、御六

借も可有御座と存、領中御通間、某御供仕候様ニと申付

候間、夫小荷駄其外御用も御座候ハ、可被仰付候、為

其御知人ニ罷成候由可申談事、

付、罷帰候様ニと候共、先か跡かに参候て、はたこ其

外之様子、承合切々可申越候、為其飛脚余多相付可遣

候事、

聞合之条々

一道筋之事、

付、領中御通日限之事、

一人数如何程候哉之事、

付、家老之名承候事并侍衆いか程候哉之事、

一夫小荷駄何程可申付哉之事、

一はたこの様子之事、

一他方ニても、馳走之様子細ニ見聞候事、

一御落着之所え、家老一人罷出候事、

一音信之事、

一家老衆へ之音信如何之事、

一同所々長崎え御越候て、所ニより早船壹艘申付、案内者

一人可申付事、

同時領中ニ而之仕組

一所々郡代付居候て、万事不手問様に可仕候、但付居候儀

不相知様忍可罷在候、家老衆え取合之ため、着船之所まで

前廉一人遣し、知人ニ成し、領中付廻候様ニと申付候条、

夫小荷駄其外之御用等、其者として聞次可申候間、郡代罷

出候儀は必可為無用、自然あなたる被相尋候共、別村ニ罷在候由、下々迄申候様可然事、

一人夫之儀、員数申来次第其員数ニ少余慶候て可遣置候、長持備荷繩相副、轟木・矢上ニ五十本宛可召置事、但口上、

付、此中ハ、人夫ニ奉行無之候て、不行儀候条、先様(五冊本になし) 校注 慥成者申付、無薦次無之様ニ可仕事、

一 小荷駄之儀、是又申来候員数ニ少し余慶ニて可遣置候、此中ハ是も不行儀候条、先様之儀兼而小荷駄役者定置候(もの) 三・五 ハ、そこくの馬数も存たる事候条、其者領中付廻、那代令相談、無手問様可仕、ちいさき馬・くせ馬杯は被嫌候条、其心得尤之事、

一道橋念を入、修理掃除之事、
一 橋無之所は、船橋之事、
一 小川ニも橋之事、
一道筋掃除仕候者はたき持候て、五町斗間ニ可罷在候

事、

一 長崎え陸御越之儀も可有之候条、多良海道掃除之事、

但、両所之水小屋刑部太夫・豊前守修理申付候事、一 何方ニ而も佐嘉近所御泊ニ候ハ、若狭守被罷出可然主水・玄蕃トアリ(原注) 候、寺井えは御泊ニて無之候共、可被罷出事、

一 諫早・豊前(寺井) 三・五 ほと場修理并数見合候事、
一 宿々ニ到時水を打せ可申事、

一夜御通ニ候ハ、町中あんどん并ほききれと有之所ニは、たい松可差出事、

一 泊之町々入口番屋之事、
一本陣之用意一通、置物一通り、はたこ一通り、売物一通之儀、慥成物申付無迦様可入念事、(者) 三・五

一所々茶屋用意之事、
但、御通之道筋は、前廉可相知候条、轟木・神崎・寺井・佐嘉両所・小田・高町・多良・武崎・矢上右十ヶ所之内、其道筋之茶屋一通此如書付入念可相誘、尤兼而

調置候物も新敷奇麗ニ有之候様、見合仕直し可申事、

一 惣た々ミ表替之事、但、二重た々ミ表替、

一 置こたつ 付、火はしおきとり、

一 ことたつとん手巾掛、付、手巾二ツ、

一 手水鉢、付、ひしやく青柴垣之事、

一 ぬれ床青竹ニ而仕直シ候事、

一 金屏風(巻) 三・五 風呂釜 付、諸道具、

一幕引之事、料理道具・椀・折敷其外諸道具、

但、椀・折敷之儀、人数之大体可相知候条、其員数令

校量、新敷可調置事、

一 風呂有之所は、新敷修理可仕事、

一 一ふろしき 一ゆかた

一 一衣桁 一右之外諸道具

一 風呂無之所ニは、湯殿狭ク無之様、入念奇麗可仕事、

付、行水道具揃テ

一 せつじん就中奇麗掃除之事、

一番屋之事、

一 雨降候ハ、茶屋之玄関ニ足掛可召置事、

一米・薪・炭・酒・塩・噌・酢・しやうゆ・魚・鳥・野菜之類、置物念を入不事闕様可仕事、

一 はたこ人数之儀、申来次第其人数ニ少余慶候て、念を入奇麗可申付事、

一 食事第一ニ候条、悉クこわくへたつき候ハぬやう、新敷釜ニて仕間敷事、

一 飯米高下なしニ、何も上白たるへし、其故ハ、米ニ上中候得は、中白をたへ候者悪敷申候由候事、

一 一かうの物其外精進物切候包丁、なまくさく無之様可仕事、汁付ニても奇麗可念入事、

一 椀・折敷之儀、段々相当く見苦無之様、前を以可調置事、

一 はたこ誘物数上下、先々申来次第ニ可仕事、

一 所々売物之儀、不手問様出置候事、

附、くつわらち之事、

但、直段之儀、安ク申候得は、つかへ所有之儀候条、

諸色其所く之双場次第売せ可申候、但双場之内かと

ハ不苦候、双場高直ニ売候儀、曲事たるへし、

一当座茶屋之事、

一鞍置馬差出候儀如何之事、

一間ニ菓子之類御音信之事、

一寺井・諫早渡海船之事、

付、田沢助左衛門三上吉兵衛(原注)・西五太夫間ニ一人申付候事、

一召船ニ置物之事、

一米・薪・酒・魚・鳥・野菜之類置物、念を入可召置候

事、

一なへ・釜・まな板・水桶之類、見合可乗セ置事、

一惣供船ニは米・薪乗セ置、用所ニ候ハ、差出可申事、

一寺井・諫早間他方之船ニ而渡海ニ候ハ、早船一艘・小

早一艘津口案内者ニ差出候事、

一ともニ狸々皮袋・鉄砲十挺、弓十張、面々は鎧十本召

置候事、

一みせ船両所ニて差出事、

一紀伊守、甲斐守・刑部同前(原注)太夫・若狭守・美作守・豊前守知

行内を御通時ハ、其領主く手前を無手問様ニ可申付

候、左候而見合として直之侍一兩人遣置、相談を以、彼

は無迦様可相調事、

領主く申付条々

(この項は「聞合之条々」のなかの「一小荷駄之儀……」(一

二二頁上段八行)より「一所々売物之儀……」(一二四頁上段

四行)までとほぼ同文につき略す)

当座茶屋之事

一上使衆御下刻は轟木、長崎上り之時ハ矢上迄、又別筋

被相越儀候而、(ハ)領分境目迄横目之者一人申付、不相知様

ニ付廻、様子致見聞、何事そ手問之儀又ハ首尾好儀杯心
持ニ相成候条、其一切く善悪共ニ有体可承事、

一御帰之刻、下ノ関迄か大坂迄か使者申付事、

一御上使御帰後、今度御馳走不申由にて、江戸え使者差上

セ候事、

一曆之上使御下向之儀は稀成儀候、其上御下之儀は前廉

相知事候条、到時も五日十日之中ニ相調、物は先以延引

可然候、俄ニ不成儀ハ漸々可申付事、

右之条々、曆之上使有之時之仕組、大形如此候、到

其時節残儀も可有之候、又此外之事も可有之候、何之

道ニも不手問様ニ、支配可為尤候、已上

慶安五年

八月廿二日 信濃守

鍋嶋内蔵助

鍋嶋玄蕃充

治茂公御改正御書附

御改正御書附

四冊之内

御藏方 夫遣 津方 御山方 究役

蔵入方付而之書付

蔵入方頭人

覚

一 今般改正申付候条相統方之儀、古格之通於蔵方可相整候、然は以前被相定置候旨を守、宜相計候事、

一 蔵方頭人之儀、重役職之儀候得は、猶又其旨を存相勤可申儀肝要之事候、以前は一人役ニ候得共、先以勤来之

通、兩人役ニし而差置、追而は以前之通可申付候事、

一 一代判役は以前無之役儀ニ付て、相止事ニ候、右ニ付て

は、付役より一人宛泊番相勤、都合之メ心遣、夜白不差

支様取計可申事、

一 諸触出・書出、江戸・上方其外所々之贈答、代判役致來候類は、向後、付役可相整候、尤以前頭人致点てん合、又は書出候もの之類、代判役相整來候は、以前之通、頭人相整可申事、

一 蔵方雜務之メ第一之事候、頭人立入心遣、役者共え、夫々之儀請持ニ申付、無滞公私共相整候様可仕事、
一 物成并物成代銀、夫料、反米等之出方・入方ハ、銀蔵・米蔵・反米蔵役之者存之、偕又雜色之諸用は、於雜務会所相調、何も十月翌九月迄之請払帳納、定之通申付候事、

一 祈禱・祭礼其外食用賄等之事は、中台所・下台所役之者可存候事、

一 修理方・津方・手男方其外之役々、夫々之請持無迦相勤候様可申付候事、

一 郷普請方・引分方・家中馳走米方・切地方・祠堂銀方

は、以前無之新儀之役所ニ候、右之内引分方・出米方は、先以、只今之通ニメ差置、此節相止候役々左之通申付候事、

一郷普請之儀、以前之通、郡方え相任候付而、郷普請役之儀相止候、但、郡方々之普請も年久敷相絶居、不案内ニ可有之、且、郡方一手ニ相任候分ニ而は、東目境川普請之筋、川上川方・城下用水・佐嘉郡中・芦刈・太俣郷迄数万石之耕作水、其外諸郷之水加減、所々水論之取調子、重立候大橋・井手・井樋之就部整利害之儀、土井・堤・堀・川大普請之節之見積等之儀ニ至迄、蔵入・配分共大体を都而見計候通無之ては相叶間敷、殊、水尺・土尺之積方其外役内之定法割方之手数色々有之由候処、跡方之儀も致退転、自然郡々郷々不順之儀ニて、争論之儀共出来仕候而は不叶事候条、一体を蔵方頭人とメ見計、左候て、郷普請役人之内々侍・手明鍵・足輕迄都而十人程定役にし、郷方役所え相付、郷普請心遣候様、尤、只今まで致

来候事之内、左之廉々打迫心遣候通申付候事、

一井樋方之事、但、下役足輕等
一川上川方之事、
一諸郷川々水加減之事、
一所々水論之取調子并蔵入日配分所舫郷普請之節見計之事、
一東目境川普請方定詰小奉行之事、
一福母・長浜坪石之事、
一石井樋戸立心遣小奉行之事、
一川上川船さし抱男之事、
一石井樋戸立明堰用抱男之事、
一多布施川船さし之事、
一上佐嘉上郷西尾崎村・下和泉村作水横打水道水論之末、水分試之間、心遣之事、
一我等通船之江川筋堀濬之節、立会之事、
右之外、縦定式普請と候而も重立候井手・井樋・橋を整

体之節、場所ニより前辺々之積方部調之いたし様迄立会見分、且、不案内之節ハ、指南をも仕候様可申付事、

一祠堂銀方之儀、家中え寺々借付置、年々堅固取納いたし候ため、返済之支配任願、先年々役所相立居候得共、近年右渡方相滞候儀而已有之、寺々及困窮罷在候由、且、唯今迄之通、年々利足銀計払入候通ニ而は、借請居候者も却而幾々は不勝手之儀も可有之候、付而は、今度年限相改、当秋々式拾ヶ年賦ニメ元利銀払切候様申付候、左候而祠堂銀方之儀は相止、寺社方役所え相付候、右ニ付、左之通申付候、

一寺社方支配ニ申付候付而は、唯今迄之帳面一通不残引

渡候様、左候而自今之義是迄相整候手数之通、夫々寺社方々相整候様之事、

一知行取之借用前は、年限之間切地床差出置、蔵入手寄

々代官々心遣候様、尤、代官々之村当善を寺々え相渡善入仕候様之事、

一切米取之借用前は、唯今迄之通、米蔵ニおいて引留置、代官え之当善を寺々え相渡候様之事、

一寺社方え相付候付而は、役内之手数相増候付而、手元役一人申付候事、
一年々寺々取納之儀、切米取前ハ立直段相々候上差出、知行取前は検者目安相々候上、相渡候様申付候事、
一船方之儀、先年々会所え相付居候得共、以前之通、親類・家老々頭人申付候事、
一切地方、切地代官之儀可相止候、但、諸返納筋差延候条、切地床相免可申候、就右相对之借銀借米切地方存証文も消方ニ相成、相对証文仕替可申事、

一代官之儀大切之役柄候処、雜務役同然之様相成居、以前之勤方致相違候条、向後其器ニ当候人柄能々相撰、郷内万事深切ニ心遣候様ニと存事候、去年迄ハ六人申付候得共、当年四人申付候、役所之儀以前之通、自宅ニ而可相整事、

附、役米部引を以相渡來候得共、引無にして拾五石充相渡事、

一 下代役唯今迄は、數人申付來候得共、当年代官一人二下代四人充申付候条、猶又人柄を相撰候半而不叶事候、役米之儀、五石ツ、引無ニメ可相渡候事、

但、当年之儀は時節相後、唯今之改正之旨、端々迄不行届、内急用米差支無抛取立之手当仕候時は、本役之分ニ而は相澄間敷ニ付、差次下代十三人年内限ニメ申付、銘々郷割ニ依而繰合相部候様之事、

一 檢者目付ハ相止、小檢者二十六人、差次檢者二十六人ニ相定候事、

一 犬尾・高尾兩藏は、以前之置米藏ニ而、其外ハ津出用、先年依願ニ相立置たる儀ニ候得共、却而百姓共為ニ不相成由相聞候付、八ヶ所共一同ニ相止候得共、依所は遠郷之浜出及難儀候地も可有之故、犬尾・高尾兩藏之外ニ、詫田、六角・西今宿都而五ヶ所之藏は、只今まで

之通にして差置試可申事、

一 以前は上米上乘為被相付趣候得共、數年來相止居候条、先以兩三艘ニ上乘申付、趣ニよつて、已前之通ニも可申付候事、

一 上米船之儀、近年旅船勝ニ借下候付、津内之船持共致衰微、船數相減、長崎仕組之旨ニも不相叶候条、自今は國船ニ專積方申付、漸々津辺潤船數相増候様可仕候事、

一 物成売捌之儀、大坂・地方之直段間校量第一之事候、此考大形ニ候而は、運賃之費、或は破船漬米等之差引を以ハ、過分之不勝手ニ相当、商人共交易のためニも不相成由候条、一体は國売之達以、大坂・地方之米捌、年々之趣を相考候儀、肝要ニ候事、

一 藏方え以前は、惣石高帳・寺社石高帳被相渡置候處、先年致焼失候由、右は以前之控帳且當時之趣新古兩様ニ立可申候事、

一 藏方えは、郡・郷之繪図無之而不相叶事候、郡繪図・郷

繪図・村繪図と三通ニ、委細之繪図を請役所え仕立置可

申候、左候而、請役所・会所え差置、地面之万事是を以引合、郡・郷之事、明白ニ讚談可仕候事、

一 於大配分地、新搦は素、土井・堤・堀・江・川其外地形之新儀、新普請等仕候節は、前を以地頭之請役家老え申届候上、支之有無を吟味、我等達耳候様申候事、

一 犬尾・高尾兩藏えは、新穀出來立候迄は用心米相備候通仕候は而不叶事候、以前ハ、反米も引殘米は佐嘉藏床え相備置たる事ニ候、いつれも漸々ニは、以前之通相備候様可心懸候事、

一 祈禱立願之事、五穀豐饒雨乞風虫災除等之恒例たり共、我等え可申聞候、在江戸之節、祈禱不仕候而不叶儀有之候ハ、請役家老承届、其通申付、其儘早々江戸可申越候、惣而祈禱立願は信仰之厚ニよる事候得は、聊容易ニ仕間敷候事、

一 五ヶ年之間は、公辺ニ相懸候普請方・要害方其外国家ニ

相懸候普請ハ格別、自分之家作は相止候事、

附、上使其外之衆泊休之場所、或は道橋渡船所之津口・

道口・諸番所・船修理等之儀ハ、是又格別之儀候事、

一 津代官之儀、津内之メリ第一之事候得は、藏入代官之勤方ニ准相勤候様、然は猶又人柄相撰申付候半而不叶事候、以前は別頭人候處、先年之会所え相付來候条、先以可為如唯今候事、

一 会所諸役之出勤刻限延引候而ハ、諸用筋打重り、日々繁雜ニ而已相成、相滞候儀も可有之候条、向後何も差部四ツ時出勤仕、取揃候様可申付事、

一 於諸役所、酒食之取扱弥停止申付候、扱又市中え參、酒食之參会等仕候者も有之様相聞、風俗不宜事候、自然右体之儀候ハ、其メ可申付候事、

一 郷内罷越候役人出參向、其在所之産物所望候得は、乍迷惑差出、依品は村方貫物ニ相立候様相聞候、自然其通之儀於有之は、其役人は不及沙汰、差出候者迄其メ可申付候

事、

一諸役々用ニ相立候者、又ハ不心懸之者於有之ハ、縦賞罰申付迄ニは不及程之儀も、奉公之浅深役頭々々トメ申達候様可申付候事、

一雜務役者申付候時ニ夫々之手数料を書付候而相渡候様、以前被相定置候得共、當時其義無之候、以後之儀、勘定所定帳之趣其外手数等之儀、能心得候様可仕事、

一其年之算用不相済内、別役申付間敷由相定被置候得共、間ニは算用不相済者え別役申付候儀も有之候、自今は格別之訳無之は、算用不相済者え申付間敷事、

一側・外様共諸役内仕廻物ニ可仕所雖有之、容易ニ不取散、先以致蔵納相集置追而可遂吟味候、尤、品ニよつて時々之用ニ可相立物は格別之事、

附、修理方古材木或作事ニ残材木切々等至迄、時々仕廻ニ不差出、朽捨候半様念を入置置、所々之小普請修覆等之用相立候様可仕候事、

右体用不相立通、龜抹之品相納候通其々可申付候事、

附、濡損物等無之様念を入置置、自然濡損物有之節は、時々見分之上、何レ之通ニも可申付候、郷物一通

点役之納事ニ候得は、疎抹ニ取遣候儀有之間敷候事、一諸役人郷内相越候節、朝夕食用之儀只今迄之通ニ而は、区有之紛等敷候条、向後は時々旅籠払仕候様可申付候、

右ニ付而ハ諸役所会所え出差帳仕立置、何某何之用ニ而何郷何村え、何月何日朝昼晩間より罷越候段致書載、印形仕置、罷歸候上ニ而も、何日罷歸り候段時々鈞合書載

候様、左候而於郷内役人宿相定置、右宿え旅籠帳を仕立置、朝誘・夕誘之分、食用之度数目付等書載致印形、右旅籠料、宿主之請取を取罷歸候上、郷方役所え可差出候、旅籠賃之儀、八拾文ニ可相定候、但手明鍵より以下は、右旅籠賃郷方役筋之差出候条、一ヶ月限会所郷方役所え其宿主旅籠帳持出、代銀受取候様、尤、米相渡候者共ハ、定之分返米仕候様、右旅籠帳之儀ハ、勘定所え郷

一公私之法事随分可念入事候、右付而ハ、向後大衆賄一通は寺へ料銀ニ而相納、御仏前之事付、蔵方之役人差越可相整候事、

一銀米取納出方之節、双場直段之高下ニ拘、損益之讚談仕立直段相定候、詮所相立通之儀も有之由、甚卑劣ニ相聞、向後取納渡方之無差別、立直段を以、銀米出入相整候様申付候事、

一夫仕之儀專要之事候、郷内万端之儀、泰盛院殿被仰置候内、就中点役之儀被尽御賢慮たる事候、今般猶又吟味申付、別紙書立相渡候事、

一材木蔵え相納候茅勝り芦大小組繩葛竹箒等之類、役者とメ脇用ニ差出、代銀ニ而引合候儀等無之様、稠敷可申付候、間ニは郷当物百姓共相納候之節、其品ニ差を加相納、又はさり嫌ニよつて料銀取納仕候体之儀共候而ハ、甚紛敷事候条、向後郷当物仕立悪敷、用ニ不相立通ニ候ハ、先以請取置其者之村所・名前書留、会所相達候様仕、

方々相納候様可申付事、

附、本文旅籠帳之儀、自分払木錢、借又郷方役筋之相渡候を、夫々別帳ニ仕分置候様可仕事、

一領中え蔵方之差出候升斗一樣ニさ々せ、板工手間之料斗差出請取候様可仕旨、以前之被相定置、不埒無之様每度申付由候得共、下々之者夫々ニ受持不罷在、近年取扱不メニ相成居候由不宜事候条、自今升之料銀、商人共申請安様ニメ取らせ、左候而通用猥之儀無之様、稠敷可申付事、

一檢者之勤肝要之事候、百姓之盛衰、所務之損益專代官え相任置事候得共、其根元ハ土地之乾熟、水利之順行、農業之時節、作毛之豊凶、其外成証之考、第一郷内之見聞代官之目付候得は、甚大切至極之役柄付而ハ、功者を撰可相定候、尚又檢者共え別紙相渡候事、

一諸切米・加米・扶持並組迦切米之儀、赤方ハ九月、白方は十一月ニ可相渡候、左候而物成メ目安之上、残米於有

之は、赤白共向後年内皆渡ニ申付候、若落越候年ハ、翌秋引合可申付候、尤渡高之石数前を以引分可召置事、

一公儀宿継之外、佐嘉ハ申付候宿継は、蔵入頭人手形ニ而人高差出候様、方々ハ参候宿継之儀は、請取候者ハ手形を取、蔵入頭人より点合判形を以、弘方仕候通相定居候得共、向後は方々ハ参候宿継之儀も、蔵入頭人ハ宛候送状ニ而致宿継、書状等相届候上、右送状会所郷方役所ハ渡置候様、其末蔵方頭人判形之上、引合可仕候事、

一名被官前々ハ法度之事候得共、不々ニ有之趣候条、此末自然名被官相抱候儀有之候ハ、其訳相願候様、惣而被官召抱候儀、一体蔵方相願候上、郡代・代官筋相調其上ニて可差免候、尤名被官之儀ハ、請役所申達可差免候事、

一城下町・津町・通宿之外、酒を造、商売仕候儀、前々ハ之停止候得共、相緩端々迄酒商売之者夥敷相成、郷村之

ためニ不相成、当新穀ハ造込相止帘上候様申付候事、

附、定之場所たり共、分帘所替へ新帘差免間敷候事

一点役之繰合無紛様、小百姓迄儘可申聞旨、鳥子帳ニ御書載被置候得共、其通無之、向後御書載之通可心遣候事、

但、修理方・船方其外諸役、地行之夫丸大檢之儀ニ而、内分は色々紛等敷儀も有之、甚百姓及迷惑候由、乍去出夫相減猥り成儀相改候道不相見、唯今之通ニては不叶事候、依之為試先以佐嘉郡中之点役三部一料米ニ而相納させ、右を以、抱夫相立、左候而相定候郷普請并諸通等之外は、此抱夫ニ而相整候通申付候、尤寛永之比、抱夫之儀相見、夫料、反米之内ハ被相渡たる趣ニ付而は、此節之抱夫賃等反米ハ取らせ候通、有之度候得共、相続方有米之内ニ加へ候ハ而、当時差支可申儀ニ付、先以右之通三部一之夫料令受納、抱夫ハ取らせ召仕、得と試之上、来秋ニ至、尚又遂吟味可達耳候、惣而夫遣之一通別紙書立相渡候条、懇ニ心遣可申

付候、差支候処無之候ハ、余郡之儀も吟味可申付候、此抱扶費無之様召仕、尤番所料・飯米等之儀氣遣可申候事、

一諸給人并寺社家郷村罷在、何角申者有之候而ハ、風俗悪敷、給人として惣百姓之メニも不相成、村並之支相成事候間、前々より定之通、組頭・主人ハ箒を取候様、厳密ニ手当可申付候事、

一年貢筋緩ニ有之候而は、却而百姓共為ニ不相成事候、郷村ニよつて風俗悪敷者罷在、惣百姓ハ種々奸智を付、役人をも蔑ニいたし、又ハ役人を謀候体之曲者も有之もの候条、右体之者有之は、早々可申達候、一体之為見懲手当可申付候事、

一蔵入所之地米細付帳代官銘々え為被相渡置旨、鳥子帳ニ御書載有之候共、唯今無之候、依之此節仕立候様申付候、右高帳を以、細付帳写代官ハ相渡候様可仕事、

一大小庄屋共、給米并点役除等鳥子帳ニ被相定置候得共、

近来部引ニメ相渡、郷内ハ貫物ニ而致受用候様、先年相定置たる由候得共、其通ニ而は紛等敷、貫物メ方も難行届、第一郷内迷惑ニ相成事ニ候条、今度貫物帳取揚、左候て以前より定之通、給米取らせ点役可相除事、

一我等領中方々往来之砌、道造掃除等仕ニ不及、損橋切度杯ニ而通之支ニ相成候所斗を修理仕候様、前辺ハ寄夫仕置候へハ、費ニ相成事候、少々不問合候而も不苦候条、費不相成候可申付事、

一諸普請等申付候共、時分悪敷候得は、百姓共迷惑仕候条、其段一応達御耳、其上ニ而之儀仕候様、其外百姓召仕候儀、時分を能斗可申付旨被仰置候、向後ハ、重立候普請は達耳候様可仕事、

一手男郡方一月ニ一度充相改、不入所ニ不部様被相定置候、唯今右之改無之様ニ候、向後相改候様可申付候、惣而手男ハ郷夫之代ニ召仕儀ニ候処、致忘却罷在風俗不宜候条、能々申聞可召仕候、借又丸内掃除等ハ手男ニ而相

濟丈ハ夫丸不召仕様可仕事、

一揚屋敷之儀は、蔵方頭人校量次第、売料ニ申付候様被仰付置たる趣ニ候得は、只今之手数相改、揚屋敷ニ相成候段、從請役所蔵方頭人え申達候様、其上ニ而、蔵方より改候て請取置、売方之儀、蔵方頭人取斗候様申付候、尤小路方え懸合依小路柄住居之者、大身・小身之繰合等申談候様可仕候事、

一踊并浮立其外能・舞・操之類、前々之停止ニ候、尤神事祭礼ニ付ていたし来候処は、主水・玄蕃墨付を以、差免候様鳥子帳御書載被置候、恒例之所たり共、是迄之通、蔵方頭人承之、尚又相調子請役所申達可差免候、致来と候而も随分手輕仕候様可申付候事、

一堀川副之田畠崩欠候節は、早速普請仕候様申付候、時分ニよつて早速普請難相成候ハ、正・二月比迄之内ニ普請相調、耕作之支無之様可申付候、様子ニよつてハ、一ヶ年否ニも申付候場所は、翌年否返可申付候事、

一近年往還筋其外所々之道幅以之外狭相成、且堀川之幅も仕出秀或崩欠所有之、唯今之通ニ而ハ、後年ニ至、前々之形不相知、年を追而猥ニ可相成候条相改、道幡帳両様仕立可召置事、

鄉村一通

一国家連続之儀、專百姓農業之營第一之儀候、郡・郷之盛衰、法式之々、所務之損益は、蔵方頭人・代官・検者之役ニメ、支配之善悪ニ相懸事候得は聊重事候、猶又郡代・年行司も心遣之儀勿論ニ候、乍然年来鄉村及零落、令困窮候由、承之甚心を勞し候、何卒風俗も相直、年貢不相滞、耕作ニ精を出し、百姓強相成、随分端々迄人民榮候様之心遣肝要候事、

一百姓共、身安渡世之筋を好、耕作方致難渋候様相聞候、此根元ハ、以前ニ違、世上花美ニ相成、下々も其風俗ニ移、不似合致過賄、点役借又諸役人等之出入も多、諸

郷何角繁雜ニ有之、彼是夫ニ応し貫物等過分ニ相懸、纏之作徳も百姓之貯不相成、致田作候而は、渡世之助無之候付、農業之道ニ離、無拋別渡世之筋を心懸申ニ而可有之候、右之通ニ而は、家業之衰微不過之事候条、漸々百姓とも質素を守、右体之風俗ニ移、農業之道相進候様、深切ニ心遣可仕候事、

一点役之儀、少も非分且費之儀無之様不断氣遣可申候、以前ニ違、夫遣大分ニ相成、作方之稼も難成、間ニは不相當儀も有之候而、賃雇又は郷当物を料銀納等仕候体之儀有之候而は不相叶申候、依之此節尚又点役方念を入、相減候様申付事候、惣体点役は百姓共大切之役目候得は、役筋相對料銀等之取合可仕様無之事候条、夫丸・郷物共相對之買料一向停止ニ申付候、若相背者於有之ハ、双方共其科可申付候、此段諸役々并郷村え急度可觸聞候、委細夫遣書立相渡候事、

一材木山取其外普請方ニ付、入用之夫積、其役々ニ而吟味

之上、入方相極儀候処、事ニ依り内分ハ過分之入越相立事候由、右は比竟夫丸共不稼之所々積前之仕事仕退不相成候、出夫之者共不由を構、兎に角も日を押送、却而為ニ不相成儀を存当間敷儀ニ候、此節改正之主意、役々下々え懇ニ申聞入越等不相立、百姓点役之筋精を出シ候様申聞、無油断心遣可申事、

一諸郷え跡方々差免置候田方成定等之儀、元来地元悪敷ニ付、部落申付置たる由ニは候得共、畢竟百姓弱く候而熟地ニ茂不相成、年々右之類相増て衰微事候条、何卒百姓強相成候様之仕成を以取斗、漸々部落取揚可申候、然時は、百姓共兼而其覚悟いたし候半而不叶事候、能々可申付候事、

一郷村よつて、先年飢饉之砌、大分之明キ屋敷ニ相成居、致富作来候得共、屋敷之事故、成目太く、自余之畠所ニ不相双、殊畔林等之費地有之、木露障彼是ニ而、百姓甚不勝手之場所ニも年来本成相納、持懸之者困窮ニむか

ひ、一村之弱ニも相成候由、其通ニ而は不相叶事候、檢者ともえ漸々為致見分、地面相応之成定等ニ可申付候、尤新ニ部落差免候而は取納方可相減候条、前条如書載部上等を以、差線申付候ハ、上下之為ニも可相成候事、一所々ニ大分之無米地有之、数年来物成相除居候由、唯今之儘ニ而は永代作地ニ可相成様無之、向後右体之場所開作等相好ものも候ハ、年限無米ニメ作仕らせ、年限相満候上、見分を以、相応之物相納候通可仕候、然時は段々願出候者も可有之、永々之為ニ可相成候事、

一 檢地否究其外畠屋敷惣改、或は所々境目堀川之仕出、或は籠角之分等節々相改、明白ニ相成居候半而不叶事候得共、近年檢者方繁雜ニ相成、殊右改手数多入組候儀ニ而押送罷在候由、其通ニ而は新地・否所等之分りも致混雜紛等敷事ニ候条、向後毎年春早々相改、漸々相整候様可申付候事、

一 城下并諸郷水旱之防専一之事候、堀川江筋満淺漸々川床

銀仕らせ可申事、

一 小物成方存ニ而、所々ニ櫛植立置、田畠木露障ニ相成、百姓共及迷惑候場所所有之由候条、立会見分之上、差支候所は、急度可伐除候、就中近年汐土井・川土井筋へ大分之櫛木植立、本田之障ニ相成儀多、其上枝葉等損候儀共有之節は、其手寄ニ村科代相懸、彼是及困窮趣ニ付、右役筋ニおいて、急度遂吟味候様申付候事、

一 所々堀川江内満淺秀卷出広縁場等有之候所は、里山方・新地方役筋ノ野畠畔方等之成目相懸候付、以之外狭ク相成、水流差支、水旱之防不相叶、且江筋通船之煩も有之候由、唯今之通ニ而ハ、追年弥増堀川江内猥ニ相成事候条、向後右体之支配相止候様申付候、成目懸り来候所たり共、支ニ相成候処ハ、欠濬候様可申付候事、

但、場所ニよつて支無之所は、而役筋ノ心遣可仕事候、自今は支え有無立令同見分、絵図面を以、引合吟味可仕事、

高く相成居、農業・商家之便利を失罷在、旱魃之節水困不相叶、洪水之節水吐差支、所々ニ切渡砂下致出来、甚上下之煩候、此子細ハ、近年来山々木立薄所、水氣を含ま、其上切替畠を差免土砂を動し候故、雨毎ニ洗下、谷々之潤^(マ)尽、常水少相成事候、依之開作切替畠等容易ニ不差免、材木を不切荒、藏入・配分共竹木他領え不差出、山々茂り候様之仕組山奉行共え申付候条、水行彼是後年之憂無之様可申談候、何程里目ニ而堀濬候而も、山方之手

当大形ニ候而は、砂落下其詮無之、大切之夫丸召仕候程費ニ相成事候、能々令吟味、川床深く水流不相滞様、漸々堀濬普請可申付候、水木之便宜候時は、自然と耕作并諸用之便克、要害之利用ニも相成儀候事、

一 札馬銀・坪石代銀其外毎年相定候貫銀、諸郡役米懸ニメ割方申付由候得共、間ニは、内分之割方不順之儀も有之候様相聞候由、自然其通ニ左候而ハ、甚以不宜事候条、向後筋々之手当、於藏方懇ニ相調、不順之儀無之様、貫

一面請浮立郷々金立社え打登、成就之日、郡代・代官其外え打廻候儀、相止させ可申候、旱魃ニ苦しめられ、昼夜相勞候百姓共候処、方々村廻らせ致見物候儀有間敷事、

一 用用之茅於東目・西目山、毎年伐立させ候儀、一日之公役ニ三日も隙を費し、雜用多、百姓共甚及難儀事候由、向後其様子相改メ、右体之儀無之様申付、且伐立之積何卒相減候様可仕候事、

一 旱魃之節、白石郷永池堤・福泉寺堤水引之儀、郷普請方・檢者方郡目附・下目附共罷越、立会水引来候由候得共、役々数人之事候得は、郷内之雜費有之間敷哉も難計、是等之事ニ而願出之儀、却而致難渋時節迦等ニ可相成候、自今は右郷之大庄屋え相任、小庄屋・村役共立会、廻水之時刻能申談、順路引水仕候通可申付候、尤郡目付一人早速差越封印切メ候様可仕候、若相任候迎大庄屋・小庄屋共不順之廻水於仕は、其メ稠敷可申付候事、

一藏究之儀、近年間ニは六月中ニも不相濟通ニ相成候、惣而霜月中二年貢皆納いたし、極月初蔵有米相究、翌年五月・六月間ニ郷蔵引残之米相改候通、従以前被相定置候得共、師走初蔵究之手数不相成、下ニは年貢皆濟を翌六月限之様ニ心得違罷在候趣、自今古格之通、霜月中ニ物成致皆濟候様、其外以前定之通申付候事、

一田仕付肝要之事故、以前御印帳ニも委被仰置候得共、近年郷村至及零落、田方居付兼、代官筋甚手を込、年内之仕付不相成、二三月迄も作主不相立、救米等を申請漸仕付候形ニ相成、夫ニ而も明地等致出来、追年弥及零落、竈を倒し田畠離散之者も有之由承、不便之事候、雖然自今は是迄之通り年々過分之救不相成候、殊更近拾年田畠居付目安と候而、代官手詰之為、村々目安を取、蔵方頭人え差出由候得共、内分ハ全体之仕付ニ不相成、作主相立居候而も、間ニは何角申立、訴状を捧、余田之由たと申出、紛等敷候而役者共之姦敷ニ相成候郷村

一大庄屋共風俗悪敷勤方不宜、郷村不ノ有之、百姓之為ニ不相成由、向後勤方宜了簡相改候様、郡代・蔵方頭人・代官委可申聞候、惣而大庄屋は蔵方頭人支配之者共候、何分申聞候而も於不相直は、急度大庄屋差替可申候事、

一郷村之趣難相知ニ付、村横目勤方厳密為相成、村々申付来候村横目付之者人数寡相成シ、二郷三郷間ニ耆人充村横目相立、郷内之万事見聞申付、村々えは村咄役可申付候事、

附、村横目料之儀、除役米立ニメ取らせ来候、向後一人ニ料米五石ツ、とらせ、残所は村々え從此節申付候村咄役之者え取らせ可申候、此差繰無紛様可申付事、

一大庄屋・小庄屋勤方之善悪を相考、行跡宜、正路ニ身ニ懸致出精、郷内之為ニも相成、百姓共心伏仕候程之者ハ、其段無滞請役家老え申届候、自然勤方不相当者於有之は、委細遂穿鑿可申達候、於郷中大庄屋・小庄屋之取

も有之由、惣体耕作ハ百姓之家業ニ候得は、毎歲可及催促道理ニ無之候得共、時世ニ随而風俗悪敷事共候、右ニ付而居付目安と有之儀、以前無之事ニ候得は可相止候、左候而向後救之借米差出候儀不相成候条、其段年内諸郷村え申聞置、自力、或救合を以、前廉之致覚悟、耕作ニ相部候様大庄屋え相任、代官は年内ハ一体之手を当、順作仕候様、蔵方頭人として立入可申談事、

一小庄屋引負候儀、代官緩故候条、自然滞儀於有之は、代官可相償、然ル時ハ小庄屋之儀、向後代官好次第大庄屋え人柄相撰セ、郡代・代官吟味を以、蔵方頭人承届候上可申付候、小庄屋無調法有之候ハ、趣ニ随而ハ大庄屋も無調法ニ可申付候事、

一代官・下代・大小檢者惣而諸役人庄屋・百姓より振廻を請、又は不依何辺ニ小分ニ而も音信を請候儀、堅停止申付候、向後右体之儀候ハ、役人ハ不及沙汰、大小庄屋・百姓とも曲事ニ可申付候事、

捌不宜不行跡候由相聞候而も、其否不分明と候而其儘ニて不可閣、猶以其趣は目付共々実否見聞候様いたし、於無相違は、請役家老え申達、差替可申事、

一年來百姓共え、蔵方差出置候借銀米并年賦返納迄、皆以救之為、今般捨差候事、

一孝養を尽候者是不克申、篤実ニメ家業致出精、村方之為ニも相成候体之ものは、帳面ニ控置、筋々申達候様可申付候事、

一於在、塩・明松之外諸商売停止申付置候得共、相緩居候由、向後前々定之通、能相候様可申付事、

一兼而郷内之諸法度并申渡候儀共、滞又は相背候者有之哉、毎年横目之者見分仕らせ候条、蔵方頭人ハ無油断相改、横目之者不申達前ニ可申達候事、

一物成取納候儀、其在所之地米ニ請合候得は無申事候、損毛有之在所ハ、其時々代官可申出候条、早速檢者を差遣、代官・檢者相談有式之落米差免候様申付候、落米之

員数并否所之目安ニは、檢者令加判、郷内ノ無延引早ニ罷歸、右之趣、細ニ藏方頭人ニ申聞候様可申付由被相定置候、就右百姓共耕作方ニ念を入、鋤起より草水迄克ニ致出精順作候様、代官は不申及、郡方ノも心遣、自然檢見相願候節は、弥疎之儀共無之様申付候事、

一藏入所は、年々物成員数都合之目錄其外取納方、借又等差出候日限等、委細以前ノ被相定置候得共、当時其通不相調、向後檢者凡目安霜月十五日限メ、目安ハ十二月十五日限、我等え見セ可申候、檢者共ノ差出候儀は、唯今迄之通、十日限ニ相整候様可仕候、其外当時之趣、考合夫々相整可申事、

附、凡目安・メ目安共、時々勘定所えも差出候様可申付事、

一給人耕作之儀、禁止之事候、尤作仕候半而不叶者有之ハ、其訳相願候ハ、吟味之上可差免候、然上は代官・庄屋之下知聊以不相背、上納少も滞儀有間敷候由、前廉

手形を取置、其上ニ而も相滞候ハ、直之者ハ知行・切米ノ取納、又内は主人え可相懸候、扱又唯今迄致作来候者共ハ、其儘ニ而差置、定之通、給人等嚴重ニ差出候様可仕候事、

一毎年十月ノ九月迄十二ヶ月惣仕廻之大割目安、十月前ニ我等印形を以可相渡事、

但、右大割地取之儀ハ、於勘定所取立、於請役所、勘定所・藏方立会吟味之上、我等え見セ可申候、且又、銀藏・米藏えは右書替、藏方頭人ノ可相渡候事、

一一役ノ之遺料小割帳、勘定所・藏方立会相整、当役印形ニ而役々え可相渡候事、

但、銀藏・米藏えは、右写藏方頭人ノ可相渡事、

一定之外、入越銀米借又臨時入方有之候節は、其役筋ノ右銀米高何之用と有之儀積書等藏方差出候上、於請役所、勘定所・藏方立会吟味之上、其入方相ノ候銀米高時々書付、我等え見セ、其筋えは当役ノ判突可差出候条、

印藏帳面控置、其役筋え可相渡候、其末役筋ノ乞等差出候一通は、藏方頭人点合印形可仕候、左候而毎年九月迄之銀米高、在国年ハ十月中、参勤年は下国之上五月中、請役所・勘定所・藏方え我等印判を以可差出候、尤時々当役ノ差出候判突は、定小割帳同様納帳ニ相副、勘定所え相納候様可相達候事、

但、差出候判突之儀、事ニよつてハ、凡積前ニ而差出候半而不叶筋も可有之候、右類ハ判突ニ取替と致書載、追而入切之判突を以、引替可申事、

一江戸・京・大坂・長崎・深堀ニおいて、臨時并入越有之節は、右積書委細ニ書立、藏方差越候上、右同断之事、

但、差懸たる臨時等懸合難間ニ合筋も候半は、江戸は留守頭人、京都・大坂・長崎は聞番、深堀は在番ノ書出、其筋え差出置、近便ニ而其入方委細ニ書立、藏方差越候上本文同断、尤取替ニ而出方ニ不相成候而不叶筋も、時々爰元申越候上、銀米高書付我等え見せ可

申儀候得共、判突差出候儀ハ、其筋何れ共相決候上、年中取次当役ノ可差出事、

一臨時并入越等之積書、役々差出候節ハ、其役人借又目付印形可仕事、

一小物成方之儀ハ、以前之通、美作存ニ而藏納封印可仕候、尤側之者も立会申付、右之内ノ出方相成候儀は、当役立会、其入方相極、在国年は直管可差出候、留守年急ニ出方無之而不叶筋ハ、美作判突を以、出方仕候通申付候事但、向々余米有之候節、且勘定所集銀米も右之筋え相納候様申付候事、

一銀米出入之儀、近年は役内目付印形いたし候手数候得共、向後は役内目附・雜務目付をも相止、手明鍵目付印形仕候様申付候事、

一夫遣書立

一貫物ニ付而之書立

一竈帳仕立様同写

- 一 檢者え之書立写
- 一 郡代え之書立帳写
- 一 一代官え之同写
- 一 郷普請ニ付而之同写

明和九年辰九月

右之条々鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓

・町人ニ至迄、律儀質素之風を守、四民致安堵候様、万

端改正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色

事候、尤下々年来当時之風俗ニ押移居候処よりは、末々

為ニも相成候儀も、当然及迷惑候体之儀等有之候而不相

成候条、依事緩急可有之且存付儀も候ハ、筋々可申達

候、自然不行届儀杯候而、却而下々及難儀候体之儀有之

候而は、主意ニ不相叶候条、下々之情を能察し憂不相成

候様、加不便、仁心を本として、我等存念全行届候様能

々心を付教導候儀肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之

様可取計者也、

夫遣書付

蔵入方頭人

覚

一 夫丸之儀、時節を考可召仕候事、

一 夫丸之儀、向後料銀之取合不仕様、郷内諸役筋え具ニ可相達事、

一 夫丸当付之刻限を^(はつし)迎、或持道具致不足、其日之役目不相立儀之由、向後譬は明六時入用之儀を、七ツ時杯と時刻を引上不申付様、諸役筋可相達候、然上ハ郷内えも刻限少も無延引、持道具等無失念、素老人・童等不差出、

老人前之仕事不相叶者不差出様差詰可申聞置事、
一 郷当物仕立鹿抹ニ有之役筋々ニ而去嫌相成由候条、郷

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫遣ニ付而疎之儀無之様、役々え厳密ニ相達儀候、若相背無理非分を以召仕、或ハ致打擲、或夫丸郷物料銀ニ而請取、或郷物当付之外ニ余慶を相加させ、或夫丸を宿元ニ呼寄、自分之用事ニ召仕、又ハ好ニ知音等ニ加勢仕らせ、或鍬鎌等之農具其外をも質ニ取置、或普請用残材木等之類を致仕廻物夫丸ニ持運ばせ、其外奸曲之役者於有之ハ、其時々郡代・蔵方頭人え罷出申届候様、諸郷村え具ニ可相触事、

附、手男之儀、郷夫之代ニ召仕候処、心得違いたし、

自身可仕事を夫丸ニ致させ、間ニは奸曲之儀も有之様

ニ相聞候、向後右体之儀共候ハ、本文同断申届候様

可申付置事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

仕組ニ書載有之候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一 夫丸勤方悪敷且郷当り物之納方不宜体之儀は、役者として早速蔵方申達候様、役々え可相達候事、

一長崎奉行其外通之節、向後先触前之通出夫可仕候、尤前を以長崎奉行其外えも懸合置、先触前之上二は人馬差出間敷候、乍然時ニ至り病人等も有之候得は、少くは相増、郷方役の夫丸札差出候様可仕事、

附、老人・童等不差出様ニ、郷村兼而手当可仕事、

一御普請は定式之普請を相極、竹木入方夫手間迄相定置、臨時普請計、時々積を以、夫手間其外相整候仕組別紙之通候事、

一地行修理方・船方其外諸役々入方材木山取用夫丸等大捨之儀ニ而、百姓至極及困窮由ニ付、色々吟味申付候得共、出夫相減候道不相見、乍然只今之通ニ而召置候而は、百姓迷惑不仕儀可相改道無之ニ付而、先以為試、佐嘉郡中夫料割合三部一料米相納させ、右を以抱夫相立、相定候郷普請諸通等之外ハ、夫丸不召仕様、尤領中都合ニも同様可申付候得共、諸遣夫多有之候は、専佐嘉郡中ニ相懸儀ニ付、先以佐嘉郡中右之通り申付候事、

之請取手形は庄屋の役者へ可相渡候、右を以其役者の扱方可仕候、右之節、切符前人数之上尅人ニ而も増夫差出間敷候、自然百姓共内ニ申談譬は四人分之員銀を五人ニ而請取、五人致出夫候体之儀仕候ハ、過代可申付候条、能く可申置候事、

附、於所々夫筈取渡し不申候様、尤増夫等不差出通毎度懇申聞候事、

一郷中罷越候役者え、賄夫跡方を為差出来由候得共、向後之儀差出及間敷候事、

一諸役人郷内其外遠方罷越候節人馬之定、

一侍遠方罷越候節、人馬之儀、式百五拾石以上は、自分の覚悟可仕候事、

一同式百五拾石以下百石迄は、荷付馬一疋可差出候、但城下式里内は差出ニ及間敷候事、

一同百石以下は馬尅疋、夫丸式人可差出候、但城下式里内ハ夫丸式人可差出候事、

附、右仕組ニ付而は、郷内ニ參候諸役者、入用之夫丸、日歸之道法之所ハ抱夫ニ而可相濟事、

一佐嘉郡中材木山取之節は、郷村出夫ニ不及候事、

但、余郡之儀も本文之通申付度候得共、佐嘉郡之通、

夫料之内米ニ而納方為被仕候而は、却而郷村迷惑可仕哉も難計有之ニ付、先以佐嘉郡中右之通申付、試之趣

ニ依、明年ニ到り吟味可申付候条、其間之儀は、唯今まで之通、出夫可仕候、尤山取之節ニ不限、百姓迷惑

不仕候様、役々委可遂吟味候事、

一諸役者郷中え罷越候節は、定之人馬切符相渡儀候、佐嘉郡中之儀ハ、抱夫相渡筈候得共、勤ニより段々近在えも罷越儀候得共、始終抱夫渡方難相叶儀候、依之佐嘉の付出し分斗抱夫の相渡、其末も佐嘉郡中之儀は、三部一夫料米之内の一人ニ銀五匁宛相渡儀候、右銀諸役者凡ニメ請取、郷内ニ而人夫請取候時、右切符前人馬料銀人夫共直致請取候様、右人馬之請取手形役者の庄屋え相渡、夫銀

附、城下式里外たり共、北山筋三段田筋其外凡道法三里位之場所え鍵をも為持不申体之節は、為狭箱持夫丸一人差出可相濟事、

一手明鍵遠方罷越候節、馬一疋充可相渡候、但城下式里内は夫丸尅人可差出事、

一歩行足輕遠方罷越候節、夫丸尅人充可相渡候、但城下式里内ハ差出間敷候事、

一長崎奉行其外通路之節、泊休之駅々え使者并所心遣之者、偕又寺社へ名代申付候者式百(百兩か)以下ハ番馬可差出候、但寺社え名代相勤候者、城下式里内は沓箱為持ニ不及事、

右何も私ニ駕籠乗候儀停止之儀候条、定之通無相違相守候様、尤老人痛等有之、用向ニ依遠方差越節、趣ニよつて出駕籠可差免事、

一諸郡継の夥敷竹炬申乞、郷内当付買料等ニ而請取候儀も有之様ニ相聞候、向後公儀御用物夜中通懸候節は、跡宿

え差出候請取手形、向宿之請取手形共ニ時付致書載相添、時々其懸之郡方々々え差出可申候、右書付郡方役所ニ而、帳ニ控口上致割印可相渡候、左候而入切申乞候節、一ヶ年分取米候而会所郷方役所え差出、右を以払方仕候様可申付事、

一諸役々夫遣之儀、郷内え当筈差越候節、何日雨天ニ而も致出夫候様、又は雨天之節は相止候段、夫筈ニ書載差出候様申達、無間違様心遣可仕候事、

一代官、懸郷え参候節は、何時も自役ニメ致出夫候様可申付事、

一夫丸郷物大庄屋の村々小庄屋え当付之儀、只今迄は以触状申付由候得共、以来は一村々々へ当筈相認、点役自役之分りをも書載候而差出候様、左候而右筈庄屋へ手寄ニ直置、三ヶ月ニ一度充束候而継立郷方役所差出候様、尤自役ニ相勤候出夫も手数之儀は右同断、且又佐嘉郡中郡次夫丸時々料銀請取申儀候得共、是又同断受取手

形差出候様、然時は向後村々ニ而も、点役自役之分得と可致合点ため、右之通相定候事、

一自然出火之節、所々駆付夫丸之儀、郷津町之者唯今之通、弥相働候覚悟仕候様可申付事、

一大庄屋共只今迄は諸遣前用として夫丸入方之時々当付召仕来候由、向後切米等引無ニメ相渡候様申付候条、郷

夫召仕申間敷旨稠敷申聞、郷中小百姓迄懇可申知候事、

一諸郷点役相除置候儀、零落之在所等無抛、其通ニ而も可有之候得共、今後令改正候条為相定点役之儀ハ相勤候

様、然は唯今迄除来候場所之儀も、段々元々之通、点役相勤候様可令吟味候、尤点役不差免候而不叶儀於有之

は、委細可申達候、猶其上いつれ之通ニも可申付候事、

一門松并根引竹注連竹等之儀、山取之上、役筋へ持届引渡申由候得共、去嫌之儀ニ而何角隙取、郷内之者共困窮仕候通之儀共ハ無之哉、向後は修理方小奉行え伐筈相渡、

之木竹を伐取らせ候而、持届候様可申付事、

附、注連竹之儀も宮々え伐筈相渡、山床え下社人等罷越山留立会、相応之竹請取候様可申付候事、

一諸普請方其外之儀付而、入用之夫丸積方其筋々ニ而吟味之上、入方相極濟候処、依事内分は過分之人越相立事候

由相聞、右之畢竟夫丸共不持之所より、積前之仕退不相叶事と相見候、惣而出夫之者共構不由、兎哉角其日を押

送却而為ニ不相成并無之故之儀ニ候、然は専夫遣之致様肝要之儀候条、役々大庄屋・小庄屋至迄、其心得を以入

越不相立様肝要之事、

一我等於領中方々往来之砌、道作掃除等仕ニ不及、損橋切渡杯候而通之妨ニ相成候所計を修理可仕候、楮又前辺の

寄セ夫仕置候得は、費ニ相成候、時ニ至少々不懸合候而も不苦候条、費ニ不相成様可仕事、

一手男部方一月ニ一度充相改、不入所ニ不部様可仕候、扱又城内掃除等は小城夫丸并手男ニて相濟、自余之夫丸不

召仕候様可申付候事、

右之外、猶又相定候儀可有之候得共、先以右之通申付候也
明和九年辰九月

津方付而之書付

蔵入方頭人

津方役

覚

一領中諸津漸々致零落由候条、以来之儀、随分心を付候は

て不相叶、惣而今般政務筋万端泰盛院殿被遊置候諸御掟之御旨趣ニ相叶、四民共夫々之家業無怠慢致安堵候様仕

組中申付候、只今迄致来之儀と候而も、下々之疼ニ相成候筋、且一方之為ニ相成候通ニ而も、一体四民之煩ニ可

相成儀等相除、国益ニ相成上下無片落万民之為宜様委敷遂穿鑿、万端其手当申付置候、然は徒成者は不及申、只

今之風俗ニ而分過之致方を好候体之者は、必不承知ニ相

心得候儀も可有之候条、別当・咄共として能其旨を為申諭候様、左候而向後津内迷惑ニ相成儀於有之は、何時も無用捨、津方役所申出候様相定、夫々吟味を加、津内之者共能在付候心懸專要候事、

一前より之掟、扱又此節仕組ニ而相定候儀、能其旨を相守、相候所之儀は、別当・咄褒美をも可申付候、若又徒成者多不之所有之ニおいてハ、本人は不及沙汰、組合別当・咄迄遂吟味、其可申付候、惣而別当・咄共依心得津内之為不為ニ相成儀候条、能吟味可仕事、

一別当・咄之儀は、就中手前之過賄質素ニいたし、津内之盛衰を致勘弁、少も愁ニ相成筋共懇ニ遂吟味、不差置津代官え申訴、何卒懸り内勝手能致繁昌、船数も漸々相増候様心遣仕、法式嚴重ニ相ノリ、諸役者え内分ニ取入候体之儀不仕、津内之者実儀を守候様心遣肝要候事、
一孝養を尽し、傍輩ニも篤実ニ相交、津内之ためニも可相成者は、相撰置相達候様可申付事、

罷在候儀迄書載、帳面役内え為差出置、右を以、津役可相勤人数は素、大小船数之儀も一々可相改候、右ニ付而は、長崎仕組筋え櫓手叶舸子帳面可差出事、

一身売之者請人之ノ緩ニ候条、或は従者、或は不氣入隙を取らせ候者之恩銀不納おいてハ、請人え可致催促候、若滞儀候ハ、給人は与頭・主人、百姓・町人は郡代・代官・町方・津方役等其筋々え申届、請人又ハ家屋敷妻子之間好次第取上候様相定候条、端々まで懇ニ可申付事、
一借屋之者悪事仕出候節は、家主大形ゆへ候条、軽重ニ依其可申付事、

一俗人屋敷ニ出家住居仕、扱又寺家ニ住持無之候而、俗人罷在候儀可為停止事、
一滞在之旅人宿外ニ罷出候節、近辺たり共、案内者相付外出為仕可申事、

一給人ニ知人有之見廻申度段申候共、法度之段申聞、案内者差出間敷候、尤給人ノ用事有之、右旅人招呼候ハ、て

一諸津竈数相改、五竈充組合、組迦之者無之者様、尤一竈充男女年付をも致書載、津役相勤候者其外何之致渡世候と申儀まで諸役所え相納候、改帳正月十五日限、且年行司之相納候人別帳三月十五日限、右何レも郡方相改申儀候条、別当初津内之者共得其意居候様可申付事、

一前条竈数改帳写津方役所えも相整置、右を以一組合充、人別之善悪、別当・咄細ニ調子置、縦何之渡世仕候段書出候而も、其業不仕徒ニ日を送候体之者、借又不行跡成者於有之は、五人組より連々異見^(マコ)を加、何分ニも承引不仕候ハ、別当え相届、別当・咄々稠敷申聞及再三候而も、行跡相改不申候ハ、津方役所え申訴候様可申付置候、自然差包置後日於顯然は、組合迄手当申付、別当・咄越度ニ可申付事、

一船数并櫓手叶改之儀、年々舸子究役申付来候へ共、向後は右役別段ニは不申付候条、津代官とノ可相改候、改様は津々郷津迄竈数人別年付、扱又船持候者共何程之船持

不叶儀有之候ハ、筋々申届差免候上、招呼候様申付候事、

一他領之商人領内致滞在候とも、往還筋之外脇道差通候儀ハ素り、商売仕候儀前々停止之儀候処、近年旅商人猥ニ入込申趣ニ相聞候条、向後緩セ候儀無之様、別当・咄^(題)初津内之者え懇可申付事、

一三月十九日釈迦堂并川上経会等前々より旅人致参詣候、一宿之者は宿主より手引可差出候得共、立帰之者は宿も不定、案内者も無之ニ付而、通筋之外、脇道罷通儀も可有之候、是等之事ハ、於其所々給人・百姓・町人ニ不依、見当次第筋相教候通ニ候ハ、脇道罷通間敷儀候得共、其者不預儀と存見当候而も不構差通候而は不宜儀候条、平生旅人脇道ニ而見当候節、前断之心遣可仕旨、下々迄能合点仕候様懇ニ可申付事、

一他領え屋敷を持、其所之組合ニ入、借又他領之商人之手伝仕候儀、前々より法度之事情、医術其外為稽古他方罷

越候者之内、自然右体之儀無之哉相調子事候条、為紛儀等無之様心遣可申事、

一只今走者之妻子・父母代籠舎之儀、一類ノ致探促候而不尋出上代籠舎申付候得共、向後之儀は以前之通走者有之節は、妻子・父母之間早速籠舎申付、其上ニ而尋出候は、籠舎之者可差免事、

一勸進奉加之儀停止之事候得共、近年緩ニ相成候様相聞候条、能相ノ候様、就中俗人念仏和讃等を唱致徘徊候儀、甚不宜儀候条、右体之儀、一向無之様手当可仕事、

一領中鉢ひらき乞食之類、一切年行司板札申請徘徊可為仕候、札無ニ徘徊為仕候半は、其所之庄屋・別当無調法ニ可申付事、

一傀儡師・尺八吹楮又乱舞方小舞杯仕候ものえ宿借候儀、前ノ法度之事候、向後ハ狂言師・街師・見セ物師・猿廻・薬売体之もの迄宿を貸間敷候、通筋ニ而無抛一宿為仕候共、無滞罷通候様可仕旨、懇ニ可申付事、

附、他方ノ淨瑠璃・三味線引体之遊芸仕候者、外之商売を申立、滞在申乞候義有之趣ニ相聞、甚不宜儀候条、向後右体之者、能ノ相改候様稠敷可申付事、

一踊狂言・操浮立等之類、停止之事ニ候、祭礼ニ而致来候処も相願候上可差免候、致来と候而も、随分手輕仕候様可申付事、

一長崎仕組ニ付而、毎年六月ノ八月迄廻船留船之儀、繰合を以相定申候、右船ノ前廉旅ノ罷帰候様、切手等も其積を以可申請儀候得共、年行司え相知居候ハ、不叶儀候条、船繰極次第書付、年行司え差出置可申事、

一諸江筋満浅船之出入不自由ニ相成、廻船之通用煩敷候、此段は專諸津之栄枯ニ相懸事候条、右ニ付而存寄之儀有之者ハ、不差置申出候様懇ニ可申達置事、

一領中所ノ之商売物、船ノ差廻、問屋へ売捌不相頼候而も、問屋共口錢相懸候様ニ相聞候、旅人持越候荷物ハ格別、領内之者問屋付不仕者ノ口錢取納不仕候様、可申付

事、

一他領ノ讒之品為商売之日帰ニ領内持越、問屋付不仕相對売仕候品ニ、問屋共口錢相懸候様相聞候、右は不相当儀候条、向後其通之儀無之様可申付事、

一新儀ニ相立居候請売之類、停止申付候事、

一晒蠟之儀、只今迄ハ運上相懸由候得共、向後ハ差免候事、

一江湖端・堀・岸等秀之場所、近年地料相懸り候故、只今ニ而は下ノ勝手ニ築出等仕ニテハ無之哉、右体之場所え懸来候地料之儀は差免事候条、段々元々之通り掘濬候様可心遣事、

一蔵方ノ貸付置候銀米、此節差捨儀ニ候事、

一旅酒買入候儀停止申付候事、

一衣裳之定相緩ミ居申ニ而は無之哉、前々之通弥其旨を守候様可申付事、

一材木・炭・薪他領え売出候儀停止之事、

一賭之諸勝負仕候者於有之は、稠敷其科可申付候条、懇ニ可相達置事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄、律義質素之風を守、四民致安堵候様万端改正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事に候、尤下々年来当時之風俗押移居候所ハ、末之為ニ相成候儀も、当然及迷惑候体之儀等有之候而不相成候条、依事緩急可有之、且存付候儀も候ハ、筋々可申達候、自然不行届義杯候而、却て下々及難儀候体之由有之候てハ、主意ニ不相叶候条、下々之情を能察し憂不相成様、加不便、仁心を本とメ、我等存念全行届候様、能々心を付教導候儀肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

山方付而之書付

山 奉行
同 代官 共

山方之儀、前々之掟之旨ニ差立相違候儀無之趣ニは候得共、間ニは緩ニ相成居候筋も有之様相聞候、一体此節万事古格之旨を以、改正申付候上は、致来之儀と候ても、國家之為利益無之、上下之為難相成義ハ、其役として委遂穿鑿候儀当然之事ニ候、東西山々切々相廻、百姓之盛衰能々氣を付、夫々可申付候、春秋兩度は頭人致巡見、配分・寺社領之山々迄木立厚相成候様心遣肝要候、忽而役内手数多ク相成候得は、繁雜ニ有之処々、却而不ノ之儀有之事情、此節左之通申付候、

一 山奉行一人申付候事
一 代官兩人附役申付候事
一 手元役・手明鍵二人申付候事

事

一下役八人、下物書・絵圖書整をも兼而相勤候様可申付
一 山代境目心遣、彼地在任之足輕二人下役ニ而相勤居候を、下役之義ハ差免、見ケメ役ニ可申付事
一 山留拾八人ニ相定候事
一 小山留之儀は相止、山横目之者相増拾八人ニ可相立事
一 役人律儀有之節は、下々迄風俗相移もの候、自然猥ニ有之時は、下々心得も相違依怙最眞を相頼候体之儀可有之候条、万事潔白ニ相勤、下々を導候心懸專要之事情、音物等致受用候儀有之候ハ、役人ハ不及沙汰、差贈候者をも曲事ニ可申付事、

一 山々相廻候節、何方ニ而も旅籠ニ而可罷通候、手明鍵以下えは、旅籠代小物成方々相渡候様申付候条、於村方少も馳走等數儀不仕候様、兼々稠敷可申付置事、

一 山々之盛衰、山留之心遣ニ相懸儀候条、人柄能々相極、勤方不宜者ハ及吟味可差替事、

一 大河内用薪之儀、山々繰合を以、札入ニメ売方ニ差出、半年亦は一ケ年分充割山ニ而相渡、伐跡疎抹ニ無之様、跡濬迄請合ニ申付、段々新立ニ相成候様心遣、左候而薪下し方之儀、^(いろう)鑪木・素焼薪・乾シ柴共山買之者々大河内へ持届、下賃之儀は、右山代銀々引合ニメ相澄候様可仕事、

一 有田皿山薪方之儀、薪ニ而相渡候様相定居候得共、當時其通ニ而は、却而不勝手ニ相成由ニ而、外山えハ割山ニ而相渡候由、内山之儀も同前之儀候条、内外山共山割山ニ而一ケ年充相渡、代銀之儀は小物成所相納候様可仕候、但割山畝數之儀、薪之増減、木立之様子ニ隨、年々吟味入念差渡候様可仕事、

附、竹木炭薪他領え売出候儀、前々より停止之事情得共、間ニは願ニより只今迄は差免候儀も有之、又は緩セ之儀も有之様相聞候、向後は弥停止申付候、然は有田近在之薪皿山持出、内外山薪多相成、山方々薪山畝

數少ク差出候様相成候目論見可仕事、

一 鹿倉調子先年々段々致懸候由弥可相整事情、以後領境相調子候節は、境目方役為番所究相廻候砌、双方申合立会相調違乱無之様心遣、印をも相立、絵圖をも仕立置候事、

一 山方田畠凶年以来荒地多、本帳と畝方致相違候付、先年々致地引合懸候処、田畑見出過分有之、成目相増利益有之事情、此上亦々新開等仕候而は、此節山々木立厚相成候様申付候趣意ニ不相叶候条、向後開不仕様稠敷可申付候、尤地引合不相濟、山々只今迄開置候田畑之儀は、致来之通ニ而引合畝數相極、以来自然開仕候者有之節は、其メ申付、開所は元々之通立山ニ可相成候事、

附、只今迄開ニ相成居候処も、場所ニ依り立山ニ相成

可然所は、見計其手当可致事、

一年々材木山取多、最早山々用ニ相立材木無之通相成候由、成目等少々は相減候而も、畔林野方迄新作之障不相成場所は、何卒相茂り候様、吟味を以、種を蒔、苗を植

立候様、尤右仕立ニ付而諸雜用之儀随分致省略、小物成方々相渡候様申付候事、

一夫丸召仕候儀、山方付而之公役計凡半役程は自然ニ相勤、自然過分ニ出夫無之而不叶儀有之節は、本方々も差出候様可仕事、

一荒田・荒畠ニ竹木相立、畔之様相成居候所え成目相懸来候所も有之由、右体之所ハ取揚、成目相除、立山ニ可申付事、

一野山・木山并畔林請ニ差出候儀、以前々停止之儀候得共、只今所々請ニ相成居候所も有之由、向後ハ請ニ差出間敷候、尤只今迄請ニ相成居候畔林等漸々取揚、立山ニ仕候心遣可仕事、

一竹木盗伐仕候儀有之節、其所之百姓中へ為村科代申付候儀有之由、其通ニ而ハ、無科者迷惑仕儀も可有之、甚不相当事候、惣而纏之品ニ而も盗候儀は不及沙汰、一体猥之儀無之様、庄屋・山留る兼々申教、組合中互ニ致吟味

候様有之候ハ、盗材体之儀仕者有之間敷、万一盗等仕

候得共、顯然可仕候条、其者相咎メ、自然組合其外右ニ付而無調法有之候は、趣ニ随手当可申付事、

一春秋兩度充竹木伐跡見分可申付候、尤差越候人柄時々吟味可仕事、

一新屋敷引次屋舗之儀、只今迄は役内吟味之分ニ而相決来たる由候得共、向後之儀、本方同然請役所ニ而吟味相成候様相定候事、

一山々百姓共以前々は漸々竈も相増候処、渡世之筋不続ニ有之由候条、蚕業・紙漉・農具之拵・鍛冶其外之所作る国益ニ相成、渡世ニも宜筋之儀を教立候心遣可為肝要候事、

附、桑・楮・漆木其外国益ニ相成候品場所見計仕立候様可仕候、料銀入用有之節は、其時々小物成方々可差出事、

一近年山々大分之土砂流、下川床高ク相成、田地え冷

水誘、水洩込、土地疲候由、其上江筋も満浅候儀、畢竟山

々伐荒し、且開等相願候節、成目一篇ニ心付、全体之吟

味不行渡差免候故と相見候、尤近年は川近之切畠等は、差留申たる由候得共、砂不相留、只今之通ニ而は不叶事候、

殊北山筋ハ砂山ニ而格別手当無之而は相叶間敷候条、専

一二遂吟味、配分は山々迄砂留之儀、急度其仕組可仕事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓

・町人ニ至迄律儀質素之風を守、四民致安堵候様、万端改正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、

尤下々年来当時之風俗押移居候所々は、末々為ニ相成候儀も、当然及迷惑候体之儀等有之候而不相成候条、事ニよつ

て緩急可有之、且存付候儀も候半は、筋々可申達候、自然不行届儀杯候而、却て下々難儀ニおよび候体之儀有之候て

ハ、主意ニ不相叶候条、下々情を能察し憂不相成候儀不便を

加、仁心を本として、我等存念全行届候様、能々心を付教導候儀肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

究役付而之書付

究 役 共

理非之決断聊モ容易ニ不可心得事候、虚実之弁、邪正之分、面々智慮之不依浅深、正路之旨を以、人情を能察可糺明候、惣而公私之法度を背、亦ハ口事争論を企候類、是皆教諭之道周不行届処ニよる義にて、悪事出来之上は不得止事、其科申付不便之事候、然ハ究役として其旨を存、究事之趣ニより、囚人は不及申、釣合之者共迄能々申諭、何卒ニ取初る有体を申願、偽を構へ弥増科も重成候体之儀無之様、心懸專要之事候、巨細、御先代御手頭被相渡置、且、乗輪院殿・海量院殿御書付をも被相添候条、每度致熟読、聊も其旨ニ違ふへからず候、いつれ究

事隙取候而ハ、下々可及迷惑候条、早々埒明候様被是心を
用可抽精勤儀肝要之事候、

一出勤退出之刻限可為如唯今迄事、

一目付役一人充、如前々月番ニ相勤候様申付候事

一究役之内、兩人勤来之通、盜賊方・拔荷方まで可相勤
事、

一只今迄は別段ニ取立方役相立居候得共相止、取立一通盜

賊方へ申付候条、猶亦猥之儀無之、夫々嚴密ニ相整候様
可仕事、

一評定所万事之記録大形ニ有之候而ハ、末々ニ至り区之
儀、出来申間敷哉も難計候条、旧格之趣取調子難相分儀
は、当役へ相尋、每物不手支様、格式諸手数迄記録相整
可申候、尤出来次第可達耳事、

一警固捕方致鍛練候者相揃、諸組足輕え師範をもいたし、
鍛練之者多相成候様可心遣候、然は警固十人之者随分相
撰、警は只今不相揃候ハ、役足輕之儀は不及沙汰、無

役足輕をも無差別相撰、警固役可申付候、力量ニほこり
人を侮候体之儀も有之候ては、鍛練之甲斐も無之事情
条、能々氣を付実体ニ有之様可心遣事、

一以前より目明相立置、盜賊之筋道をも相考、他方之者へ
も致通用難頭事をも探り不容易儀候得は、専盜賊方役と
して召仕様勘弁可有之事、

右之条々、其旨を存、仁心を本として下之情を能察し、万
事ニ氣を付、我等存念全行届候様、聊無怠慢可相勤候也、

明和九年辰九月

御改正御書附

四冊之内二

- 年行司
- 馬 究
- 寺社方
- 町 方
- 町夫貫物
- 諸町人別
- 勘定所

年行司勤方書付

- 年 行 司
- 同 附 役 共

覚

一領中之者不依上下、旅出之事并旅人領内え参候時之義、
其外条目之通、一々念を入可相改事、
一不依僧俗旅出之儀、委細条目ニ書載有之義ニ候得は、諸

手数相違之儀有之間敷候得共、年来之風俗ニ付而は、間
ニは猥之儀有之義ニ而も無之、自然紛等敷義有之候は、
法令之障ニ相成義候条、今般改正之趣意を以、領中端々
迄猥之義無之様、其筋々懇ニ手を当嚴密ニ相々候様心
遣肝要之事、

一他国之風俗又は鄙敷俗語等を申扱候儀不宜、右様之義無
之様、懇ニ手当可有之事、

一滞在之旅人、宿外え罷出候節は、近辺たり共案内者不
相付候而は、外出仕らせ候間敷事、

但、給人え知人有之、見舞度段申候共、見舞不申様申
聞、案内者差出間敷候、尤、給人々用事有之、右之者
招呼候半而不叶義有之候は、筋々申届差免候上招呼候
様相定候事、

一郷村津町五人組改専用之事候、一村々給人・寺社家ニ
よらず、村頭々順五竈ツ、与合、男女歳付迄致書載、一
村何拾竈、何百人と在人限ニ相改、帳面仕立、郡方・町

方々毎年三月十五日限、宗門方納帳同然年行司差出候様相達置候条、猶又其手当有之端々迄五人組無違乱、在所付組外之者無之様可入念候、尤例ニ内役之者を以、所を不定、一村二村ツ、改可申事、

但、五人組改帳仕立様別紙相渡候事、

一郷村津町罷在者、江戸・上方え罷登り致逗留候節は、先以人別帳ニ其書載仕置、罷下候節は、其村之庄屋・人改る年行司え相達候様可仕事、

一長崎仕組ニ付而、六月より八月迄廻船留船之義、年行司方え不相響由ニ付、向後津方役筋ニおひて、船繰相極次第書付を以相達候様申付事候条、懸合無迦様手当可仕事、

一江戸・大坂・下関・長崎、詰足輕・舳子・手男二年之外詰続不申様、尤続候半而不叶子細於有之は、屋敷頭人る藏方頭人迄申越、諸役所可請差図旨相定居候得共、只今右之手数無之、殊二年行司え不申来由ニ付而、其以来年

行司并藏方頭人え懸合来候様可申達事、

一何某召仕候者何某え奉公仕候通、江戸・大坂共ニ目附役迄、元主人る可申届候、其上にて両所目附る年行司え時々申届候様以前被相定置候得共、唯今其通無之候、向後右之手数無相違様可申達事、

一長崎六ヶ寺住職之僧、去ル子年る無年限切手差出事ニ相成居候由、右は追而吟味可申付事、

一江戸・上方其外他国之寺院え依請待致仕職候僧、切手取替候時は、致帰国候定法候処、公迎之儀等と申立、他国ニ乍居切手取替候儀相願、其通差免候義も有之、国法ニ不相叶候条、向後何分之訳有之候共罷下切手取替候様可仕事、

一他方る為学問罷越居候滞在之僧、鑑寺・寺番等ニ差置候儀等は無之哉、其通之義も候半は早速相改、向後右体之儀無之様可仕事、

一不依男女人を抱候請人之ノ緩ニ有之候条、跡方る被相

定置候通、或徒者、或氣ニ不入隙を取らせ候者之恩銀於不納ハ、請人え可致催促候、若滞儀ニ候半は、給人ハ組頭主人、百姓・町人は其所之代官其外筋々申届、請人又ハ家屋敷・妻子之間好次第取揚候様、已前之通相定候条、端々まで懇ニ可申達事、

一借屋之者悪事仕出候節は、其家主之屋敷を取揚、其上科之輕重ニよつて曲事可申付由、以前之定候条、弥相慎候様兼而可申達事、

一俗人屋敷出家致住居、借又寺家ニ住持無之候而俗人罷在候義停止之事候、小路・郷村・津町共ニ其役々能相改、猥之義無之様心遣候様可申達事、

一自然欠落者有之節之手当、向後古格之通、早速妻子之間籠舎申付、五人組る格護可仕候、尤妻子なくハ父母、父母なくハ兄弟之間籠舎申付、五人組る月限を以探促いたし、尋出候節ハ、籠舎之者可差免候事、

附、欠落者立戻候節ハ、一命可相助候事、

一他領ニ屋敷を持其所之組合ニ入、借亦他領之商人之致手伝候義、法度申付置候、唯今医術其外之稽古などを申立、他方罷越候者之内ニ、間ニは相背者有之義共^(マ)ニては無之哉、切手申請候時々懇ニ可相調事、

一走者其外無縁之者之類ニ宿を貸六ヶ敷義出来候条、其町之別当として能相改、不苦者ニ候半は、筈を差出宿を借候様ニと被相定置候、向後之義も弥右体之者懇ニ相改、自然遊芸其外徒成者、外之商売ニ事寄せ參懸候体之者迄念を入相改、無別条者ニ候ハ、別当る筈差出相定候、宿屋え一宿之儀ハ格別一向不相滞様、尤走者其外胡乱ものを見咎候ハ、差留、早速筋々申届候様兼而可申達置候事、

一尺八吹・狂言師其外遊芸仕候者、借又猿廻シ・葉売・見せもの術師等旅る參懸往還筋ニおひても、暫も不滞罷通候様可仕事、

但、狂言師其外之者共、遠在杯ニ参り滞在不相願、致

逗留候時は、役筋ニ不相響ニ付而役筋無調法無之様ニ候得共、元来兼而之緩せより相起事候条、諸筋手を当相改不断少も怠惰有間敷事、

一旅人商売として領内滞在仕候共、往還筋之外、脇道え罷通商売仕候義、前々停止之儀候処、近年緩ニ相成居候趣相聞候条、向後緩せ之義有之おひてハ、別当・町役曲事可付事、

一三月十九日釈迦堂・川上経会等前々旅人致参詣候、一宿之者ハ定之通手引可差出候得共、立帰之者は宿も不相定、案内仕者も無之ニ付而は、相定候通筋之外罷通義も可有之、是等之事ハ其所々において、給人・百姓・町人ニよらす見当次第道筋相教候通ニ候半は、脇道罷通間舗義ニ候得共、其者不相預義と存、見当候而も不構差通候而は不宜儀候条、此旨下々迄能致合点候様、其外平生旅人脇道ニ而見当候節も、右同様之心遣仕候様、彼是其手当可有之事、

一領中はちひらき之類は、年行司え其筋々致乞善板札申請善候得共、皆以其通無之趣ニ相聞候条、盲女・座頭其外乞食之類、札無ニ徘徊仕候者無之様嚴密ニ心遣可申事、

一俗人念仏和讃等を唱致徘徊、其外一体勸進を廻シ候儀停止之事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄、律儀質素之風を守、四民致安堵候様、万端改正申付義ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤下々年来当時之風俗ニ移居候処ハ、末々為ニ相成義も当然及迷惑候体之儀等有之候而不相成候条、依事緩急可有之、且存付候儀も候ハ、筋々可申達候、自然不行届儀杯候て、却て下々及難儀候体之有候てハ、主意ニ不相叶候条、下之情を能察シ憂ニ不相成候様、加不便仁心を本として我等存念全行届候様、能々心を付教導候義肝要ニ候、

是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

馬究付而之書付

馬究方頭人

覚

一馬究役之儀、前々之手頭之旨を以、懇ニ、相勤可申事、

一家中馬究之儀、近年相止居候得共、追而夫々立飼候様相成、其上ニ而改之儀も可申付候、先以夫迄之間ハ、唯今何某々立飼置候馬数書付、札馬改之書付同前ニ可差出候事、

163 一城下札馬百疋并本庄町え拾疋、弥念を入相改為紛義等無之様心懸可被申事、

一諸宿札馬改之儀、相止居候由、向後は已前之通可相改事但、為改役者宿々罷越候半は、早々罷帰候様、尤請役所え出着帳有之候条、時々罷出致印形於宿々旅籠帳之義無相違様被申付、或振廻を請、或音信を致受用候体之儀有之候半は、役者は不申及、音信振廻いたし候者も同前其々申付事、

一長崎奉行其外諸通路之節、札馬差出候付、為宰領役者罷越由ニ候得共、向後は夫ニ及間敷候条、入用之馬数日限ニ合せ当付、駅々ニ而諸通路心遣之郡方役え釣合候様申付、馬散使差越、疎之儀無之様可心遣事、

一右之節飼料増、駄賃・宿賃銀等は、会所郷方々役筋請取之馬散使を以、郡方え差越、駅々ニ而郡方々致遣方、一駅々勘定相々、帳面は役筋差越、銀之儀は向宿相送通路相濟候上、於役筋右駅々之帳面取束引合可相濟事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄、律儀質素を風を守、四民致安堵候様万端改

正申付義ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤下々年来当時之風俗ニ押移居候処は、末々為ニ相成候義も、当然及迷惑候体之義等有之候て不相成候条、依事緩急可有之且存付候義も候ハ、筋々可被申達候、自然不行届儀杯候て、却て下々及難儀候体之儀有之候而は、主意ニ不相叶候条、下々情を能察し憂ニ不相成候様、加不便仁心を本として我等存念全行届候様、能々心を付教導候儀肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可被取計者也、

明和九年辰九月

寺社方付而之書付

寺社奉行
同附役共

覚

一寺社方之儀、被相渡置候定書之通、聊無相違相勤可申

事、

一諸社祭礼古来之通無退転様可仕候、漸々世上過美ニ相成却而鄙敷風儀相流、祭祀之本意ニ不相叶義等有之間敷哉も難計候、殊更踊狂言体之興行は、風俗を敗候根元ニ候条、能々令吟味、新儀之手数は早々相止、古来々致来之義と候ても質素を守、古風を考、神意ニ可叶心遣肝要候事、

一出家として俗家ニ交を厚する事、僧道之本意ニ有之間敷候、殊更俗家ニ音物等仕候体之儀、甚不相当義候、縦右体之僧侶有之候共、役人として猥之義無之様心遣肝要候事、

一祠堂銀支配之儀、寺院之依願役所相立支配致来たる由ニ候得共、向後は右之取捌寺社奉行え申付候条、唯今附来之祠堂銀米返納相済迄之処は、於役内支配可仕候、近年は利足計相納、果も無之儀候条、当年々式拾ヶ年成崩ニ可払切候、此以後、志有之而祠堂相付候者有之時は、

以前之通、相对申談を以、勝手次第仕候様可申達候事、附、祠堂銀支配申付義ニ付而、手元役付壹人定役ニ申付候条、地行記録其外之致事迄綿密ニ相整候様可仕事、

一俗人屋敷ニ出家住居仕、并寺家ニ住持無之候而俗人罷在候儀可為停止事、

一江戸・上方其外他国之寺院え、領内之僧住職差免置切手年限相満候節ハ、定法之通元罷帰、切手取替可罷登処、間ニは、公辺之儀、其外何角申立国元不罷下、切手取替候義有之候、自今ハ国法之通執罷下切手取替候様、兼々具ニ申聞置、已来厳密ニ相々候様心遣肝要候事、

一他方々為学問領内え致滞在候僧を、鑑寺・寺番等と差置候儀停止ニ申付候、自然其通之儀有之候半は、早速相改、向後右体之儀無之様可申付候事、

一長崎六ヶ寺住所之僧、去子年々切手年限無ニ差出候義ニ相成居候由、右は追而吟味可申付事、

一平家座頭其外替女鉢ひらき之類、年行司ヶ板札申請、徘徊いたし候定法ニ候処、猥ニ相成居候様相聞候、向後札無ニ徘徊不仕様、懇ニ心遣可申事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄律儀質素之風を守、四民安堵いたし候様、万端改正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤下々年来当時之風俗押移居候処は、末々為ニ相成候義も、当然及迷惑候体之義等有之候て不相成候条、依事緩急可有之、且存付候義も候ハ、筋々可申達候、自然不行届義杯ニ而、却而下々及難儀候体之義有之候ては、主意ニ不相叶候条、下々情を能察し憂不相成候様、加不便仁心を本として我等存念全行届候様、能々心を付教導候儀肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

町方付而之書付

町奉行
同附役共

ハ、何時も無用捨町方役所申出候様相定、夫々吟味を加、町内之者共交易之業を以、国用を達、道理ニ叶、能
在付候心懸專要之事候、

一城下諸町年々致零落、殊更近年勝手向差支ニ付、調達銀
等毎度申付、返済筋滞多有之由、可及困窮事ニ候、已来
之儀、随分心を付候半而不相叶、惣而今般政務筋万端

一徒前々之掟、楮又此節仕組ニ而相定候義能其旨を相守相
ノ候町之義は、別当・町役褒美をも可申付候、若又徒成
者多不メ之町於有之ハ、本人ハ不及沙汰、組合・別当・
町役迄遂穿鑿、其メ可申付候、惣而別当・町役共心得依
而町中之盛衰ニ相懸義候条、能々吟味可仕事、

泰盛院様被遊置候掟之旨趣ニ相叶、四民共夫々之家業無
怠慢致安堵候様仕組申付、唯今迄致来候儀と候而も、下
々之痛ニ相成候筋、且一方之為相成候通ニ而も一体四民
之煩ニ可相成義等相除、国益ニ相成上下無片落、万民之
為ニ宜様委穿鑿を遂、万端其手当申付候、然は徒成者は
不及申、唯今之風俗ニ而分過之致方を好候体之者は、必
不承知相心得候義も可有之候条、別当・町役共として能
其旨を存申論候様、左候而向後市中迷惑ニ相成義於有之

一別当・町役之儀ハ、就中手前之過賄致質素、町内之為不
為を致勘弁、少も町中之愁ニ相成筋ハ、懇ニ致吟味不差
置町方役所申訴、何卒懸之町々商売勝手能致繁昌候様心
遣仕、法令嚴重ニ相メ、諸役者え内分取入候体之儀不
仕、町中之者実儀を守り候様心懸肝要候事、
一尽孝養、傍輩ニも篤実ニ相交、町中之為ニも可相成者相
撰、帳面ニ控置、筋々相違候様可申付置候事、
一其方共役料銀并使番料として、町内之者共貫立差出之由

ニ候得共、向後は可相止候、右米ニ付而は、頭人えは筆
紙墨料相渡、附役えは役米可相渡候、楮又手明鍵・足輕
共えは、自余比竟を以、役料・飯米可申付候事、

一夫遣之儀、猥ニ相成且貫物等過分ニ相懸候趣相聞候、向
後出夫相減、貫物猥ニ不相懸候様相定候条、稠敷可申付
候事、

一宿継跡付之儀、何某方何某え、何之用所ニ而遣候通細ニ
書付、一年ツ、帳面ニ仕立、毎年二月限ニ請役所差出候
様之事、

一町々男女之年付、楮又銘々何之渡世仕候と申義迄、別当
・人改立会相調子、竈帳別紙之通ニメ毎年正月十五日限
り請役所相納、楮又五人組改帳別紙之通ニメ三月十五日
限り年行司可相納事、

一前条人別帳控町方役所ニも相整理、右を以一町々一組
合ツ、相考、細ニ別当・町役を整理、縦何之渡世仕候段
書出候而も、其業不仕、徒二日を送候体之者、楮又不行

跡成者於有之は、五人組より加異見、何分ニも承引不仕

候半は、別当・町役を稠敷申聞、及再三候ても、行跡相
改不申候半は、役筋申達候様、自然差包置、後日於顯然
は、組合まで手当申付、別当・町役越度ニ可申付事、

一身売之者請人之メ緩せ候条、或徒者或不入気隙をとらせ
候者之恩銀於不納は、請人え催足可致候、若滞儀候ハ
、給人は組頭主人、百姓・町人は郡代・代官・町方役
等え申届、請人又は家屋敷・妻子間好次第取揚候様、已
前之通申付候条、端々迄懇ニ可申付置事、

一借屋之者悪事仕出候節ハ、家主大形故候条、軽重ニ依り
其メ可申付事、

一俗人屋敷ニ出家住居仕、楮又寺家住持無之候而俗人罷在
候儀可為停止事、

一滞在之旅人、宿外え罷出候節、近辺たり共、案内者相
付外出仕らせ可申事、

附り、給人え知人有之見廻申度段申候共、法度之旨申

聞、案内者差出間敷候、尤給人を任用有之、右旅人召呼候ハて不叶儀有之候ハ、筋を申届差免候上、召呼候様之事、

一 三月十九日、釈迦堂并川上経会等前より旅人致参詣候、一宿之者ハ宿主より手引可差出候得共、立帰之者ハ宿も不定案内者も無之ニ付而は、相定候通筋之外、脇道罷通儀も可有之候、是等之事ハ於其所、給人・百姓・町人ニよらず、見当次第道筋相教候通ニ候半は、脇道罷通間敷儀ニ候得共、其者不相預儀と存見当候而も、不構差通候而は不宜事候、其外平生も旅人脇道ニ而見当候節、右之心遣可仕旨、下迄能合点仕候様懇ニ可申付事、

一 他領え屋敷を持、其所之組合ニ入り、倍又他領之商人之致手伝候儀、前より法度候処、医術其外稽古のため他方罷越候もの之内、自然右体之義無之哉、漸々相調事候条、為紛義等無之様心遣可申事、

一 唯今走者之妻子・父母代籠舎之義、一類を致探促候而不

尋出上、代籠舎申付来候得共、向後之儀以前之通走者有之節ハ、妻子・父母之間早速籠舎申付、其上ニ而尋出候ハ、籠舎之者可差免候事、

一 勸進奉加之儀停止申付置候得共、近年緩ニ相成候様相聞候条、猶又相々候様、就中俗人念仏和讃等を唱致徘徊候義、甚不宜儀候条、右体之儀一向無之様手当可仕事、

一 傀儡師・尺八吹笛又乱舞方小舞杯仕候者え宿借候義、前より之法度候、向後ハ狂言師・見せ物術師・猿廻・菓壳体之もの迄宿を借間敷候、通筋ニ而無抛一夜之宿貸候共、無滞罷通候様可仕旨、旁懇ニ可申付事、

一 他方を浄瑠璃・語三味線引体之遊芸仕候者、外之商売と申立滞在申乞候通之義有之趣相聞、甚不宜候条、向後右体之者能々相改候様、稠敷可申付事、

一 他領之商人領内滞在仕候共、往還筋之外、脇道罷通商売仕候義、前より停止之儀候処、近年間ニは右体之商人等不依町小路、郷内入込申趣ニ相聞候条、向後緩せ之義於

有之ハ、別当・町役曲事可申付事、

一 踊狂言・操浮立等之類停止之事候、祭礼ニ而致来無扱詛有之処ハ、筋を相願候上可差免候致来候共、随分手輕仕候様可申付事、

一 領中所之商売物船を相廻、問屋え売捌不相頼候而も、問屋共口銭相懸候様ニ相聞候、旅人持越候荷物ハ格別、領内之者問屋付不仕節、口銭取納可仕候無之義候条、向後右体不仕候様可申付事、

一 蔵方を貸付置候銀米、此節差捨義ニ候事、

一 他領を纏之品、為商売日帰ニ領内持越、問屋付不仕、相對売仕候品ニ、問屋共口銭相懸候様相聞候、右は不相当義候条、口銭取納不仕様可申付事、

一 晒蠟之義、唯今迄は運上相懸由ニ候得共、向後は差免候

事、

一 江湖端・堀・岸等秀之場所、近年地料相懸候故、唯今ニ而は下々勝手く築出なと仕ニ而は無之哉、右体之場所

は、懸り来候地料之儀ハ差免事候条、元々通堀濬候様可申付事、

一 旅酒買入候義、停止申付候事、

一 城下札馬百疋町屋三間口公役差免置候、馬究役筋を改儀ニは候得共、町々別当よりも相改候様可申付事、

附、本庄町札馬拾疋之儀も、別当を相改候様可申付事、

一 町内新儀相立居候請売之類、停止申付候事、

一 衣裳之定相緩ニ居申ニ而は無之哉、前々之通、弥其旨を守候様可申達事、

一 材木・炭・薪他方え売出候儀、弥停止申付候事、

一 賭之諸勝負仕候者於有之は、稠敷其科可申付候条、懇ニ可相達置事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄律儀質素之風を守、四民安堵いたし候様万端改正申付義ニ付、先以大意之定数相定置、猶又令潤色事

候、尤下々年来當時之風俗押移居候所よりは、末々為ニ相成候義も当然及迷惑候体之義等有之候ては不相成候条、依事ニ緩急可有之、且存付候儀も候ハ、筋々可申達候、自然不行届義杯候て、却而下々及難儀候体之義有之候而は、主意ニ不相叶候条、下々情を能察シ憂不相成候様、加不便仁心を本として我等存念全行届候様、能々心を付教導候義肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

諸町夫遣貫物

町奉行
同附役共

一町々出夫多迷惑有之由候条、町方役として心遣、何卒出夫高相減候様可仕事候、唯今迄ハ筋々之役者印形等之手

覚

一兩客屋え使者・飛脚等参着之節、扱又地行掃除夫等は人数難相極事候、其節々差詰相減候様可心遣事、
附、白山町々竹箒二本、きひ箒二本ツ、毎月納来候由、竹箒之儀は、材木蔵々可相渡候、きひ箒之儀いたし来候条、唯今迄之通可相納事、
一城下町え旅人止宿等之節、右同断、
一諸通路之節、注進并使者・飛脚参候節案内、扱又諸掃除夫、右同断、
一船方帆幕・日覆等町中ニおいて縫立候手間、右同断、
一雜務会所用梅干包意苡仁撰、其外入方夫丸、右同断、

一宝琳院為砂持用跡方々町夫差出来候由、いたし来之通、

後ハ物夫々相渡、町々之出夫差免候事、

出夫可申付候、但人数寡候而相濟候様可心遣事、

右町夫一通唯今迄ハ、入切高相調候手数も無之、年々出夫

一諸通ニ付、賃銭申請差出候夫も、入切前乞箒仕立、一ヶ月ツ、町方役所可差出候、尤賃銭致受用候段、乞箒ニ書載可仕候事、

右之外、町夫召仕候半而不叶義有之時ハ、其段町方

相増及迷惑由ニ付、自今ハ郷夫同然勘定所納帳申付候条、月々町方役所差出置候、乞箒并請取手形年中束帳ニ仕立、毎年師走廿日限勘定所可相納候、尤自役相勤候夫高も帳ニ仕立、同然可相納候事、

役所申達、町奉行より諸役所相達差免候上、乞箒可仕

事、

貫物一通

一町々火番夜廻并致来候井樋・橋・道作、扱又自然出火之節火消等之儀は、弥致来之通、自役ニメ可致出情事、

一町奉行附役・下役共使番料、役料銀等として、諸町貫物ニメ差出来候由、以前町々相願、右之趣候得共、向後

一与賀社掃除用・八幡社祭礼用夫丸之義は、弥致来之通自役ニ可相勤、但人数相減候心遣可仕事、

市中之者々差出ニ不及候事、
一橋懸合銀として、町々之石高二応し取立候由、致来之通可仕候事、

一日峯社掃除之儀、向後一ヶ月ニ三人ツ、町夫申付候、諸

町追廻ニ自役ニ相勤候様、其外ハ従社人心遣掃除可仕事、

一火祈禱・夜廻・蠟燭・筆紙・墨、扱又火消道具等之修理

一人馬定切符相渡置候役者急用之節、唯今迄は町夫差出来

其外火番屋修理等は、致来之通貫物ニメ可相整事、

候由、扱又長崎奉行其外え進物差遣候節持方用夫丸、向

一別当給として貫物仕来候由、惣而給米之儀、反米一人

明屋舖何間口

此屋敷酒屋何某相拘心遣罷在候

何商売

何商売

楞札二枚

日雇稼一篇

何商売

楞札一枚

寺地町並何間口

何某

子何某

娘何某

右何某借屋
何某

右同断

何某

娘何某

何宗何寺住持

僧何某

弟子何某

下人何某

合

内

商売人何拾人

日料稼何人

職人何人

女何拾人

老人何拾人

童何人

下人何拾人

僧何人

右之通相違無御座候、以上

何正月十五日

别当

人改

何某

何某

一右帳町奉行奥印ニ而請役所可相納候、尤年行司えも三月十五日限可相納候事、

一別当役仕候者、其外咄役・宿繼・別当・人改、或馬散使、

或札馬立飼之者、或目明、或問屋・客屋等一切役目有之

者は、書載可仕事、

明和九年辰九月

十二ヶ月惣仕廻之手数定

勘定改頭人

同附役共

今般鳥子帳之旨を以諸筋取調子、且当時之趣考合、万端

古代之法令相立、国家之政道令興隆事候、就右ハ第一勝

手向丈夫之仕組不相整候半而是、公辺之勤向を始、諸遣

料扱又家中下々迄撫育道不相立義ニ付、万事實素ニ側廻

を始、費等敷義等無之様、以前之趣を以十二ヶ月大割目

録相整、右諸遣料之定、年々之物成を以目論見、向々ハ何卒余米も相備、永々相統之道相開候通、此節之仕組全行届候半而不叶事候、右大割之儀、年々於勘定所役々遣料之小割を取立候様申付儀候条、役中心底を不殘幾重ニも令吟味、聊上下不順之儀等無之様心遣肝要候、猶又諸算用究其外之儀ハ、被渡置候御印帳之旨を相守、令勘弁嚴密ニ可相務候、

一毎年十月ハ九月迄国元・江戸・京・大坂・長崎・深堀諸遣料十二ヶ月大割目録我等令印形、十月前ニ請役所勘定蔵方え相渡候事、

但、大割差出候以後、右定之内、自然増減之廉有之筋

ハ、時々書付ニ而見せ候上、大割ニ附紙いたし、其意

味令書載可差出候事、

一役々遣料小割之義ハ、当役致印形差出候様申付候事、

一右諸遣料定之外、臨時并入越有之節は、其筋を積書等蔵

方差出候上、於請役所・勘定所、立会令詮儀相決候、銀米

高書付我等え見せ、其筋えハ当役より判突差出候様申付候、左候而十月ハ九月迄之銀米高、在国年は十月中、参勤年ハ翌五月中ニ我等令印形、請役所・勘定所・蔵方え可差出候事、

一月ハ現銀米請払之目安、役ハ蔵方え差出候様、右十ニヶ月相揃候上、勘定所え毎年十月中相納候様申付候事、

一 小物成方之儀、以前之通、美作存ニ而、本丸蔵え相納候様申付候、就右ハ向々余米有之候節、扱又勘定所集銀米も、已後右之筋え相納候様相定候事、

但、右之内ハ出方ニ相成候ハ而不叶節ハ、古格之通直管を以差出事候、尤留守年ハ美作管ニ而出方ニ相成、追而直管ニ引替候事、

一 検者共ハ差出候凡目安ハ霜月十五日限、メ目安ハ師走十五日限我等え見せ候様、尤勘定所えも兩様共時々差出候様申付義候条、其年之物成を以十二ヶ月定之大割銀米高

不足之目安取置、早々可差出候、我等心持ニ相成義ニ候故、右之通相定候事、

一反米之儀は、目安ニ仕分可差出事、

一 毎年十月ハ翌九月迄之諸遣料・諸払之大目安、明ル十月ニ差出候様已前被相定置候得共、勝手向就差支、諸役帳納相滞、近年格式之通相整候義不相叶由、当九月迄之義は、諸帳納切之上、追て取立可差出義候得共、当十月以後之義ハ、向々迄如以前、明ル年之十月定日限之通、大目安相整、諸役者名付帳同前可差出事、

但、大目安一品、諸役者名付帳二品銘々我等見届候上、墨付差出候事、

一 蔵方仕組書写一品、郡方同一品、代官同一品、夫仕同一品、郷村貫物同一品、町方貫物同一品、郷普請同一品、検者同一品、馬究方同一品、寺社方同一品先以右之分渡置事候、尤算用究筋々相懸り候体之儀、無迦様相整可申事、

右之条々、泰盛院殿御印帳之趣ニよつて諸遣料之定、惣目録を以、毎年所務高之目論見、并臨時入越等之手数惣ノ之儀、相定候条、無相違様可取計候、猶又加吟味令潤色事候条、存寄等之儀は、無用捨筋々申達者也、

明和九年辰九月

御改正御書附 四冊之内三

御小物成所手数定

并

- 一 郷普請書付
- 一 郷村貫物書付 写
- 一 夫遣書付

今般御改正付而御小物成所諸手数左之通被仰付候

一 正月十一日御蔵開只今迄之通仕候事、

一 御小物成所納銀、

御本丸御蔵え被相納候事、

一 相定候諸運上銀、偕又御新地方・御山方・御蔵方々相納

候筋、其外目安を以相納候銀、束而一ヶ年納高、只今迄

之通大目安仕立差上候事、

一 諸納翌月十一日限、

御本丸御蔵え被相納候事、

附、月々納之儀も内目安を以達

御聞候事、

一 六月ニ是迄之通、目安差上候事、

一月々納之内、新古ニ相響候納有之候節は、年違束候而は相叶間敷候得は、目安仕分差上候事、

一 判屋包銀丁銀錢納、其儘致御蔵納候事、

附、目安ニも其分書載之事、

一 正銀は拾貳貫目入ニメ荒箱入、釘メ仕、上ニ何之何年納之内と懇ニ書載仕候事、

附、右を加しあんニ入置候事、

一 錢は五百目入、裏莖包ニメ差札ニ年号其外之書載、前ニ

同、

一加しあん并御蔵外封、相談人・御目附・附役合封いたし

候事、

一御本丸御藏之内、御小物成所存可被相渡事、

一御藏之御銀被差出候節は、御直筈被差出義候間、乍其上

致御藏出(脱あるか) || 校注

一御藏之鑰、頭人預り置、御藏明候節御目附・附役中え相

渡、御用相濟候上、早速頭人え相渡置候事、

一御城代番偕又御藏番、手明鍵・足輕・大鞍御門番え、猶

又勤番仕候様相達候事、

一十月廿日勘定方仕切、十二月十五日諸運上納、同月廿日

御仕切、六月廿九日仕切、其外内仕切之節、酒食役内

仕出有之候由、向後は輕キ茶、懸頭人へ差出、酒は一向

相止候事、

附り、内仕切之節は、侍中ハ弁当取寄、手明鍵・足輕

は中台所・下台所可被差出候事、

一櫛方之儀、諸運上同前、大山留其外心遣役之者へ運上銀

取立相納候様、尤年ニ一ヶ所ニヶ所、所を不定致見分義

候条、木数不隱置、持主并心遣之者へ時々申達候様相達

置、見分之節、自然木数相増居候節は、本人并心遣之者

え、輕キ科代被相懸候事、

一 只今迄は櫛木改として、相談役以下数人罷越、過分之雜

用銀等被差出由、甚御費之儀候条、向後は下役ニ下目附

相添、前ヶ条之通、一二ヶ所充致見分候事、

附、本文之通ニ而不メニも有之候ハ、到時ニ附役よ

り一人被差越儀も可有之候事、

一御小物成所役内諸勘定究之儀、役内ニ只今迄は被相定置

候得共、向後之義御懸硯方え被相立、諸役所同然帳納相

整候事、

附、当秋へ御懸硯方え帳納有之候通ニ而は、最早半ヶ

年余相過、手数半途へ相違候通ニ而は、取結相叶間敷

候条、来正月へ十二月迄ニメ、明正月へ之納帳被仰付

候、御貸方之儀は、十月へ九月迄ニメ、当十月へ之納

帳被仰付候、

一勘定所納銀米、当年分は御懸硯方え相納、明年へは毎年

御小物成所え相納候様被仰付候事、

一御小物成所内ニも、役々別ヶ而相立居候得共、何茂打込

ニメ相勤候様、別紙書付之通被仰付候事、

一諸見分其外ニ而郷内罷越候節、只今迄は雜用銀被差出義

候得共、此節御改正付而八拾文旅籠之儀、御本方同前被

仰付候事、

附、右銀は別段銀へ可被差出事、

一恒例拜領之儀、被相止候事、

附、野留櫛心遣其外輕キ者共え、無之而不相叶候半は、

此節得と致吟味委帳面仕立、達御耳頭人判突帳面差出

置、右を以毎歳致出方候通被仰付候事、

一向後諸給人え御貸方之儀、被相止候事、

附、役内之人たり共、同断之事、

一御鷹方・御鉄砲方・御狩方御遣料之儀、是迄之通、丑年

以来上り地之内へ被差出儀候間、毎歳御懸硯方え相渡候

事、

一御新地方・御山方百姓、偕又津内皿山其外え拜借銀被差

出候半而不相叶節ハ、其筋引落、又は別段銀之内へ被差

出候事、

附、右拜借頭人聞届之上、相談人判突之書出手紙ニ御

目附致添印差出候事、尤一ヶ年分束候而目安仕立達御

耳候事、

一楞銀偕又取集銀之儀は、別段仕置御新地方百姓其外諸拜

借相願候節、其筋引落銀無之節被差出候事、

附、書出手紙手数、前ヶ条同断、

一御新地方捨り搦一通築立付而、年限無米等相願候半は、

願之通被仰付、土居普請一通手本土居を築立、高横はへ

長サ委帳面ニ仕立置、年限相満候上、役々立会見分之

事、

一御新地方其外田畠見分成証有之候節ハ、檢者・郡目附立

会見分之上可被仰付事、

一俵管之儀、只今迄は俵改る取次候而申乞由候得共、荷主雜用銀等間ニは差出候趣相聞、甚不宜儀候条、向後は荷主又は船頭間る直ニ申乞候様、尤旅人ハ客屋問屋より可申乞事、

一泊番之儀、只今迄は役内下目附る相勤来候得共、向後附役并手明鍵追廻ニ泊番被仰付候事、

一櫛之木相立置、御本田之障ニも相成候場所之儀は、御藏方る懸合来候上、見分之上伐除候事、

一川岸仕出揚江筋芦野御成目銀被相懸候場所も、障ニ相成候ハ、御成目被相除度旨御藏方る申来候ハ、見分之上、其通被仰付候事、

一諸問屋共口銭、以前之通、銀高二屯部充之口銭致受用候様、今又触達可有之事、

一築之儀、向後請築ニ被仰付候事、

一御藏方并反米藏る相納候米之儀、双場直段を以売払、御藏納相成候事、

附、売払ニ相成候直段聞合等之儀は、役者ニ郡目附、

下目附相副承合候末、頭人間届、仕払ニ相成候事、

一諸役人只今迄は九ツ過比る出勤有之由候得共、向後四ツ時ニ出勤いたし候様被仰付候事、

一只今迄津留内穀物等致津出候節、願書差出、請役所附役副印有之候得共、其通に而ハ汐間迦ニ杯相成、願主致迷惑由、付而ハ向後副印無ニ相濟候様被仰付候事、

右之外、瑣細之手数等ハ多々可有之候、右は役内ニ而致吟味候上申達、猶又嚴密相勤候様被仰出候、以上

明和九年辰十月

一郷普請書付

一郷村貫物書付 写

一夫遣書付

郷普請之儀ニ付郡方え相渡候書付

郷普請之儀、以前は郷内請持ニ而相整、強役筋之立入ニ

も不及、竹木を山床ニ而相渡候分ノ儀ニ而、普請手堅相整申たる由、然処山床繰合悪敷相成、持方之人手間費候訳を以、諸郷る之依願、竹木買料を相納候付、東西ニ材木屋

相立、右料米相渡、竹木を買入、郷普請役として心遣普請相整来候、只今と候而も百姓共は、普請手堅有之儀を相好管候得共、請持之儀を致忘却居、為ニ不相成事ニ候、今般郡郷之メリ夫々申付候、随而は普請之一通、左ニ如書載申付候、

一郷普請一式郡方え相任、代官立会、一郷々大庄屋心遣相整候様申付候事、

一竹木買料之儀、毎年郷々除役米立ニ相納、印藏存致受払来候、向後も其通申付、渡方之儀、立直段を以郷当管差出可相渡候、尤春普請料は霜月末、二番普請料は六月末ニ可相渡候事、

但、渡方之節、大庄屋・材木屋立会請取候様可申付

事、

一竹木之儀、年内る伐立置候得は、性強手数こたへ候由候条、能々念を入候通、材木屋共えも手当いたし候様可申付事、

一郷普請之儀、井手搦・土居野越・水道樋道部越堤・尺八角井樋・くり井樋・板井樋・道橋川濬・堀濬等之儀は、正月早々る取懸耕作仕付候、前辺相仕廻候半て不相叶付而ハ、春普請之竹木・夫丸・郷物入方、郷々大庄屋る横帳ニ品仕立、願書相副、毎年十一月限郡方差出候上、

代官・下郡代奥点合いたし、藏方頭人え当郷方え差出候上、藏方頭人承届一品は郷方え控置、一品は郡方え相渡候上、早速普請取懸候様可仕候事、

一二番普請願之儀は、毎年六月中ニ差出、手数前条之通可相整事、

一普請之用事ニかきらす、郷村一体之考之為、村絵図相整置候様ニ申付義候、右絵図を以、津出道・耕作道之広狭

・長短、橋・井樋之大小、其外郷村の相願候普請之廉、都合之見計可仕事、

一 一村の普請願差出候節、庄屋・村役・頭百姓立会、普請之廉の横帳面を仕立、大小竹木之數、夫丸郷物入方迄差詰書載、願書相副、大庄屋え差出候上、大庄屋・村役立会、入方之員數無相違哉、念を入改之相減候分之義ハ右帳面ニ書入、大庄屋致印形候様、尤村の請持ニ而相調候普請付而は、隙次第申合相調事候得は、只今迄之夫入は過分ニ可相減事候条、其心得ニ而帳面取立候様、代官・郡方の懇ニ可申付置事、

一 普請致成就候段、大庄屋の代官・郡方え相達、代官の蔵方相達候上、郷方普請心遣役・懸り郡目附立会再見可仕候、尤普請之善惡郡方の前辺見廻り置、再見之節も立会候様可申付事、

一 郷普請竹木之儀、材木屋の受取候時、百姓共自然重荷を厭候而置古シ、又は小キ木竹を請取候体之儀無之様、大

庄屋・村役立入心遣候様、郡方として可申付事、

一 福母・長浜・坪石之儀、以前の海付江筋之汐土居根搦荒籠向其外切渡引落所等之普請所え相部義候、右石船大小に依て、積石分量之荷足浮羽焼印有之由候得共、今一応相改積試申付、別条無之候ハ、右を定規ニメ向後無疎漕廻り、普請所の二大庄屋其外見届直相部、郡方え其段相達候様可申付候、其上郡目附立会ニ而見分可相整事、

附、只今迄は勝手の二漕廻由候得共、自今ハ郡代一懸りの郷割を以、運送仕候様可申付候事、

一 小城郡の相納來候夫引竹、近年請負之者相立、其者の整入相納候付、竹不宜、普請方其外之用ニ相立候通無之由、向後請負之者不相立、右郡内之竹、時節宜砌伐出相納候様可申付事、

右条の臨時・定式ニかきらす郷普請之儀、荒増令書載候、尤此節の臨時・定式差分、定式之儀ハ、夫丸竹

木之入方も年々相極置、積帳面差出ニ不及、例年之通大庄屋の乞答を以、料米兩度受取相調候様相定候、年々春秋之普請之内にも臨時有之廉、扱又不意之破損所有之而普請仕候節ハ、前条二段の書載之手数を以相整候様可申付候、右普請定式之手数は、左之通たるべく候、

一 一村之普請可仕場所大小數ヶ所之内、上普請ハ不及沙汰、堀川水道之堀濬、或ハ捌(からみ)、或ハ井樋・橋之土普請并前後左右之捌、或ハ井手野越之修覆等夫手間・竹木其外之品迄積立、定式普請ニ相極置、一村の請持ニメ料米定之通、前辺兩度大庄屋の乞答を以請取、農業之透間くの二相整、一番普請は二月迄ニ、二番普請は九月までニ相仕廻、右何も相仕廻候段、郡方・代官え相達、郡代の蔵方え相達候様、其上ニ而諸郷臨時普請所再見之席を以、再見仕候様可申付事、

一 右定式ニ付ては、一村の普請所竹木・夫手間之積委細帳面ニ仕立差出置候様申付、前二書載之村絵図ニ引競考可申候、然時ハ臨時之普請致出來相願候時、少も違乱之儀有之間敷候、此帳面之仕立様左之通、

何村普請相整候廉

一 津出道幅何尺、長サ何村境の何之角川土居上り立迄何

百間

右土普請一ヶ年替ニ夫手間何人

一 耕作道幅何尺何百何拾間

但、何ノ割中道何拾間、何村境橋之際の東西何拾

間、夫の何所え何間

右土普請夫手間何人、但、自役ニ致來候ハ、其書載

之事

一 土橋幅何尺、長サ二間、何村境之川ニ掛ル

一 橋柱何本、末口何寸何間物

一 桁何本、右同断

一 梁何本、右同断

一 根太何本、右同断

一 竹何拾束

一 繩何束

一 明俵何拾俵

一 夫手間何拾人

一 川土居何拾間

但、土居敷何間、築留何尺、新築立之積一間二付

一 丸太何本

一 竹何束

一 土何坪

一 夫手間何拾人

一 井樋一何村境川ニ懸

但、内法何寸豎横長サ何間何々

一角何丁

一 工手間

一 夫手間

左右揃
一 丸太何本

右揃
一 竹何拾束

一 くり井樋一何村境川ニ何村ニ流通候水道何番ニ懸

但、内法何寸、長サ一間何尺

一 松末口卷尺ニ長一間何尺物一丁

左右から用
一 丸太何本

一 竹何束

一 工手間

一 夫手間

一 井手

一 板井樋

一 野越

一 其外廉々之書附前ニ准

右之通、夫々一村一郷中之普請可有之場所竹木・夫手間相極置、右之内、何々は定式、其外は春秋只今迄之手

敷之通、帳面仕立差出候上、竹木・夫手間之積相考可申

候、左候而漸々と手堅普請相整、場所ニ依而瓶井樋・

石井樋・石橋等ニ相成候所も可有之、彼是を以後年ニ

至り候ハ、夫手間・竹木入方減候通、相成候仕様可

心懸候事、

大普請出来之節之事

一 自然大風・大潮ニ土井破損之時は、頭郡代罷越早速修理

可申付由、鳥子帳ニ御書載被置候通、頭人早速可相越

候、若其節用隙入等候ハ、先下郡代早速差越、左候而

請役所え可申達候、其節は代人可申付候事、

附、大風・大潮ニ破損之節ニかきらす、大普請之節

ハ、頭郡代可罷越儀候事、

一 潮土居・川土居有之所は、大風・大汐・洪水等之節、土

居何間ニ何人充と積を以、一村一郷充請取之丁場を定、

其場所ニ相集候様、其郷中は素、隣郷も駆付夫相定置、

早速定之場所ニ参り、紛骨相防候様兼而可申付置候、ケ

様之節は、大庄屋罷出致下知候様之事、

附、早速代官・下郡代罷越、万端之心遣可仕候事、

一 自然大汐・洪水等之節、土居危ク防方ニ付而竹木其外之

入用有之候ハ、近村之竹木をも伐取仕留可申事候、左

候而右用ニ立候竹木等ハ、按量候而代銀取らすべく候、

右躰之節抜群相働候者えは、褒美可申付候事、

一 郷中潮土居・川土居・堤其外大普請有之、夫手間夥敷入

用之節、出夫高之積、藏方頭人々令差図、近郷割夫を以

可相整候、普請之趣ニ仍而、普請奉行申付儀も可有之

候、左様之節ハ、万端郡代・蔵入頭人・代官可申談候事、

一 郷普請之儀、一郡くえ相任事ニは候得共、諸郡之大一

体を心遣、普請之善悪利害を見斗候儀、蔵入頭人え申

付、郷方役所え役人相立置事候、尤只今迄於郷普請方相

整候内、左ニ書載之廉々ハ、右役人として打追心遣候様

申付候事、

附、郡方々之普請、年久敷相絶居申事ニ候得は、不案

内ニも可有之、日事ニ依而郡方一手ニ而は差支候儀可有之候条、指南を茂請、無迦相懸候様可仕候事、

一 東目境川普請付而之事

一 諸郷川々水加減之事

一 所々水論取調并蔵入・配分所之境、舫普請等之節見計候事

一 井樋方之事

一 川上川方之事

一 福母・長浜・坪石之事

一 我等江川通通船之筋、掘濬之節見分之事

一 石井樋戸立心遣之事

一 川上川船差抱男之事

一 石井樋戸立明堰用抱男之事

一 多布施川船差之事

一 上佐嘉上郷西尾崎村・下和泉村作水横打水道水論之末、

水分試之事

右之外、大普請之心遣、扱又重立候井手・井樋・橋懸整之節、前辺之積方部調之致様迄、右心遣之役も立会見分候様申付候事、

右之趣は普請方之大意ニ候、郡代・代官として存寄之儀も候ハ、可申達候、猶又吟味致させ、此上ニも宜敷仕法於有之は、段々可令差図者也、

明和九年辰九月

郷村貫物之儀ニ付、蔵方頭人え相渡候書付

一 大庄屋貫物先年之相定致受用由候得共、以前之通引無ニ切米申付、貫物致受用候儀、停止申付候事、

一 小庄屋、右同断、

一 薄縁代と候而、郡方ニ依而諸郷え申付儀も有之、貫物仕由無謂儀候条、向後可相止事、

一 村々自分ニ筆者其外之料米として貫物仕之由、以前無之

義候得は、貫物不仕候而相済可申儀候得共、小庄屋共不弁ニ有之、筆者無之候而は難相済由候条、先以是迄之通、百姓共之貫立差出可申候、尤代官として貫物員数調立不苦分書立、蔵頭人え相談之上、請役所相達、弥貫物ニ仕候而可然旨相決候分、代官之切手差出、其員数無間違様貫物仕候様可申付事、

附、右貫物員数不間違様百姓共え委細申聞、書付百姓荒々え可相渡置候事、

一面請浮立仕候節、佐嘉郡中ハ一郷ニ銀百五拾目充、其外ハ銀百目充蔵入之相渡候得共、右は大庄屋存候而、酒食等之賄用遣捨ニ相成、浮立ニ付而之諸入具ハ、百姓銘々之心遣、又は貫物仕候由相聞候、少分ニ而も酒食等之用ニ遣捨候と申儀、甚以不届之致方候、向後其通不仕、相渡候銀を以、随分始末を考、質素ニいたし、不足候ハ、代官え申達差免候上、少々ハ貫方ニ仕候而も不苦候、其外貫物不仕候而不叶儀有之節ハ、何時も前条同断

之事、

一 夫遣之儀、百姓ともニ不相応通之当付等仕候処之、料銀差出候儀も有之、右を村中貫物ニ仕候由相聞候、以之外之致方ニ候条、向後右候通之儀無之様稠敷可申付事、

一 諸役者郷内罷越候節、食用楮又馳走をもいたし、左候而貫物ニ仕候様相聞候付、諸役者郷内罷越、百姓之雜作ニ不相成様申付候条、向後百姓之為少分ニ而も雜作ニ相成儀有之候半は、役者曲事ニ申付、大庄屋・小庄屋・村役共も其ノ可申付事、

一代官其外郷懸之諸役者え、恒例諸進物并不時ニも音物等いたし、貫物ニ仕候体之儀、弥以仕間敷候、惣而恒例と候而も進物等仕候儀無之筈之儀ニ候、向後諸役者え何色ニ而も致音物候ハ、役者不及申、進物いたし候者も曲事ニ可申付事、

一 諸願事其外村内吟味事有之刻、庄屋・村役打寄候時も雜用有之、貫物仕候由相聞候、右体之節少分ニ而も雜用可

有之様無之儀候、向後其通之儀不仕様稠敷可申付事、
 一 灸治用艾・酒屋渡蒨・葱・芫跡方過分之員数毎年諸郡
 え郷当ニ申付相納来候由、右は村々ニ而拵立候儀不及手
 候故、大庄屋共心遣買入を以相納趣ニ候、此貫銀過分ニ
 相懸候由相聞候、以後之儀直ニ買入候而相濟候通可仕候
 事、以上

明和九年辰九月

夫遣之儀ニ付蔵入頭人え相渡候書付

(この項目は目次(一)中の「夫遣」の項と同文につき略す)

御改正御書附 四冊之内四

- 一 竈帳
- 一 一人別帳
- 一 一郡方ニ付而之書附
- 一 一代官勤方ニ付而之書附
- 一 一檢者勤方ニ付而之書附

竈帳

一人別帳

竈帳

明和何年何郡何郷何村

田畠
竈数
人別

改帳

田数何拾町
地米何拾石

内
一 田数何畝
地米何斗
年々否

畠数何反

内
一 畠数何畝
地米何斗
年々否

地米何石

畔数何反

地米何石

但屋鋪数拾幾ノ寺地ニケ所

屋鋪何反

地米何石

内
一 屋鋪何反
地米何石
半成定

男何百人

女何百人

一作馬何拾疋

合
地米何百何拾石

男女何百何拾人

内

田数何町

地米何拾何石

農業一篇
何拾歳

何拾歳
何
某
房

ノ五竈一組合

田数 農業一篇 何拾歳 何 某

地米 何拾歳 女 房

嶋島何畝 右何 子 何 某

地米 作馬老疋

居屋舗何畝

地米何斗

田数何町 耕作一篇 何拾歳 何 某

地米何拾石 何拾歳 女 房

畠数 右同 子 何 某

地米 御城下之為奉公罷出居候 何拾歳 子 何 某

居屋舗何畝 作馬老疋

地米何斗

居屋舗何畝何歩 鍛冶 何拾歳 何 某

地米何斗何升 何拾歳 女 房

畠数何反 右同 子 何 某

地米何石 何拾歳 母 親

ノ五竈一組合

居屋舗何畝 何拾歳 何 某

地米何斗

田数何町 耕作一篇 何拾歳 何 某

地米何拾石 女 房

一屋舗何反 右同 子 何 某

内 何畝明屋敷 地米何斗 右同 子 何 某

何畝居屋敷 地米何斗 荒シ子 何拾歳 何 某

畠数 作馬老疋

地米

畔数何畝

地米何斗

ノ五竈一組合 割末四竈有之候は、四人ノ二可仕候、三竈一有之候は、四竈宛式組合ニ可仕候、二竈一

畠数何反 右同 何拾歳 子 何 某

地米何石 右同 何拾歳 子 何 某

居屋舗何畝 農業并大工家茸弟何某 何拾歳 作馬式疋

地米何斗 農業一篇 何拾歳 何 某

田数何反 何拾歳 子 何 某

地米何石 何歳 娘 何 某

畔何畝

地米何斗

居屋舗何畝

地米何斗

田数何町何反 親何某相果 何拾歳 何 某

地米何拾何石 何拾歳 母 親

畠数何反 荒シ子 何拾歳 何 某

地米何石何斗 何那何郷何村より参候 何拾歳 何 某

居屋舗何畝 右同 何拾歳 何 某

地米何斗 右同 何拾歳 何 某

作馬老疋半

明屋舗何畝 何拾歳 何 某

半成地米何斗

何宗何寺 敷地何畝 住持 何拾歳 何 某

地米御免許地 弟子 何歳 何 某

屋舗何畝 下人 何拾歳 何 某

地米何斗 何那何郷何村より参候 何 某

畠数何畝

地米何斗

田数何町 老人ニ付農業不相叶候 何拾歳 何 某

地米何拾石 何拾歳 子 何 某

畠数何反 農業一篇 何拾歳 子 何 某

地米何石 右同 子 何 某

居屋舗何畝 娘何某何那何郷何村え参候 何拾歳 下女何某

地米何斗 作馬半疋

郡何郷何村之者、留守之間為家番罷越居候、

耕作一篇	何拾歳	何	某
耕作一篇	何拾歳	女	房
耕作一篇	何拾歳	子	何某
耕作一篇	何拾歳	子	何某
荒シ子	何拾歳	何	某

ノ竈一組合 割末ニ付、四竈ニ而組合罷在候

竈数何拾軒何拾組

男女何百何拾人

内

耕作之者何拾人

僧何人

職人

老人 但六拾歳ノ上之者を揚書載可仕事

童 但十三歳ノ内之者を揚書載可仕事

女何拾人

荒子何人 但此内寺院之下人等耕作不仕者

右之通相違無御座候、以上

何三月十五日	庄屋	何	某
	人改	何	某
	大庄屋	何	某

此帳郡方奥印ニ而、年行司方相納候事、以上

明和九年辰九月

一郡方付而之書附

一代官勤方付而之書附 写

一検者勤方付而之書附

郡方付而之書附

一郷村之儀、年来諸役ノ取捌郡代不相心得義も有之趣ニ候、其通ニ而は郡代申付置候詮も無之ニ付、今度古格

之旨を以、郡中之大小事不依何事、郡代心遣候様相定事

候、年貢一通之儀も、代官心遣之分ニ而相済来候得共、

納方相滞候処ノ百姓相痛、郷村相衰候通ニ罷成候而ハ、

郡中ノ方も不相届儀候条、右一通は就中立入心遣可申

候、

一条目之通無相違手当可致事、

一附役として侍老人申付候事、

一諸郷年々致零落候上、近年は就中勝手向差支候付而、年

貢外ニ懸り米等相納候儀も有之、猶又郷村及困窮候由、

惣而世上一統之風俗ニ連、郷村之ノ方相緩、年貢筋之定

法も猥ニ相成居候趣、以之外之事情、因茲今般諸筋古格

之通令改正儀ニ付、蔵方ノ貸付置候銀米一通、差捨候

事、

一郷村出夫多及難儀、且内分貫物過分ニ有之而、百姓迷惑

仕趣相聞候付、諸筋相改向後出夫寡相成、諸雜用等無之

様、郡代を始其外之役々第一大庄屋として立入心遣可仕

義専用之事情、万般付而郷村難儀相成候体之儀は、早々

請役所并蔵方頭人え可相達事、

一代官・下代・検者之勤方宜候哉、自然不相当儀有之趣候

ハ、早速請役所並蔵方頭人え可申届候、郡代として郡

中之手当不宜趣ニ候半は、代官・下代・検者として時々

請役所相達候様申合置候事、

一兼而郷内之諸法度并申渡儀共、滞亦は相背者無之哉、扱

又荒所無之哉、開所ニ可相成所無之哉、横目之者ノ見聞

を以、時々申聞せ候様申付置候儀条、代官申談無油断相

改可申達事、

一孝養を尽候者は不及沙汰、傍輩ニも宜敷交り篤実ニ有

之、家業致出精者は相撰、帳面ニ控置可相達候事、

一大庄屋・小庄屋取捌之善悪を相考、勤方正路ニ身ニ懸出

精仕候者は、無滞其段請役所并蔵方頭人え可相達候、自

然不相当取捌仕候者は、委細令穿鑿、弥仕形於不宜ハ、

是又早々可申達候事、

一大小庄屋給米部引ニ相渡、左候而百姓ノ貫物ニて致受用候通相成居候由、其通ニ而ハ紛等敷、殊百姓共為ニ不相成候付、向後引無ニ給米相渡、貫物之儀は相止候様申付候事、

一 郷々心遣之ため、大庄屋相立置事候処、近年大庄屋共風俗悪敷、郷村之為ニ相成候了簡之者は寡、奢をいたし百姓え貫物を相懸候体之儀而已有之趣ニ相聞候、右体之者ハ致穿鑿、其ノ申付候儀当然ニ候得共、唯今迄ハ世止之風俗ニ連て、一体之覚悟令忘却罷在ニ而可有之、然ハ此以後之儀、急度了簡相改第一自然行跡を相嗜、過賄質素ニいたし、不断郷中之ノを氣遣、相定たる貫物之外ハ致来杯と有之儀ニ而も一向ニ相止、私ニ百姓召仕候体之儀無之、点役之割ろくニ有之廉潔相勤候様、惣而大庄屋一人之了簡ニ郷中数千人之安危ニ相懸、大切成義を致心得、右之趣片時も無怠惰相勤候様、毎度懇ニ可申聞候、大庄屋右之趣大形ニ心得候通ニ候ハ、郡代越度可

申付候事、

一 庄屋より申触候儀有之刻、儘ニ小百姓迄銘々ニ申聞候様、懇ニ可申付候事、

一 郷村・津内五人与之ノ嚴重ニ相改、給人・寺社家ニよらす村頭ノ順ニ組合、幾与都而何百竈何百人と、庄屋・別当・人改立会相調、毎年正月十五日限、庄屋・別当ノ郡方相納、郡代ノ請役所可差出候、扱又年行司え人別帳三月十五日限、人改ノ相納候様可申付候、左候而控帳相調置、右を以一村ノ相考、一人も遊民無之、家業を致出精、自然間ニ不所存之者有之、家業怠、惣体之身持不宜体之者は、組合内ニ而遂吟味、行跡不相改ニおるてハ、庄屋え申届、庄屋として申聞候而も不相直節ハ、大庄屋へ申届、大庄屋ノ申教候而も承引不仕者は、其段郡方として代官申談之上、年行司え可相違候、尤組外之者無之哉、毎年従年行司所を不定、一村二村充例ニ可相改候条、其心得可申事、

一 諸津・郷津迄櫓手叶改之儀は、津方ノ相改儀候得共、一体五人組改は、郡方より心遣、竈帳可取立事、

一 郷村・津町之者、江戸・上方罷登致滞留候節は、其者之儀は、先以人別帳ニモ書載仕置、罷下候節は、其村之庄屋・人改ノ年行司え相違候様可仕事、

一 郷村罷在給人扱又寺社家等何角六ヶ敷申、庄屋之手当相滞候通相聞候条、前々之通、代官之善差出候様申付、村並之通支配可仕義候、自然相背候者は、代官より定法之通可取捌候条、為郡方其心遣可仕候事、

附、給人耕作之儀、前々ノ禁止之事候、尤作仕候半て不叶者於有之ハ、其訳相願候半は、吟味之上可差免候、扱又唯今まで致来候者ハ、其儘ニ而可閣候、然上ハ代官・庄屋之下知不相背、上納少も滞間敷由定之通善差出させ置、自然相滞候ハ、直之者は知行・切米より取納、又内は主人え可相懸候事、

一 郷普請之儀、古格之通郡代・代官え相任義候条、一村之

普請は一村切、一郷之普請は一郷切、大庄屋として身ニ

懸取捌候様、尤大普請出来一郷切之寄夫ニ而不相濟節は、郡代として請役所并蔵方頭人え可致相談候、惣而普請之儀郡代え相任候上は、万端代官申談、郡方一手切ニ可相調候体之郷普請之一通委細之仕組有之儀候条、能其旨を存、委大庄屋申教、夫手間・竹木之料等付而紛等敷儀無之様可仕候、自然不直之儀有之候ハ、大庄屋曲事可申付事、

一 江湖端堀岸等秀之場所、近年地料相懸候故、唯今ニ而は勝手次第築出等仕ニ而は無之哉、右体之所え相懸候地料之儀ハ差免事候条、漸々元々之通堀溶候様可心遣事、

一 公儀宿繼之外、佐嘉ノ申付候宿繼ハ、蔵入頭人手形ニ而人馬差出候様、方々ノ参候宿繼之義は、請取候者ノ手形を取、蔵入頭人え点合判形を以、払方仕候通相定居候得共、向後は方々ノ参候宿繼之儀も、蔵入頭人へ当候送状ニ而宿繼いたし、書状等相届候上、右送状会所・郷

方役所え渡置候様、其末蔵方頭人判形之上、引合可仕事、

但、何某え何某の何之用所ニ而遣候通細ニ書付、一年充帳ニ仕立、毎年二月限ニ差出候様相定候事、

一諸宿札馬改近年相止、居所ニの猥有之様相聞候、向後跡方之通改候様申付候条、其心得可申事、

一長崎奉行其外諸通路之節、諸心遣肝要之事候、郷村の人馬差出候一通は、委細別紙夫遣之通候、扱又札馬之儀、只今迄は札馬方役者相附差越來候得共、向後は役者不差越候而、馬究役筋の先触前札馬当付、郡方え釣合候様申付、増駄賃其外之入方は、跡方定之員数馬究役筋より馬散使を以郡方可差出候条、於駅ニ郡目附立会取引相済、請取手形其外一駅充帳面相、馬究方可相納候、右銀之儀は、其駅之入方相整候上、早速次之駅へ馬散使を以可相達候、左候而余銀有之候ハ、留之駅の馬散使持帰、馬究方差出候様申付候事、

一田仕付肝要之儀候、師走始の手を当、農業之人数と地米員数相考、年内早々仕廻候而、正月の耕作一篇ニ仕候様、立入可心遣候と、代官の申付候条、郡代としても其心遣可仕事、

一損毛之在有所之、検見相願候節、向後は大庄屋の郡方え願出候様相定候、然は前辺大庄屋・小庄屋・村役共え疎之儀等不仕様委申聞、右願差出候上ニ而は、代官へも相談願之通弥相違無之上、願帳面会所可指出候、検見一通委細之書立写相渡置事候条、大庄屋始郷中之者得と致点合、至時ニ無調法之儀有之而及迷惑候儀無之様、別而可念入事候、自然手当不行届所の疎之義有之節は、郡代越度可申付事、

一其年之上納皆済不仕内、米粗不取散様、前々之条目ニも有之儀候得共、相緩其通不相ノ畢竟百姓共秋冬之間は、就中分過之致方有之ニよつて令難儀由候条、向後之儀郡方として専一心遣、郡中出来立之新穀皆済不相済

内、少も不取散、霜月中皆納候様、代官申談致心遣、残作徳を以少も奢等敷義無之致過賄候様、大庄屋身ニ懸心遣、一人ニ而も不心得之小庄屋有之を其儘差置候通ニ而は、大庄屋不屈候、大庄屋其通有之候而ハ、郡代越度相成事候条、郡代として万端無油断心懸無迦様可仕事、年貢之儀、唯今迄ハ秋初より、下代之者数人郷々ニ罷越取立儀候得共、其通ニ而は却而百姓手間をも費可申候、忽而年貢之儀は為相定百姓之納方ニ而可及催促様無之儀候、然は百姓面々此段致合点、日限之通出情納方皆済仕候様、心遣可申候事、

一蔵究之儀、間ニは六月中ニも不相済通之儀有之候、忽而霜月中年貢皆納いたし、極月初ニ蔵有米相究、翌年五月六月間ニ郷蔵引残之米相改手数候処、師走初蔵究之手数無之付、下々ハ上納皆済を、翌年六月限之様相心得居申趣ニ候、此節古格之通相改、霜月中年貢相済候様、其外之儀、以前定之通申付候条、其心得可致事、

一小庄屋引負候儀、代官緩故候条、自然滞義於有之ハ、代官の可相償候、然時は小庄屋之儀、代官好次第ニ大庄屋え撰方為仕、郡代・代官立会吟味を以可申付候、自然小庄屋無調法有之時は、大庄屋も無調法ニ可申付事、一代官・下代・大小検者其外之役人、庄屋・百姓より振廻を請、又は何色ニよらす小分之物ニ而も音信を請候儀、堅停止申付候、向後右体之儀有之候ハ、役人は不及申、庄屋・百姓をも曲事ニ可申付事、

一名被官前々法度之事候得共、不々に有之趣候条、此末自然名被官相抱候儀有之候ハ、其訳相願候様、忽而被官召抱候儀一体蔵方相願候上、郡代・代官筋相調子、其上ニ而可差免候、尤名被官之儀は、請役所申達可差免候事、

一身売之者請人之ノ緩候条、或徒者或氣ニ不入隙をとらせ候者之恩銀於不納ハ、受人え可致催促候、若滞義候ハ、給人は組頭主人、百姓・町人は郡代・代官等筋ニ申

届、請人又は家屋敷妻子之間、好次第取揚候様申付候条、
端々迄懇ニ可申付置事、

一借屋之者悪事仕出候節は、家主大形故候条、其趣ニより
手当可申付事、

一俗人屋敷ニ出家住居仕、并寺家ニ住持無之候て俗人罷在
候儀、可為停止候事、

一滞在之旅人宿外ニ罷出候節、近辺たりとも案内者相
付、外出仕らせ可申事、

附、給人え知人有之見廻申度段申候共、見廻等ニ不參
様申聞、案内者差出間敷候、尤給人用事有之、右旅
人招呼候半而不叶義有之候ハ、筋々申届差免候上、
招呼候様之事、

一三月十九日釈迦堂并川上經会等、前々旅人致參詣候、

一宿之者ハ宿主手引可差出候得共、立歸之者は宿も
不定、案内も之も無之、付而は相定候道筋之外、脇道罷
通儀も可有之候、是等之事ハ其所ニおいて、給人・百姓

・町人ニよらす見当次第道筋相教候通ニ候ハ、脇道罷
通間敷義候得共、其者不相預義と存、見当候而も不構差
通候而は不宜義候条、其外平生も旅人脇道ニ而見当候
節、右同様之心遣可仕旨、下々迄能合点仕候様、懇ニ可
申付事、

一他領ニ屋敷を持、其所之組合ニ入、偕又他領之商人之手
伝仕儀、前々法度申付置候、医術其外為稽古他方罷越
候者之内、自然右体之儀無之哉、漸々相調事候条、紛た
る義等無之様可心遣事、

一唯今走者之妻子・父母代籠舎之儀、一類ヲ致探促候而、
不尋出上代籠舎申付来候得共、向後之儀以前之通走者有
之節は、妻子・父母間早速籠舎申付、其上ニ而尋出候ハ
、籠舎之者可差免候事、

一郷内通宿之外、酒帘当新穀ノ停止之事、

附、定之場所たり共、分帘・新帘場所替願差免間敷
事、

一旅より酒調入候儀、停止之事、

一荒子扶持米三石を上ニメ申定候様、以前ハ被相定置候、

唯今は過分ニも恩銀受用いたし候由候条、右定上恩扶
取不申候様、漸々手当可致候事、

一郷村商売前々令停止候處、相緩居候由、向後前々定之
通相メ候様手当可仕事、

一踊狂言并浮立其外能・舞・操之類停止之事候、祭礼ニ付
致来候處無拋扱有之候ハ、相願候上可差免候、致来ニ
候共、随分手輕仕候様可申付事、

一鉢ひらき替女・座頭其外乞食之類、一切寺社方其外筋々
より年行司え乞箸を以、板札申請、銘々え相渡徘徊可為
仕候、札なしニ徘徊仕候者候ハ、相調、其懸々無調法
可申付事、

一於村々傀儡師・三味線引・尺八吹之類、扱又乱舞方・小
舞等仕候者え宿借候儀、前々法度候、向後は狂言
師・術師・見せ物師・猿廻シ・葉壳体之者迄宿借仕間敷

候、通筋にてハ無拋一夜之宿借候共、無滞罷通候様可仕
旨、旁懇ニ可申付事、

一晒蠟之儀、唯今迄ハ運上相懸由候得共、向後差免候事、

一賭之諸勝負仕候者於有之ハ、稠敷其科申付事候条、懇ニ
可相達置事、

一衣裳之定相緩置申にてハ無之哉、前々之通弥守其旨候様
可申達事、

一竹木炭薪他方え売出候儀、停止之事

一俗人念仏和讃等を唱致徘徊、其外一体勸進を廻候儀、停
止之事、

一左之通書附相渡候条、夫々行届候様、手当可有之事、

一夫遣仕組書写一

一貫物仕組書写一

一竈帳取立様二通

一郷普請仕組書一

一検者手数書写一

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓
 ・町人ニ至迄、律儀質素之風を守、四民致安堵候様万端改
 正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤
 下々年来当時之風俗ニ押移居候所よりハ、末之為ニ相成候
 儀も、当然及迷惑候体之儀等有之候而不相成候条、依事緩
 急可有之、且存付候儀も候ハ、筋々可申達候、自然不行
 届義杯候而、却而下々及難儀候体之儀有之候而は、主意ニ
 不相叶候条、下々情を能察し、憂ニ不相成候様、加不便仁
 心を本として、我等存念全行届候様、能々心を付教導候義
 肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

代官勤方付而之書附

郷内之儀相任置儀候得共、手当不行届義而已有之様ニ相
 聞候条、手頭之趣熟得いたし、掟之条々懸り郷之人民得

と致合点候様委申聞、一村々能在付候様心遣可申儀專

要之事候、諸郷之義年々致零落候上、近年は就中差支付
 而、懸り米等も相納、猶又郷村及困窮候由、随而ハ自然
 と風俗も悪敷成行、年貢筋不限、一体之々相緩々、上下
 共本意を失候通相成候付、左之通申付候、

一代官役去年迄六人申付候得共、当年之儀四人申付候、役
 所之儀、以前之通、自宅ニ而可相勤事、

附、役米部引等ニ而相渡来候得共、引無ニメ可相渡候
 事、

一 下代役只今迄数人申付候得共、当年之儀、代官一人二下
 代四人充申付、役米引無ニメ可相渡候、唯今迄ハ、百姓
 共年貢納方相滞候ゆへ、秋初々数人郷内え相部、稠敷手
 当仕由候得共、今般仕組ニ付而ハ、郡方より之手数其外
 夫々綿密之手当有之義ニ付、下代役相減儀候事、

但、当年之儀は、時節相後唯今々改正之旨、端々迄不
 行届内急米差懸、無抛取立之手当仕候時は、本役之分

ニ而相済間敷ニ付、差次下代十三人、年内限ニメ申付、
 銘々郷割ニよつて繰合、相部候様之事、

一 郡方其外郷村懸之役者勤方宜候哉、自然不相当儀有之趣
 ニ候ハ、早速請役所并藏方頭人え可申届候、代官とし
 て郷中之手当不宜趣候ハ、郡代其外之役々として、時
 々請役所相達候様、申含置候事、

一 孝養を尽候者は不及沙汰、傍輩ニも宜敷交り篤実ニ有
 之、家業致出精者は相撰、帳面ニ控置可相達候事、
 一 百姓え貸付置候銀米、一通皆以差捨候事、

一 郷内出夫多令難儀由ニ付而ハ、向後出夫寡ク相成候様仕
 組相整、別紙を以申付候事、

一 郷内罷越候節、二里内は歩行ニ而罷越、二里外遠郷は小
 荷駄より可罷越候、駕籠ニ乗候義ハ、停止ニ申付候事、

但、病氣之節倍又時節ニより郷馬差支候時は、其訳相
 達候上、出駕籠ニ乗候儀ハ不苦候事、

一 諸役人、於郷内酒之取扱、堅停止之事、

一 郷村内分ニ而貫物多令難儀由候、以後は相定候貫物之
 外、纒たり共差出不申候様、小百姓迄懇ニ可申聞候、自
 然貫物不仕候而不叶義有之節は、藏方頭人相談請役所え
 申達、其上ニ而代官々切手差出、貫物仕らせ可申事、
 一 大小庄屋其外何某々も音信を受候儀、縦従前々恒例之段
 申候共、一向受用不仕、惣而郷中之者諸音信等脇方えも
 不仕候様、能々可申聞事、

一 荒子共恩銀過分致受用由ニ付而、以前定之通、粗六石を
 上ニメ、其下は勝手次第ニ仕候様可申付候、乍然早速々
 其通ニ而は、荒子共迷惑可仕候条、先以必止と其通ニは
 不申付、仕組行届ニ随、身売之者も、恩銀寡取候而事足
 り候様可相成候条、其心得可申事、

一 年貢之儀は、催促之上可相納道理ニ而無之ニ付、百姓面
 々出情致納方候様可申付義候、以前々之日限之通、早々
 致皆済、下代役罷越ニも不及候様可心懸事、

附、郷中之儀、那方も手を当、大庄屋紛骨を尽心遣候様申付置儀ニ候条、大庄屋として夫々心遣候様、猶亦可申付候、左候而早田・中田・中手・晩田出来立米庄屋・村役中致出情、早速〱郷藏へ相納候通大庄屋心遣、尤村々勝手次第段々日限を相定、郷藏相納、庄屋の代官え申達候様、扱又年貢納方一番ニ皆済仕候百姓は、早速代官として可承候事、

一蔵究之儀、間ニは六月中にも不相済通之義有之候、惣而霜月中、上納皆済いたし、極月初ニ蔵有米相究、翌年五月・六月間ニ郷藏引残之米相改手数候処、師走初蔵究之手数無之ニ付、下々は上納皆済を翌六月限之様ニ相心得居申趣ニ候、此節古格之通相改、霜月中、上納相済候様、其外之儀、以前定之通申付候事、

一 小庄屋引負候儀、代官緩故候条、自然滞儀於有之ハ、代官が可相償候、然時は小庄屋之儀、代官好次第可仕候、尤大庄屋より人柄相撰差出候様仕、那方懸合吟味を以、

蔵方頭人相達候上可申付候、自然小庄屋無調法有之候時は、品ニより大庄屋も無調法ニ可申付事、

一 百姓礼儀を存、少も奢等敷無之、徒成風儀ニ不相流、或は点役ニ罷出候而不構不由、第一正直ニして耕作を致出情、邪欲之仕方等無之、律義ニ有之候様、万端能相教候半而ハ、元来道理ニくらき者ニ而、眼前之利欲ニ迷イ、後々迷惑ニ相成事をも不弁体之儀有之者ニ候間、郡代申談、不断申諭候心遣可為專要事、

一 検見相願候半而不叶在所於有之ハ、大庄屋・小庄屋・村役・頭百姓立入相調候様いたし、代官・下郡代迄帳面早々差出候様可仕候事、

一 十月・十一月初迄ニ、百姓銘々庄屋の庭帳引合相済候上、定之通十一月中、上納皆済仕らせ、自然未進有之百姓之儀は、早速帳面相認差出候様仕、其上ニ而何村ハ何日と日限相定、那方懸合、下代役一村々罷越、右帳面を以、皆済之手当可仕候事、

一 諸給人・寺社家郷村罷在、何角六ヶ敷申者有之候而は、惣百姓之為にも不相成事候、跡方之通、組頭・主人の答を取置、掟之通猶又厳密ニ其手当可仕事、

一 年貢筋緩ニ有之候而ハ、却而百姓為ニ不相成事候、且郷村ニよつて風俗悪敷者罷在、惣百姓え程々之奸智を付、役人をも蔑ニいたし、又は役人を謀候体之曲者も有之ものニ候間、右体之者有之は、早々可申達候、一体見懲之ため稠敷可及手当候事、

一 田仕付肝要之儀候、師走初より手を当、農業之人数と地米員数相考、年内早々相仕廻、正月は耕作一篇ニ相部候様、支配可仕事、

附、唯今間ニは明田ニ不相成迄之心遣ニ而、村中公役ニ植付候儘草荒・日荒等之田地も有之、弥増百姓致迷惑候様相聞、以之外之儀候条、自今右体之義無之様、心遣可申候、此末手当不行届義於有之ハ、庄屋・大庄屋は不及沙汰、代官迄越度可申付事、

一 諸郷普請一通無油断心遣專要之事候、右仕組郡代え相達置写相渡候条、申談可相整事、

一 前条廉々ニ書載之書付数、左之通、

- 一 郡代え相渡候書附写
- 一 郷普請ニ付而之書附写
- 一 夫遣ニ付而之書附写
- 一 書物ニ付而之書附写
- 一 検者勤手数書附写

右之通相渡置候条、郡代・蔵方頭人申談、夫々可相勤事、右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格ニ立帰、家中上下・百姓・町人ニ至迄、律義質素之風を守、四民致安堵候様、万端改正申付義ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤下々年来当時之風俗ニ押移居候処は、末々為ニ相成候義も、当然及迷惑候体之儀有之候て不相成候条、依事緩急可有之、且存付候儀も候ハ、筋々可申達候、自然不行届義杯候て、却て下々及難儀候体之儀有之候而は、主意ニ

不相叶候条、下々情を能察し、憂ニ不相成候様、加不便仁心を本として、我等存念全行届候様、能々心を附、教導候義肝要候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

検者勤方付而之書附

覚

- 一 検者方之儀、近年何角繁雜ニ相成、以前々相極候致事不相揃由、唯今之通ニ而是不相叶事候、今度改正申付候上ハ、土地之乾熟、百姓之盛衰、農業之時節、蔵入損益等之考、無油断致出情、役中嚴密可相勤事、
- 一 頭検者五人申付候事、
- 但、役米定之通、引無ニ可相渡候事、
- 一 検者目附相止候事、
- 一 小検者二十六人可申付事、

但、役米前ニ同

- 一同差次二十六人可申付事、
- 一 凡目安ノ目安日限之通、無相違可指出候、尤目安之儀、田畠之成目借又成定年季満年々否其外諸除等之落米高を、毎歳夏ニ調へ立置、追而検見落米相極候上に而、手数取結候様可致置候、然時は何程大検見有之年と候而も、目安取立手を込不申、能可相整儀候事、
- 一 検見相願候半而不叶在所有於之ハ、庄屋・村役・頭百姓五人組立会、畝違、角籠違等無之哉念を入、改之帳面仕立、庄屋・村役致印形、大庄屋え可差出候、其上大庄屋・庄屋・村役立会不直之儀ハ無之哉、手を詰、再見をも相整、於無別条は大庄屋致印形、代官・下郡代え名充郡方へ差出、代官・郡方致奥印、蔵方頭人え相達候様申付候事、
- 一 右検見願帳面唯今迄之通、廉々印形相整、検者人差之儀、兼而之郷割ニ不拘、時々蔵方頭人按量次第可申達

- 候、左候て右達之翌日ハ郷内罷越候様、此節致延引候ては不相叶儀、兼て得と致合点、罷在候様之事、
- 一 自然大損毛ニ而検者五所ニ而不相濟節ハ、幾所ニ而も不時検者可申付事、

一 諸役之者郷内罷越候節は、会所出差帳何月何日朝晩間々、何郷何村罷越候段、書載致印形、早々郷内罷越、罷帰候節も早速会所罷出、相達帳面致印形候事、

附、別而急成節杯出立之砌、会所罷出儀不相叶者は、先以手紙ニ而相達置、罷帰候上、出差之日限共ニ書載、印形仕候様之事、

一 検見差出候田坪、自然不直之儀於有之ハ、大庄屋・小庄屋・村役・五人組迄随軽重其ノ可申付候条、疎之儀不仕様、度々懇に小百姓迄申聞、急度相守候様、郡代・代官として申付候事、

一 検見ニ罷越候節、役外之者用事等有之候旨申候共、むきと面談仕間敷事、

附、於郷内酒之取扱、堅停止之事、

- 一 諸郷角籠木猥ニ有之候ニ付而ハ、漸々相整、植立可申事候、就中白石筋之儀ハ、角籠難相知、百姓共不屈付而、跡方悪事出来為申儀も有之由候、当秋々検見之儀弥可入念事候、角籠等本帳之通能覚罷在候様、小検者えも得と申談、段々功者ニ相成候様可心懸事、
- 一 検見差出候田坪、草荒、将又早魃之年ニ而無之処、無謂日荒之田地於有之ハ、不及検見本成相懸、庄屋・村役相捌候様可申付事、

右之条々、鳥子帳之旨を考、旧格立帰、家中上下・百姓・

町人ニ至迄、律義質素之風を守、四民致安堵候様万端改正申付儀ニ付、先以大意之条数相定置、猶又令潤色事候、尤下々年来当時之風俗ニ押移居候処ハ、末々為ニ相成候義も、当然及迷惑候体之儀、有之候て不相成候条、依事緩急可有之、且存付候義も候ハ、筋々可申達候、自然不行届義杯ニて、却て下々及難義候体之義有之候而は、主意ニ不

相叶候条、下々情を能察し、憂ニ不相成様、加不便仁心を
本として、我等存念全行届候様、能々心を付教導候儀肝要
候、是等之旨趣を以、聊相違無之様可取計者也、

明和九年辰九月

天明三年

教諭御書附

竈帳仕立ニ付而、御仕組ハ被相違候書付写

覚

一 竈帳并取納五人組之儀、去ル辰年御仕与之節、村上ノ段
 五竈充組合候様相定居候得共、百姓共不碎ニ有之、一小
 路之内竈数之過不足候は、外之小路ニも組合せ是非五竈
 之數ニ合せ、倍又間には風俗悪敷もの罷在致去嫌、組合
 ニ不相加、夫共一人立不相叶候ニ付而、遙々竈相隔り候
 縁類共之組合ニ相加り候体之記有之、竈帳差出候節ハ組
 合と取納五人組とは、内方ハ致相違居候村方も有之候様
 相聞候、其通ニ而ハメリ方に不相成候条、弥以村上ノ軒
 数之過不足ニ不拘、一小路限組合候様、尤致去嫌組合ニ
 難入置悪者も有之は、不差置其段可申出事、

一 是迄之通、取納五人組帳家主計り致書載差出候得共、当
 春ハ竈帳沓品ニ而年行司・郡方・代官其外之御用相弁
 候様簡易之御仕組ニ付而ハ、宗門人改帳を根ニメ竈宛之
 あり人御蔵入・配分之分り書載分、倍又作懸り田畠畝数、

下人作高、産業年附、与被官之肩書等、別紙手本之通仕
 立て差出候、尤御蔵入所公役之石数、倍又面々作懸り田
 畠は、当段地米書載一村之ノ揚ニは、本段・当段共ニ書
 載差出候事、

附、組合之記小路之広狭ニ依て五竈無之節ハ、三四軒
 ニも組合可相立候、村ニよつて一式軒宛所々ニ致散
 在候場所ハ、少々相隔り居候共、見合五六軒又ハ其上ニ
 而も組合せ可申候、且又式拾五軒ニ老人之約長相立候
 儀も、村々大小ニより拾五六軒、三拾軒ニ而も其所々
 振合ヒ次第、小路組合替可申候事、

一 沓組合之内、人柄相撰、沓ケ年宛ニ輪次ニ小頭老人相立、
 式拾五軒ニ律儀之頭百姓ノ約長相立、約条前書之趣老若
 男女相互ニ相守候様節々読聞セ、万一申合之ケ条違背之
 者有之節ハ、小事ハ小頭ノ異見相加、大事ハ約長申
 達尚又教諭可相改旨申候、其趣帳面ニ致書載印形を取
 置、其上ニ而不相改節ハ、庄屋・大庄屋ニ申届、早速郡

代・代官筋え可相違候、

一 毎歳帳内違目張替等ニ而成長(マツ)ケ相済候様、尤仕直候節ハ、一郷々々大庄屋ノ致手形帳面拜借仕、仕直シ相納候様之事、

附り、於村々も儘ニ控帳面仕立置、人改其外右ニ而相済可申候、庄屋交代之節ハ、御本帳同前引送候事、

一 産業品々可有之候条、懇ニ相改、右何も無間違竈帳奥ニ書載可仕事、

一 五人組村口ノ番附仕候事、

一点役定式除之外、零落等ニ付被相除候村方ハ、石数書載之事、

一 帳紙之儀はかり目紙ニて相整候事、

一 帳面片表五行書之事、

一 一村之内御蔵入・配分入交り在所たり共、一本帳ニメ、帳内ニ配分と題号書載分之事、

一 老人之儀ハ、六十才以上之事、

一 幼少十四才以下之事、

右之通向後仕立候様、

寅五月

御仕組所

竈帳

約条

一 公儀御法度之儀ハ不及沙汰、御私之御掟、郡代・代官筋ノ毎歳読聞セ、有之候御条目之趣堅相守候様、惣而家主ハ勿論妻子・荒使子等ニ到る迄御法式之旨相心得居候様、自然不心得ニ而御法違之記等仕出シ候上ハ、依輕重罪科難遁、然時ハ其者之難(難)記ハ不及申、御上御姦敷ニも相成事ニ候条、平日会得仕居候通申合候事、

一 給人・寺社家・山伏等ニ到る迄郷内住居之上ハ、郡代・代官之下知ハ勿論、大庄屋・小庄屋・村役ノ申達候、郷並之支配郷も相背間敷、惣而給人・寺社家之儀ハ取分ケ行諸浄業相嗜、下々見鑑共相成等之儀ニ候得は、放逸之

身持等有之間敷儀申合候事、

一 子として父母に孝養を尽し候儀ハ勿論、兄弟(仲)中能、夫婦和順ニ有之、親としてハ子共悪敷道ニ不趣様教へ戒免、一類親属之親ミを厚し、傍輩之交リニ信義を守り、惣而平日之つき合一類ハ不及申、他人たり共、我ノ年長ケ候者おしそむへき儀等人間専一之心得候得は、聊不取違様申合せ候事、

一 郷内罷在候而ハ、耕作方之記専一之致事ニて、致順作候得ハ、作徳之御蔭を以父母妻子相育事ニ候間、鋤起シ草水之手当、(カ)節季早晚之考、種子・粃之撰方其外少しも手後レ無之通、老若共ニ平日吟味いたし可申事、

一 御上納一通御定法之通可相納候、就中上米之儀汐割之日限等不間違儀ハ勿論、仕出之善悪ニ依て御損益ニ相懸り候間、米拵・俵拵・俵之入目・繩之大小寸尺等迄可入念

候、其中ニも俵拵は手際物ニ候得は、生来無調法之者も有之は、手間替をもいたし拵立、何卒村中嫌俵等無之通

可申合事、

一点役等罷出候ニも配触之刻限延引不仕、且其日之致事随分念精を入、鹿抹之儀など無之様、兼而可申合事、

一 郷内罷在候給人・寺社家・山伏・百姓等席上ハ不及申、途中ニ而も相当之礼儀乱間敷事、

一 諸役筋ノ呼出者有之刻、無遅滞罷出候様、其組合小頭として可心遣事、

一 御払者偕又他領紛者等入込居不申哉、組合中調へ合候事、

一 其所之帳内之者無謂他村え数日罷在、且此方え他所之者入込居不申候哉兼而遂詮儀、自然罷在候半ハ、早々罷帰候様可仕候、若不相用は其所之庄屋え可引渡候事、

一 密々踊狂言・操等之遊芸を相企、或ハ旅芸者を呼入置候体之儀、与合内無之哉兼而致詮儀、家主ハ素り妻子等迄稠敷相戒可申候事、

一家作衣装其外之仕成、分際不相応之儀無之様申合せ候事、

一 喧嘩口論堅可相慎候、自然難閑節ハ小頭・約長え申達、

於不差碎は筋々可申達候事、

一博奕其外一切賭之諸勝負仕間敷、自然忍々右体之儀いたし候者罷在候半は、組合中遂穿鑿、小頭・約長・庄屋え申達、早速筋々可相達候、隣端を相憚り申出候儀令用捨、後日於顯然ハ、組合中同罪ニも可被仰付候間、聊差包間敷事、

一大酒を給へもかり事なと申扱、偕又公事を相工ミかき物など取立候儀を渡世之様ニ致し候之族、其外一切之悪者組合内ニ不罷在候哉遂穿鑿可申達事、

一道幅ハ不申及、田地之あぜ境を切欠、堀川を埋せばめ候体之儀仕間敷事、

一不念ニ而勘定違等有之節ハ、何年ニ相成候而も前卷ケ年之差引可仕事、

一諸祭礼一通致来候而も、随分儉約之申談可仕事、

一仏神之感応ニかこ付、夢想之護符又ハ葉之水杯と取出シ靈験等敷申唱、諸人を感し候者無之様、組合内致吟味、

自然右体之者於有之は、那方御役所御達可仕候、若又何方々罷出候ハ、押置早速御達可仕事、

一年老候迄夫妻なきやもめもの、幼少ニして父母ニはなれ候ミなし子、其外病者等之頼む方なき体之者、一村中心を副、成丈ケ相育可申事、

一婚姻いたし候節、偕又同断聲迎水懸等相催、多人数相集り、酒食之設彼是費之儀、聊仕間敷候事、

一不幸等有之節、貧窮之者ハ組合中成丈ケ相助ケ、是又前断同様費之儀杯仕間敷事、

一産流シ捨子等仕間敷候、惣而鳥獸さえ親子之親ミハ有之者ニ候得は、人間として右之致方以外之振廻ニ候、畢竟不束之所、乍心外忍々右体之儀も致候趣ニ而も可有之候得共、一村中何卒救合之申談、頭立候者ハ引立而吟味可仕事、

一女房・娘・子共迄専作方之手助ケ致し、隙々ニハ木綿績つむぎ、蚕桑之心懸油断仕間敷候、親として子供幼少ハ

此下人何村ハ参居候

下人何某
作馬何足



一 五竈 老番 小頭老人

一 式拾五竈約長老人五番

竈数何百軒

田畠何百町

男女何百人

作馬何百足

合

内

田数何百町

畠屋敷何拾町

田畠何町

寺何軒

之教方緩セ之所ハ徒者も有之儀ニ候条、此申合肝要之儀ニ候事、
一荒使子として主人え不当介不仕、且其主人としてハ慈恵を以召仕候儀、主従第一之心得候事、
一牛馬商売之出入ニ而有之、御姦敷ニも相成候間、自今売買仕候節ハ、小頭・約長・庄屋・村役え懸合、於無別条ハ売買可仕事、
右約条之趣、堅可相守候、自然相背約長・小頭之異見も不相用節ハ、相互ニ穿鑿いたし、筋々可相達候、

但畠屋敷何反入テ
一田数何町

但被官之者肩書
何歳 何 某

内

産業

田畠何町 配分

同 女 房

同 子 何 某

同 娘 何 某

社家何軒

山伏何軒

酒屋何軒

耕作之者何百人

僧何百人

廢疾之者何人

童子何人

女何人

荒使子何人

商人何人

大工何人

鍛冶何人

綿打何人

左官何人

木挽何人

免コ荷何人

メル

右之通相違無御座候、以上

月 日

御藏入御配分
庄屋
右同断
別当
人改目安役
何某
大庄屋

教諭書付

田畠順作不仕根元相考候処、去ル享保拾七年子秋大凶作、翌
 丑年疫癘ニ而、人民夥敷死失、其後御領中一体之人別は漸
 相増候得共、郷村之人数・竈一円不相増、何之郷村も明屋
 敷而已有之、田地と人力不釣合之処、老人前過分之田地相
 懸順作不仕、此通ニ而ハ百姓作徳を得候所不行届ニ付、郷
 村丈夫ニ相成、人別相増、百姓在付候通之仕組被相立儀ニ
 候、依之先以、左之通被仰付儀ニ候、

一出産之子を捨候者於有之は、曲事被仰付候事、

右之通被仰付候条、自然相背者於有之は、組合・約長・

庄屋・村役・頭百姓迄御咎被仰付儀ニ候、右ニ付而ハ

極貧窮之者養育不相叶候ハ、組合・約長・庄屋・村

役・頭百姓致吟味、救合を以て養育候様可仕候、尤村

内救不相整ハ大庄屋申届、大庄屋心遣郷中ニ而救合

候様可仕候、其後不相叶次第候ハ、筋々可申達候、於

然ハ遂吟味、趣ニよつて御上御救被仰付儀ニ候、然

上ハ懷妊之女流産等不仕候様、保養万端をも組合とし

て立入心遣可仕事、

附り、男子ハ致盛長親・兄弟之助ケニも相成候得共、女

子ハ身之在付万端却而親・兄弟之益害ニ相成候坏と心

得違ひ、女子ハ不相育者も可有之哉、惣而人体今更得

致出生候者損益を考、右之致方有之儀、畢竟人倫之道等

ニ背、其心底有之者ハ、親類・朋輩をも損益ニ拘る進退

可仕哉難斗、以之外之儀ニ候条、不依男子・女子ニ念

を入養育仕候様、是又熟々教諭可仕事、

一孖^(マ)を産候者於有之ハ、早速筋々可相違事、

但、郷村端々ニ而孖出産候儀、其母恥辱之様ニ相心得

候者も有之由相聞へ、甚間違之儀ニ候、昔孖産候

儀、多々有之め出度事ニ候、自然極難儀之者等養育難相

叶体共ニ候ハ、是又村中・郷中ニ而救合可申、其儀

不相叶様子ニ候ハ、申達次第其段御吟味之上、御上

御救合可被下候事、

一子を育候儀、大切ニ可仕事、

右之通被仰付儀ハ、下々子を籠登仕候心者不相替候得

共、道理に疎之大形ニ而幼年之内疽之滞、年長虐弱ニ

有之、且食事ニ心付候儀無之、脾胃相疼候へは、疱瘡

其外之外邪ニ而も及死亡候体之義、多々有之由ニ候、

親として子を養育之方大形ニ而は、親たるの道に相背

候条能々可得心事、

一農・工・商共遂出家度者於有之は、筋々願出被差免候上、

剃髮可仕候事、

附り、尼道心ニ相成候儀も同然之事、

一神仏ニ信心之者、他国之寺社え参詣ハ差置、御国之寺社え参詣可仕候事、

但、是迄他方之寺社え立願等相懸置、成就として参詣不仕候半て不相叶候ても、壹ヶ年ニ一村ノ式人之外、他参仕間敷事、

右他方参詣之儀ハ、去冬も被相達候得共、一篇触達等之分ニ而は、下々得心致候哉も難斗候、参詣仕度志之者ハ、伊勢屋町田手宿間大神宮へ可仕候、順礼所其外も皆々御国ニ而相濟事候、乍然下々心得違ひ諸参詣ニ事寄、名所旧跡見物等且所々土産を求め持帰り、上方珍敷事共を咄聞候得は、右を見聞候者共うらやみ候処、類を引き段々参詣存立候通ニ相成、全神明仏陀ニ信心之志深き処存立事とは不相聞候、尤宿願成就之儀を被差留ニ而は無之、一体其国々之風俗有之儀ニ候処、他国風を羨真似をも仕

候通心得違候者共ハ無之哉、氣を付申論真実信心之者ニ

候ハ、本条之通御国之宮寺え致参詣、他方之名所旧跡靈仏を募候通ニ杯無之候様、惣而御領中百姓共年来零落いたし、当時尚又及困窮候故、何卒振立候様段々其仕組被仰付儀ニ付而被相達事候、惣体他方之百姓ハ年中食用も中々御国之様成食物ハ不相叶、家居等も纒々之小家ニ床杯之飾も不仕、土間勝ニ相住居、年中雜食ニ而相濟シ少も驕等敷心持無之故、見入ハ詫敷体ニ候得共、内証ハ曾而困窮不仕、始終不足之事無之、丈夫ニ相統致儀と相見候、御国之百姓ハ元來豊饒之國柄故、自然と豊ニ有之処ハ驕ながらも夫を奢とハ不得相心、随分質朴ニ仕候と存候、暮シ方他方ニ双候得は、甚榮耀之過賄ニ而小百姓迄家居も広々と座敷を相飾度心持ニ而、祭礼其外客來之設等、不任所存儀をも借錢・借米杯ニ而相催、或ハ着物等も分過を好風俗ニ而、万般豊成暮方而已を心懸、諸参詣ハ素り、其外無用之米錢を幣し候処、末ハ難儀ニおよ

び、家業指明候通成行候間、右之利害得失致合点、他国之参詣ハ勿論、うれひ・祝言其外物毎分過之儀不仕様役々遂吟味、幾度も爰限ニ教諭不相懈行届候様可仕候、以上

天明三年

卯五月

御仕組所

達状写

御領中之人民孝養を尽し、家業を専ニ心遣、律儀質素を用、万端実義ニ有之候ハ、假令仕合悪敷貧賤ニ有之候而は極難差迫候程之儀は無之事ニ候得共、元來不所存ニ而分限不相応之致身持、博奕其外悪業を成、末は盜をも仕候通成立候得は、其趣ニ随ひ重ハ死罪、輕キは郡払等被仰付、居付向々之手形をも差出来候得共、手数迄ニ而其所ニ不罷在候而も、其分ニ而相濟甚不宜、素り一度ヒ盜人之名目を蒙候得ハ、朋輩ニも被見離、人中ニ交り候面目無之処ハ渡世難相成、程々成果尚又密々悪事而已を仕候故、生立候

者も右ニ誘ハレ、段々悪道ニ陥り、人之人たる道を取失、

一身之置所も無之通り相成候而は、甚不便之儀被思召上候処、重疊吟味被仰付不所存之者共、悪業不致趣意善心ニ相移候ため、御仁政を以徵惡之御手当御潤色有之、此節別紙之通徒罪之法被相立事候条、御領中之者共不依高下得と可奉承知候、自今博奕其外疎行之族於有之は、科之輕重ニ隨ひ年限・月限を以徒役被相部、仕事仕候日ハ一日ニ鑄式拾文宛ニ被相定、半分ハ其日之小遣用相渡、残半分ハ徒罪被差免候節、渡世有付用として一類・父母え東而被渡下儀候、是程迄莫太之御仁恵を以被相施、何之痛苦も無之儀ニて有付用迄被渡下候御恩沢感服不仕、万々一逃走等仕候節ハ、万人見懲之ため一際重其罰被仰付儀ニ候、彼是之次第懇ニ奉承知、銘々其身之行跡を相慎、其銘々之教諭堅相守、極惡之者も何卒善念ニ翻候様可相諭候、尤盜博奕名目相知たる悪業は、無其紛儀ニ候得共、其外ニ市中・鄉村何方ニ而も委敷穿鑿仕候半而不叶疎行者概左之通、

一他人之鎖細成仕落誤を申論、老人共穩便之取斗仕候を、却て最眞仕候様ニ申成、或ハ事を相工候者、郷村市中之姦を企駈之者之事、

一己不義放埒成身持ニ而朋輩ニ被相離、却而其朋輩をねたミ・そねミ喧嘩口論之根を拵候体之者之事、

一男伊達等之真以いたし、身を高ふり、人を賤しめ、酒食にふけり、若輩之者共と己か手ニ付候根致シ、不行跡ニ引込候体之者事、

一郷村・市中共々内証宜者、分限を不顧、家作其外奢ケ間敷、或は金銀を貸付、過分之高利を貪取候体之者之事、

一市中罷在貧賤之者ハ、専日用相稼候半而不叶事候処、風俗悪敷身持暮をいたし、徒ニ日を送り、内証宜者ニ不肖を申、今日を暮し末ハゆすり体之悪事を致候者之事、

一郷村ニ居ながら農業之稼を嫌ひ、身安暮而已を好ミ、ゆすり体之悪心を勤め、村中之姦敷を企候体之者之事、
右之通之者ハ、諸人之風俗を破、第一之民害候得共、盜・

博奕等之様成差分レ候所業ニ而無之候得は、必詮儀難相成

其儘ニ而差置儀間々可有之候、万一心得違ひ右類之者其儘

ニ而差置、悪心致増長候而ハ、其在所ニ而何分ニも不及手ニ

程之儀ニ可相成候、右体之者ハ若年之内過可相知事候条、

不依誰人早速小頭・約長・別当・庄屋として専致吟味、爰

限ニ異見を加え可申候、若於不及手ハ早々筋々可申達候、

自然穩便ニ而押送り置、後ニ於顯然は、一類・五人組迄御咎

可被仰付儀ニ候、右旁之趣其頭々毎々委申論候様、若不行

届得と御法不相心得者有之、其罪ニ陥候通ニ而ハ、決て御

趣意ニ不相叶儀ニ候条、無間落端々迄行渡候様、筋々可被

相達旨、御当役御申候、以上

卯十二月

請 役 所

一徒罪ニ被仰付候者之儀ハ、良民不相紛ため髪を殘切ニ被相成候条、其段相心得、右体之者共宿を借候儀於有之ハ差留置、庄屋・別当其外頭々之申届、早速筋々注進いた

し候通不洩様、懇ニ可被相達旨、御当役御申候、以上

卯十二月廿日

請 役 所

一御国之者初度盜人は迄所払等被相極候者、徒罪被仰付候事、

一徒罪之者、隨輕重年月定、

一所払ニ被仰付候相当 百五拾日徒罪

一御城下並居郷払 右同貳百五十日

一佐嘉郡払 右同壹ケ年

一二郡払・三郡払 右同壹ケ年半、貳年

一五郡払 右同三ケ年

一七郡払 右同五ケ年

一右同重キ御払者 七ケ年徒罪

一御国者再犯盜人たり共、是迄ハ容易ニ死罪ニハ不被仰付
来候得共、趣ニより死罪ニ被仰付儀ニ候、尤郡払ニ被仰

付候体之者、徒罪ニ被仰付候事、

一右同、藏を破候体之大盜人、或ハ旅盜人之手引いたし、

又ハ悪事を相工ミ候体之致方之者ハ、初度たり共籠守頭

助左衛門え被相任、死罪申付候事、

一他国之者、御国え参り通り懸り等ニ而輕キ品物盜取候者、

初度ハ片髮剃、追放被仰付候事、

一右之者二度御国え入込、縦輕キ品ニ而も盜取候節ハ、籠

守頭助左衛門え被相任、死罪申付候事、

附、糺明之上、盜不仕儀明白ニ候半ハ不及死罪、火印

ニ而追放被付候事、

一旅盜人火印ニ而相断候者、重而入込往還筋之外ニ而見当候ハ、盜不仕候共、助左衛門へ被相任、死罪申付候事、

一兼而大盜人之聞へ有之候旅盜人、御領内え初而入込、

往還筋致通行候節自然輕キ品たり共盜取候ハ、糺明候

上、死罪可被仰付候事、

附、縦盜不仕候共通行一篇ニ不相見、少も怪敷儀等有

之候ハ、召捕、稠敷糺明之上、趣ニ随ひ死罪ニ被仰付候事、

一給人博奕仕候節ハ、是迄之通、牢人被仰付候事、

附り、賭之諸勝負一通り博奕同然之儀ニ候得ハ、其趣

ニ随ひ、時々吟味之上、御手当被仰付候事、

一博奕仕候者、左之通、

一初度 科銀三拾目

但、趣ニより親兄弟えも、過銀被相懸儀ニ候事、

一再犯 貳百五拾日徒罪

一再々犯 壹ケ年右同

一四度 壹ケ年半右同

一五度ニおよひ候者ハ、所業之趣ニ随ひ、死罪ニも被仰

付候事、

一座親之者、左之通、

一初度 科銀六拾目

但、右科銀之上、閉戸申付、表向青竹ニて打付、此

者博奕座親いたし候ニ付閉戸申付候也と、其役筋ハ張紙ニ相成候事、

一再犯 壹ケ年徒罪

一三度 壹ケ年半徒罪

一四度 貳ケ年右

一五度 但前条ニ同断

一博奕座親之組合之者、左之通、

一初度 過銀四拾目宛

一貳度 同 六拾目宛

一三度 同 八拾目宛

一四度 同 百目宛

一五度 同 百貳拾目宛

右之通、科銀被相懸候而も、組合中兼而之申談緩せニ有之不相メ節ハ、座頭同様閉戸、又ハ何之通ニも吃度御手当可被仰付候事、

一約長并小頭被相立組合無疎様穿鑿被仰付儀候得ハ、自然

掛り内手当不行届儀有之候ハ、其節之趣ニ随ひ御手当可被仰付候事、

一亭主遠方え罷越、留主^(守)ニ而博奕相催候節ハ、家内罷在候

一類又ハ他人ニ而も心遣之者え、科銀三拾目宛可被相懸

候事、

一亭主近辺へ致他出、不相心得段申出候共、其節之振合ニ

随ひ、閉戸又ハ科代等之御手当可被仰付候事、

一博奕・かるた并さい商売仕候者、左之通、

一初度 科銀三拾目

附、本条之品、皆以取揚候事

一貳度 徒罪壹ケ年

一三度 右同壹ケ年半

一四度 前条ニ同断

一五度 前条ニ同断

一博奕・かるた并さい買入之使仕候者、左之通、

一科銀 貳拾目

一再度博奕之節ニ携り候節ハ、徒罪百五拾日可被仰付候事、

一博奕致見物候者、左之通、

一科銀 三拾目宛

一給人、長屋或は台所等ニ而博奕相催候節ハ、左之通、

一主人不相心得借又旅詰之留主、あるひハ抱屋鋪等ニ而

博奕相催候ハ、其節之振合次第、御手当可仰付被候

事、

一寺ニ而博奕仕候節は、左之通、

一住持存居候ハ、出寺附り十二ヶ寺借又右ニ相催し候

寺社家は、其趣ニ随ひ、御手当可被仰付候事、

一伴僧博奕仕候ハ、科銀三拾目可被相懸候事、

一住持并伴僧及再犯候節ハ、脱衣之上、徒罪百五拾日可被

仰付候事、

附り、住持之儀十二ヶ寺、借又右ニ相催候寺社家ハ、

其趣ニ随ひ、御手当可被仰付候事、

一 住持留主ニ博奕相催候節ハ、住持不存儀明日ニ候ハ、

留主罷在候者え、科銀三拾目宛可被相懸候事、

附リ、住持えは其節之趣ニ御手当可被仰付候事、

一 辻堂・辻宮等ニ而博奕仕候者有之候節ハ、其所之庄屋・

村役又ハ別当・咄・町役科銀三拾目宛、

附、右役之者申出候ハ、科銀ニ不及候、自然他之者

申出候ハ、其趣したかひ御褒美をも可被仰付候事、

一本条辻堂宮之儀解除ニ被仰付候事、

附、石仏等ニ候ハ、其儘ニて召置、木像等安置有之

候ハ、随分手小ク相飾候様被仰付候事、

一 右辻堂・辻宮たり共、由緒等有り儀も候ハ、到其節吟

味可有之事、

一 徒罪之者、日数年限相満被差免候節、行跡難見極、一類

共今暫徒罪被仰付度、筋々願出候ハ、御吟味之上、願

之通可被仰付候事、

附、願之通被仰付候節ハ、飯米半分ハ、一類心遣候

事、

一 徒罪之者心底不相直、到而不宣様相見、役頭・手元役

之教諭不相用、難及手ニ体之者於有之は、吟味之上、其

被仰付候事、

一 徒罪内病氣之節、日数十日迄ハ徒罪方心遣、十日以上

ハ、一類致格護候様被仰付候事、

附、一類無之者ハ、組合中心遣可仕候、自然組合中

ニ而於難相成は、約長一懸り心遣候様被仰付候事、

一 徒罪之者、月限年限之内、居所又は仕事之場所逃去、追

て立戻候ハ、一日之代りニ日数十日徒罪被相増候事、

一 徒罪之者逃走、探促之上相捕候ハ、其科之輕重ニ随ひ、

御手当可被仰付候事、

一 右病氣ニ而仕事不相成、日数は定之年限日数之内ニ被相

除候事、以上

卯十二月

弘化二年

御配分役内日記帳

巳十月吉日

庄屋 庄兵衛

一 貴様儀当秋庄屋役被仰付候間、其心得可有之候、尚御含
之儀も有之候得共、右ハ其内出佐賀之上、御直々被仰含
儀御座候也、以上

十月三日

川副忠三

有馬庄兵衛様

右之通申来候間、御屋敷御物成年々御飯料米として、月
々馬より佐賀まで附出候儀、百姓中ニも大事ニ付、船積
相願候処、御蔵建所悪敷候処より、置所無御座由にて、
一同ニ御受納不被成、右ニ付て庄屋・村役無役米ニメ相
勤、御蔵建直し用仕法を以、差上可申儀左之通、

一米七斗五升 庄屋給

一同四斗 役人飯米

一同九斗 竹木料

一同五斗 村役給

一同 献米相除 其外

右村役相減候ニ付、村役代り組合相立候人々、
文右衛門 半助 源左衛門 順蔵 伝左衛門
右之人々え庄屋より申達候節、其組合面々え万端申
達、夫々相整候様、

一 献米相除ク候代りハ、明春御蔵建之砌、繩献上、扱又
御加勢夫丸差出候様、

一 竹木之儀ハ、公役石ニ割、地米壺石ニ付、抗木何本・
竹何本と割附相納候様、

一 懸作より御上納取立之砌ハ、庄屋組合より取合、何付
日限と相定、皆納いたし候様、

右之通、十月十五日ばん寄与之上、相極申候事、

一十月十五日 旦那様御役

一 当冬仕法帳之趣致承知候、村役相減し小頭相立之事、其
御支無御座候得共、竹木之割合等之儀、惣百姓之氣儘如
申ニ可有之哉、猶御考格別差支無之候半ハ、其通取計可
有之候、御馳走米之儀ハ、外之御知行所も別て難渋いた

し候事ニ而、何分其通ニハ難取計候ニ付、去年同様、右之通帳面差上之処、左之通申来候、

当冬仕法帳之趣致承知候、村役相減し小頭相立之事其外支無御座候得共、竹木之儀割合等ハ、惣百姓之氣儘如申ニ可有之哉、猶相考格別差支無之候半ハ、其通取計可有之候事、

十月廿五日

川副 忠 三

一 佐賀之方米直段老部五六分致居申候今暫ク見合、是非年内壳払候仕組ニ付、御飯料米其外全被取立相備置可被申、自然明日も売米ニ相成候砌間ニ合不申道共有之候てハ、決して不相叶儀ニ付、其得心可被申候処、此段然可被申越儀候也、已上

十一月八日

川副 忠 三

一 氏神村祭十一月九日相整、祭田之儀ニ付彼是不申之事、一 御馳走米式拾四俵 御藏納十一月十六日相済申之事、
口 達

御知行所罷在候清助儀、先々月より眠病相煩、最早六拾日余平臥ニ伏、一円快方無之、一体老骨と申、殊ニ昨年大熱相煩、右之末邪氣不退候故と之御事も御座候、就てハ老人夫婦難渋いたし罷在候て、御介抱米何程歎被仰付被下度、深重奉願上儀ニ御座候、已上

已十一月十六日

庄屋 庄 兵 衛

川副 忠 三殿

右之通達出ニ付、米三斗被為御拜領候也、
一 佐賀津出之砌、昼飯持参ニて是迄罷越候儀、已来昼飯之儀御屋敷ニて為喰被下候様相願候処、是迄之格も有之候て、新穀より十月中迄之内ハ前格之通、其後ハ持参ニ不相及由可被仰出候事、

一 辰之年、堤割方文右衛門貫物割帳ニ有之、左之通、

錢六百五十七文代
一米壹斗壹合

勘 左 衛 門

米七拾八合之代
一同八升九合

同 人 存

一同壹斗

塩味料

錢四百八十文代
一同七升四合
同式百七十文代
一同四升貳合
老實百八十文代
一 壹斗六升九合
一同九合

大工作料

村田 貞右衛門

右ハ田數拾七町四反八畝

但、老反ニ付、米三合三勺つゝ、

一 楞割三月廿六日之事

一 竹木ハ公役石壹本

杭木六本ツ、

御龍原

一 御藏入 上手 井手

山神

右ハ何れも石井手ニ相成申候、惣而地公役之儀は、郷内引合相立不申候故、猶配分井手橋申談之上、石ニ而相整候様、渡辺儀市殿御達ニ付申談候事、

一 五月朔日 村中古賀分大人橋右家別ニノ朝ハ昼迄取寄申候、其刻御藏入百姓加勢候様申聞候ニ付、何角問合之上示談いたし候事、

辰巳年分
一 粳正ミ百七斤

涼 左 衛 門

一同 百七斤 丑戌より

甚 藏

一同 和 兵 衛

一同 覚 兵 衛

一同 新 藏

一同 慶 十

右は米四升ツツ利足米相加候様

一 午二月五日

一 粳 百七拾七斤半 文 介

一同 百斤 清 助

一同 源 右 衛 門

一同 嘉 兵 衛

一同 半助

一同 六拾二斤半 文五郎

メ粃六百四拾斤

メ粃午暮斗式升七合

右之通、御困粃貸附利足米直段不拘高下、老儀前ニ米四升ツツ相加へ返濟之事、

一五月八日 橋三ヶ所石橋ニ普請相整申候、尤公役点役より出夫之事、

一五月十三日 郡御目附

下右同 古賀仁兵衛殿

御聞合之事

一閏五月 郡目附弥永

下目附古賀仁兵衛

一同八日 虫供養之事

一田植五月廿七日閏五月三日迄ニ仕廻、田植中ハ雨無之

にて、十日比十八日晚迄大雨にて、十九日晴天になり、廿六日迄同し、廿七日雨、

一拝殿解方、

一備穀御藏造立之事、

一助石取八月廿日、右は立石社屋弥兵衛釣合取寄石ツキ迄、

一八月廿一日 壁土多て又石ツキ、

一九月五日 上棟之事、

一同十日 藏内外壁ぬり、

一同十一日 朝道山高メ

一九月廿日 早稻初穂相納、上棟餅并土産餅、

一同 宮東加堂式部相納申之事、

一十一月朔日 同式部、

一賄数大工五拾八工、

一十一月二日 祭田替地、増金老兩式部嘉兵衛出金いたし候を、半助え七月貸置、利足銀祭用ニ相補候様申談

之儀、勘兵衛宅ニ而寄方之上申談相整之事、

一同 献米六石相納申候、

江見御藏番

合川次郎左衛門殿

一十一月十五日 藏飛指ふき

小公役文右衛門

八 蔵

慶 助

一未四月十一日 石橋懸 右は源龍原潰

一杭木公役石ニ四本ツツ

一竹三束

一未六月十八日 大風吹

一同廿四日朝廿五日七ツ時迄風吹、尤四ツ時分暫ク風とれ申候

一廿六日 終日雨降、給着用以多し候事

一同廿七日も廿六日ばん降雨続ニ而有之

一廿八日 雨

一廿九日 雨風

一卅日 半吉風

一七月朔日 九ツ時分より雨ふり出シ、終夜降続七月三日迄降雨、

一同四日天氣、五日六・七日八日九日

一 乍恐奉願口上覚

先年某請地仕置候所熊御山北平之儀、今般御鹿倉御調子

ニ付而御引上ニ被仰達奉畏候、右之儀平田原畑中へ御山

畝数老反余有之候間、右地下畑ニメ被仰免被下候様奉願

上候処、願之通地面御引渡被下、重疊難有仕合奉存上候、

然処右之場所へ相立候材木之儀、御家中薪用ニ被差出、

銘々御引請被成候、向之御方へハ薪替等差遣御相談申上

候、右は孫共数多罷在、追々別家等仕候半て不相叫儀ニ

御座候得共、当時ハ一統材木扨庭ニ相成、剽々と家作等

之儀不任心底儀ニ付、暫ク立置家作仕度儀ニ奉存候処、

最前願之通下畑ニメ被仰達被下度奉願儀御座候、勿論畑

中之儀ニ付、則速より取懸端々開明作方仕、惣て近年家

作之後全被開明作方相宮家内相続可仕候、尚又御重恩之程難有仕合奉存候条、何卒願之通御叶被下度重覺奉願上候、此段宜御吟味先以仰達可被下儀、深重奉願上候、

以上

未七月九日

庄 屋

御山留利兵衛殿

一十月廿九日 献米八石七斗納、手形十一月二日相納之候、

一乍恐奉願上候口上覺

一下田五畝式步

庄 兵 衛

一下三畝七分

嘉 兵 衛

一中老畝拾五分

和 兵 衛

右は御配分

一四下五分

庄 兵 衛

右は御蔵入

合

御代官御役所

右之通奉願上候条、願之通被差免被下度断本文ニ御座候、

重奉願上候、已上

申正月廿四日

庄 兵 衛

嘉 兵 衛

和 兵 衛

庄屋 勘 兵 衛

口 達

知行所養父郡平田村百姓共より、引次屋敷別紙之通願出候条、支所無御座候半ハ、願通相許候様有御座度、此段被申達候、已上

未正月

中野 神右衛門判

江原治右衛門殿

一酉三月廿四日 枴割之事、

一酉四月二五日 麦地改副帳認替之事、

一九月廿四日 屋敷御婚礼之事、

一嘉永二年酉三月代官所御見分絵図御取立之事、

御検者方御手元、

同下役

一嘉永二年酉七月 水車床御見分之事

頭検者

本庄北辺前

横尾 神左衛門殿

郡目附

神野村

田 中 利 八殿

検者方

嘉瀬中原

鶴 岡 半 蔵

代官所

田代かく連村

岸川 辰之助

但本石
白米老斗三升也

下村 儀左衛門

右之通今般水車願付て、其御方御田地補用として毎歳差出可申候、尤水車御切符差上候体夫迄ニ御座候条、仍て

一札如件、

嘉永二年酉三月

御蔵方附役

大財村

柴田 恒十郎殿

庄屋代

有馬 庄兵衛判

村 役

源 左 衛 門

高田 文右衛門殿

右之通手形差出置申候条、御切符差上候半ハ、相納申ニ
不及候、已上

一 戌二月廿三日 楞割之事

一 嘉永五子年閏三月 田畠御本帳并名寄帳認替之事、

一 六月廿九日 大洪水ニテ堤土居洗切之事、

一 七月四日 大洪水之事、

一 同十一日 大風之事、

一 乍恐奉願口上覚

某懸養父郡平田村中野神右衛門殿給地、当五月廿九日之
降雨ニ而、堤土居及切崩過分之砂下洗剝出来仕候段ハ、
其筋御蔵入一列ニ御達申上置候道ニ御座候、然処浅砂之
場所ハ、差附開明植附相整置たる儀ニ御座候得共、開殘
田坪之儀ハ、深砂深洗ニ而、中々容易ニ開明不相叶、其
上右場所山辺之儀ニ而、五部三部位ノ之畝町ニ而、壹反
之所ニ凡式拾余可有之、畦築其外到て大手入ニ而、案^(不認)□

罷在去迎ハ、大切之御田地其儘難差置、色々目論見相付

ケ候得共、難百姓勝ニ而、当年柄迎も自力を以不任所存
候所ノ、地頭筋え拜借願書等差出候得共、是又当年柄之
訳ニ而、手添等不被行届趣ニ付、何連も可仕様無御座、
如何ニも残念千万之儀ニ奉存上候、依之ハ近来難奉願上
重疊恐入奉存候得共、別紙横帳面畝数所ニ、夫々書載之
通金子御蔵入同様、田開用御拜借被仰付被下道ハ有御座
間敷哉、偏ニ奉願上候、於然ハ一刻も開方相整、当年ノ
蕎麦麦類仕付、御蔭ニ百姓相続可仕候、猶又御重恩難有
仕合ニ奉存候条、格別之被為遂御吟味、何卒御慈恵を以
願之通被仰付被下候様、此段御筋々宜敷被仰達被下儀、
深重奉頼上候、已上

戌七月

庄屋 勘兵衛

庄屋 庄兵衛

右之通奉願候条、宜被為遂御吟味被成下、何卒願之通被
仰付可被下儀、断本文ニ御座候、已上

戌七月

御代官御役所

庄屋 勘兵衛

一 亥三月十四日 御囲米出之事

手形印形覚

嘉永四亥極月

平地壹畝拾貳分半

地主 良 助

一金三兩壹分

取主 六兵衛

右は手形五ヶ年限

嘉永七年

役内日記

甲寅閏七月吉日

庄屋 庄兵衛

一寅閏七月廿日 点役庄屋并御藏入村役被仰付候事、

乍恐奉願口上覚

某儀養父郡平田村罷在耕作相営、御蔭を以、家内相統仕
来難有仕合ニ奉存上候、然処当村之儀、古来々早損之
村柄ニ而、毎々御検見等奉願上候半而不相叶儀ニ御座候
ニ付、先年新堤奉願上候処、願之通堤御築立被成下候、
御蔭を以、可也ニ配水行届重疊恭仕合ニ存上候、然処尺
八之儀御仕替被成下候半而不相叶儀ニ御座候条、幸某山
石四間所持罷在品御献上仕度奉存候条、御支所無御座候
半ハ、願之通被仰付被下候様、御筋々宜御相達可被下
儀、深重奉頼上候、以上

嘉永六年丑十二月

庄 兵 衛

庄屋 忠兵衛殿

右之通奉願上候条、御支所無御座候半ハ、願之通被仰付
被下度断本文ニ御座候、以上

庄屋 忠兵衛

御代官御役所

右之通奉願候所、其通被仰付候ニ付、右四間丈仕部申候
処、今迄間半不足ニ付前断荒石四間と申上候得共、迎も
事ニ五間半上り場御献上仕度旨を以、我々奉願上候断左
ニ曰、

乍恐奉願口上覚

某儀養父郡平田村罷在、当秋庄屋役被仰付難有仕合ニ奉
存上候、然処当村之儀、古来々早損之村柄ニ而、毎々
御検見等奉願上候半而不相叶儀ニ御座候ニ付、先年新堤
奉願上候処、願之通堤御築立被成下候、御蔭を以可也ニ
配水行届、村方一統相潤、耕作出情仕儀ニ御座候、就而
は、年久敷相成最早尺八御仕替被成下候半而不相叶儀ニ
付、幸某山石五間半所持罷在候間、上り場御献上申上度
奉存上候条、御支所無御座候半ハ、願之通被仰付被下度
奉願上候、於然は御重恩尚又難有仕合ニ奉存上候、此段
御筋々宜御相達被下儀、深重奉頼上候、已上

嘉永七年寅閏七月

庄屋 庄兵衛

御代官御役所

右同
右同
其外

一 閏七月廿五日 御蔵入御囲米轟木村御蔵に依願、当村田居附用粗三石丈御拜借被差出候、右春土居外諸蔵惣廻ニ相成、欠粗壹斗四升壹合差次ニ相成候事、

御代官助役 大渡喜三太殿

右帳内書載之通、御買入米代銀銘に御拜借之儀相違無御座候、為其運印相整差上申候、万一疎之儀御座候半ハ、我々越度可被仰付候、以上

御手元 黒上良右衛門殿

子八月

下役 坂口文六殿

庄屋 儀 八

一 同九月朔日 御代官所より御買入米代米壹石ニ付銀貳部三

村役 庄兵衛判

匁ニメ、六石六斗代受取夫々配当相整申候事、

御代官御役所

一 同月七日 御手元役田嶋新兵衛殿・春氣善作殿聞合とし

一 九月廿二日 朝触状参り候写

て御出之事、

明廿三日轟木蔵米下野浜出用、左ニ書載之通 暮四ツ時

一 同月八日 当秋作立筈差出候様御達申来候ニ付早速右使

同所差出可申者候也、

を以差出申候事、

右之通申来候間、早速差出候事、

一 覚

一 十月五日 御蔵洗剩御見分として、御出張永松丈一郎

御買入米六石六斗

何かし

殿・蒲原源蔵殿御整被成候事、

御頭人 満岡長右門殿

一同八匁五分

右は後請

一 十月七日 年行司御役人材木町西嶋新兵衛殿・今宿伊東

一同三匁四厘

判賃

三平殿・小頭甚六無滞在之旅人為改御出張相成候事、

銀四拾三匁三分

一同九日 御蔵入洗剩再検之者して、満岡長左衛門殿御出

代銀四貫五百三拾六文

候事、

一同六百文

貫物

筆成廉に控

銀五貫百三拾六文

一 正銀貳拾七匁三分

一 正銀三拾三匁七分三厘 轟木下請貫物入

一同貳分式厘

判賃

銀貳拾七匁四分式厘

合錢拾壹貫九百三拾八文也

代銀貳貫八百七拾七文

金壹分祭田の出納

一 三百八拾壹文

貫物

其後田數割方へ相成候事

銀三貫貳百六拾文

堤上納

右は竈成之由也

一 十月十日 御蔵納米為御手当坂口文六殿・古川悟平殿御

一 正銀貳拾三匁三分

草成

已来より有来

一同拾壹匁壹分六厘

新請草成

乍恐奉願口上覚

当村氏神天満宮社奉崇、御私領御山古来より宝殿・拜殿

其外造建再建之砌ハ、材木其外就願御拜領被仰付被下候、御蔭を以、悉就成仕難有仕合存奉候、然処前年宝殿再建之砌、大工鄙形取違屋根張不相応ニメ、雨落高欄ニ相懸リ再建則ル外入相建困置候得共、最早年久敷相成、建替セ候半而不相叶之所、去ル子之夜大風ニ而大破仕候得共、近年大損毛之末ニ付而、是迄取懸リ兼見合罷在候処、当夏雨勝ニてくさりしたり過半相倒、其儘難差置、無抛当八月取懸リ修理相整候処、殊之外入費仕村方ニモ堤普請方半ニ而甚困窮罷在、何分行届不申儀歎ケ敷次第ニ御座候、依之近来難奉願奉存候得共、当節柴山御割方之趣ニ御座候て、右修理方御寄進与被思柴山壱割御拜領(口上)十一月廿一日より廿三日迄堤普請として吉岡良藏殿郡御目附、

一十二月十八日 御目附松林源藏殿・下目附西久保小七殿御出之事、

一同月廿三日 御郡方下役兩人御廻郷之事、

一卯正月十七日 水城源四郎人御改之事、

右は年行司御役所え庄屋中ノ連名を以手形写

右我々致存候村中宗門人御改之儀、念を入相究銘々帰依寺判形を取差上申候、尤伴天連いるまん隠置候者切支丹宗之儀ハ不及申、切支丹之唱又ハ、切支丹道具取扱其外不審等敷男女老人も無御座候、勿論江戸・上方・長崎詰之者村中男女老人も究迦無御座候、万一相違之儀御座候半ハ、何時も我々曲事可被仰付候、以上

二月十五日 庄屋中 人改連判

年行司郡方御藏方御附役御衆中直当各ニ而手形差出候事一卯正月十八日 晩ノ郷普請方下目附井田儀左衛門殿・下役山口文藏殿御入込、十九日普請相整候事、

右は山下川筋ちゃんほん川土居宇土口善行田際土居切凌三十六土居三ヶ所平田村之由ニ付、夫人願帳差出に付、前断之通御入込普請御整被成候得共、立石村ノ前方より

夫入帳差出、普請致来候ニ付、右之訳を以、村方何角差障、尤役々は得相心候得共、脇方承知不仕候間、又々元々通相成候様申談置、乍然後年ニ相成、右平田分之場所ニ而、草切其外え立石村見咎メ申候儀も御座候半ハ先年も点役方立石附村いたし居候ニ付、寛政九年点役分方ニ相成候得共、夫人帳致来其儘ニメ差置候間、其訳を以願書差出可申候事、

一二月廿三日 平田村 政右衛門 和 十

御 呵

科代三百三十八文八合分
一定銀百五拾九匁四分

一木代銀六匁壹分壹厘

右は平田村預大不谷永谷御山之内檜木其外被盜伐候ニ付札を以申出候

一二月二日ノ三月迄香山ノ式人持四人持石日ニ四度ツツ普請場を持届候様、夫丸立之儀ハ、坪ニ而村方夫入相成候

様、

卯三月朔日 吉屋良藏判

寅九月 平田村 八戸差兵衛
一摺繩四形 配分 一式形 御藏入
右者綾部大山留 右同断

納前也

一糶俵三俵 配分 一糶俵壹俵 御藏入
右は江見御藏納米 右は江見御藏納米
下敷用也 下敷用也

卯二月
一摺繩壹束六形 一唐干菓八斤
一摺繩 四形 一自わら 式斤
一小同壹束四形 壹束ニ壹形さし
ノ三形

ノ右は材木藏納方也 小頭為十
子ノ年分 但点庄屋払面候哉調子之事
一繩壹形 一白わら式斤

右は轟木御茶屋納前也、但三ヶ年ニ壹ヶ年ツツ郷内廻ニ

相成之事

一天保八年酉四月、但水帳ニ有

正金五兩三分八朱

米七斗九升

メ

右は無利足ニメ十一月一日限返済

和兵衛

取立人 松右衛門

伝左衛門

一金壹分老朱

一卯二月廿六日ヨ三月五日満十日降雨統困入之事

一三月九日 定式普請再見之事

吉岡良藏殿

下目附 横尾良七殿

山口文藏殿

一同月廿三日 寅秋十月廿日限御上納本口合相納候者へ御

酒御拝領之事、

一廿三日 御反米御藏究之事、

一四月朔日 和十・政右衛門山盗人ニ付、御叱被置ニ付、御免被仰付候、

一同 八藏義年行司被相調子候御用申来候

一六月廿日 右同断申来之事、

一同月廿九日 晩ヨ同日朝迄副嶋清吉殿・宮崎和左衛門殿

聞合として被御出之事、

一七月廿日 役達之事、

一六月十二日 原治左衛門・市丸文六兩人飯用之事、

一六月十二日 晩御山方下役深川軍平殿科銀取立として御泊り之事、

泊り之事、

一七月七日 風留願成就之事、

一同十八日ヨ廿一日迄藏究雜用算用立石村弥兵衛宅庄屋中

其砌、博奕聞合として郡方兩人御出之事、

一八月廿日ヨ出佐賀八藏年行司御用済之事、且又諸役人見

乗之事

一十一月廿一日ヨ堤土井築

福地文吉殿

原 治左衛門殿

岸川寅平殿

一辰二月千栗古川堀公役岸之内

一同三月十四日 定式普請再見之事

藤山栄太夫殿 原 治左衛門殿

吉岡良藏殿 山口文藏殿

御泊り

一三月廿六日 晩御郡方御手元水町藤内殿・下役山田万藏

殿、蠟干蒔御見分ニ付御泊り、

一十一月廿一日晩ヨ廿三日迄、堤土井居附として御出張

也、

廿一日晩御泊り

下目 永松文六殿

吉岡良藏殿

川浪儀六殿

下 原利左衛門殿 小頭 円十

下 増田惣右衛門殿 同 文右衛門

中野御氏給

弘化貳年御知行所
養父郡平田村御物成庭帳

巳十二月

庄屋 庄兵衛

懸口

一口米六升

同式升五合五勺

同式升五合五勺

同式升五合五勺

地夫料米壹斗四升

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

同壹斗六升五合

一同三合

一同壹斗三升

一同壹斗四升八合

米壹斗八升

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

同九斗八升三合

堤懸

貫物

地夫料

前方6月安

にて御加勢

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

御備方

内

米三斗壹升貳合

同三斗

同壹石貳斗

同壹石八斗壹升貳合

同四升

同六斗

殘米三升七合

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

代銀三匁壹分八厘

夫料

献米

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

納り

弥右衛門

春落

地夫料

反米

夫料立返

文五郎公役割合

貫物

貫物

貫物

貫物

貫物

一同四斗九升四合 未進
 六斗六升五合 内
 米式斗八合 夫料
 同壹升五合 江見行半駄分
 同壹升五合 右同
 式斗三升八合 点役夫料
 同式斗式合
 残米式斗式升五合
 代銀拾三匁三分五厘
 新藏
 一地米壹石六斗九升三合
 米式升 成定
 同壹斗五升八合 春落
 残米壹石五斗壹升五合
 口米九升壹合
 一米四升三合 反米
 一同式斗三升七合 地夫料
 式石八斗八升六合 堤懸り
 一同八合 夫料立返
 一同八合 貫物
 一同式斗七升九合 貫物
 式石壹斗八升壹合 内
 米式斗八合 夫料
 同三斗 献米
 同九斗 納り
 同六升 佐嘉行壹駄分
 同三升 江見行壹駄分
 式石四斗九升八合 献米間
 同四升 納り
 同六斗 同五斗
 残米四升三合 同五斗
 同三匁七分 同五匁五厘
 米四合
 一同式合
 一同七升九合 六斗壹升六合 内
 米五升二合 夫料
 金式分式朱代
 同五斗 半助
 残米六升四合
 同五匁五厘
 辰右衛門
 一地米壹斗式升壹合 内
 米壹升式合 春落
 残米壹斗九合 口米七合
 一米三合 反米
 一同壹升七合 地夫料
 式斗三升六合 貫物
 一同式升 貫物
 米五升 内
 御かせ

同壹斗六合 納り
 一地米式石式斗四升 覚兵衛
 内
 米壹斗三升四合 成定
 同壹斗式升九合 春落
 残米壹石九斗七升七合
 口米壹斗壹升九合
 一米五升七合 反米
 一同三斗壹升四合 地夫料
 式石四斗六升七合 堤懸り
 一同九合 夫料立返
 一同壹升式合 貫物
 式石八斗五升八合 内
 米三斗壹升式合 夫料
 同三斗 献米
 同六斗 反米払
 同六斗 佐嘉行
 同式升三合 過成米
 式石八斗三升五合 納り
 同壹斗七升九合 和兵衛存
 同四升 献米間
 残米八斗四合
 同六拾九匁壹分四厘 内
 銀式拾五匁八厘 納り
 一地米式石七斗七合 順藏
 内
 米六合 成定
 同式斗三升七合 春落
 残米式石四斗六升四合
 口米壹斗四升八合
 一米六升九合 反米
 一同三斗七升九合 地夫料
 式石六升 出来
 一同式合 右口米
 一同壹升五合 堤懸り
 一同壹升式合 夫料立返
 一同四斗四升七合 貫物
 式石五斗七升五合 内
 米三斗壹升式合 夫料
 同三斗 献米
 同六斗 佐嘉行
 同壹斗八升 佐嘉行三駄分
 式石三斗九升式合 同四升 献米間
 同三升六合 年賦
 同壹升六合 右同
 式石四斗八升四合 同六斗 納り
 同六斗 納り
 同六斗 駄賃
 残米八斗三升壹合 同七拾壹匁四分七厘 内
 同七拾壹匁四分七厘 納り
 米七合 引次屋敷
 銀六分 春落
 一地米式石壹斗四升八合 八藏

内
 米三升九合 成定
 同壹斗九升三合 春落
 残米壹石九斗壹升六合
 口米壹斗壹升五合 反米
 一米五升五合 地夫料
 同三斗壹合 出来
 又式石三斗八升七合 右口米
 一同貳合 堤懸り
 一同壹升 堤水道
 一同貳合 夫料立返
 一同四合 右同
 一同三斗五升四合 貫物
 一同貳斗六升五合 未進
 又三石五升五合 庄兵衛
 一同八升 右八神田上納辰秋分
 一同八升壹合 同人
 右同断巳秋分
 又三石貳斗壹升六合 年賦
 一同三升六合

一同壹升六合 右同
 内
 米壹斗五升六合 夫料
 同壹斗四合 右同
 同三斗 献米
 同六斗 轟木弘
 同三升 江見行壹駄分
 同壹升六合 年賦
 同三升六合 右同
 又壹石貳斗四升貳合 献米間
 同四升 庄兵衛立返
 同八升 右同
 右八神田上納辰秋分 右同
 同八升壹合 右同
 右同断巳秋分 右同
 同八升 右同
 右同断
 同八升壹合 右同
 又壹石六斗四合 納り
 同六斗 右同
 同六斗 同壹石貳升
 同壹石貳升 駄賃

残米三斗四升四合
 同貳拾九匁五分八厘 嘉兵衛
 一地米壹石四斗六升貳合 内
 米九升九合 年々否成定
 同壹斗七合 春落
 残米壹石貳斗五升六合
 口米七升五合 反米
 一米三升七合 地夫料
 一同貳斗五合 出来
 又壹石五斗七升三合 右口米
 一同三升三合 堤懸り
 一同貳合 夫料立返
 一同八合 貫物
 一同貳斗四升壹合 内
 又壹石八斗六升五合 米貳斗八合 夫料
 同三斗 同三斗 献米
 同壹石貳斗 同壹石七斗八合 轟木弘
 又壹石七斗八合

同四升 献米間
 同六升 駄賃
 残米五升七合
 同四匁九分

一地米九斗四升五合 伝左衛門
 内
 米八升 春落
 残米八斗六升五合
 口米五升貳合 反米
 一米貳升四合 地夫料
 一同壹斗三升四合 出来
 又壹石七升五合 右同米
 一同九合 堤懸り
 一同壹合 夫料立返
 一同六合 貫物
 一同壹斗五升六合 未進
 一同六升六合 内
 又壹石三斗壹升九合 米壹斗五升六合 夫料
 米壹斗五升六合

同九斗 轟木弘
 餅米六斗 納り
 同三升 江見行壹駄分
 同七升 餅間
 又壹石七斗五升六合
 米四斗三升七合 喜平次

一地米貳升
 口米壹合 反米
 一米壹合 地夫料
 一同三合 又式升五合
 又式升八合 貫物
 同貳匁四分壹厘
 一地米壹石九斗六升四合 善右衛門
 米壹斗八升七合 春落
 残米壹石七斗七升七合

口米壹斗七合 反米
 一米五升 地夫料
 一同貳斗七升五合 出来
 又式石貳斗九合 右口米
 一同六升六合 堤懸り
 一同四合 堤水道
 一同五合 夫料立返
 一同三升 貫物
 一同三斗貳升四合 未進
 一同五升三合 忠兵衛
 又式石六斗九升三合 右八出来立返ス
 一同壹升壹合 同人
 右八出来立返ス
 一同三升六合 内
 米貳斗六升 夫料
 同三斗 同三斗 献米
 同六斗 轟木弘
 又壹石壹斗六升 同四升 献米間
 同六斗 佐嘉納り

同三斗
同六升
残米五斗六升七合
同四拾八匁貳分五厘

右同
駄賃

同三斗
同六斗五升貳合
同四升
残米貳斗六升五合
同貳拾貳匁七分九厘

藤木払
馱米間

同三斗
同壹斗三升
同九斗
残米壹斗八升七合
同拾六匁八厘

点夫料より
夫料
藤木払

一地米七斗八升六合

内

米七升壹合
同六升四合

成定
春落

一地米六斗九升壹合

内

残米六斗五升壹合
口米三升九合

春落

米壹升
同六升貳合

年々否
春落

一地米七斗六升八合

内

一米貳升
同壹斗壹升

反米
地夫料

残米六斗七升九合
口米三升七合

反米
地夫料

米三升貳合
同五升七合

成定
春落

同壹斗壹升
同四合

堤懸
堤水道

一米壹升八合
同九升七合

反米
地夫料

残米六斗七升九合
口米四升壹合

春落

同四合
同貳合

堤懸
夫料立返

同六合
同貳合

堤懸
夫料立返

一米貳升
同壹斗八合

反米
地夫料

同壹斗三升
同九斗五升七合

貫物

同壹斗壹升四合
同八斗九升三合

貫物

同三升貳合
同貳合

出来
右口米

米五升貳合
同三斗

夫料
馱米

同貳升七合
同貳合

清十分
右口米

同九合
同四合

堤懸
夫料立返

同三斗

馱米

同八升七合

出来

同壹斗貳升七合

貫物

同壹石貳升三合
同五升四合

庄兵衛

一米四升
同壹斗壹升七合

反米
地夫料

同壹石七斗三升九合

庄兵衛

米壹斗四合
同三斗

夫料
馱米

同三升六合
同貳合

出来
右口米

一地米九石七斗

庄兵衛

同三升
同壹升貳合

江見行壹駄分
年賦

同壹升
同貳合

堤懸
堤水道否

米四斗五升六合
同八斗貳升七合

成定年々否
春落

同四升
同貳升七合

馱米方
出来

同壹斗五升六合
同貳石五升三合

貫物
夫料立返

残米八石四斗壹升七合
口米五斗五合

春落

同貳合
同八升七合

右口米
出来

同貳斗八合
同三斗

夫料
馱米

一米貳斗四升七合
同壹石三斗五升八合

反米
地夫料

同貳合
同六斗

右口米
出来

同三斗
同九斗

夫料
馱米

同壹斗八升三合
同七升四合

出来
右口米

同三斗
残米壹斗七升五合

納り

同六斗
同六升

納り
藤木払
香田払

同壹升七合
同七升四合

出来
右口米

同拾五匁五厘
一地米壹石五斗五升三合

納り

同六斗
同六升

納り
佐嘉行壹駄分

同壹升三合
同壹升四合

堤懸
堤水道否

同壹石五斗五升三合
同壹斗壹升

卯平

同三升
同壹升貳合

年賦
江見行壹駄分

同壹石六斗壹合
同壹斗貳升三合

貫物

同壹斗壹升

春落

同四升
同壹斗壹升

馱米間

同壹斗壹升三合
同壹斗壹升三合

文右衛門

米壹斗五升五合
残米壹石三斗九升八合

春落

同四升
同壹斗壹升

馱米間

同八升
同壹斗壹升

八藏

一同八升壹合 右同
 右同断巴秋分
 一同壹斗六升壹合 立返
 内
 米六斗貳升四合 夫料
 同壹石貳斗 献米
 同三斗 藤木 弥右衛門
 同三斗 卯平
 同三斗 藤木分
 同壹斗八升 佐嘉行三駄分
 同五斗八升五合 年賦
 同九升六合 右同
 右三石五斗八升五合
 同八升 八藏
 右八神田暮上納辰秋 同人
 同八升壹合 同人
 右八巴秋分 文助
 同四斗八升四合 要助
 同五斗貳升九合 辰秋暮上納 八藏
 同八升 巴秋右同 同人
 同八升壹合 同人

同五升四合 清十
 同壹斗六升 献米間
 内
 一地米貳合 新平
 一米壹合 庫懸納
 一同壹合 出来
 同四分 同三分貳厘

一地米九斗四升貳合 文五郎
 内
 米九升 春落
 残米八斗五升貳合
 口米五升壹合
 一米貳升四合 反米
 一同壹斗三升貳合 地夫料
 同壹石五升九合 堤懸
 一同五合 夫料立返
 一同壹斗五升五合 貫物
 同壹石貳斗貳升三合 内

一地米三斗八升 良助
 内
 米三升六合 春落
 残米三斗四升四合
 口米貳升壹合
 一米壹升 反米
 一同五升三合 地夫料
 同四斗貳升八合 堤懸
 一同壹合 貫物
 一同六升三合 (一米五升八合)
 一同五斗貳升貳合 庄兵衛

米三斗 献米
 同三斗 納り
 同四升 献米間
 同六斗四升
 残米三斗七升四合
 同三拾貳匁壹分六厘

弥藏
 一地米壹石三斗五升五合
 内
 米貳升七合 年々否
 同壹斗壹升八合 春落
 残米壹石貳斗壹升
 口米七升三合
 一米三升五合 反米
 一同壹斗九升 地夫料
 同壹石五斗八合 堤懸
 一同壹升三合 夫料立返
 一同貳合 貫物
 一同七升一合 未進
 同壹石八斗壹升八合

米五升貳合 夫料
 同三斗 献米
 同六斗 藤木悉田
 同壹升 引次屋敷春落
 同壹合 口米
 同九斗六升三合
 同四升 献米間
 同六斗 納り
 同六升 駄賃
 残米壹斗五升五合
 同拾三匁三分三厘 相濟

直右衛門
 一地米六斗七升四合
 内
 米六升七合 春落
 残米六斗七合
 口米三升六合
 一米壹升七合 反米
 一同九升四合 地夫料
 同七斗五升四合 堤懸
 一同壹升

文助
 一地米壹斗壹升七合
 内
 米九合 春落
 残米壹斗八合
 口米六合
 一米三合 反米
 一同壹升六合 地夫料
 同壹斗三升三合 貫物
 一同壹升九合

一同四斗八升四合
一同壹斗四升五合
一同五合

庄兵衛
御藏入上納
草成

ノ壹石四斗七升六合
一同五升

正平
則上納

残米四升壹合
同三匁五分三厘

内

米壹升七合

庄兵衛納

米壹斗五升六合

夫料

同三斗

納り

同三斗

納り

残米四斗六升九合

御屋敷御救米

同三拾九匁八分三厘

ノ七斗五升六合
同六斗

納り

残米壹斗七升

清助

同拾四匁六分貳厘

一斗米貳升九合五勺
口米貳合

反米

一地米八斗九升六合

内

米七升六合

春落

一地米六升三合

甚藏

残米八斗貳升

口米四升九合

口米四合

反米

一米貳升三合

反米

一同九合

地夫料

一同壹斗貳升五合

地夫料

ノ七升八合

地夫料

ノ壹石壹升七合

堤懸

一同三合

堤懸

一同四合

堤懸

一同貳合

夫料立返

一同一合

堤水道

一同壹升

貫物

一同六合

夫料立返

ノ九升三合

貫物

一同壹斗四升八合

貫物

内
米五升貳合

夫料

一同三斗

未進

内

夫料

松左衛門

反米
地夫料

貫物

和兵衛

年々否
春落

反米
地夫料

一同四合
一同貳合
一同六合
一同壹斗七升

堤懸
堤水道
夫料立返
貫物

一同貳合
一同貳合
ノ三升貳合
納り

堤水道
貫物

一同壹升貳合
ノ四石三斗七升三合
内
米壹斗五升六合
同三斗
同九升
同七升五合
同壹斗三合
ノ壹石五斗三升四合
同四升

正兵衛銀二而
相渡
夫料
夫料
献米
藤木分
年賦
右同
献米間

一同七升
ノ壹石五斗壹升六合
一同四升五合

東ノ屋敷庄兵衛
同入
覚兵衛

一地米貳石三斗八升壹合
内
米貳斗壹升六合
残米貳石壹斗六升五合
口米壹斗三升

勘兵衛
春落

同九合
同七升五合
同壹斗三合
ノ壹石五斗三升四合
同四升
壹石六斗三升四合
右は反米残り
ノ三石貳斗八合
同九合
同九合
同壹升九合
同六斗貳升五合
同七升五合
同壹斗三升
一同壹斗四升八合
ノ四石貳斗貳升三合
残米壹斗五升

夫料
夫料
右同
夫料否
御藏入上納
榮之无夫料八合
半七右同
祭田反米

米壹斗五升六合
同六斗 勘兵衛点役
同三斗
同壹斗五升
残米四斗貳升五合
同三拾六匁五分五厘

夫料
村役給
納り
右同

一同貳合
一同六合
一同三斗九升三合
一同六斗 和兵衛点役
ノ三石七斗九合

反米
地夫料
堤懸
堤水道
夫料立返
貫物
村役給

同九合
同九合
同壹升九合
同六斗貳升五合
同七升五合
同壹斗三升
一同壹斗四升八合
ノ四石貳斗貳升三合
残米壹斗五升

草成
右同
夫料否
御藏入上納
榮之无夫料八合
半七右同
祭田反米

一地米壹升壹合

彦左衛門

一同三斗九升三合

村役給

同七升五合

御藏入上納

口米壹合

夫料

ノ三石七斗九合

弥右衛門

一同壹斗四升八合

祭田反米

一米貳合

出来

一同貳斗貳合

立夫料

一同壹斗四升八合

祭田反米

一同三合

堤懸

一同三斗

筆者給

ノ四石貳斗貳升三合

祭田反米

一同壹升三合

堤懸

一同壹斗五升

右同

残米壹斗五升

祭田反米

文久元年御蔵入
養父郡立石村御物成取納庭帳

酉 穂

庄屋 弥左衛門

掛口凡例

但躰地米壹石二付

一口反米九升[㊦]

但右同斷

一夫料米貳升[㊦]

但右同斷

一懸作石付貳斗三升[㊦]

但右同斷

一貫物米八升九合八勺[㊦]

ノ

忠左衛門

一田方地米八斗八升三合

内

田方除米三升五合

殘地米八斗四升八合

口反米七升六合

一米壹斗七升

一同七升六合

ノ壹石壹斗七升

内

米八升七合

同八合

ノ九升五合

米九斗

御藏納

一田方地米九斗壹升三合

内

田方除米壹斗五升三合

殘地米七斗六升

口反米六升八合

一米壹斗五升貳合

一同六升八合

ノ壹石四升八合

内

米四升七合

同四合

ノ五升壹合

同六斗

儀左衛門

夫料

貫物

田方春落

右口反

御藏納

惣兵衛

一田方地米四石七斗三合

一畠方同壹斗九升四合

一屋敷同貳斗五合

ノ地米五石壹斗貳合

内

田方春落

右口反

御藏納

惣兵衛

一田方地米壹石四斗六升貳合

一畠方同四升八合

ノ地米壹石五斗壹升

田方除米三斗七升貳合

ノ殘地米壹石壹斗三升八合

田方除米七斗壹升三合

ノ

殘地米四石三斗八升九合

口反米三斗九升五合

一米八斗七升八合

一同三斗九升四合

ノ六石五升六合

内

米三斗五升七合

同壹升九合

同三升四合

同五斗五升五合

ノ九斗六升五合

同四石貳斗

夫料

貫物

田方春落

畠落

右口反

宿夫料

御藏納

要助

一田方地米壹石四斗六升貳合

一畠方同四升八合

ノ地米壹石五斗壹升

田方除米三斗七升貳合

内

要助

一田方地米壹石四斗六升貳合

一畠方同四升八合

ノ地米壹石五斗壹升

田方除米三斗七升貳合

内

要助

殘地米壹石壹斗三升八合

口反米壹斗貳合 夫料
 一米貳斗貳升八合 貫物
 一同壹斗貳合 内
 米貳升壹合 田方春落
 同五合 右口反畠落
 同貳合 右貳口反
 同壹石貳升 御藏納
 与右衛門
 一田方地米三石五斗五合
 一畠方同壹斗貳升七合
 一屋敷同貳斗五升三合
 内 米六斗
 田方除米六斗貳升五合
 残地米三石貳斗六升
 口反米貳斗九升三合 夫料
 一米六斗五升貳合 貫物
 一同貳斗九升三合
 内 一田方地米七斗貳升
 同四石四斗九升八合 五兵衛

田方除米七升五合
 残地米六斗四升五合
 口反米五升八合 夫料
 一米壹斗貳升九合 貫物
 一同五升八合 内
 米四升五合
 同四合 田方春落
 同六斗 右口反
 御藏納

一田方地米四斗壹升四合
 残地米五斗三升四合
 口反米四升八合 夫料
 一米壹斗七合 貫物
 一同四升八合
 内 米六斗
 田方除米四斗壹升四合
 御藏納

一田方地米九斗四升八合 利三郎
 内 田方除米四斗壹升四合
 残地米五斗三升四合
 口反米四升八合 夫料
 一米壹斗七合 貫物
 一同四升八合
 内 米六斗
 田方除米四斗壹升四合
 御藏納

一田方地米九斗四升八合 利三郎
 内 田方除米四斗壹升四合
 残地米五斗三升四合
 口反米四升八合 夫料
 一米壹斗七合 貫物
 一同四升八合
 内 米六斗
 田方除米四斗壹升四合
 御藏納

田方除米七升五合
 残地米六斗四升五合
 口反米五升八合 夫料
 一米壹斗貳升九合 貫物
 一同五升八合 内
 米四升五合
 同四合 田方春落
 同六斗 右口反
 御藏納

一田方地米四斗五升八合
 口反米四升壹合 夫料
 一米九升貳合 貫物
 一同四升壹合
 内 米五升九合
 同五合 田方春落
 同六斗 右口反
 御藏納

龍右衛門
 一田方地米三斗三升六合
 口反米三升 夫料
 一米六升七合 貫物
 一同三升
 内 米四升四合
 田方春落
 同四合 右口反
 同三斗 御藏納

次右衛門
 一畠方地米四升八合
 口反米四合 夫料
 一米壹升 貫物
 一同四合
 内 米五合
 畠落
 一畠方地米壹斗四升四合 勝右衛門

龍右衛門
 畠方除米貳升八合
 残地米壹斗壹升六合
 口反米壹升 夫料
 一米貳升三合 貫物
 一同壹升
 内 米壹升貳合
 同壹合 畠落
 右口反

和三郎
 一屋敷方地米三升四合
 口反米三合 夫料
 一米七合 貫物
 一同三合
 内 一田方地米貳石六升八合
 竹五郎
 田方除米壹斗九升五合
 残地米壹石八斗七升三合

龍右衛門
 口反米壹斗六升九合 夫料
 一米三斗七升五合 貫物
 一同壹斗六升九合
 内 米貳斗六升九合
 同壹升五合 田方春落
 同壹石八斗 右口反
 同壹石八斗 御藏納

半左衛門
 一田方地米六斗八升三合
 田方除米壹合
 残地米六斗八升貳合
 口反米六升壹合 夫料
 一米壹斗三升六合 貫物
 一同六升壹合
 内 米八升九合
 同八合 田方春落
 同九升七合 右口反

同六斗 御藏納
 一田方地米四斗九升八合 善七
 一屋敷同六升七合
 刈地米五斗六升五合 内
 田方除米壹斗貳升五合
 残地米四斗四升
 口反米四升
 一米八升八合 夫料
 一同四升 貫物
 刈六斗八合 内
 米六斗 御藏納
 甚左衛門
 一田方地米九斗三升六合
 一畠方地米三升七合
 一屋敷同貳斗三升三合
 刈地米壹石貳斗六合 内
 田方除米壹斗八升九合
 残地米四斗九合
 一田方地米五斗八升五合 伝十
 田方除米壹斗七升六合
 残地米四斗九合
 口反米三升七合 夫料
 一米八升式合
 一同三升七合
 刈五斗六升五合 内
 米三斗 御藏納
 中乙
 一田方地米壹石三斗九升五合 内
 田方除米貳斗四合
 残地米壹石壹斗九升壹合
 口反米壹斗七合
 一米貳斗三升八合 夫料
 一同壹斗七合
 刈壹石六斗四升三合 内
 米七升六合 田方春落
 同七合 右口反
 刈八升三合 御藏納
 同壹石貳斗
 新兵衛

一田方地米九斗六升五合
 一畠方同壹斗九升七合
 刈地米壹石壹斗六升貳合 内
 田方除米壹斗三升七合
 畠方除米壹斗六升七合
 刈除米三斗四合
 残地米八斗五升八合
 口反米七升七合
 一米壹斗七升貳合 夫料
 一同七升七合 貫物
 刈壹石壹斗八升四合 内
 米七升六合 田方春落
 同三合 畠落
 同七合 右口反
 同三斗五升貳合 荷夫料
 刈四斗三升八合
 同九斗 御藏納
 武十
 一田方地米七斗四升壹合
 一畠方地米八升八合
 刈地米八斗貳升九合 内
 田方除米五升五合
 畠方除米五升
 刈除米壹斗五合
 残地米壹石貳升四合
 口反米六升五合
 一米壹斗四升五合 夫料
 一同六升五合 貫物
 刈九斗九升九合 内
 米七升九合 田方春落
 同四合 畠落
 同七合 右口反
 刈九斗 御藏納
 同六斗
 祐七
 一田方地米五石五斗四升五合
 一畠方同三斗五升八合
 一屋敷同貳斗三升五合
 刈米六石壹斗三升八合 内
 田方除米壹石五斗六升壹合
 畠方同三升三合
 屋敷同壹升
 刈除米壹石六斗四合
 残地米四石五斗三升四合
 口反米 四斗八合
 一米九斗七合 夫料
 一同四斗七合 貫物
 刈六石貳斗五升五合 内
 米壹斗六升九合 田方春落
 同三升三合 畠落
 同壹升八合 右口反
 同九斗五升五合 荷夫料
 刈壹石壹斗七升五合
 同四石五斗 御藏納
 刈五石六斗七升五合
 儀十
 一田方地米壹石三斗三升四合
 一畠方同五升八合
 一屋敷同八升七合
 刈地米壹石四斗七升九合 内

田方除米四斗三升貳合
 畠方同壹升貳合
 残地米壹石三升五合
 口反米九升三合
 一米貳斗七合
 同九升三合
 同壹石四斗貳升八合
 内
 米三升八合
 同五合
 同四合
 同四升七合
 同壹石貳斗
 御藏納

弥平次
 一田方地米壹石八斗五升三合
 一畠方同壹斗五升八合
 一屋敷同壹斗貳升貳合
 内
 田方除米五斗三升貳合
 畠方同壹升
 屋敷同貳升

除米五斗六升貳合
 残地米壹石五斗七升壹合
 口反米壹斗四升壹合
 一米三斗壹升四合
 同壹斗四升壹合
 同壹石壹斗六升七合
 内
 米壹斗壹升壹合
 同壹升五合
 同壹升壹合
 同九斗五升五合
 同壹石九升貳合
 同壹石五斗
 御藏納

千代松
 一田方地米六斗五升七合
 内
 田方除米五升六合
 残地米六斗壹合
 口反米五升四合
 一米壹斗二升
 同五升四合
 同八斗貳升九合
 夫料
 貫物

嘉兵衛
 一田方地米九斗六升八合
 内
 田方除米壹合
 残地米九斗六升七合
 口反米八升七合
 一米壹斗九升三合
 夫料

武兵衛
 一田方地米六斗九升四合
 口反米六升貳合
 一米壹斗三升九合
 同六升貳合
 同九斗五升七合
 内
 米九升
 同八合
 同六斗
 田方春落
 右口反
 御藏納

田方春落
 畠落
 右式口反
 荷夫料
 御藏納

夫料
 貫物

一同八升七合
 同壹石三斗三升四合
 内
 米壹斗貳升六合
 同壹升貳合
 同壹斗三升八合
 同九斗
 弥右衛門

貫物
 田方春落
 右口反
 御藏納

荷夫料
 米五斗五升五合
 同五斗八升六合
 米貳石壹斗
 御藏納

新藏
 一田方地米貳石八斗四升八合
 一畠方地米六合
 同壹石八斗五升四合
 内
 田方除米七斗七合
 残地米貳石壹斗四升七合
 口反米壹斗九升三合
 一米四斗貳升九合
 一米壹斗九升三合
 同壹石九斗六升貳合
 内
 米四升壹合
 米壹合
 米四合
 同四升六合
 米貳石壹斗
 御藏納

政十
 一田方地米三斗五升
 内
 田方除米壹合
 残地米三斗四升九合
 口反米三升壹合
 一米七升
 一米三升壹合
 同四斗八升壹合
 夫料
 貫物

田方春落
 右口反
 御藏納

夫料
 貫物

田方春落
 畠落
 右式口反
 夫料
 貫物

田方春落
 右口反
 御藏納

田方春落
 右口反
 御藏納

一畠方地米壹升九合
 口反米貳合
 一畠方地米三升
 一屋敷同三斗八升五合
 地米四斗壹升五合
 口反米三升七合
 一米八升三合
 一同三升七合
 五斗七升貳合
 内
 米三合
 同四斗五升

定左衛門
 御藏納
 畠落
 貫物
 夫料
 林三郎
 畠落
 貫物
 夫料

一田方地米貳石七斗五合
 一屋敷同貳斗壹合
 地米貳石九斗六合
 内
 田方除米七合
 残地米貳石八斗九升九合
 口反米貳斗六升壹合
 一米五斗八升
 一同貳斗六升
 四石
 内
 米三斗四升九合
 同三升壹合
 同五斗五升五合
 九斗三升五合
 同貳石七斗

太左衛門
 畠落
 貫物
 夫料
 田方春落
 荷夫料
 荷夫料
 御藏納

一田方地米三斗五升九合
 内
 田方除米壹合
 残地米三斗五升八合
 口反米三升貳合
 一米七升貳合
 一同三升貳合
 四斗九升四合
 内
 米四升七合
 同四合
 五升壹合
 同三斗
 一畠方地米八升八合
 口反米八合
 一米壹升八合
 一同八合
 壹斗貳升貳合
 内
 米九合

源助
 御藏納
 貫物
 夫料
 田方春落
 右口反
 貫物
 夫料
 十郎
 御藏納
 貫物
 夫料

米四升五合
 米四合
 米三斗
 一田方地米三斗七升八合
 一畠方地米七升
 地米四斗四升八合
 内
 田方除米五合
 残地米四斗四升三合
 口反米四升
 一米八升九合
 一米四升
 六斗壹升貳合
 内
 米四升八合
 米七合
 米五合
 六升
 米六斗
 御藏納

新平
 田方春落
 右口反
 御藏納
 夫料
 貫物
 田方春落
 畠落
 右口反
 御藏納

一田方地米四斗壹升三合
 内
 田方除米壹合
 残地米四斗壹升貳合
 口反米三升七合
 一米八升貳合
 一米三升七合
 五斗六升八合
 内
 米五升三合
 米五合
 米四斗五升
 一畠方地米五升
 一屋敷地米壹斗貳合
 地米壹斗五升貳合
 内
 畠方除米壹升
 残地米壹斗四升貳合
 口反米壹升三合

久藏
 夫料
 貫物
 田方春落
 右口反
 御藏納
 慶三郎

一米貳升八合
 一米壹升三合
 壹斗九升六合
 内
 米四合
 一田方地米六斗貳升七合
 内
 田方除米壹斗三升九合
 残地米四斗八升八合
 口反米四升四合
 一米九升八合
 一米四升四合
 六斗七升四合
 内
 米四升四合
 米四合
 米四斗五升
 一畠方地米貳升九合

利惣次
 畠落
 貫物
 夫料
 田方春落
 右口反
 御藏納
 卯平
 御藏納
 貫物
 夫料

〆式石九斗九升 内
 米壹斗七升 田方春落
 同壹升五合 右口反
 〆壹斗八升五合 御藏納
 同式石壹斗 御藏納
 一田方除米三斗七升七合 友助
 内 田方除米七升五合
 残地米三斗式合
 口反米式升七合 夫料
 一米六升 貫物
 一米式升七合 夫料
 〆四斗壹升六合 貫物
 内 米三斗
 御藏納
 一田方地米五斗五升壹合 善兵衛
 一畠方地米式斗六合
 一屋敷地米式升六合
 〆地米七斗八升三合 内
 田方除米式斗五升 田方春落
 畠方除米六升六合 右口反
 〆除米三斗壹升六合 御藏納
 残地米四斗六升七合
 口反米四升式合 夫料
 一米九升三合 貫物
 一米四升式合 田方春落
 〆六斗四升四合 内 貫物
 米壹升四合 畠落
 米壹合 右口反
 〆米三斗 御藏納
 一田方地米八斗五升三合 兵藏
 一屋敷地米三升四合
 〆地米八斗八升七合 内
 田方除米壹合
 残地米八斗八升六合
 口反米八升 夫料
 一米壹斗七升七合 貫物
 一米八升壹合
 〆壹石式斗式升四合 内
 米壹斗壹升壹合 田方春落
 米壹升 右口反
 〆米九斗 御藏納
 一田方地米五斗壹升式合 利左衛門
 内 田方除米壹合
 残地米五斗壹升壹合
 口反米四升六合 夫料
 一米壹斗式合 貫物
 一米四升六合
 〆七斗五合 内
 米六升六合 田方春落
 米六合 右口反
 米六斗 御藏納

〆六斗七升式合 弥兵衛
 一畠方地米壹升式合
 口反米壹合 夫料
 一米式合 貫物
 一米壹合 畠落
 〆壹升六合 内 米壹合
 一田方地米三斗七升八合 利兵衛
 内 田方除米壹斗壹升六合
 残地米式斗六升式合
 口反米式升四合 夫料
 一米五升式合 貫物
 一米式升四合
 〆三斗六升式合 内 米壹升九合
 田方春落
 米式合 右口反
 米三斗 御藏納
 一田方地米四石七斗七升七合 甚兵衛
 内 田方除米壹石式斗八升八合
 残地米三石四斗八升九合
 口反米三斗壹升四合 夫料
 一米六斗九升八合 貫物
 一米三斗壹升三合 田方春落
 〆四石八斗壹升四合 内 米六升五合
 米六合 右口反
 米三石三斗 御藏納
 喜十
 一屋敷方地米六升八合 夫料
 口反米六合 貫物
 一米壹升四合
 一米六合 田方春落
 〆九升四合 貫物
 一田方地米七斗九升七合 平藏
 一畠方地米六升壹合
 一屋敷地米式斗五升 御藏納
 一田方地米四斗七升三合 直十
 内 田方除米壹斗九升三合
 残地米式斗八升
 口反米式升五合 夫料
 一米五升六合 貫物
 一米式升五合
 〆三斗八升六合 内 米三斗
 一屋敷方地米三升三合 惣三郎
 口反米三合 夫料
 一米七合 貫物
 一米三合
 〆四升六合

残地米六升壹合
口反米 五合

夫料

米八拾四石九斗三升四合
内

一米壹升四合

貫物

一米六合

内

米四石六合
米貳斗九合

春落

米六合

米三斗七升六合
米五石六斗八升九合

畠落

米壹合

米拾石貳斗八升

右口反

畠落
右口反

右合

田方地米六拾九石貳升六合

畠方地米貳石六斗四升五合

屋敷地米三石壹斗五合

米七拾四石七斗七升六合

内

田方除米拾貳石五斗七升貳合

畠方除米五斗五升四合

屋敷除米壹斗五升五合

除米拾三石貳斗八升壹合

残地米六拾壹石四斗九升五合

口反米五石五斗三升五合

一米拾貳石壹斗八升

一米五石五斗貳升貳合

夫料
貫物

右帳内書載之通、銘々引合之上、取立

仕、連判を以、御引合申上候通相違無御

座候、自然疎之儀も御座候半は、越度可

被仰付候、以上

戌六月

庄屋弥左衛門

右帳内相違無之候、以上

戌六月

川浪吉之充

安政四年

養父郡平田村田畠并竈人別差出帳

巳二月

庄屋 庄兵衛

御蔵入 平田村

一田方

六町貳段八畝小半歩

地米貳拾八石壹斗貳升六合

内

田数三畝貳歩

米壹斗貳升七合

年々否

田数四畝廿歩

米貳斗九升貳合

無米

米四石壹斗八升

成定

米壹石貳斗壹升八合

田方春落

すくみ 田数六町貳段八歩小半

地米貳拾貳石三斗九合

一畠方

六段六畝半歩

地米壹石八升六合

内

米貳斗六升四合 成定

躰

田畠七町三段九畝小半歩

残御物成米貳拾五石八升八合

躰 畠数六段六畝半歩

地米八斗貳升貳合

一屋敷

五段拾貳歩半

内

地米壹石九斗六升九合

屋敷廿五歩 年々否

米三升八合

田数壹段壹畝

米三斗六升

年々否

田数拾五歩

米壹升八合

無米

米八斗壹升八合

成定

米四石六斗六升八合

春落

一畔方

三畝四歩

地米貳升六合

田方七町四段七畝拾七歩半

内

田方八畝拾七歩

米四斗五升七合

年々否 無米

米四石四斗四升四合成定

米壹石貳斗壹升八合田方春落

一畠方

壹町八段六畝拾三歩半

地米壹石六斗貳升七合

内 畠数壹畝拾五歩

米八合 無米

躰

田数拾貳町壹畝七歩

地米四拾八石五斗六升壹合

躰

畠数壹町八段四畝廿八歩半

地米壹石六斗壹升九合

一屋敷

六段七畝三歩

地米壹石九斗四升三合

一畔方

三段壹畝拾五歩

地米貳斗七升壹合

一田方

拾貳町壹段三畝貳歩

地米五拾四石四斗九升貳合

内

小配分 右同村

合

田畠拾四町九段八畝三歩半

地米五拾九石三斗三升三合

内

田畠壹段三畝
米三斗八升六合

土藏壹軒
人数百八拾八人

男百人
女八拾八人

米八斗壹升三合

倍臣男女拾九人

男拾壹人

米四石六斗六升八合

女八人

田畠拾四町八段五畝三步半

農業百六拾九人

男八拾九人

残御物成米五拾三石四斗六升六合

女八拾人

右合

外二

田畠貳拾貳町四段五畝廿步半小半
地米九拾石五斗四升

大人男八人

大人女貳人

作馬貳拾壹疋

内

田畠貳段壹畝拾七步

年々否

米八斗四升三合

無米

米五石貳斗五升七合

成定

米五石八斗八升六合

春落

右之通田畠并竈人別差出前ニ御座候、以上

庄屋庄兵衛

躰

田畠貳拾貳町貳段四畝三步半小半
残御物成米七拾八石五斗五升四合

御代官

御役所

右合

竈数四拾軒

御藏入拾四軒

御山方貳軒

大小配分貳拾四軒

同無シ四軒

馬屋小屋三拾壹軒

(幕末期)

御点役養父郡立石村
戌穗貫物割方帳

村立直段

米三斗二付 銀三拾六匁九分
 佐嘉駄賃老駄二付 米四升六合
 糯米間三斗二付 同五升
 酒老升二付 同老升九合

一荒地米三百式拾式石八斗

地米老石二付 米老斗九升式合懸ニメ

一米六拾老石九斗八升

内

米九斗六升九合 大庄屋給
 同三石八斗七升五合 小庄屋給
 同老石式斗五升七合 札馬料
 同拾式石六斗三升式合 抱夫料
 同式石九斗五升九合 竹木料
 同老石三斗五升六合 貫米
 同六斗 筆者給
 同老石式斗 さじ給
 式拾四石八斗四升八合

差引

残米三拾七石老斗三升式合

右之内

米三拾三石七斗五升

右は公役楞十五本代、但シ役米老石

ニ付、米老斗五升懸ニメ

引

残米三石三斗八升式合

米五石五斗

右は御藏入買免

合米八石八斗八升式合

内

米式斗式升

小頭文右衛門渡り

同式斗三升

同 為十渡り

同老石八斗

右は大貫銀凡ニして立置候事

過不足之儀は、追て可仕候

同六升

右は糖俵拾八俵代米、右同断

式石三斗老升

差引

残米六石五斗七升式合

式石式斗五升

右は楞老本荷越ニ前

八石八斗式升二合

右米楞十四本割ニして、老本ニ付

米六斗三升老勺づゝ

但し楞石七石五斗代

同 三斗老升五合づゝ

但し五石代

同 式斗老升

但し三石七斗五升代

同 老斗五升七合五勺

但し式石五斗代

同 老斗五合

但し老石式斗五升代

同五升式合五勺

酉十二月

一銀拾三匁六分

右は大官様廻り村ニ付、郡中割前之内也

一同三匁五分

右は夫入見分之節、入切之内也

同月十日

一同老勺式分

右は平田合集之節着代

戌正月元旦

一同式匁

右は氏神様燈明錢

同月三日

一同六匁貳分

右は大山留小頭年玉、但シ綿壹斤代之内也

一同拾貳匁八合

右は御山方兩所年玉、但シ綿貳斤代之内也

一同拾七匁五分

右は諸役人様へ年玉用郡中割出之前

正月

一同六匁 竹貳本、甚左衛門渡り

一同八分 を貳拾本

メ六匁八合

右は堤井樋ほかし用

同月十七日

一同三匁 はと壹わ・くじら半斤・酒代入テ

一米壹升

右は人改之節入切之内也

二月

一銀八匁

右は長印但シ大藏存し

同月八日

一銀拾六匁八分七厘

一銀四拾四匁七分

一同壹匁

一同七分四厘

一同六分

一同拾壹匁三分八厘

一同四分八厘

一同九匁九分貳厘

メ八拾五匁五分九厘

一同拾八匁

右は酒九升代、但シ酒通帳ニ印あり

メ百三匁五分九厘

右は御山方御出之節五ヶ村割之事

四月廿五日

一同貳匁

一同貳匁四分八厘

一同貳匁

メ六匁四分八厘

右同断、手形之節五ヶ村庄屋中

惣メ銀百拾匁七分

但シ二月の八月迄月一分半ニメ利足拾壹匁五分五厘

八月

一同七匁 五ヶ村庄屋中割方雜用

惣メ銀百貳拾八匁六分貳厘

内

銀五拾壹匁六分三厘

右は五ヶ村を請取前

残銀七拾六匁九分九厘

内

銀貳拾貳匁 酒壹斗壹升代、通帳有り

残銀五拾五匁

右は御山方雜用五ヶ村割合前之内也

二月十二日晚より十四日迄

一銀三匁五分

一同壹匁五分

一同壹匁貳分五厘

一同四分五厘

一同壹匁貳分

一同八分

志々壹斤

竹わ六本・牛房壹わ代

竹わ五本

牛房壹わ

こんにやく廿

茶菓子代

一同壹匁貳分

一同壹匁九分

一同貳匁

一同三分六厘

一同九分

一同貳分

一同三分五厘

一同九匁五分

一同壹匁九分五厘

一同四匁五分五厘

一同三匁七分

一同五分六厘

一同五匁貳分

メ四拾壹匁七厘

正銀三拾貳匁

甲年卜酉年兩年から料
米代銀

残銀九匁七厘

十二日晚

一撫米壹升

十三日朝

一同貳升

同昼

一同三升

同晚

一同壹升

十四日朝

一同貳升

同昼

一同貳升

メ壹斗壹升

右は堤卜川普請之節、諸役人楮又大

工・しゃくわん近辺之役々ノ者迄賄入

切之内也

二月十五日

一銀貳匁

一同貳匁五分

一同壹匁五分

メ六匁

一撫米三升

右は楞割之節、給々庄屋中入切

三月十九日

一銀壹匁

右は南里貝初穂

二月十九日

一銀貳匁

右は献上繩納之節、馬引庄屋小遣之内也

也

三月

一銀拾壹匁

右は反米駄賃貳駄分

三月廿九日

一同三分

一同五分

メ八分

撫米壹升

右は明火松出方之節入切

四月八日

一銀六分

右は麦願立之節香代

同月九日

一銀壹匁五分

右は唐干葉代銀材木藏納り

同月廿五日

一銀貳拾匁八分

右は御条目懸り

同月廿九日

一銀壹匁

右は堤石出シ之節、役人様茶菓代

五月八日

一銀貳拾九匁八分八厘

右は御境目廻り之節、森木を割出シ前之内也

六月十日

一銀壹匁貳分

一同三分

一同四分

メ壹匁九分

右は願成就之節入切

六月十八日

一銀貳匁貳分

一同六分

一同三分

一同壹匁五分

一同貳分

メ四匁八分

右は願成就之節入切

六月廿五日

一銀貳匁三分

一同六分

一同貳分五厘

メ三匁壹分五厘

右は願成就之節入切

六月

一銀貳匁

右は氏神様江燈明銭

一同貳匁五分

右は役米帳作り之内也

七月七日

一銀壹匁貳分

一同壹匁四分四厘

メ貳匁六分四厘

右は願成就之節入切

同

一銀拾五匁貳分

右は諸役様へ暑氣見舞之内に而郡中割出シ前

七月廿五日

一銀壹匁八分

一同壹匁七分五厘

一同壹匁五厘

一同六分

一同貳匁

一同六分六厘

一同六分

一同貳分五厘

一同壹匁三分

一同三匁

メ拾貳匁壹分壹厘

一撫米四升六合

一同貳升六合

右は雨乞ニ付、曲坂神水参り之節入切

八月

一銀貳匁

ゑひ紙十枚

同

とうふ五丁三切

白す五合

かんころ代

紙式帳

かつを式本

ろふそく三本

とうふ五丁

油壹合

白す五合

えび代

かんころせいまい代

御初穂

打蔞花米

御供米

右は村田をほこ竹願用

八月十八日

一銀拾六匁

閏八月二日

一銀貳匁七分

一同壹匁壹分

一同貳匁四分

一同貳匁

一同三匁

一同三匁

一同三匁

一銀拾四匁壹分

メ拾九匁四分四厘

閏八月四日

一銀拾四匁壹分

一同貳匁

一同貳匁

一同貳匁

メ拾六匁壹分

右は宮ノ家根がへ用

閏八月廿日

一銀貳匁壹分六厘

一同壹匁八分

一同壹匁三分五厘

一同壹匁壹分

一同三分

一同貳匁三分

一同三分

メ九匁三分壹厘

一撫米四升

右は小浜之節御山方御出ニ付入切之内也

同廿三日

一銀八分

一同六分

一同六分

一同三分

一同貳匁壹分貳厘

メ四匁四分貳厘

一撫米壹升

右は明火松出方之節入切

一銀壹匁壹分四厘

たら百貳十匁

とうふ四丁半

玉こ九ツ

いつきし代

ケやき代

なます貳斤

白す貳合半

玉こ四ツ

とうふ貳丁

ふ代・水こんにやく代

白す貳合半

そうめん貳斤半代

右は酉秋貫物帳尻を大貫銀代米差引不足を当秋立ル

メ三百貳拾五匁九分七厘

四拾八匁九分

メ三百七拾四匁八分

代米三石四升七合

古代式斗八升貳合代

米三斗四升七合

メ三石三斗九升四合

九月廿日

一銀貳匁

右は夫入願料、但文四郎渡り

同

一銀壹匁五分

右は麻疹掛り郡中割之内也

同月廿二日

一銀貳匁五分

右は代官様御出之節、茶菓子代之内也

十一月八日晚を九日朝迄

解

題

「鳥子御帳」

佐賀藩の藩法のなかで、最も基本的なものとされているのが、この「鳥子御帳」である。鍋島勝茂（信濃守、天正十二（一六五二）年襲封、明暦三（一七二四）年逝去）が佐賀藩確立において、出した定のなかで基本的なものもとめられて、集大成されたものである。「鳥子御帳」と呼ばれるのは、それが鳥の子紙に書かれたところからくるものといわれている。

「鳥子御帳」の成立の時期については、確ではないが、少なくとも、一度に集大成されたものではない。明暦元（一六五五）年にすでに「鳥子帳」が存在していたことは、「船一通、算用一通、借銀出入存、但、申付様鳥子帳ニ書

山城守へ渡置」（「鳥子帳」多久市立図書館蔵）と明暦元年の

役方の人名を書き留めたものなかに言及されているところから明らかである。他方「鳥子御帳」のなかで年代が記されているものなかに明暦元（一九五五）年のものがある。したがって、「鳥子御帳」は、明暦元年以前に成立しており、それが明暦元年に再度整備または補充されたものとみなされる。「鳥子御帳」には「天満屋敷定」のなかで寛文九（一六六九）年のものがあるが、これは「此以下十ヶ条継紙ニテ書載ト小書アリ」と底本に原注されているように、追加された部分についての年代である。底本に用いた以外の別写本には追加された十ヶ条の部分は全く記載されていない。したがって、「鳥子帳」が再度集大成化され、

以後佐賀藩の祖法とされる基本的なものがまとめられたのは明暦元年であるとみなされる。

その「鳥子帳」は佐賀藩の祖法として重んじられ、元禄、享保、宝暦、明和、天保の各時期における藩政改革のなかで、常に「古格之通」ということの基準とされ、藩政の基調とされていた。

底本に使用したのは、佐賀県立図書館にある「鳥子帳」のなかで「秀嶋三左衛門知之」とあと書のある(一)から(六)におよぶ六冊本である。(以下これを秀嶋本と仮称する)同図書館には「鳥子帳」の写本が、秀嶋本以外にも若干あるが、まとまりのあるのは、秀嶋本の(三)と(四)の部分が喪失している写本(以下これを三冊本と仮称する)と(三)の部分が同じく喪失している写本(以下これを五冊本と仮称する)とがある。三冊本は中に書かれている人名などからして、秀嶋本よりも新しいものを底本にしているようである。また五冊本は秀嶋本を写したものであるが、異写本を参照しているところ

として明示することを省略した。文中にルビで「三、五、二」とあるのは、それぞれ三冊本、五冊本、多久本の略称である。

「治茂公御改正御書附」「教諭御書附」

これは、佐賀藩の明和九(一七七二)年から行なわれた藩政改革にさいして出された法令である。

佐賀藩は、宝暦期にも藩政改革を行なったが、続発した災害などによってあまり効果があらわれず、藩債も明和三(一七七六)年には銀三万貫あまりにおよぶ巨額に達し、郷村の疲弊は進行して、矛盾が諸方面に累積されてきていた。このような状態のときに鍋島治茂(一七四五年—一八〇一年)が支藩の鹿島藩から明和七年(一七七〇)年に本藩を襲封し、鋭意に改革をおこなった。明和九(一七七二)年から開始された藩政改革にさいしてだされたのが、この「治茂公御改正御書附」である。改革の基調は「鳥子帳之

ろがある。また多久市立図書館にも「鳥子帳」の幕末ごろの写本がある。(以下これを多久本と仮称する)これは秀嶋本の(二)(三)(四)の部分が喪失して現存していない。多久本が底本として使用したものは、秀嶋本の底本と異なっているようである。秀嶋本に「一本」と別写本のことを称しているものに当たる。秀嶋本で「鳥子帳(一)」とされている内容のもので、多久本では「鳥子帳(三)」とされているように編纂の方法も異なっている。秀嶋本にない明暦元年の役方の人名が多久本には「鳥子帳(四)」として収録されている。また多久本には「天満屋敷定」のなかの寛文九年の追加十ヶ条はない。したがって人名や記載内容などからして、秀嶋本が用いた底本よりかは多久本の底本は旧いようである。秀嶋本で不明な箇所や脱落を明らかにするために三種の異写本を利用したが、秀嶋本と異写本との相違は一々細かく明記せず、秀嶋本のなかで脱落や不明な箇所のみを明らかにすることに留めた。したがって、文中の人名の相違も原則

旨を以、御改正之仕与取立」とされ、鳥子帳が基準とされた。しかし、郷村における疲弊が放置できない段階にあるところから、郷村に対する詳細な対策が出されるようになり、夫役・貫物の改正や御普請についての規定が綿密化された。したがって、「治茂公御改正御書附」には郷村に関するものの比重が大きく、これが「鳥子御帳」との相違点となっている。

底本には、佐賀県立図書館にあるものを使用した。なお、明和・安永期の藩政改革にさいして出された規定には、この外に「明和御改正記録」があるが、これは、石火矢方御遺料小割、天満納戸御遺料小割、御台所御遺料小割などのように各遺料について記述したものでしかない。

「教諭御書附」は、天明二・三年にでた郷村法令である。

「御配分役内日記」

佐賀藩では、地方知行のことを配分と称していた。養父

郡平田村の庄屋・庄兵衛が村内の配分地における諸問題をつづったのがこの日記である。平田村は後述の史料にもあるように、安政四（一八五七）年では物成高九〇石六斗、田畠二二町二段、竈数四〇軒の村であった。そのうち知行地は五九石三斗余りで村の約六・五割を占め、蔵入地は一石二斗余で二・五割ほどであった。嘉永六（一八四九）年の知行主は三名であるが、そのうち一人が五〇石におよぶ知行配分をうけている。（大小配分石高帳、三根郡・東養父郡郷村帳）日記は弘化二（一八四四）年から嘉永五（一八四八）年にまでおよんでいるが、記述は簡略である。しかし、地方知行地における色々な様子が述べてあるので、幕末期の知行地の問題を考えるのに参考になることが多い。

「役内日記」

これは前述した同じ庄屋・庄兵衛が平田村の蔵入地について、嘉永七（一八五四）年から安政二（一八五五）年ま

での年貢納人、諸願事などについてつづったものである。一年間の記録でしかないが、村内の知行地との様子と比べてみると、色々興味ある問題が出ている。

「弘化貳年地行所養父郡平田村御物成庭帳」

「文久元年御蔵入養父郡立石村御物成取納庭帳」

佐賀藩の年貢徴収についての村の記録はあまり残っていない。知行地と蔵入地との年貢納入に関する史料がこれであり、両者を比較検討することによって、年貢納入の在り方、例えば知行地では反米や献米などが課せられているのに、蔵入地ではそれがみられないなど、幕末期の年貢問題についての一端がうかがわれる。なお立石村は物成高三九六石余の村であり、そのうち蔵入地は七四石七斗余、知行地は三二一石余で村の二割ほどが蔵入地であった。また嘉永六年（一八四九）では地行主は五人であった。（大小配分石高帳、三根郡・東養父郡郷村帳）

「養父郡平田村田畠井竈人別差出帳」

さきの日記に出ている平田村における安政四（一八五七）年の蔵入地・知行地について物成高、竈軒数を記録したものである。

「御点役養父郡立石村戌糶貫物割方帳」

佐賀藩では夫役に関する点を点役と称していたが、これについての村で要した費用を記録したものである。

なお、佐賀藩特有の言葉も出ているので、左にその意味を述べておく。

てがしら
手頭||定・掟

はづし
迦||はづす

はまる
部||担当する

すくみ
躰||正味

従事する

おうち
枒||天秤棒

てんあい
点合||承諾を求め

◇ ◇
底本からの筆写は長野遼・山下康行が当り、校合は長野遼が行なった。

◇ ◇
佐賀大学名誉教授三好不二雄氏・佐賀大学教授城島正祥氏から色々ご教授をいただいた。

鳥栖市史資料編 第三集

佐賀藩法令
佐賀藩地方文書

定 価 八〇〇円

昭和四十六年三月二十日印刷
昭和四十六年三月二十五日発行

編 纂 鳥栖市史編纂委員会
発行所 鳥 栖 市 役 所

印 刷 福岡印刷株式会社
福岡市舞鶴一丁目二ノ五
(佐賀県鳥栖市宿町)